

DIRECT STREAMING VIDEO SWITCHER

V-80HD



目次

各部の名称とはたらき	4
トップ・パネル.....	4
フロント・パネル.....	6
リア・パネル.....	7
Bluetooth® 機器の接続	9
Bluetooth オーディオ機器を登録する（ペアリング）.....	9
ペアリング済みの Bluetooth 機器を接続する.....	9
フットスイッチの接続	10
基本操作	11
電源を入れる／切る.....	11
メニューを操作する.....	11
モニターの表示を切り替える.....	12
SD カードについて	13
SD カードを挿す.....	13
SD カードをフォーマットする.....	13
SD カードを抜く.....	13
USB メモリーについて	13
USB メモリーをフォーマットする.....	13
USB メモリーを抜く.....	13
映像の入出力設定	14
映像の入出力フォーマットを設定する.....	14
システム・フォーマットを設定する.....	14
HDMI IN 1 ～ 4 端子の入力フォーマットを設定する.....	14
映像ソースを割り当てる.....	15
出力映像を調節する.....	15
入力映像を調節する.....	16
出力端子に映像バスを割り当てる.....	17
AUX 1、AUX 2 バスに送る映像を選ぶ.....	18
著作権保護（HDCP）された映像を入力する.....	18
映像の操作	19
映像を切り替える.....	19
操作モードを設定する.....	19
PGM/PST モードで切り替える.....	19
A/B モードで切り替える.....	20
Dissolve モードで切り替える.....	21
PGM/PST(16) モードで切り替える.....	21
ミックス／ワイプのパターンを変更する.....	22
[CUT] [AUTO] ボタンの機能を変更する.....	22
自動的に映像を切り替える（オート・スイッチング）.....	23
動作モードについて.....	23
オート・スイッチング機能をオン／オフする.....	23
動作モードを設定する.....	24
静止画を読み込む.....	27
外部ストレージから静止画を読み込む.....	27
入出力映像から静止画をキャプチャーする.....	28
読み込んだ静止画を出力する.....	28
クロスポイント・ボタンに静止画を割り当てる.....	28
最終出力に静止画を挿入する.....	28
静止画を削除する.....	29
SD カードや USB メモリーに静止画を書き出す.....	30
動画を読み込む.....	31
読み込んだ動画を出力する.....	32
動画を再生する（ビデオ・プレーヤー）.....	32
クロスポイント・ボタンに動画を割り当てる.....	32
最終出力に動画を挿入する.....	32
SRT 映像を入力する.....	33
必要なネットワーク環境.....	33
SRT 入力映像チャンネルをクロスポイント・ボタンに割り当てる.....	33
SRT 対応機器を接続して SRT 映像を入力する.....	33

入力映像を静止する（フリーズ）.....	35
動作モードを設定する.....	35
入力映像を静止する.....	36
最終出力映像をフェード・イン／アウトする.....	36
映像合成の操作	37
スプリットで映像を合成する.....	37
画面レイアウトを設定する.....	37
スプリットで合成する.....	37
ピクチャーインピクチャー（PinP）で映像を合成する.....	38
子画面の詳細を設定する.....	39
子画面をキー合成する.....	40
ダウンストリーム・キーヤー（DSK）で映像を合成する.....	41
DSK モードについて.....	41
テロップや画像を合成する（ルミナンス・キー）.....	42
被写体と背景を合成する（クロマ・キー）.....	44
アルファ・チャンネル付き静止画を合成する.....	46
エクスターナル・キーを使う.....	47
Graphics Presenter のコンテンツを合成する（Roland Fill+Key モード）.....	48
音声の操作	49
音声ソースを割り当てる.....	49
入力ゲイン（感度）を調節する.....	49
音量バランスを調節する.....	50
ミキサー画面で音量バランスを調節する.....	51
入力音声にエフェクトをかける.....	52
エフェクト・プリセットを使う.....	53
Web 会議システムのエコーを除去する（エコー・キャンセラー）.....	53
ハウリングを軽減する（アンチ・フィードバック）.....	54
声のキャラクターを変える（ボイス・チェンジャー）.....	54
映像と音声のズレを補正する（ディレイ）.....	55
リバーブをかける.....	55
出力音声にエフェクトをかける.....	56
映像の切り替えに音声の出力を連動させる（オーディオ・フォロー）.....	56
オーディオ・フォローの対象を追加する.....	56
音声からノイズを除去する（アダプティブ・ノイズ・リダクション／ロー・フリケンシー・カット）.....	57
アダプティブ・ノイズ・リダクション.....	57
ロー・フリケンシー・カット.....	57
自動で聞き取りやすい音量に調節する（オート・マスタリング・エフェクト）.....	58
ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール（Loudness Auto Gain Control）.....	58
音量を自動的に制御する（オート・ミキシング）.....	58
特定の音声だけ消音する（ミュート）.....	59
特定の音声を確認する（ソロ）.....	60
音楽ファイルを再生する（オーディオ・プレーヤー）.....	61
オーディオ・ファイルを読み込む.....	61
オーディオ・クリップを再生する.....	61
オーディオ・クリップの設定をする.....	62
オーディオ・プレーヤーのミキサー設定.....	62
AUX バスの音声を出力する.....	63
AUX バスを割り当てる.....	63
AUX バスへ音声を送る.....	63
入力音声を HDMI 映像や SDI 映像に乗せて出力する.....	65
ライブ配信	66
ストリーミング用の映像／音声をパソコンに出力する.....	66
パソコンに映像／音声を出力する.....	66
ループバック機能を使う.....	66
パソコンで配信する.....	66

パソコンで録画する.....	66	DM3 シリーズと接続する.....	101
直接配信／録画をする.....	67	V-80HD のオーディオ・チャンネルと DM3 シリーズのフェーダーを連携して操作する.....	101
必要なネットワーク環境.....	67	V-80HD のアサインブル・パッドでヤマハ・ミキサー・コントロールをオン／オフする.....	102
ライブ配信時の注意.....	67	V-80HD から DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出す.....	102
配信・録音・録画のスタート／ストップ.....	67	フットスイッチを使う.....	103
配信・録音・録画のオン／オフ.....	67	エキスプレッション・ペダルを使う.....	104
YouTube Live で配信する.....	68	ペダルを調節する（ペダル・キャリブレーション）.....	104
Facebook Live で配信する.....	69	ペダルに機能を割り当てる.....	104
Twitch で配信する.....	70	TALLY/GPIO 端子を使った制御.....	105
カスタム設定で配信する.....	71	TALLY/GPIO 端子仕様.....	105
テザリング.....	72	制御信号を入力する.....	105
配信中の偶発的なトラブルを回避する（セーフティ・ディレイ）.....	73	タリー信号を出力する.....	106
SRT 映像を出力する.....	74	制御信号を出力する.....	107
必要なネットワーク環境.....	74	USB テンキーを使った制御.....	108
SRT 対応機器を接続して SRT 映像を出力する.....	74	スマート・タリーを使う.....	109
その他の機能.....	76	無線 LAN 親機を介して接続する.....	109
設定を保存する／呼び出す（シーン・メモリー）.....	76	スマート・タリーを起動する.....	109
シーン・メモリーに保存する.....	76	誤操作を防止する（パネル・ロック）.....	110
シーン・メモリーを呼び出す.....	77	設定を工場出荷時の状態に戻す（ファクトリー・リセット）.....	111
シーン・メモリーを初期化する.....	77	V-80HD のリモート・コントロール.....	112
シーン・メモリーの名前を変更する.....	78	メニュー一覧.....	113
サムネイルの位置を変更する.....	78	1 : Video Assign.....	113
SD カードや USB メモリーにシーン・メモリーを保存する.....	79	2 : Video Input.....	115
複数の操作を記録して自動的に実行する（マクロ）.....	81	3 : Video Output.....	116
マクロに記録する.....	81	4 : Mix/Wipe.....	117
マクロを実行する.....	84	5 : Split.....	117
マクロの設定をコピーする.....	85	6 : PinP & Key.....	118
マクロの設定を入れ替える.....	85	7 : DSK.....	119
マクロを初期化する.....	86	8 : Audio Knob Assign.....	120
マクロの名前を変更する.....	86	9 : Audio Input.....	121
マクロの設定を保存する／呼び出す.....	87	10 : Audio Output.....	129
すべてのマクロを初期化する.....	88	11 : Audio Follow.....	134
シーン・メモリーやマクロを組み合わせて操作する（シーケンサー）.....	89	12 : Audio Auto Mixing.....	135
シーケンサーに記録する.....	89	13 : Still Image.....	136
シーケンサーを実行する.....	91	14 : Video Player/SRT In.....	137
自動的にシーケンサーを実行する（オート・シーケンス）.....	92	15 : Stream&Record.....	138
シーケンサーの設定を保存する／呼び出す.....	93	16 : Scene Memory.....	140
シーケンサーを初期化する.....	94	17 : Macro.....	141
本体の設定をバックアップ／リストアする.....	95	18 : Sequencer.....	142
バックアップする.....	95	19 : Assignable Pads.....	143
リストア（復元）する.....	96	20 : Roland Fill + Key.....	146
ASSIGNABLE PADS を押して機能を実行する.....	97	21 : Freeze.....	146
ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる.....	97	22 : Auto Switching.....	146
ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能を実行する.....	97	23 : Ctl/Exp.....	148
ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能を入れ替える／コピーする.....	97	24 : RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad.....	151
ASSIGNABLE PADS への割り当てを初期化する.....	97	25 : Network.....	153
V-80HD から外部レコーダーの録画開始／停止をコントロールする.....	98	26 : Camera Control.....	155
PTZ カメラをリモート・コントロールする.....	99	27 : SD Card/USB Flash Drive.....	155
カメラのネットワーク設定をする.....	99	28 : System.....	156
カメラの設定をプリセットに登録する.....	99	資料.....	162
プリセットを呼び出す.....	100	主な仕様.....	162
ヤマハ DM3 シリーズと連携する（ヤマハ・ミキサー・コントロール）.....	101	外形寸法図.....	167
		ビデオ・ブロック・ダイアグラム.....	168
		オーディオ・ブロック・ダイアグラム.....	169

※ Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

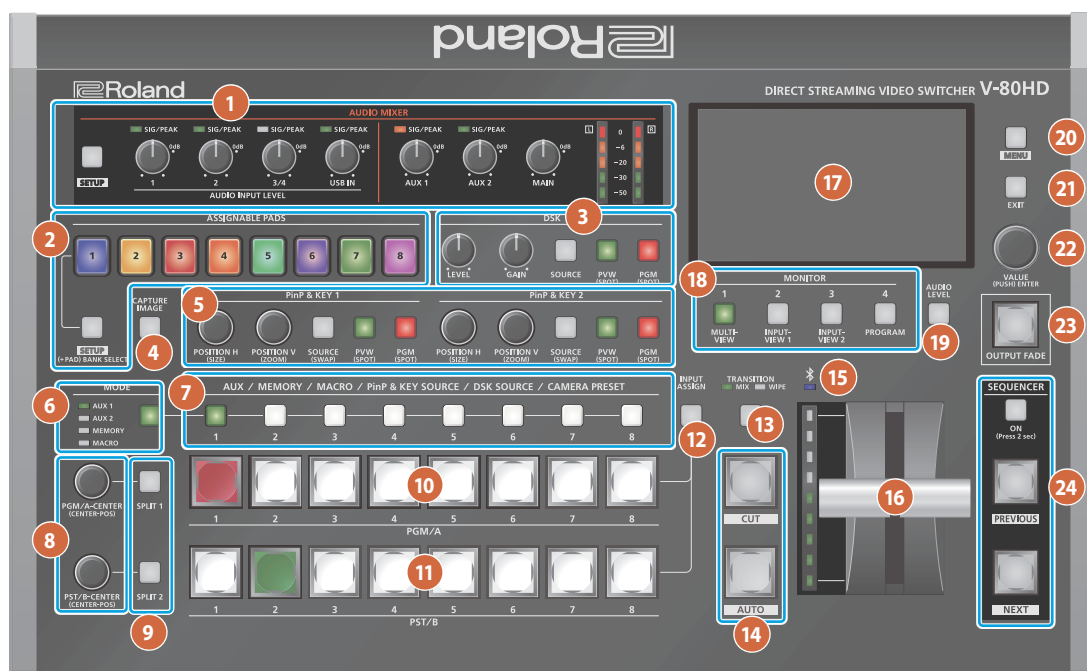
※ QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

※ Roland は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。

※ 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



1 AUDIO MIXER

[SETUP] ボタン

セットアップ画面をディスプレイに表示します。

SIG/PEAK インジケータ (1、2、3/4、USB IN)

音声の入力を感知すると緑点灯します。過大入力になると赤点灯します。

AUDIO INPUT LEVEL [1] [2] [3/4] [USB IN] つまみ

AUDIO IN 1、2、3/4、USB IN の音量を調節します。

SIG/PEAK インジケータ (AUX 1、AUX 2)

AUX 1、AUX 2 バスの音量レベルを表示します。

音量レベルが -50dB 以上になると緑点灯します。過大出力 (0dB 以上) になると赤点灯します。

[AUX 1] [AUX 2] つまみ

AUX 1、AUX 2 バス出力の音量を調節します。

[MAIN] つまみ

全体の音量を調節します。

レベル・メーター

全体の音量レベルを表示します。

メモ

AUDIO MIXER の各つまみで調節する音声バスや、各インジケータ/レベル・メーターに表示する音声バスを変更することができます。

2 ASSIGNABLE PADS

パッド [1] ～ [8]

パッドを押すと、割り当てられている機能を実行します。

オーディオ・プレーヤーやオーディオ・エフェクトなどの機能を、パッドに割り当てることができます。

[SETUP] ボタン

機能割り当ての画面を、ディスプレイに表示します。

メモ

ASSIGNABLE PADS では、8 つのパッド×8 バンク (Bank A ～ H) に機能を割り当てることができます。

[SETUP] ボタンを押しながらパッド [1] ～ [8] を押すと、Bank A ～ H を切り替えることができます。

工場出荷時は、Bank A のパッド [1] ～ [8] にオーディオ・プレーヤーが割り当てられています。

3 DSK

ダウンストリーム・キーヤー (DSK) による映像合成をします。

[LEVEL] つまみ

キーの抜け具合 (透過度) を調節します。

[GAIN] つまみ

キーのエッジのぼかし具合 (半透過領域) を調節します。

[SOURCE] ボタン

オン (点灯) にすると、7 DSK SOURCE [1] ～ [8] ボタンで DSK の映像ソースを選ぶことができます。

[PVW] ボタン

DSK 合成結果のプレビュー出力をオン/オフします。

[PGM] ボタン

DSK 合成をオン/オフします。

4 [CAPTURE IMAGE] ボタン

静止画キャプチャー・モードをオン/オフします。

5 PinP & KEY 1、2

PinP & KEY 1、2 レイヤーを使って、ピクチャーインピクチャー (PinP) による映像合成をします。

[POSITION H] つまみ

子画面の水平方向の位置を調節します。

押しながら回すと、子画面のサイズを調節します。

[POSITION V] つまみ

子画面の垂直方向の位置を調節します。

押しながら回すと、子画面映像の拡大率を調節します。

[SOURCE] ボタン

オン（点灯）にすると、**7** PinP & KEY SOURCE [1] ～ [8] ボタンで子画面の映像ソースを選ぶことができます。

[PVW] ボタン

子画面のプレビュー出力をオン／オフします。

[PGM] ボタン

PinP 合成をオン／オフします。

6 [MODE] ボタン

7 AUX / MEMORY / MACRO [1] ～ [8] ボタンの機能を切り替えます。[MODE] ボタンの左側にあるインジケーターが点灯し、現在の機能を示します。

7 AUX / MEMORY / MACRO / PinP & KEY SOURCE / DSK SOURCE / CAMERA PRESET [1] ～ [8] ボタン

下表のように機能が切り替わります。

ボタン点灯時	[1] ～ [8] ボタンの機能
[MODE]	AUX AUX 1、AUX 2 バスに送る映像を選びます。
	MEMORY プリセット・メモリー（保存した映像や音声などの設定）を呼び出します。長押しすると、現在の設定をプリセット・メモリーに保存します。
	MACRO マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
PinP & KEY 1、2 [SOURCE]	PinP & KEY SOURCE 子画面の映像ソースを選びます。
DSK [SOURCE]	DSK SOURCE DSK の映像ソースを選びます。
CAMERA CONTROL	CAMERA PRESET 接続したカメラから、登録したプリセット（カメラの位置やフォーカス設定など）を呼び出します。ASSIGNABLE PADS、フットスイッチ（CTL）、制御信号入力（GPI）から、Camera Control Mode をオン／オフすることができます。

8 [PGM/A-CENTER] [PST/B-CENTER] つまみ

スプリット合成の設定を調整します。

つまみ	説明
[PGM/A-CENTER]	左側／上側に配置された映像の水平／垂直方向の位置を調節します。 押しながら回す：境界線の位置を調節します。
[PST/B-CENTER]	右側／下側に配置された映像の水平／垂直方向の位置を調節します。 押しながら回す：境界線の位置を調節します。

9 [SPLIT 1] [SPLIT 2] ボタン

スプリットによる映像合成をオン／オフします。

10 PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタン

PGM/A バスに入力する映像を選びます。選ばれたボタンは、点灯します。

11 PST/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタン

PST/B バスに入力する映像を選びます。選ばれたボタンは、点灯します。

12 [INPUT ASSIGN] ボタン

[INPUT ASSIGN] ボタンを押しながらクロスポイント・ボタンを押すと、押したボタンの映像ソースが変更されます。

ボタンを押すたびに、以下の順番で映像ソースが切り替わります。

- [INPUT ASSIGN] + PGM/A クロスポイント・ボタン

STILL 32 → 1 → SDI 4 → 1 → HDMI 4 → 1 → V.PLAYER

- [INPUT ASSIGN] + PST/B クロスポイント・ボタン

V.PLAYER → HDMI 1 → 4 → SDI 1 → 4 → STILL 1 → 32

13 [TRANSITION] ボタン

映像切り替え効果（ミックス、ワイプ）を選びます。

MIX または WIPE インジケーターが点灯し、選択中であることを示します。

14 [CUT] [AUTO] ボタン

PGM/A バスと PST/B バスの映像を自動で切り替えて、最終出力します。

ボタン	説明
[CUT]	瞬時に映像が切り替わります。
[AUTO]	切り替え効果がかかり、自動的に映像が切り替わります。

15 Bluetooth® インジケーター

Bluetooth の接続状態を示します。

点灯	接続済み	速い点滅	ペアリング中
消灯	Bluetooth 機能オフ	点滅	接続待ち

Bluetooth 対応のオーディオ機器から音声を入力したり、パソコンや iPad から専用ソフトウェアを使って、V-80HD をリモート・コントロールしたりすることができます。

16 ビデオ・フェーダー

PGM/A バスと PST/B バスに入力されている映像を手動で切り替えて、最終出力します。

トランジション・インジケーター

インジケーターが点灯して、ビデオ・フェーダーの位置を示します。

ビデオ・フェーダーを完全に倒しきると、一番上または一番下のトランジション・インジケーターのみが点灯します。

17 モニター

入出力映像や読み込んだ静止画、メニューなどを表示します。

18 MONITOR [1] ～ [4] ボタン

本体モニターでモニタリングする映像を切り替えます。

ボタン	説明
MONITOR [1]	MULTI-VIEW 最終出力映像、プレビュー出力映像、クロスポイント [1] ～ [8] ボタンに割り当てられている映像を分割表示します。
MONITOR [2]	INPUT-VIEW 1 入力映像や静止画などを 16 分割画面で表示します。
MONITOR [3]	INPUT-VIEW 2 入力映像や静止画などを 16 分割画面で表示します。
MONITOR [4]	PROGRAM 最終出力映像を表示します。

※ 上記は、工場出荷時の設定です。各ボタンに割り当てる映像を変更することもできます。

19 [AUDIO LEVEL] ボタン

オーディオ・レベル画面をディスプレイに表示します。

20 [MENU] ボタン

メニューの表示／非表示を切り替えます。

21 [EXIT] ボタン

1 つ上の階層のメニューに戻します。

22 [VALUE] つまみ

メニュー項目を選んだり、設定値を変更したりします。
押すと、選んだメニュー項目や変更した設定値を決定します。

23 [OUTPUT FADE] ボタン

最終出力映像と音声をフェード・イン／アウトします。

点灯	フェード・アウト完了
点滅	フェード・イン／アウト中
消灯	通常の出力

※ 上記は、工場出荷時の設定です。[OUTPUT FADE] ボタンの機能をカスタマイズすることもできます。

24 SEQUENCER

マクロやプリセット・メモリーの呼び出しなどの操作を、あらかじめ指定した順番で実行します（シーケンサー機能）。

[ON] ボタン

長押しすると、シーケンサー・モードをオン／オフします。

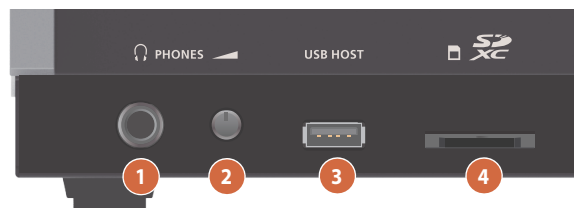
[PREVIOUS] ボタン

1 つ前の操作に戻ります。

[NEXT] ボタン

次の操作に進みます。操作の実行中は、ボタンが点滅します。

フロント・パネル



1 PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

2 [PHONES] つまみ

ヘッドホンの音量を調節します。

3 USB HOST 端子

USB メモリーや外付け SSD などの USB ストレージを接続し、本体の設定をバックアップしたり、ストレージ内の素材を本体にインポートしたりします。

また、スマートフォンを接続して、テザリングをすることもできます。

4 SDXC カード・スロット

SD カードを差し込みます。

録画／録音、本体設定のバックアップ、ストレージ内の素材を本体にインポートすることができます。

注意

- USB メモリー／SD カードにアクセス中は、絶対に電源を切ったり、USB メモリー／SD カードを抜いたりしないでください。
- 電源が入っている状態で SD カードや USB メモリーを抜くときは、必ずイジェクト操作（P.13）をしてください。

リア・パネル

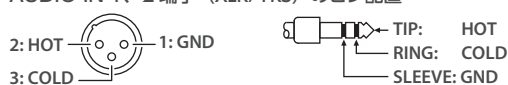
- ※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。
- ※ サイド・パネルにある冷却ファン吸気口／排気口を塞がないでください。吸気口／排気口を塞いでしまうと本体内部の温度が上昇し、熱によって故障する恐れがあります。



AUDIO OUT 端子 (XLR) のピン配置



AUDIO IN 1, 2 端子 (XLR/TRS) のピン配置



1 RS-232 端子

RS-232 対応のパソコンなどを接続し、V-80HD をリモート・コントロールします。

2 TALLY/GPIO 端子

タリー表示機能を備えた機器や、制御信号の入出力機能を搭載した機器を接続します。

3 CTL/EXP 1、2 端子

フットスイッチ（別売：BOSS FS-6 など）やエクスプレッション・ペダル（別売：EV-5 など）を接続します。映像切り替えなどの操作を足元でコントロールするときに使います。

- ※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：EV-5、BOSS FV-500L、FV-500H）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

4 HDMI OUT 1～3 端子、SDI OUT 1、2 端子

映像を出力します。接続する機器に合わせて、端子を選びます。端子ごとに映像バスの割り当てを変更することができます。工場出荷時には、以下のバスが割り当てられています。

端子	バス
SDI / HDMI OUT 1	PROGRAM（最終出力映像）
SDI / HDMI OUT 2	PREVIEW（プレビュー出力映像）
HDMI OUT 3	MULTI-VIEW（マルチビュー）

5 HDMI IN 1～4 端子、SDI IN 1～4 端子

映像を入力します。接続する機器に合わせて、端子を選びます。

端子	説明
SDI IN 1～4	SDI 映像を入力します。
HDMI IN 1 (SCALER)	HDMI 映像を入力します。 アプリ「Roland Graphics Presenter」の接続に対応しています（P.48）。
HDMI IN 2 (SCALER)	HDMI 映像を入力します。
HDMI IN 3, 4 (4K SCALER, THRU)	HDMI 映像を入力します。 4K、60p までの映像入力をサポートしています。 入力された映像信号は、そのまま THRU 端子に出力されます。THRU 端子には、ディスプレイやレコーダーなどを接続します。 1080p 以上の解像度の映像が入力された場合は、V-80HD 内部で自動的に 1080p にダウン・スケーリングされます。

6 接地端子

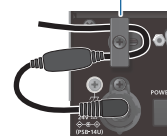
外部アースまたは大地に接地します。必要に応じて接続してください。

7 DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

- ※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックを使って固定してください。コードが通しにくい場合は、コード・フックのネジを少し緩めると通しやすくなります。

コード・フック



8 [POWER] ボタン

電源をオン／オフします。

9 AUDIO OUT 端子 (XLR)

音声を出力します。

出力する音声バス（Main バス、AUX 1 バス、AUX 2 バス、Monitor バス）の割り当てを変更することができます。

10 AUDIO IN 1、2、3/L、4/R 端子

音声を入力します。接続する機器に合わせて、端子を選びます。

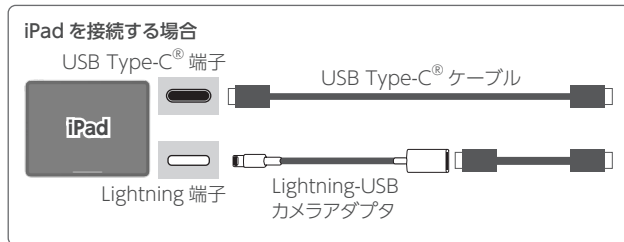
※ ファンタム電源について

AUDIO IN 1、2 端子 (XLR) からは、ファンタム電源 (+48V) を供給することができます。ファンタム電源の必要なコンデンサー・マイクを使うときは、ファンタム電源をオンにしてください。

[MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] または [Audio In 2] → [Phantom +48V] を [On] にします。

11 USB STREAM 端子 (USB Type-C®)

- 映像と音声をパソコンに出力します。また、パソコンで再生した音声を V-80HD に入力します。
- 専用ソフトウェアを使って、接続したパソコンや iPad から V-80HD をリモート・コントロールします。



※ HD 映像を USB 出力する場合は、USB3.0 に対応した市販の USB ケーブルを使って、パソコンの USB3.0 端子に接続してください。

※ 延長ケーブルや USB ハブを使って接続すると、パソコンが V-80HD を認識しない場合があります。

※ 充電専用の USB ケーブルは使用しないでください。データ通信ができません。

12 DIRECT STREAM 端子

- ネットワーク機器と接続して、ライブ配信をします。
- ネットワークに接続された SRT 対応機器と本機で、映像／音声の入力を入れます。
- ターミナル・ソフトウェアなどを使って、V-80HD をリモート・コントロールします。
- 専用ソフトウェアを使って、接続したパソコンや iPad から V-80HD をリモート・コントロールします。
- V-80HD から接続したカメラをリモート・コントロールします。
- iOS や Android デバイスにタリーを表示します (スマート・タリー機能)。

Bluetooth® 機器の接続

Bluetooth 機能を使って、Bluetooth 対応機器と V-80HD を無線で接続します。以下の操作ができます。

- Bluetooth オーディオ機器から音声を入力する。
- iPad から専用アプリ「V-80HD Remote」を使って、V-80HD をリモート・コントロールする (P.112)。

※ 専用アプリとの接続 (ペアリング) については、専用アプリの取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth オーディオ機器を登録する (ペアリング)

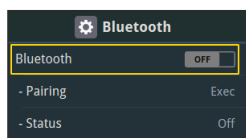
Bluetooth 機器を接続するには、Bluetooth 機器とのペアリング (登録) が必要です。

いちどペアリングをすれば、次回からペアリング操作は不要です。

※ すでにペアリングが済んでいる Bluetooth 機器と接続するときは、このページの「ペアリング済みの Bluetooth 機器を接続する」をご覧ください。

※ Bluetooth 機器の操作について、詳しくは Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

1. Bluetooth 機器を V-80HD 周辺に置く。
2. [MENU] ボタン → [System] → [Bluetooth] を選ぶ。

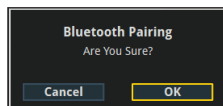


3. [VALUE] つまみを押して [ON] にする。

V-80HD の Bluetooth 機能がオンになります。

4. [VALUE] つまみで [Pairing] を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ペアリングが開始されます。

ペアリング中は、以下のメッセージが表示されます。

[Now Pairing...]

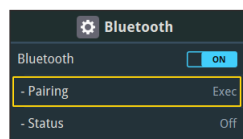
6. Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオンにする。
7. Bluetooth 機器で Bluetooth デバイス画面などを表示し、[Roland V-80HD Audio] を選ぶ。
ペアリングに成功すると、V-80HD のメッセージが [Completed.] に変わります。
8. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

ペアリング済みの Bluetooth 機器を接続する

1. Bluetooth 機器側で、Bluetooth 機能をオンにする。

2. V-80HD の Bluetooth 機能をオンにする。

接続に成功すると、V-80HD の Status 表示が「Connected」に変わります。



※ 接続できない場合は、Bluetooth 機器の Bluetooth デバイス画面などに表示されている「Roland V-80HD Audio」を選んでください。

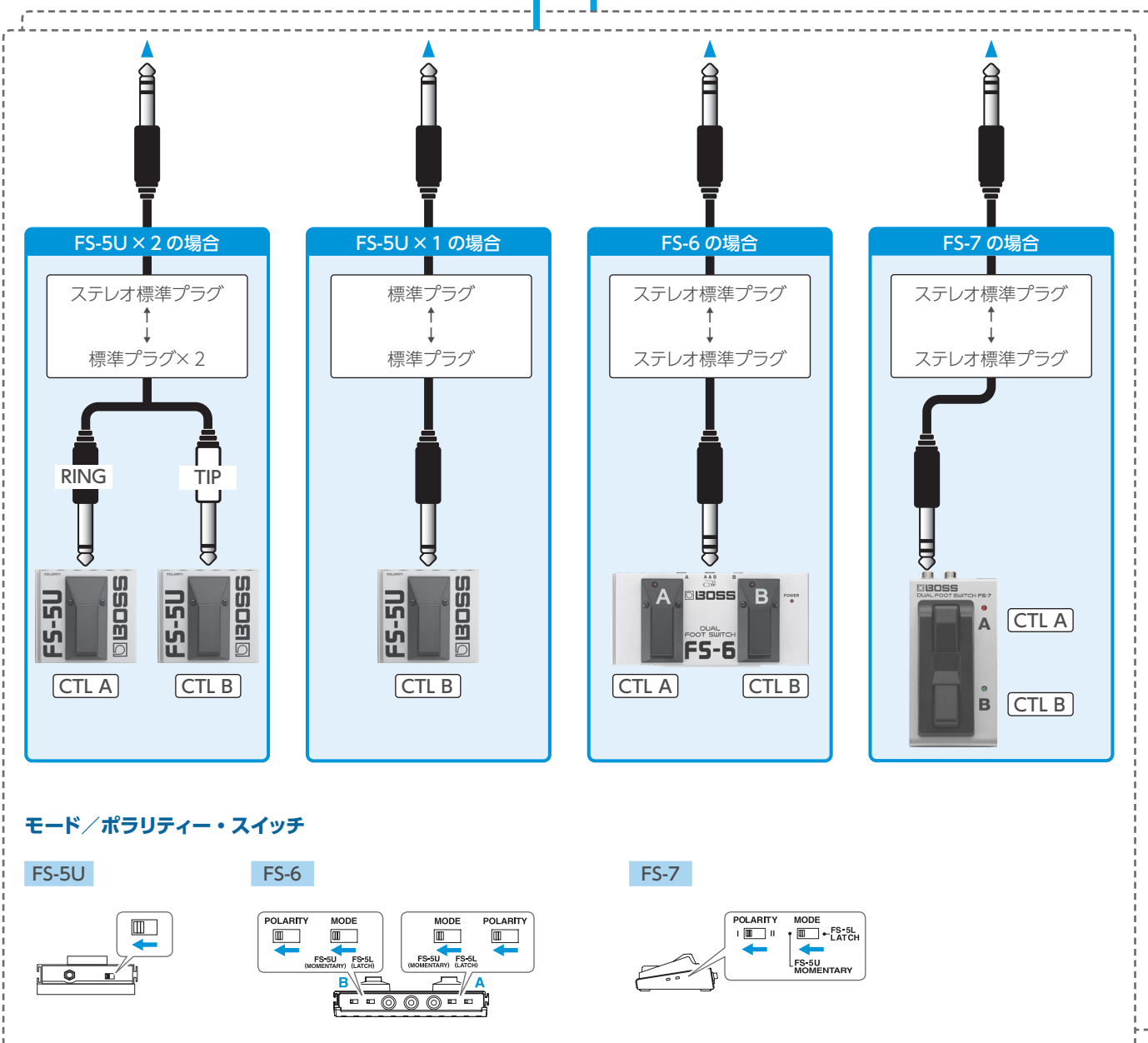
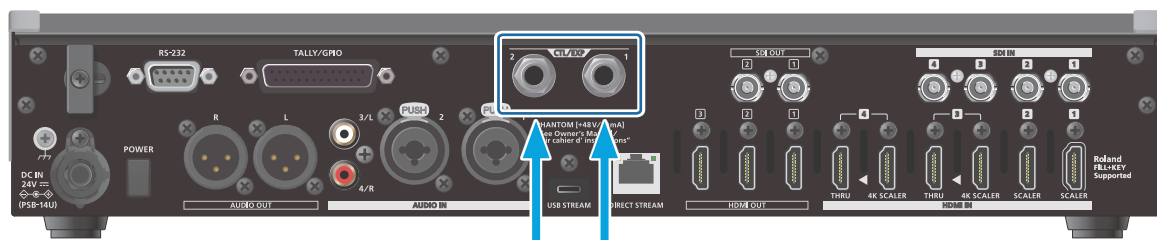
メモ

- (Bluetooth) インジケーターで、接続状態を確認することもできます。

点灯	接続済み	速い点滅	ペアリング中
消灯	Bluetooth 機能オフ	点滅	接続待ち

- 以下のような場合は、再度ペアリングしてください。
- Bluetooth 機器のペアリングの情報から削除された場合
- V-80HD を工場出荷時の状態に戻した場合 (P.111)
- Bluetooth 接続を切断するときは、V-80HD または Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオフにします。
- ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てて、Bluetooth 機能のオン/オフやペアリング操作をすることができます (P.97)。

フットスイッチの接続



注意

BOSS FS-6 の A、B、A&B 端子は、電源スイッチを兼ねています。端子に接続プラグを差し込むと電源がオンになり、抜くとオフになります。電池の消耗を防ぐために、BOSS FS-6 を使わないときは、端子に接続しているプラグを抜いてください。

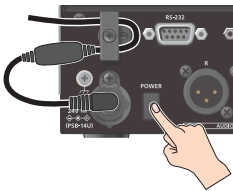
基本操作

電源を入れる／切る

- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。
- ※ 電源を切るときは、必ずシャットダウン操作をしてください。
- ※ 本機は 1 か月を超える長期間の連続稼働をサポートしていません。長期間お使いになる場合は、定期的に電源の入れ直してください。

電源を入れる

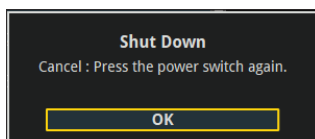
1. すべての機器の電源がオフになっていることを確認する。
2. V-80HD の [POWER] スイッチをオンにして、電源を入れる。



3. ソース機器の電源を入れる。
ビデオ・カメラなど、V-80HD の入力端子に接続したソース機器の電源を入れます。
4. 出力機器の電源を入れる。
プロジェクターなど、V-80HD の出力端子に接続した機器の電源を入れます。

電源を切る

1. 出力機器→ソース機器の順に電源を切る。
2. V-80HD の [POWER] スイッチをオフにする。
以下のメッセージが表示されます。

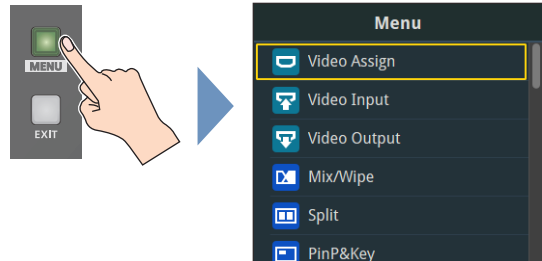


3. [VALUE] つまみを押して、シャットダウンを完了する。
キャンセルするときは、もう一度 [POWER] スイッチを押します。

メニューを操作する

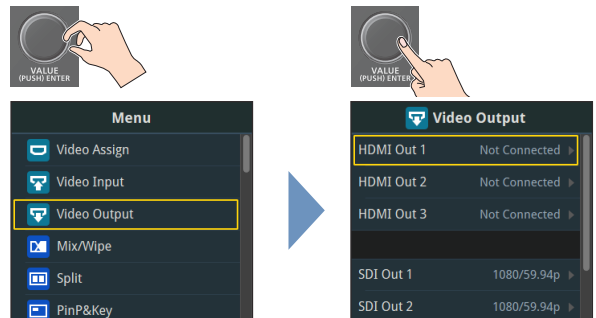
メニューを表示して、映像／音声に関する設定や本体の設定をします。

1. [MENU] ボタンを押して、メニューを表示させる。



メニューは、機能ごとに分けられています。

2. [VALUE] つまみを回してメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押して決定する。

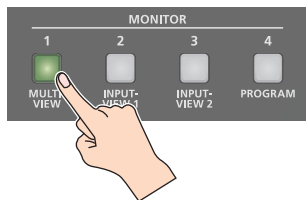


3. 必要に応じて、手順 2 を繰り返す。
[EXIT] ボタンを押すと、1 つ上の階層に戻ります。
4. [VALUE] つまみを回して設定値を変更し、[VALUE] つまみを押して決定する。
 - [VALUE] つまみを押しながら回すと、設定値を大きく変えることができます。
 - [VALUE] つまみを長押しすると、設定中のメニュー項目が初期値に戻ります。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

モニターの表示を切り替える

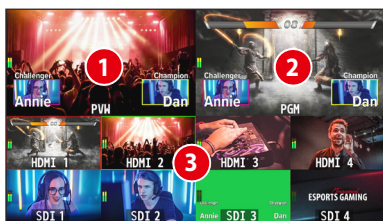
マルチビュー表示の他に、用途に応じてモニタリングする映像（入力映像や静止画の一覧など）を切り替えることができます。

1. MONITOR [1] [2] [3] [4] ボタンのいずれかを押す。



MONITOR [1] (MULTI-VIEW) ボタン

最終出力映像、プレビュー出力映像、クロスポイント [1] ～ [8] ボタンに割り当てられている映像を分割表示します（マルチビュー）。



1 PVW（プレビュー）セクション

プレビュー出力映像（次に出力される映像）を表示します。

※ フェード・イン／アウトの効果（P.36）は、反映されません。

2 PGM（プログラム）セクション

最終出力映像を表示します。

3 クロスポイント [1] ～ [8] ボタンの映像

各クロスポイント・ボタンに割り当てられている映像を表示します。
最終出力映像とプレビュー出力映像には、タリー枠（赤、緑）が表示されます。



1 External Rec インジケータ

REC ステータス機能対応カメラの接続時に、カメラの REC ボタンが押されたことを示します。

2 AUX/Source インジケータ

以下を示します。

黄	PinP & Key の子画面映像
マゼンタ	DSK の映像ソース
緑	AUX バスの映像ソース

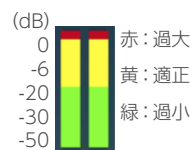
MONITOR [2] (INPUT-VIEW 1) ボタン、 MONITOR [3] (INPUT-VIEW 2) ボタン

HDMI IN 端子、SDI IN 端子、ビデオ・プレーヤーからの入力映像や録画／配信ステータス、時計などの情報を 16 分割画面で表示します。

MONITOR [4] (PROGRAM) ボタン

最終出力映像を表示します。

オーディオ・レベル・メーター表示



- オーディオ・レベル・メーターの表示／非表示を変更することができます。

[MENU] ボタン → [System] → [Audio Level Meter] → 以下のメニュー項目を設定します。

メニュー項目	説明
Multi-View	
Input-View 1	オーディオ・レベル・メーターの表示／非表示を設定します。
Input-View 2	
Quad-View	

メモ

- マルチビューの上側に表示する映像を、左右それぞれ変更することができます。
[MENU] ボタン → [System] → [Multi-View Layout] の [Left] [Right] で設定します。
- MONITOR [2] (INPUT-VIEW 1) ボタン、MONITOR [3] (INPUT-VIEW 2) ボタンで表示する映像を変更することができます。
[MENU] ボタン → [System] → [Input-View 1 Layout]、[Input-View 2 Layout] で設定します。
- MONITOR [1] ～ [4] ボタンに割り当てるモニタリング映像を変更することができます。
[MENU] ボタン → [System] → [Monitor Assign] → [Monitor 1] ～ [Monitor 4] で設定します。

モニターの表示内容

タリー枠やラベルなどの表示／非表示を個別に設定することができます。

[MENU] ボタン → [System] → 以下のメニュー項目を設定します。

メニュー項目	説明
Tally Frame	タリー枠
AUX/Source Indicator	AUX/Source インジケータ
External Rec Indicator	External Rec インジケータ
Audio Level Meter	オーディオ・レベル・メーター
Preview Label	ラベル

- ラベル名を変更することができます。
[MENU] ボタン → [System] → [Preview Label] → [Label Edit] で編集します。
- REC ステータス機能に対応したカメラについては、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://proav.roland.com/jp/>

SD カードについて

SD カードを使うと以下のことができます。

- 録画や録音
- 動画ファイルや音声ファイルの読み込み
- 静止画や設定ファイル読み込み／書き出し

V-80HD で使用できる SD カードについて



V-80HD は、SDXC カードに対応しています。

SD カードのメーカーや種類によっては、本機で正しく録画／録音ができないことがあります。

最新の動作確認情報はローランド・サポート・ページでご案内しています。

https://roland.cm/v-80hd_om



注意

市販のSDカードをV-80HD で使用するときは、最初に「SDカードをフォーマットする」の手順でフォーマットしてください。

SD カードを挿す

1. SD カードを、SDXC カード・スロットに「カチッ」と音がするまで差し込む。

注意

SD カードは挿入方向や裏表に注意して確実に奥まで差し込んでください。また、無理に差し込まないでください。



SD カードをフォーマットする

1. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [SD Card] → [Format] を選び、[VALUE] つまみを押す。
確認メッセージが表示されます。

2. [VALUE] つまみを回して [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

SD カードがフォーマットされます。

注意

フォーマットすると、SD カード内のデータ（録画、録音データ）はすべて消えてしまいます。

SD カードを抜く

1. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [SD Card] → [Eject] を選び、[VALUE] つまみを押す。

2. [VALUE] つまみを回して [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に「The SD Card is safe to remove.」とメッセージが表示され、安全にカードを取り出せる状態になります。

3. SD カードを押し込む。

4. SD カードをつまんで手前に引っ張る。

USB メモリーについて

USB メモリーを使うと以下のことができます。

- 動画ファイルや音声ファイルの読み込み
- 静止画や設定ファイル読み込み／書き出し

V-80HD で使用できる USB メモリーについて

市販の USB メモリーをお使いください。

注意

市販の USB メモリーを V-80HD で使用するときは、最初に「USB メモリーをフォーマットする」の手順でフォーマットしてください。

USB メモリーをフォーマットする

1. USB HOST 端子に USB メモリーを接続する。



フロント・パネル

※ USB メモリーは、挿入方向や表裏に注意して、確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。

2. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [USB Flash Drive] → [Format] を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

3. [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

USB メモリーがフォーマットされます。

USB メモリーを抜く

1. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [USB Flash Drive] → [Eject] を選び、[VALUE] つまみを押す。

2. [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に「The USB Flash Drive is safe to remove.」とメッセージが表示され、安全に USB メモリーを取り出せる状態になります。

3. USB メモリーを抜く。

注意

- 他の機器でフォーマットした SD カードや USB メモリーは、V-80HD では正常に使用できないことがあります。必ず V-80HD でフォーマットしてください（SD カード：exFAT 形式、USB メモリー：FAT32 形式）。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- フォーマットすると、SD カードや USB メモリーに保存されているデータ（録画、録音、静止画データなど）はすべて消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめパソコンなどにバックアップしてから、フォーマットしてください。

映像の入出力設定

映像の入出力フォーマットを設定する

接続する機器に合わせて、入出力フォーマットを設定します。

システム・フォーマットを設定する

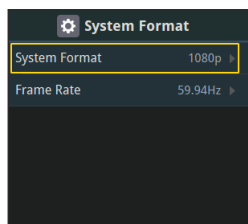
V-80HD では、システム・フォーマットによって、入出力フォーマットが決定されます。接続する機器に合わせて、システム・フォーマットを設定します。

システム・フォーマット	入力フォーマット (*1)	出力フォーマット	
	HDMI IN 1 ~ 4 端子 SDI IN 1 ~ 4 端子	HDMI OUT 1 ~ 3 端子 SDI OUT 1, 2 端子	USB STREAM 端子 DIRECT STREAM 端子
1080p	1080p, 1080i	1080p, 1080i	1080p, 720p
720p	720p	720p	720p

(*1) HDMI IN 1 ~ 4 端子は、マルチフォーマットに対応（工場出荷時）しており、システム・フォーマットに関係なく個別に入力フォーマットを設定することができます。

詳しくは、このページの「HDMI IN 1 ~ 4 端子の入力フォーマットを設定する」をご覧ください。

1. [MENU] ボタン → [System] → [System Format] → [System Format] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「1080p」または「720p」を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 設定の変更は、[VALUE] つまみを押して確定するまで反映されません。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

内部処理について

V-80HD の内部処理は、プログレッシブです。インターレースで入力された映像は、自動的にプログレッシブに変換されます。

このとき、映像がギザギザになったように見えたり、PinP の子画面やマルチビューの映像がぶれたりすることがあります。

これはプログレッシブ変換によるもので、故障ではありません。

フレーム・レートについて

V-80HD のフレーム・レートは、[MENU] ボタン → [System] → [System Format] → [Frame Rate] で設定します。

※ USB 出力のフレーム・レートは、[MENU] ボタン → [System] → System Format [USB Out] → [Frame Rate] で設定します。

※ 配信や録画のフレーム・レートは、[MENU] ボタン → [System] → System Format [Stream&Record] → [Frame Rate] で設定します。

HDMI IN 1 ~ 4 端子の入力フォーマットを設定する

工場出荷時、HDMI IN 1 ~ 4 端子の EDID 情報は、「Internal」（すべての入力可能フォーマットの EDID 情報が送信される設定）になっています。

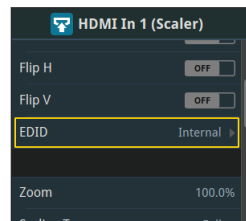
任意の入力フォーマットを指定したい場合は、入力する映像信号に合わせて、送信する EDID 情報の設定を変更します。

EDID とは？

EDID とは、V-80HD をソース機器に接続したときに、V-80HD からソース機器に送信されるデータです。EDID には、V-80HD に入力できるフォーマット（解像度、カラー・スペース、色深度）や音声情報などのデータが記録されています。

ソース機器は、受信した EDID 情報を元に V-80HD に最適な映像を出力します。

1. [MENU] ボタン → [Video Input] → [HDMI In 1 (Scaler)] ~ [HDMI In 4 (4K Scaler)] → [EDID] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで入力フォーマット（送信する EDID 情報）を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 設定の変更は、[VALUE] つまみを押して確定するまで反映されません。

設定値	
Internal（すべての入力可能なフォーマットの EDID 情報を送信します。）	
Internal-4K (*1)	SXGA (1280 x 1024/60Hz)
Internal-4K (4:2:0) (*1)	SXGA+ (1400 x 1050/60Hz)
Internal-2K (*1)	UXGA (1600 x 1200/60Hz)
SVGA (800 x 600/60Hz)	WUXGA (1920 x 1200/60Hz)
XGA (1024 x 768/60Hz)	720/59.94p
WXGA (1280 x 800/60Hz)	1080/59.94i
FWXGA (1366 x 768/60Hz)	1080/59.94p

(*1) HDMI IN 3, 4 のみ

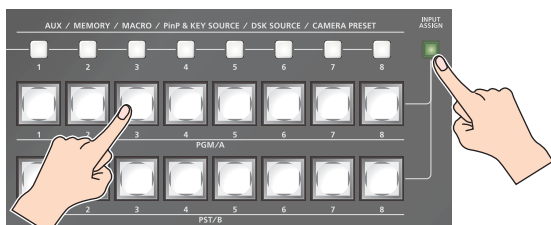
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

映像ソースを割り当てる

クロスポイント [1] ～ [8] ボタンに、映像ソース（入力映像、静止画、ビデオ・プレーヤーなど）を割り当てます。

ボタン操作

1. [INPUT ASSIGN] ボタンを押しながら、映像ソースを変更したいクロスポイント・ボタンを押す。



ボタンを押すたびに、以下の順番で映像ソースが切り替わります。クロスポイント・ボタンを長押しすることで、早送りすることができます。

- [INPUT ASSIGN] + PGM/A クロスポイント・ボタン

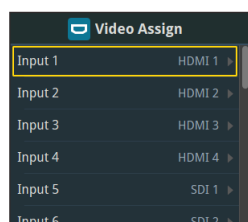
STILL 32 → 1 → SDI 4 → 1 → HDMI 4 → 1 → V.PLAYER

- [INPUT ASSIGN] + PST/B クロスポイント・ボタン

V.PLAYER → HDMI 1 → 4 → SDI 1 → 4 → STILL 1 → 32

メニュー操作

1. [MENU] ボタン → [Video Assign] → [Input 1] ～ [Input 8] を選び、[VALUE] つまみを押す。



映像ソース	説明
HDMI 1 ～ 4	HDMI IN 端子 1 ～ 4 の映像
SDI 1 ～ 4	SDI IN 端子 1 ～ 4 の映像
Still 1 ～ 32	静止画 1 ～ 32
V.Player (*1)	ビデオ・プレーヤーの映像
SRT In (*2)	SRT In の映像
Stream&Record Status 1, 2	ステータス表示
Date&Time	日付と時刻（アナログ時計またはデジタル時計） [System→Date&Time→Clock Display Type] の設定でアナログ/デジタル表示が変わります。
N/A	映像ソースなし

(*1) Type (P.137) が [Video Player] のとき

(*2) Type (P.137) が [SRT In] のとき

※ Stream&Record Status 1, 2、Date&Time、N/A をアサインしたチャンネルへは映像を切り替えることができません。すでに出力されているクロスポイント [1] ～ [8] ボタンのアサインをこれらに切り替えた場合、出力映像は黒画面になります。

2. [VALUE] つまみで映像ソースを選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

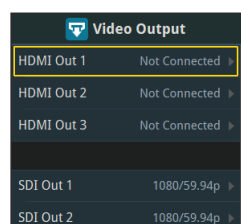
静止画は、以下の方法で本体に読み込むことができます。

- ➡ 「外部ストレージから静止画を読み込む」 (P.27)
- ➡ 「入出力映像から静止画をキャプチャーする」 (P.28)

出力映像を調節する

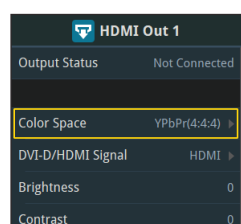
V-80HD の出力を受ける機器に合わせて、出力映像を調節します。

1. [MENU] ボタン → [Video Output] → [HDMI Out 1 ～ 3]、[SDI Out 1, 2]、[USB Out] を選び、[VALUE] つまみを押す。



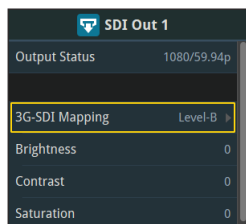
2. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

HDMI Out 1 ～ 3



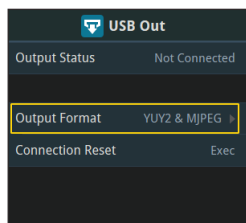
メニュー項目	説明
Output Status	接続状態や HDCP 信号の有無を表示します。
Color Space	カラー・スペースを設定します。
DVI-D/HDMI Signal	出力信号の種類を設定します。
Brightness	明るさを調節します。
Contrast	コントラストを調節します。
Saturation	彩度を調節します。
Red	赤レベルを調節します。
Green	緑レベルを調節します。
Blue	青レベルを調節します。
External Rec Control	外部 REC コントロール機能のオン/オフを設定します。

SDI Out 1、2



メニュー項目	説明
Output Status	フォーマットや HDCP 信号の有無を表示します。
3G-SDI Mapping	3G-SDI 出力のマッピング・ストラクチャーを設定します。
Brightness	明るさを調節します。
Contrast	コントラストを調節します。
Saturation	彩度を調節します。

USB Out



メニュー項目	説明
Output Status	接続状態や HDCP 信号の有無を表示します。
Output Format	出力先のライブ配信アプリで選ぶことができるフォーマットを設定します。
Connection Reset	映像が乱れるなど動作が安定しないときに、パソコンと V-80HD を再接続します。

3. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

ディスプレイの画質調節に便利なテスト・パターンを出力することができます。

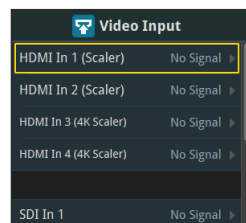
[MENU] ボタン → [System] → [Test Pattern] でテスト・パターンを設定します。

入力映像を調節する

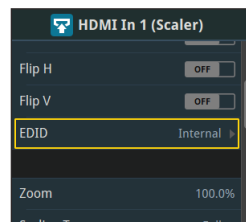
入力映像の画質を調節します。

HDMI IN 1 ～ 4 端子の映像では、スケーリングの調節もできます。

1. [MENU] ボタン → [Video Input] → [HDMI In 1 (Scaler)] ～ [HDMI In 4 (4K Scaler)] [SDI In 1 ～ 4] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



メニュー項目	説明
Input Status	入力映像の情報を表示します。
Flip H	「ON」にすると、映像を左右反転させて入力します。
Flip V	「ON」にすると、映像を上下反転させて入力します。
Brightness	明るさを調節します。
Contrast	コントラストを調節します。
Saturation	彩度を調節します。

※ 以下は HDMI In 1 (Scaler) ～ HDMI In 4 (4K Scaler) のみ

Test Pattern	テスト・パターンの設定をします。
Color Space	カラー・スペースを設定します。
Flicker Filter	「ON」にすると、ちらつきを軽減します。
EDID	入力フォーマット (EDID) を設定します (P.14)。
Zoom	拡大／縮小率を設定します。
Scaling Type	スケーリング・タイプを設定します。
Manual Size H	スケーリング・タイプが [Manual] のときの水平方向のサイズを調節します。
Manual Size V	スケーリング・タイプが [Manual] のときの垂直方向のサイズを調節します。
Position H	水平方向の位置を調節します。
Position V	垂直方向の位置を調節します。
Red	赤レベルを調節します。
Green	緑レベルを調節します。
Blue	青レベルを調節します。

3. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

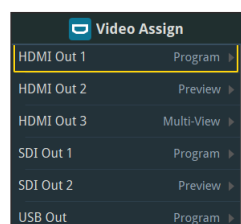
出力端子に映像バスを割り当てる

V-80HDには、10種類の映像バスがあります。各映像出力端子(HDMI OUT 1～3 端子、SDI OUT 1、2 端子、USB STREAM 端子、DIRECT STREAM 端子)や本体ディスプレイに、任意の映像バスを割り当てることができます。

映像出力端子	
HDMI Out 1～3	HDMI OUT 1～3 端子
SDI Out 1、2	SDI OUT 1、2 端子
USB Out	USB STREAM 端子
Stream&Record	DIRECT STREAM 端子
LCD Monitor	本体ディスプレイ

映像バス	説明
Program	最終出力映像
Sub Program	Program バスと同じ映像 Sub Program バスでは、PinP & Key レイヤーと DSK レイヤーの表示／非表示を、Program バスとは別に設定することができます。 レイヤーの設定を変更することで、Program バスとは異なる映像を出力することができます。
Preview	プレビュー出力映像（次に出力される映像） ※ フェード・イン／アウトの効果（P.36）は、反映されません。
AUX 1、2	AUX 1、AUX 2 バスに送られた任意の映像（P.18） 特定の入力映像を固定で出力したい場合など、最終出力とは別に独立した出力を確保することができます。
DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた任意の映像（P.41） 特定の入力映像を固定で出力したい場合など、最終出力とは別に独立した出力を確保することができます。
Multi-View	最終出力映像、プレビュー出力映像、クロスポイント [1]～[8] ボタンに割り当てられている映像（マルチビュー） メモ マルチビューの上側に表示する映像を、左右それぞれ変更することができます。 [MENU] ボタン→[System]→[Multi-View Layout]の「Left」「Right」で設定します。
Input-View 1、2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面） メモ 表示する映像をそれぞれ変更することができます。 [MENU] ボタン→[System]→[Input-View 1 Layout]または「Input-View 2 Layout」で設定します。
Quad-View	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（4 分割画面） メモ 表示する映像をそれぞれ変更することができます。 [MENU] ボタン→[System]→[Quad-View Layout]で設定します

1. [MENU] ボタン → [Video Assign] → [HDMI Out 1] ～ [LCD Monitor] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、割り当てる映像バスを選ぶ。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

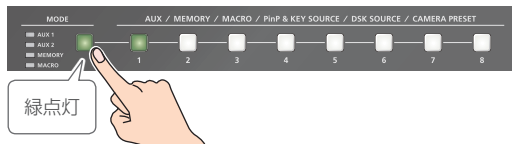
映像バスの割り当てと音声出力について

映像バスとは別に、端子ごとに任意の音声バス（Main バス、AUX 1 バス、AUX 2 バス、Monitor バス）を割り当てることができます（P.63）。

AUX 1、AUX 2 バスに送る映像を選ぶ

AUX 1、AUX 2 バスに任意の映像を送ります。特定の入力映像を固定で出力したい場合など、最終出力とは別に独立した出力を確保することができます。

1. [MODE] ボタンを何回か押して、「AUX 1」または「AUX 2」を選ぶ。



2. AUX [1] ～ [8] ボタンを押して、AUX 1、AUX 2 バスに送る映像を選ぶ。



AUX 1、AUX 2 バスが割り当てられている出力端子の映像が切り替わります。

※ Input 1 ～ 8 に割り当てられていない映像を選ぶ場合は、[MENU] ボタン → [Video Assign] → [AUX 1 Source] または [AUX 2 Source] で設定します。

メモ

- AUX バスへの音声の送り量を調節することもできます。
→ 「AUX バスへ音声を送る」(P.63)
- AUX バスに最終出力と同じ映像を送る (AUX リンク)**
AUX リンク機能を使うと、AUX バスに最終出力と同じ映像を送ることができます。映像切り替えに連動して、AUX バスに送られる映像も自動的に切り替わります。
[MENU] ボタン → [System] → [AUX Linked PGM] を [Auto Link] または [Manual Link] に設定します (P.158)。

著作権保護 (HDCP) された映像を入力する

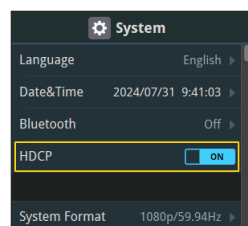
BD プレーヤーなどから著作権保護 (HDCP) された映像を入力するには、HDCP の入力を有効にする必要があります。

※ 著作権保護 (HDCP) された映像／音声を出力するときは、HDCP 対応の機器を接続してください。

HDCP とは？

ビデオ再生機器からディスプレイなどの表示機器にデジタル信号を送る際、その経路を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止するための著作権保護技術です。

1. [MENU] ボタン → [System] → [HDCP] を選び、[VALUE] つまみを押す。



設定値	説明
ON	著作権保護 (HDCP) された映像を入力できます。また、出力される映像に HDCP を付加します。 ※ SDI OUT 端子と USB STREAM 端子から映像／音声は出力されません。
OFF	著作権保護 (HDCP) された映像は入力できません。

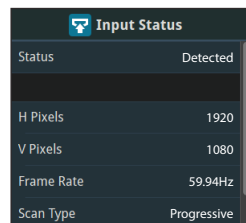
2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

HDCP 対応機器の確認

ソース機器

ソース機器の HDCP 対応状況は、[MENU] ボタン → [Video Input] → [HDMI In 1 (Scaler) ～ HDMI In 4 (4K Scaler)] → [Input Status] で確認できます。

著作権保護 (HDCP) された映像が入力されているときは、「Detected」と表示されます。



出力機器

HDCP 対応機器が接続されているときは、[MENU] ボタン → [Video Output] → [HDMI Out 1 ～ 3] → [Output Status] に「HDCP」と表示されます。

映像の操作

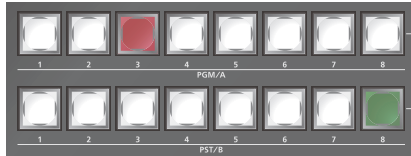
映像を切り替える

PGM/A バスと PST/B バスの映像を切り替えて、最終出力します。

操作モードを設定する

映像切り替えには、「PGM/PST モード」、「A/B モード」、「Dissolve モード」、「PGM/PST(16) モード」の 4 つの操作モードがあります。

PGM/A バスの映像



PGM/B バスの映像

PGM/PST モード (工場出荷時の設定)

常に PGM/A バスの映像が最終出力されます。PST/B バスの映像が、プレビュー出力映像（次に出力される映像）になります。

ビデオ・フェーダーや [CUT] [AUTO] ボタンを操作すると、最終出力映像とプレビュー出力映像が入れ替わります。

A/B モード

ビデオ・フェーダー操作すると、ビデオ・フェーダーが倒れているバス側の映像が最終出力されます。もう一方のバスの映像が、プレビュー出力映像（次に出力される映像）になります。

[CUT] [AUTO] ボタンを操作したときは、PGM/A バスと PST/B バスの映像が交互に最終出力されます。

Dissolve モード

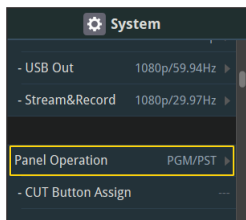
出力したい映像を選び、PGM バスへ即座に出力するモードです。

[CUT] ボタンまたは [AUTO] ボタンを押して、映像を切り替えるときの動作を選びます。

PGM/PST(16) モード

PGM/A [1] ~ [8] ボタンと PST/B [1] ~ [8] ボタン、合計 16 個のボタンすべてを PST/B のクロスポイント・ボタンとして使用するモードです。

1. [MENU] ボタン → [System] → [Panel Operation] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで操作モードを選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

PGM/PST モードで切り替える

ここでは、操作モードの設定で「PGM/PST モード」を選んだ場合の手順を説明します。

1. ビデオ・フェーダーを上側または下側に倒しきる。

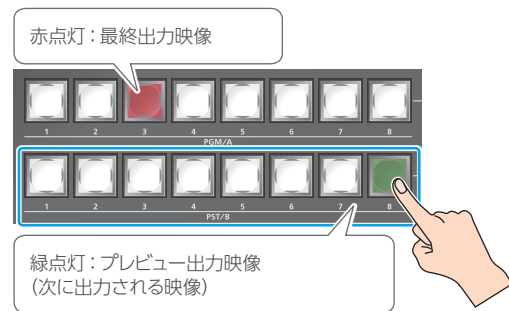


PGM/A バスの映像が最終出力されます。

ビデオ・フェーダーを完全に倒しきると、一番上または一番下のトランジション・インジケータのみが点灯します。

2. PST/B クロスポイント[1] ~ [8] ボタンを押して、プレビュー出力映像（次に出力される映像）を選ぶ。

マルチビューの PVW セクションで、プレビュー出力映像を確認できます。



3. [TRANSITION] ボタンを押して、切り替え効果（ミックス、ワイプ）を選ぶ。



ミックス

2 つの映像が混ざり合いながら切り替わります。



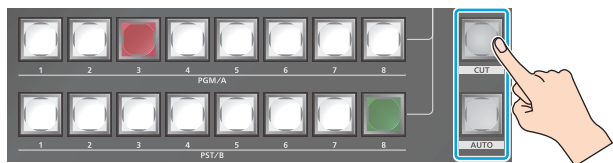
ワイプ

元の映像に次の映像が割り込んでくる形で切り替わります。



ボタン操作で切り替える場合

4. [CUT] または [AUTO] ボタンを押す。



ボタン	説明
[CUT] ボタン (赤点灯)	瞬時に映像が切り替わります。
[AUTO] ボタン (赤点滅)	切り替え (トランジション) 効果がかかり、自動的に映像が切り替わります。 映像切り替え時間は、 [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Mix] → [Mix Time] または [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Wipe] → [Wipe Time] で設定します。

フェーダー操作で切り替える場合

4. ビデオ・フェーダーを手順 1 と反対の方向に倒す。



ビデオ・フェーダーの動きに合わせて、映像が切り替わります。

メモ

- ミックスやワイプの切り替えパターンを変更することができます。
⇒ 「ミックス／ワイプのパターンを変更する」 (P.22)
- [AUTO] [CUT] ボタンを使って映像を切り替えると、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が異なることがあります。
この状態でビデオ・フェーダーを操作した場合、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が一致するまで、出力は変化しません。

A/B モードで切り替える

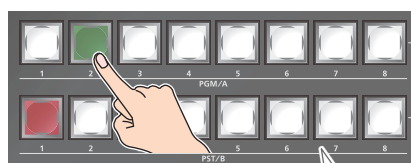
ここでは、操作モードの設定で「A/B モード」 (P.19) を選んだ場合の手順を説明します。

1. ビデオ・フェーダーを上側または下側に倒しきる。



ビデオ・フェーダーを倒したバス側の映像が最終出力されます。

2. ビデオ・フェーダーを倒していない側のクロスポイント [1] ~ [8] ボタンを押して、プレビュー出力映像 (次に出力される映像) を選ぶ。



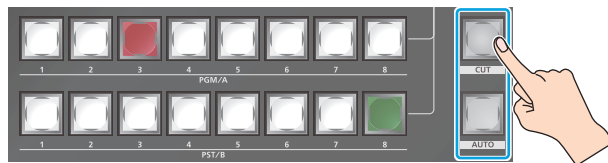
赤点灯：最終出力映像
緑点灯：プレビュー出力映像 (次に出力される映像)

3. [TRANSITION] ボタンを押して、切り替え効果 (ミックス、ワイプ) を選ぶ。



ボタン操作で切り替える場合

4. [CUT] または [AUTO] ボタンを押す。



ボタン	説明
[CUT] ボタン (赤点灯)	瞬時に映像が切り替わります。
[AUTO] ボタン (赤点滅)	切り替え (トランジション) 効果がかかり、自動的に映像が切り替わります。 映像切り替え時間は、 [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Mix] → [Mix Time] または [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Wipe] → [Wipe Time] で設定します。

フェーダー操作で切り替える場合

4. ビデオ・フェーダーを手順 1 と反対の方向に倒す。

ビデオ・フェーダーの動きに合わせて、映像が切り替わります。

メモ

- ミックスやワイプの切り替えパターンを変更することができます。
→ 「ミックス／ワイプのパターンを変更する」 (P.22)
- [CUT] [AUTO] ボタンを押したときの動作を変更することができます。
→ 「[CUT] [AUTO] ボタンの機能を変更する」 (P.22)
- [CUT] [AUTO] ボタンを使って映像を切り替えと、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が異なることがあります。
この状態でビデオ・フェーダーを操作した場合、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が一致するまで、出力は変化しません。

Dissolve モードで切り替える

ここでは、操作モードの設定で「Dissolve モード」 (P.19) を選んだ場合の手順を説明します。

1. [TRANSITION] ボタンを押して、切り替え効果（ミックス、ワイプ）を選ぶ。

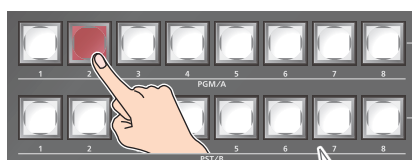


2. [CUT] または [AUTO] ボタンを押す。



ボタン	説明
[CUT] ボタン (赤点灯)	瞬時に映像が切り替わります。
[AUTO] ボタン (赤点滅)	切り替え（トランジション）効果がかかり、自動的に映像が切り替わります。 映像切り替え時間は、 [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Mix] → [Mix Time] または [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Wipe] → [Wipe Time] で設定します。

3. クロスポイント・ボタンを押して、最終出力映像を選ぶ。



赤点灯：最終出力映像
赤点滅：切り替え効果がかかっているとき

PGM/PST(16) モードで切り替える

ここでは、操作モードの設定で「PGM/PST(16) モード」 (P.19) を選んだ場合の手順を説明します。

1. ビデオ・フェーダーを上側または下側に倒しきる。

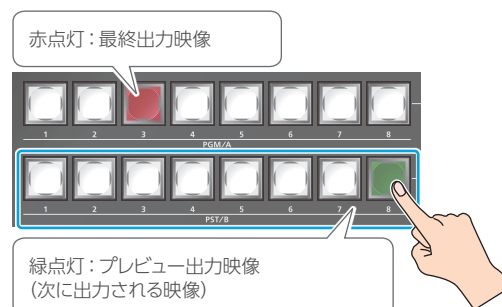


PGM/A バスの映像が最終出力されます。

ビデオ・フェーダーを完全に倒しきると、一番上または一番下のトランジション・インジケータのみが点灯します。

2. PST/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタン、PST/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンを押して、プレビュー出力映像（次に出力される映像）を選ぶ。

マルチビューの PVW セクションで、プレビュー出力映像を確認できます。

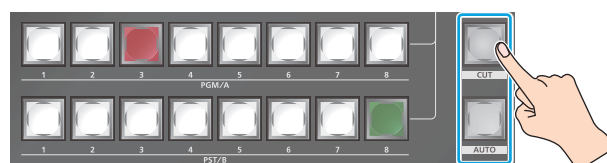


3. [TRANSITION] ボタンを押して、切り替え効果（ミックス、ワイプ）を選ぶ。



ボタン操作で切り替える場合

4. [CUT] または [AUTO] ボタンを押す。



ボタン	説明
[CUT] ボタン (赤点灯)	瞬時に映像が切り替わります。
[AUTO] ボタン (赤点滅)	切り替え（トランジション）効果がかかり、自動的に映像が切り替わります。 映像切り替え時間は、 [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Mix] → [Mix Time] または [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] → [Wipe] → [Wipe Time] で設定します。

フェーダー操作で切り替える場合

4. ビデオ・フェーダーを手順 1 と反対の方向に倒す。

ビデオ・フェーダーの動きに合わせて、映像が切り替わります。

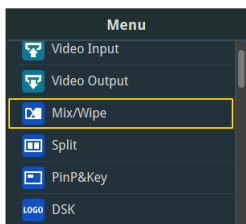
メモ

- ミックスやワイプの切り替えパターンを変更することができます。
⇒「ミックス／ワイプのパターンを変更する」(P.22)
- [CUT] [AUTO] ボタンを押したときの動作を変更することができます。
⇒「[CUT] [AUTO] ボタンの機能を変更する」(P.22)
- [CUT] [AUTO] ボタンを使って映像を切り替えると、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が異なることがあります。
この状態でビデオ・フェーダーを操作した場合、ビデオ・フェーダーの位置と実際の出力が一致するまで、出力は変化しません。

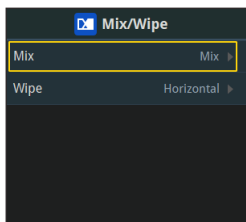
ミックス／ワイプのパターンを変更する

ミックス／ワイプの切り替えパターンやワイプの方向などを変更することができます。

1. [MENU] ボタン → [Mix/Wipe] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



メニュー項目	説明
Mix	ミックスの切り替えパターンや映像切り替え時間を設定します。
Wipe	ワイプの切り替えパターンや映像切り替え時間を設定します。

3. [VALUE] つまみでメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

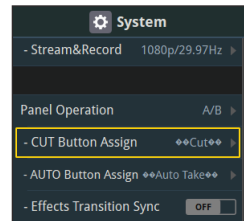
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

[CUT] [AUTO] ボタンの機能を変更する

[CUT] [AUTO] ボタンを押したときの動作を変更することができます。

※ A/B モード以外の場合 (P.19)、[CUT] [AUTO] ボタンの機能は固定です。

1. [MENU] ボタン → [System] → [CUT Button Assign] または [AUTO Button Assign] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみでボタンの機能を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
CUT Button Assign	
▲Auto Take	PST/B バスの映像が選ばれているときに、PGM/A バスの映像に切り替えます。
▲Auto Take▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像を切り替えます。
▲Cut	PST/B バスの映像が選ばれているときに、PGM/A バスの映像にカットで切り替えます。
▲Cut▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像をカットで切り替えます。
▲Transform	PST/B バスの映像が選ばれているときに、ボタンを押している間だけ、PGM/A バスの映像にカットで切り替えます。
AUTO Button Assign	
Auto Take▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、PST/B バスの映像に切り替えます。
▲Auto Take▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像を切り替えます。
Cut▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、PST/B バスの映像にカットで切り替えます。
▲Cut▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像をカットで切り替えます。
Transform▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、ボタンを押している間だけ、PST/B バスの映像にカットで切り替えます。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

自動的に映像を切り替える（オート・スイッチング）

Input 1 ～ 8 の映像やシーン・メモリー（P.76）を自動的に切り替えます（オート・スイッチング機能）。映像を自動的に切り替えることで、オペレーションを省力化することができます。

動作モードについて

オート・スイッチングには、状況に合わせて選べる「インプット・スキャン」「シーン・メモリー・スキャン」「ビート・シンク」「ビデオ・フォロー・オーディオ」「PinP&Key スキャン」「DSK スキャン」の 6 つの動作モードが用意されています。

指定した間隔で切り替える（インプット・スキャン）

あらかじめ指定した時間が経過すると、自動的に Input 1 ～ 8 の映像が切り替わります。映像ごとに表示時間を変えたり、映像をランダムに切り替えたりすることもできます。

複数のカメラ映像を切り替えて、弾き語りをライブ配信するときなどに便利です。

※ 映像入力がない場合は、スキップされます。

シーン・メモリーを切り替える（シーン・メモリー・スキャン）

シーン・メモリー 1 ～ 32 を自動的に呼び出します。各シーン・メモリーに保存されている設定に従って、映像／音声が切り替わります。

※ 設定が保存されていないシーン・メモリーは、スキップされます。

楽曲のビート（拍）に合わせて切り替える（ビート・シンク）

楽曲からビートを検出し、ビートのタイミングで映像を自動的に切り替えます。DJ パフォーマンスや音楽演奏のライブ配信などで、楽曲に同期した映像切り替えをすることができます。

マイクからの音声に合わせて切り替える（ビデオ・フォロー・オーディオ）

マイクから入力される音声を検出し、音量に応じて任意の映像に自動的に切り替えます。トーク番組や対談で、演者が話しているときは演者のクローズアップ映像、トークの合間には演者二人のワイドショット映像に切り替えるといった演出をすることができます。

ピクチャーインピクチャー（PinP）の内容を切り替える（PinP&Key スキャン）

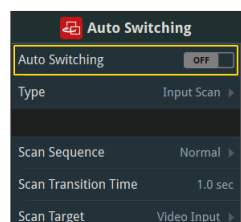
あらかじめ指定した時間が経過すると、自動的に子画面の映像が切り替わります。映像ごとに表示時間を変えたり、映像をランダムに切り替えたりすることもできます。

ダウンストリーム・キーヤー（DSK）の内容を切り替える（DSK スキャン）

あらかじめ指定した時間が経過すると、自動的にテロップの映像が切り替わります。映像ごとに表示時間を変えたり、映像をランダムに切り替えたりすることもできます。

オート・スイッチング機能をオン／オフする

1. [MENU] ボタン → [Auto Switching] → [Auto Switching] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」または「OFF」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

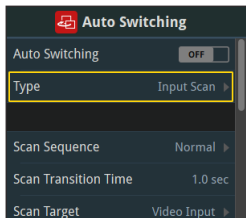
メモ

ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てて、オート・スイッチングのオン／オフを切り替えることができます（P.97）。工場出荷時は、BANK B のパッド [2] に、オート・スイッチングのオン／オフ機能が割り当てられています。

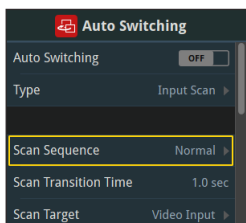
動作モードを設定する

インプット・スキャン

1. [MENU] ボタン → [Auto Switching] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「Input Scan」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



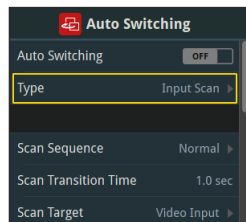
メニュー項目	説明
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。 Normal : Input 1 → 8 の順に切り替わります。 Reverse : Input 8 → 1 の順に切り替わります。 Random : ランダムに切り替わります。
Scan Transition Time	映像の切り替え時間を設定します。
Scan Target	オート・スイッチングの対象とする映像を設定します。 Video Input : 最終出力映像とプレビュー映像 PinP & Key 1、2 : PinP & Key レイヤー（子画面）の映像 DSK : DSK レイヤー（子画面）の映像
Input 1 ~ 8 Time	映像の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。

※ パラメーターの詳細については、「22: Auto Switching」(P.146)をご覧ください。

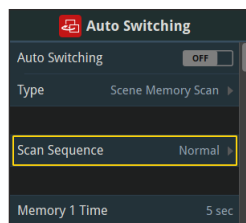
4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

シーン・メモリー・スキャン

1. [MENU] ボタン → [Auto Switching] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「Scene Memory Scan」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



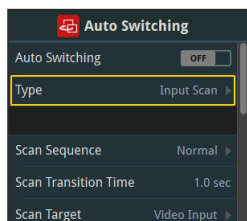
メニュー項目	説明
Scan Sequence	シーン・メモリーを切り替える順番を設定します。 Normal : シーン・メモリー 1 → 32 の順に切り替わります。 Reverse : シーン・メモリー 32 → 1 の順に切り替わります。 Random : ランダムに切り替わります。
Memory 1 ~ 32 Time	次のシーン・メモリーに切り替えるまでの時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。

※ パラメーターの詳細については、「22: Auto Switching」(P.146)をご覧ください。

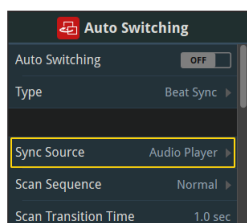
4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

ビート・シンク

1. [MENU] ボタン → [Auto Switching] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「Beat Sync」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
4. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



メニュー項目	説明
Sync Source	映像を同期させる入力音声を設定します。 映像を表示する順番を設定します。
Scan Sequence	Normal : Input 1 → 8 の順に切り替わります。 Reverse : Input 8 → 1 の順に切り替わります。 Random : ランダムに切り替わります。
Scan Transition Time	映像の切り替え時間を設定します。
Scan Cycle	何拍で次の映像に切り替えるかを設定します。
Scan Target	オート・スイッチングの対象とする映像を設定します。 Video Input : 最終出力映像とプレビュー映像 PinP & Key 1、2 : PinP & Key レイヤー（子画面）の映像 DSK : DSK レイヤー（子画面）の映像
Input 1 ~ 8	映像切り替えの対象を設定します。「Off」にすると、スキップされます。

※ パラメーターの詳細については、「22: Auto Switching」(P.146)をご覧ください。

5. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

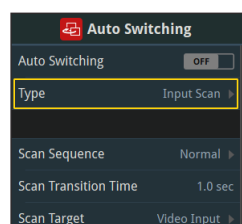
ASSIGNABLE PADS にオート・スイッチングの「Beat Sync Tap」機能を割り当てると、拍のタイミングを指定したり、ボタンを押す間隔で BPM を設定したりすることができます (P.97)。



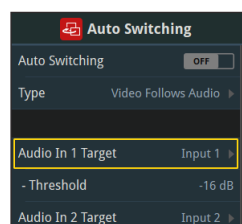
現在の BPM に同期して、ASSIGNABLE PADS が点滅します。

ビデオ・フォロー・オーディオ

1. [MENU] ボタン → [Auto Switching] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「Video Follows Audio」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



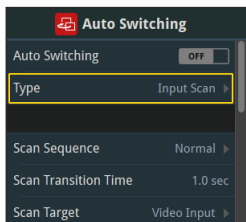
メニュー項目	説明
Audio In 1 ~ 3/4 Target、 USB In Target、 Bluetooth In Target、 Audio Player Target、 HDMI 1 ~ 4 Target、 SDI 1 ~ 4 Target、 Video Player/SRT In Target	音声を検出したときに出力する映像を設定します。
Threshold	ビデオ・フォロー・オーディオ機能が動作する基準レベルを設定します。スレッシュホルドを超える音声を検出されると、映像が切り替わります。
Audio Mix Target	複数のマイクで音声を検出したときに出力する映像を設定します。「Off」にすると、音声を検出した順番に映像が切り替わります。
Audio Silent Target	すべてのマイクから音声入力がないときに出力する映像を設定します。「Off」にすると、最後に切り替わった映像を出力し続けます。
Audio Redetection Time	映像切り替えが完了したあと、再び音声の検出を始めるまでの時間を設定します。
Scan Transition Time	映像切り替え時間を設定します。

※ パラメーターの詳細については、「22: Auto Switching」(P.146)をご覧ください。

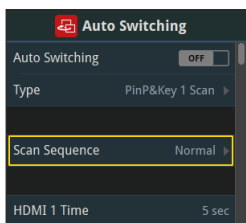
4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

PinP&KEY スキャン

1. [MENU] ボタン → 「Auto Switching」 → 「Type」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「PinP&Key 1、2 Scan」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



メニュー項目	説明
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。 Normal : HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、V.Player または SRT In の順に切り替わります。 Reverse : V.Player または SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替わります。 Random : ランダムに切り替わります。
HDMI 1 ～ 4 Time	映像の表示時間を設定します。
SDI 1 ～ 4 Time	映像の表示時間を設定します。
Still 1 ～ 32 Time	静止画の表示時間を設定します。
V.Player Time (*1)	動画の表示時間を設定します。
SRT In Time (*2)	SRT 入力映像の表示時間を設定します。

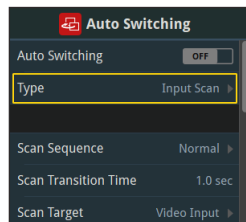
(*1) Type (P.137) が「Video Player」のとき

(*2) Type (P.137) が「SRT In」のとき

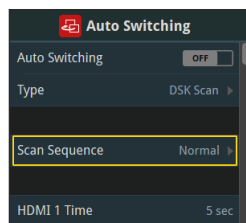
4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

DSK スキャン

1. [MENU] ボタン → 「Auto Switching」 → 「Type」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「DSK Scan」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



メニュー項目	説明
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。 Normal : HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、V.Player または SRT In の順に切り替わります。 Reverse : V.Player または SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替わります。 Random : ランダムに切り替わります。
HDMI 1 ～ 4 Time	映像の表示時間を設定します。
SDI 1 ～ 4 Time	映像の表示時間を設定します。
Still 1 ～ 32 Time	静止画の表示時間を設定します。
V.Player Time (*1)	動画の表示時間を設定します。
SRT In Time (*2)	SRT 入力映像の表示時間を設定します。

(*1) Type (P.137) が「Video Player」のとき

(*2) Type (P.137) が「SRT In」のとき

4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

静止画を読み込む

静止画を読み込んで、映像と同じように出力したり (P.28)、DSK 合成 (P.41) のソースとして使ったりすることができます。静止画の読み込みには、「外部ストレージ (SD カードや USB メモリー) から読み込む方法」と「入力映像をキャプチャーする方法」の 2 つの方法があります。

静止画は、32 枚まで本体に保存することができます。

※ 本体に静止画が保存されると、静止画の保存枚数に応じて起動時間が長くなります。

外部ストレージから静止画を読み込む

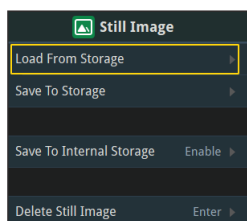
ストレージに保存した静止画を本体に読み込みます。

1. SD カードまたは USB メモリーのルート・ディレクトリーに、静止画を保存する。

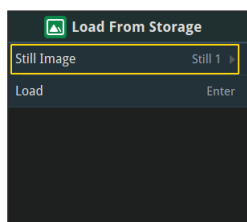
2. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

3. [MENU] ボタン → [Still Image] → [Load From Storage] → [Still Image] を選び、[VALUE] つまみを押す。



4. [VALUE] つまみで静止画の読み込み先メモリー (Still 1 ~ 32) を選び、[VALUE] つまみを押す。



静止画が保存されているメモリーには、[*] マークが表示されます。

5. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

6. [VALUE] つまみで [Load] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージ内の静止画が一覧表示されます。

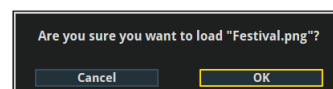
File List				SD	USB
Festival.png	21KB	2024/07/25	18:55		
Logo.png	10KB	2024/07/30	12:06		
Opening.bmp	123KB	2024/07/26	12:46		
Title1.bmp	33KB	2024/07/23	13:24		
Title2.bmp	220KB	2024/07/23	18:39		

※ 画面右上の [SD] [USB] を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

7. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

8. [VALUE] つまみで読み込みたい静止画のファイル名を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

9. [VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

静止画が本体に読み込まれます。完了すると [Completed.] と表示されます。

10. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

静止画の保存方法を「一時保存」にすることができます。電源を切ると、読み込んだ静止画は削除されます。

[MENU] ボタン → [Still Image] → [Save To Internal Storage] を [Disable] にして、静止画を読み込みます。

注意

- 静止画は出力フォーマット・サイズにスケーリングされます。
- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください (P.13、P.13)。
- [Processing...] と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

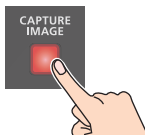
読み込み対応フォーマット

フォーマット	Bitmap ファイル (.bmp)、24 ビットカラー、非圧縮
	PNG ファイル (.png)、24 ビットカラー ※ アルファ・チャンネル対応
	JPEG ファイル (.jpg、.jpeg)、24 ビットカラー
解像度	システム・フォーマット (P.14) に準拠
ファイル名	半角英数 64 文字以内 必ず拡張子「.bmp」、[.png]、[.jpg]、または「.jpeg」を付けてください。

入出力映像から静止画をキャプチャーする

入出力映像から静止画をキャプチャーして、本体に保存します。

1. [CAPTURE IMAGE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。



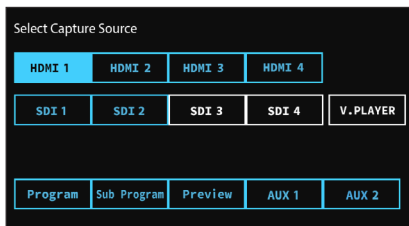
Capture Image 画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで静止画の保存先メモリー（Still 1 ～ 32）を選び、[VALUE] つまみを押す。

Still 1	Still 2	Still 3	Still 4
Still 5	Still 6	Still 7	Still 8
Still 9	Still 10	Still 11	Still 12
Still 13	Still 14	Still 15	Still 16

※ 中止するときには、[EXIT] ボタンを押します。

3. [VALUE] つまみでキャプチャーする入出力映像を選び、[VALUE] つまみを押す。



キャプチャーが実行されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

4. [CAPTURE IMAGE] ボタンを押して、操作を終了する。

メモ

- 静止画の保存方法を「一時保存」にすることができます。電源を切ると、キャプチャーした静止画は削除されます。
[MENU] ボタン → [Still Image] → [Save To Internal Storage] を「Disable」にして、キャプチャーを実行します。
- HDCP (P.18) がオンのときにキャプチャーすると、作成された静止画は、HDCP 付きの映像と同様に扱われます。HDCP がオフのときは、使用できません。

読み込んだ静止画を出力する

クロスポイント・ボタンに静止画を割り当て、映像と同じように出力したり、最終出力を一時的に止めて静止画を出力したりすることができます。

※ アルファ・チャンネル付き静止画 (.png) を出力するときは、アルファ・チャンネル（透過度）情報は無視されます。

クロスポイント・ボタンに静止画を割り当てる

クロスポイント・ボタンに本体に読み込んだ静止画を割り当てて、映像と同じように出力します。

1. 以下の手順に従って、本体に静止画を読み込む。

- ➡ 「外部ストレージから静止画を読み込む」 (P.27)
- ➡ 「入出力映像から静止画をキャプチャーする」 (P.28)

2. 「映像ソースを割り当てる」 (P.15) の手順に従って、クロスポイント・ボタンに静止画を割り当てる。

3. 「映像を切り替える」 (P.19) の手順に従って、静止画を出力する。

最終出力に静止画を挿入する

最終出力を一時的に止めて、任意の静止画をカットで出力します。クロスポイント・ボタンに静止画を割り当てずに、ダイレクトに静止画を出力することができます。

※ プレビューにも最終出力と同じ静止画が出力されます。

静止画の出力には、以下の方法があります。

ASSIGNABLE PADS を操作する

- ➡ 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」 (P.97)

フットスイッチを操作する

- ➡ 「フットスイッチを使う」 (P.103)

エクスプレッション・ペダルを操作する

- ➡ 「エクスプレッション・ペダルを使う」 (P.104)

外部から制御信号を入力する (GPI)

- ➡ 「制御信号を入力する」 (P.105)

メモ

フェード・イン効果を付けて静止画を出力する

[OUTPUT FADE] ボタンを使うと、フェード・イン効果を付けて、静止画を出力することができます。

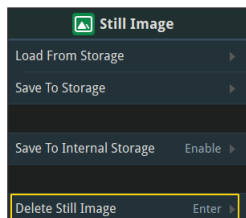
AUX 1、AUX 2 バスに静止画を割り当て (P.18)、[OUTPUT FADE] ボタンの機能を以下のように変更します。

[MENU] ボタン → [System] → Output Fade Assign [Video Fade] を「AUX 1」または「AUX 2」に設定します。

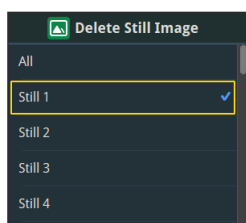
静止画を削除する

本体に保存されている静止画を削除します。

1. [MENU] ボタン → [Still Image] → [Delete Still Image] を選び、[VALUE] つまみを押す。

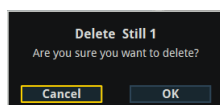


2. [VALUE] つまみで削除したい静止画 (All、Still 1 ~ 32) を選び、[VALUE] つまみを押す。



静止画が保存されているメモリーには、[*] マークが表示されます。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

3. [VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。
静止画が削除されます。完了すると「Completed.」と表示されます。
4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

SD カードや USB メモリーに静止画を書き出す

入出力映像からキャプチャーした静止画（P.28）を、ストレージ（SD カードや USB メモリー）に書き出すことができます。

※ 静止画は「Roland/V-80HD/still」フォルダーに書き出されます。

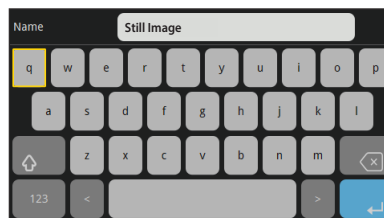
※ HDCP（P.18）がオンのときに作成された静止画は、書き出しできません。

注意

- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください（P.13、P.13）。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

7. ファイル名を入力する。

※ 入力できる文字数は、32 文字までです。



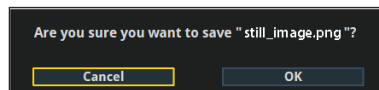
8. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。

9. ファイル・タイプを選ぶ。

- ① [VALUE] つまみで「File Type」を選び、[VALUE] つまみを押す。
- ② [VALUE] つまみで「BITMAP」、「PNG」、または「JPEG」を選び、[VALUE] つまみを押す。

10. [VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

11. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

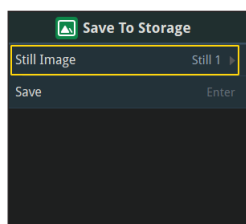
静止画を上書き保存する

手順5の画面で既存の静止画のファイル名を選ぶと、ファイル・ネーム欄のファイル名が引き継がれ、上書き保存することができます。

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Still Image] → [Save To Storage] → [Still Image] を選び、[VALUE] つまみを押す。



静止画が保存されているメモリーには、「*」マークが表示されます。

メモ

HDCP がオンのときに作成された静止画には、「(HDCP)」が表示されます。

3. [VALUE] つまみで書き出したい静止画のメモリー（Still 1 ～ 32）を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

5. 「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージ内（Still フォルダー）の静止画が一覧表示されます。

File List				
	SD	USB		
Festival.png	21KB	2024/07/25	18:55	
Logo.png	10KB	2024/07/30	12:06	
Opening.bmp	123KB	2024/07/26	12:46	
Title1.bmp	33KB	2024/07/23	13:24	
Title2.bmp	220KB	2024/07/23	18:39	

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、書き出し先のストレージを切り替えることができます。

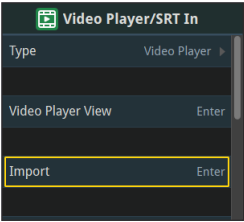
6. 「File Name」を選び、[VALUE] つまみを押す。

入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

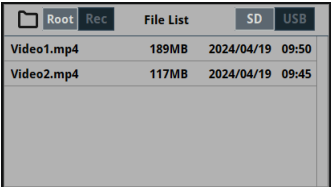
動画を読み込む

ストレージに保存した動画を本体に読み込みます。読み込んだ動画を再生して、映像と同じように出力することができます。

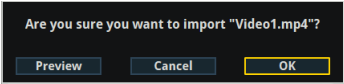
- 1. SD カードまたは USB メモリーのルート・ディレクトリーに、動画を保存する。
- 2. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。
※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。
- 3. [MENU] ボタン → [Video Player/SRT In] → [Import] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内の動画が一覧表示されます。



- ※ 画面右上の [SD] [USB] を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。
- ※ 画面左上の [Root] [Rec] を選ぶことで、読み込み元のフォルダーを切り替えることができます (SD のみ)。
- 4. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。
- 5. [VALUE] つまみで読み込みたい動画のファイル名を選び、[VALUE] つまみを押す。
確認メッセージが表示されます。
※ [Preview] を選んで [VALUE] つまみを押すと、動画の再生ができます。



- ※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。
- 6. [VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。
動画が本体に読み込まれます。完了すると [Completed.] と表示されます。
- 7. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

注意

- 動画は出力フォーマット・サイズにスケーリングされます。
- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください (P.13、P.13)。
- [Processing...] と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

読み込み対応フォーマット

フォーマット	MP4 File (.mp4) H.264、AAC (48kHz)、平均ビットレート 20Mbps 以下
解像度	最大 1920 × 1080 ピクセル
ファイル名	半角英数、拡張子を含め 64 文字以内

※ 動画はストレージからの読み込みのみ対応しています。本体には保存されません。

読み込んだ動画を出力する

クロスポイント・ボタンに動画を割り当て、映像と同じように出力したり、最終出力を一時的に止めて動画を出力したりすることができます。

動画を再生する（ビデオ・プレーヤー）

読み込んだ動画を再生するには、ビデオ・プレーヤーを使います。

※ ビデオ・プレーヤーを使うときは、SRT 映像の入力（P.33）はできません。

1. [MENU] ボタン → 「Video Player/SRT In」 → 「Type」を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. 「Video Player」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
4. [VALUE] つまみで「Video Player View」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Video Player 画面が表示されます。



5. [VALUE] つまみでビデオ・プレーヤーの設定をする。

メニュー項目	説明
File Import	動画を読み込みます。
File Name	読み込んだ動画のファイル名を表示します。
Start Time	動画の再生開始ポイントを設定します。
End Time	動画の再生終了ポイントを設定します。
Skip Forward Time	「▶▶」を押したときの早送り時間を設定します。
Skip Backward Time	「◀◀」を押したときの早送り時間を設定します。
Level	動画の再生音量を調節します。
Repeat	リピート再生をオン/オフします。

6. [VALUE] つまみで「▶」を選び、[VALUE] つまみを押す。
設定に従って動画が再生されます。

メモ

ASSIGNABLE PADS にビデオ・プレーヤー機能を割り当てて、Video Player 画面に入ることできます。（P.97）。
工場出荷時は、Bank B のパッド [6] に、ビデオ・プレーヤー機能が割り当てられています。

クロスポイント・ボタンに動画を割り当てる

クロスポイント・ボタンに本体に読み込んだ動画を割り当てて、映像と同じように出力します。

1. 「動画を読み込む」（P.31）の手順に従って、本体に動画を読み込む。
2. 「映像ソースを割り当てる」（P.15）の手順に従って、クロスポイント・ボタンに動画を割り当てる。
3. 「映像を切り替える」（P.19）の手順に従って、動画を出力する。

最終出力に動画を挿入する

最終出力を一時的に止めて、任意の動画をカットで出力します。

クロスポイント・ボタンに動画を割り当てずに、ダイレクトに動画を出力することができます。

※ プレビューにも最終出力と同じ動画が出力されます。

動画の出力には、以下の方法があります。

ASSIGNABLE PADS を操作する

➡ 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」（P.97）

フットスイッチを操作する

➡ 「フットスイッチを使う」（P.103）

エクスプレッション・ペダルを操作する

➡ 「エクスプレッション・ペダルを使う」（P.104）

外部から制御信号を入力する（GPI）

➡ 「制御信号を入力する」（P.105）

注意

- 配信、録画フォーマット、ビデオ・プレーヤーで再生するファイルのいずれかが 1080/30p を超える場合、配信、録画機能とビデオ・プレーヤー機能を同時に使用できません。
- 配信、録画ビットレート設定と、ビデオ・プレーヤーで再生するファイルのビットレートの合計が 20,000kbps を超える場合、配信、録画機能とビデオ・プレーヤー機能を同時に使用できません。

SRT 映像を入力する

V-80HDは、SRT 映像の入力に対応しています。ネットワーク経由で送られてきたSRT映像をV-80HDに入力し、映像の1つとして扱うことができます。ここでは、LAN 接続された SRT 映像出力機器を例に、接続方法と SRT 入力の手順を説明します。

※ SRT 映像を入力するときは、ビデオ・プレーヤー（P.32）は使用できません。

必要なネットワーク環境

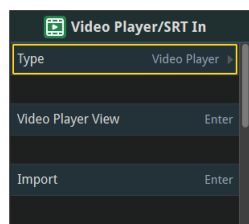


※ ネットワーク経由で映像を入力するには、IP アドレス／サブネット・マスク／デフォルト・ゲートウェイの設定が必要です。これらの設定は、通常 DHCP サーバーから取得されて、割り当てられます。

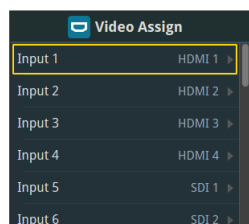
SRT 入力映像チャンネルをクロスポイント・ボタンに割り当てる

SRT 映像を入力する前に、SRT 映像のチャンネルをクロスポイント・ボタンに割り当てます。

1. [MENU] ボタン → [Video Player/SRT In] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [SRT In] を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタン → [Video Assign] → [Input 1] ~ [Input 8] を選び、[VALUE] つまみを押す。



4. [VALUE] つまみで [SRT In] を選び、[VALUE] つまみを押す。

選んだクロスポイント・ボタンが SRT 映像の入力に割り当てられます。

SRT 対応機器を接続して SRT 映像を入力する

SRT は、映像信号の向きにかかわらず、送信機器と受信機器どちらからでも接続することができます。

接続の待ち受け側を Listener モード、接続する側を Caller モードと呼び、機器によって片方または両方のモードに対応します。

V-80HD では、Listener モードと Caller モードの両方に対応しています。

Caller モードで接続する

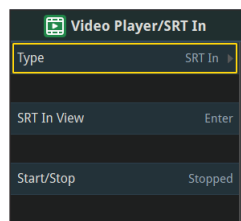
Caller モードでは、送信機器の設定に合わせた受信側（V-80HD）の設定をします。

V-80HD から送信機器へ SRT 接続し、V-80HD に映像を入力します。

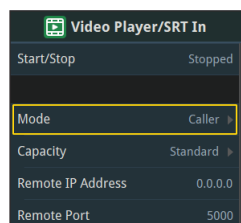
1. 送信機器の SRT モードを Listener モードに設定し、その他の設定項目を入力する。

※ 設定や操作方法については、送信機器の取扱説明書をご覧ください。

2. [MENU] ボタン → [Video Player/SRT In] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



3. [SRT In] を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
5. [VALUE] つまみで [Mode] を選び、[VALUE] つまみを押す。



6. [Caller] を選び、[VALUE] つまみを押す。
7. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

8. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
Capacity	受信可能な最大ビットレートを設定します。
Remote IP Address	SRT 送信機器の IP アドレスを設定します。
Remote Port	SRT 送信機器のポート番号を設定します。
Latency	SRT の再送用バッファの長さ（遅延時間）を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。 必要に応じて設定してください。
Stream ID	送信側でストリーム ID が設定されている場合は、送信側と同じストリーム ID を設定します。 ※ 送信側と受信側でストリーム ID が一致しないと、映像の送受信はできません。
Passphrase	送信側で暗号化の設定がされている場合は、送信側と同じパスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズが一致しないと、映像の送受信はできません。

メモ

Web アプリを使って設定することもできます。
Web アプリを使用する場合は、あらかじめ V-80HD をインターネットに接続しておきます。

1. [VALUE] つまみで「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。
本体ディスプレイに 2 次元バーコード（URL）が表示されます。
2. パソコンまたはスマートフォンで、表示された URL を開く。
3. パソコンまたはスマートフォンで項目を設定して、[SUBMIT] ボタンを押す。
V-80HD に設定が反映されます。

9. 送信機器を SRT の待ち受け状態にする。

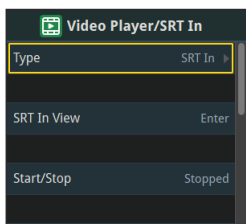
10. [VALUE] つまみで「Start/Stop」を選び、[VALUE] つまみを押す。

マルチビューに、送信側から送られてきた映像が表示されます。

Listener モードで接続する

Listener モードでは、V-80HD で SRT 接続の待ち受け設定をします。
送信機器から V-80HD へ SRT 接続し、V-80HD に映像を入力します。

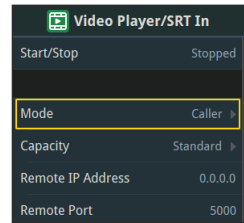
1. [MENU] ボタン → 「Video Player/SRT In」 → 「Type」を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. 「SRT In」を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

4. [VALUE] つまみで「Mode」を選び、[VALUE] つまみを押す。



5. 「Listener」を選び、[VALUE] つまみを押す。

6. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

7. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
Local Port	SRT 接続に使用するポート番号を設定します。
Latency	SRT の再送用バッファの長さ（遅延時間）を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。 必要に応じて設定してください。
Passphrase	送信側で暗号化の設定がされている場合は、送信側と同じパスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズが一致しない場合、映像の送受信はできません。

※ Listener モードの場合、ストリーム ID の設定は必要ありません。

メモ

Web アプリを使って設定することもできます。
Web アプリを使用する場合は、あらかじめ V-80HD をインターネットに接続しておきます。

1. [VALUE] つまみで「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。
本体ディスプレイに 2 次元バーコード（URL）が表示されます。
2. パソコンまたはスマートフォンで、表示された URL を開く。
3. パソコンまたはスマートフォンで項目を設定して、[SUBMIT] ボタンを押す。
V-80HD に設定が反映されます。

8. 送信機器の SRT モードを Caller モードに設定する。

※ 設定や操作方法については、送信機器の取扱説明書をご覧ください。

9. 手順 7 の設定をもとに、送信機器の Caller モードの設定をする。

※ 送信機器に設定する IP アドレスは、[MENU] ボタン → 「Network」 → 「Network Information」で確認します。

10. [VALUE] つまみで「Start/Stop」を選び、[VALUE] つまみを押す。

SRT 接続の待ち受け状態になります。

11. 送信機器で接続操作をする。

マルチビューに、送信側から送られてきた映像が表示されます。

SRT 接続を停止する

SRT 接続は、送信側と受信側のどちらからも停止することができます。
V-80HD から停止するときは、以下の操作をします。

1. [MENU] ボタン → [Video Player/SRT In] → [Start/Stop] を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 送信機器から接続を停止する場合は、送信機器の取扱説明書をご覧ください。

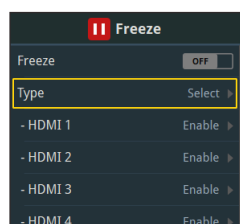
入力映像を静止する（フリーズ）

入力映像を一時的に静止します（フリーズ機能）。
映像を静止させた状態で、切り替え効果をかけることができます。

動作モードを設定する

フリーズには、入力映像をすべて静止する「All モード」と、指定した入力映像だけを静止する「Select モード」の 2 つの動作モードがあります。用途に合わせて動作モードを設定します。

1. [MENU] ボタン → [Freeze] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「All」または「Select」を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
All	入力されているすべての映像が静止します。
Select	指定した入力映像だけが静止します。

「Select」を選んだ場合

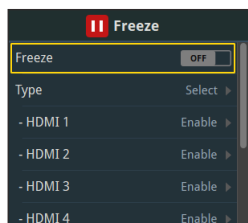
3. [VALUE] つまみで「HDMI 1」～「SDI 4」を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [VALUE] つまみで、「Enable」または「Disable」を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
Enable	入力映像が静止します。
Disable	入力映像は静止しません。

5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

入力映像を静止する

1. [MENU] ボタン → [Freeze] → [Freeze] を選び、[VALUE] つまみを押す。



フリーズ機能がオンになり、入力映像が静止します。

2. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

ASSIGNABLE PADS にフリーズ機能を割り当てて、オン／オフを切り替えることができます (P.97)。

工場出荷時は、BANK B のパッド [1] に、フリーズ機能が割り当てられています。

最終出力映像をフェード・イン／アウトする

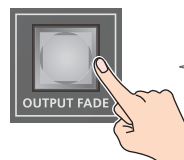
最終出力映像から黒画面へフェード・アウト、または黒画面から最終出力映像へフェード・インします。

映像出力したくない場面で、映像を黒画面にすることができます。

※ 工場出荷時の設定では、最終出力映像と音声と同時にフェード・イン／アウトします。

※ フェード・イン／アウトの効果が適用されるのは、最終出力のみです。

1. [OUTPUT FADE] ボタンを押す。



消灯: 通常の出力
点滅: フェード・イン／アウト中
点灯: フェード・アウト完了

最終出力映像から黒画面にフェード・アウトします。

完全にフェード・アウトすると、[OUTPUT FADE] ボタンが点灯します。

2. フェード・インさせるときは、もう一度 [OUTPUT FADE] ボタンを押す。

[OUTPUT FADE] ボタンが点滅し、最終出力が始まります。

完全にフェード・インすると、[OUTPUT FADE] ボタンが消灯します。

メモ

- 白画面や AUX バスの映像を使って、フェード・イン／アウトの効果を付けることもできます。

[MENU] ボタン → [System] → Output Fade Assign [Video Fade] で設定します。

- 音量を変えずに、映像だけをフェード・イン／アウトするには、[MENU] ボタン → [System] → Output Fade Assign [Audio Fade] を [OFF] に設定します。

- フェード・イン／アウトにかかる時間は、[MENU] ボタン → [System] → [Output Fade Time] で設定します。

映像合成の操作

スプリットで映像を合成する

画面を左右／上下に分割にして 2 つの映像を合成します。

映像の配置

左または上側：PGM/A バスの映像

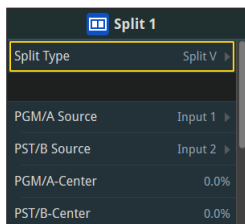
右または下側：PST/B バスの映像



画面レイアウトを設定する

[SPLIT 1] と [SPLIT 2] ボタンそれぞれに、画面レイアウトを設定することができます。

1. [MENU] ボタン → [Split] → [Split 1] または [Split 2] → [Split Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで [Split V] または [Split H] を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
Split V	映像の中央部を縦に切り出して合成します（左右分割）。
Split H	映像の中央部を横に切り出して合成します（上下分割）。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

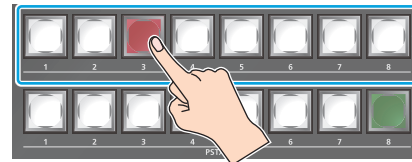
メモ

境界線の色や幅を変更することができます。

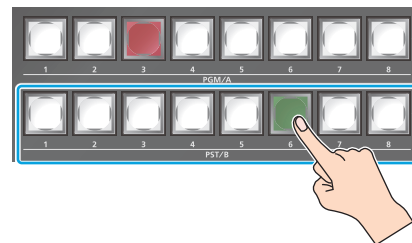
[MENU] ボタン → [Split] → [Split 1] または [Split 2] → [Border Color]、[Border Width] で設定します。

スプリットで合成する

1. PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタンを押して、上または左側に表示させたい映像を選ぶ。

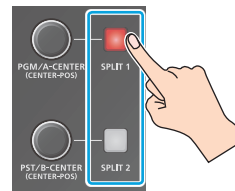


2. PST/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンを押して、下または右側に表示させたい映像を選ぶ。

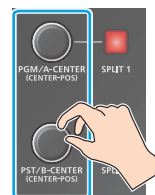


3. [SPLIT 1] または [SPLIT 2] ボタンを押して、スプリット合成をオン（点灯）にする。

手順 1 と 2 で選んだ映像が合成されます。



4. [PGM/A-CENTER] または [PST/B-CENTER] つまみで、映像や境界線の位置を調節する。



つまみ	説明
[PGM/A-CENTER]	左側／上側に配置された映像の水平／垂直方向の位置を調節します。 押しながら回す：境界線の位置を調節します。
[PST/B-CENTER]	右側／下側に配置された映像の水平／垂直方向の位置を調節します。 押しながら回す：境界線の位置を調節します。

5. スプリットをオフにするときは、もう一度 [SPLIT 1] または [SPLIT 2] ボタンを押す。

ピクチャーインピクチャー（PinP）で映像を合成する

背景映像の上に子画面の映像を合成します。PinP & KEY 1、2 を同時に使って、2 つの子画面を表示することができます。
ここでは、「PinP & KEY 1」を使って映像を合成する操作を説明します。「PinP & KEY 2」を使う場合も、同様に操作できます。

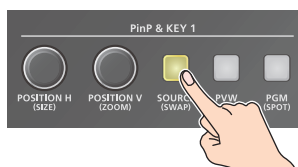
子画面 1 (PinP & KEY 1)

子画面 2 (PinP & KEY 2)

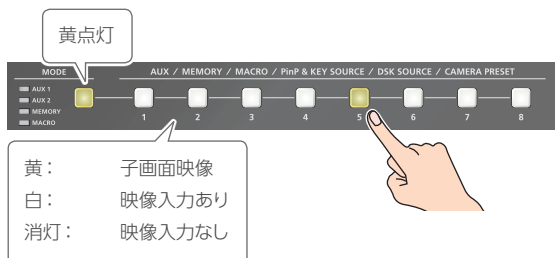


背景映像

1. PinP & KEY 1 [SOURCE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。

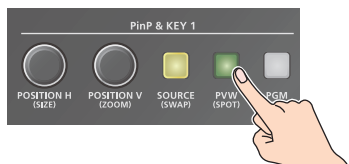


2. PinP & KEY SOURCE [1] ～ [8] ボタンを押して、子画面にしたい映像を選ぶ。



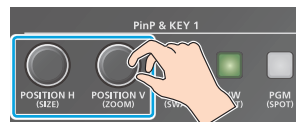
※ Input 1 ～ 8 に割り当てられていない映像を選ぶ場合は、[MENU] ボタン → [PinP&Key] → [PinP&Key 1] → [Source] で設定します。

3. PinP & KEY 1 [PVW] ボタンを押して、子画面のプレビュー出力をオン（点灯）にする。



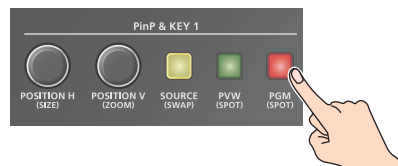
マルチビューの PVW セクションに子画面が表示され、子画面の位置や大きさを確認することができます。
この段階では、最終出力には反映されません。

4. PinP & KEY 1 [POSITION H] [POSITION V] つまみで、子画面を調整する。



つまみ	説明
[POSITION H]	子画面の水平方向の位置を調節します。 押しながら回す：子画面のサイズを調節します。
[POSITION V]	子画面の垂直方向の位置を調節します。 押しながら回す：子画面映像の拡大率を調節します。

5. PinP & KEY 1 [PGM] ボタンを押して、PinP 合成をオン（点灯）にする。



子画面が最終出力されます。

6. PinP 合成をオフにするときは、もう一度 PinP & KEY 1 [PGM] ボタンを押す。

映像切り替えに連動させて PinP 合成や DSK 合成をオン／オフする

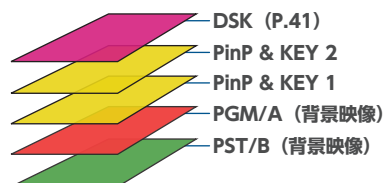
映像切り替えに連動させて、PinP 合成や DSK 合成 (P.41) をオン／オフすることができます。

[MENU] ボタン → [System] → Panel Operation [Effects Transition Sync] を「ON」にします。

手順 4 のあとに、[AUTO] [CUT] ボタンやビデオ・フェーダーで映像を切り替えます。PinP 合成がオンになり、プレビューされていた合成結果が最終出力されます。

メモ

- 出力映像のレイヤー構造は、下図のとおりです。



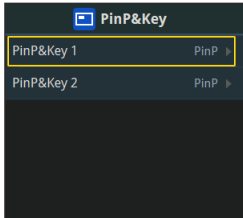
各レイヤーの [PVW] または [PGM] ボタンを長押しすると、ボタンを押している間、操作対象のレイヤーだけを表示することができます（スポット機能）。

- 子画面がフェード・イン／アウトする時間は、[MENU] ボタン → [PinP&Key] → [PinP&Key 1] または [PinP&Key 2] → [Time] で設定します。

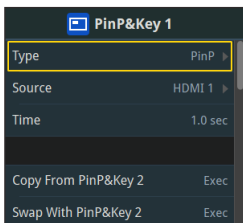
子画面の詳細を設定する

子画面のサイズや形、縁取り幅などを細かく設定することができます。

1. [MENU] ボタン → [PinP&Key] → [PinP&Key 1] または [PinP&Key 2] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



パラメーター	説明
Type	PinP 合成のタイプを設定します。
Source	子画面の映像ソースを設定します。
Time	映像の切り替え時間を設定します。
Window Settings	子画面を調節します。
Position H	水平方向の位置を調節します。
Position V	垂直方向の位置を調節します。
Size	サイズ（拡大／縮小）を調節します。
Cropping H	水平方向のサイズを調節します。
Cropping V	垂直方向のサイズを調節します。
Shape	子画面の形（長方形、丸、ひし形）を設定します。
Border Color	縁取りの色を設定します。
Border Width	縁取りの幅を調節します。
View Settings	子画面に表示される映像を調節します。
Position H	水平方向の位置を調節します。
Position V	垂直方向の位置を調節します。
Zoom	拡大率を調節します。

3. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

設定を入れ替える

他の PinP & KEY レイヤーと設定を入れ替えることで、子画面の重なり順を変更することができます。

- ① 交換元レイヤーの PinP & KEY [SOURCE] ボタンを長押しして、点灯させる。
- ② 点滅している PinP & KEY [SOURCE] ボタンを押して、交換先レイヤーを選ぶ。
レイヤーの設定が入れ替わります。

設定をコピーする

他の PinP & KEY レイヤーの設定をコピーすることができます。

PinP&Key 1、2 メニューの「Copy From PinP&Key 1」または「Copy From PinP&Key 2」でコピー元を選択 → [VALUE] つまみを押して実行します。

子画面をキー合成する

子画面の一部を透明にして、背景映像と合成します。

黒または白背景のルミナンス・キー、青または緑背景のクロマ・キーを使うことができます。

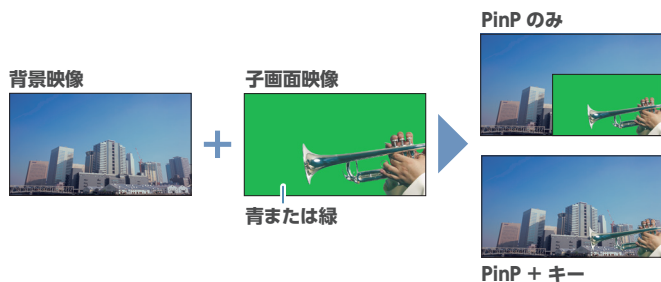
ルミナンス・キー

黒または白部分を透明にしてロゴや画像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。

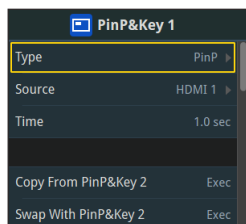


クロマ・キー

青または緑部分を透明にして映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



1. [MENU] ボタン → [PinP&Key] → [PinP&Key 1] または [PinP&Key 2] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、PinP 合成のタイプを選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
Luminance-White Key	PinP とルミナンス・キー（白）の組み合わせです。子画面映像の白い部分を透明にして、背景映像と合成します。
Luminance-Black Key	PinP とルミナンス・キー（黒）の組み合わせです。子画面映像の黒い部分を透明にして、背景映像と合成します。
Chroma Key	PinP とクロマ・キーの組み合わせです。子画面映像の青または緑部分を透明にして、背景映像と合成します。

3. メニュー項目を選び、効果のかかり具合を調整する。

※ メニュー項目の詳細については、「6 : PinP & Key」(P.118) をご覧ください。

4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

ダウンストリーム・キーヤー（DSK）で映像を合成する

スプリット（P.37）や PinP（P.38）で合成された映像に、さらにタイトルやテロップ、映像を合成することができます（DSK 合成）。V-80HD には、1 系統の DSK があり、DSK レイヤーは他のレイヤーの手前に置かれます（⇒ P.38 メモ欄）。

DSK モードについて

DSK 合成には、「セルフ・キー」「アルファ・キー」「エクスターナル・キー」の 3 つのモードがあります。DSK モードに応じて、以下の映像合成ができます。

セルフ・キー

ルミナンス・キー（P.42）

黒または白部分を透明にして文字や画像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



クロマ・キー（P.44）

青または緑部分を透明にして映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。素材から色を選んで、キー・カラーを設定することもできます。



アルファ・キー（P.46）

アルファ・チャンネル（透過度情報を持つ領域）を利用して静止画を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



エクスターナル・キー（P.47）

キー信号（切り抜く形状）とフィル映像（合成される映像）を別々に設定します。キー信号でフィル映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



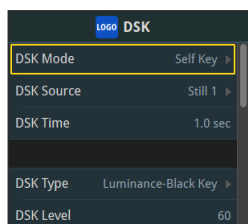
テロップや画像を合成する（ルミナンス・キー）

黒または白部分を透明にして文字や画像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



DSK モードや DSK タイプを設定する

1. [MENU] ボタン → 「DSK」 → 「Dsk Mode」 「Dsk Type」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



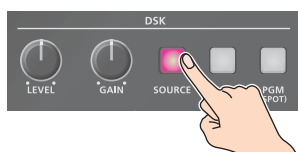
2. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
DSK Mode	Self Key
DSK Type	Luminance-White Key (明るさを基準にして、白い部分を透明にします。)
	Luminance-Black Key (明るさを基準にして、黒い部分を透明にします。)

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

DSK 合成する

1. DSK [SOURCE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。



2. DSK SOURCE [1] ～ [8] ボタンを押して、DSK 映像ソースを選ぶ。



3. DSK [PVW] ボタンを押して、DSK プレビュー出力をオン（点灯）にする。



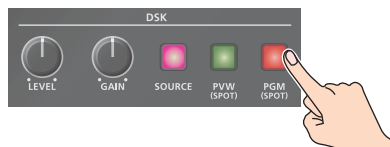
マルチビューの PVW セクションに合成結果が表示されます。
この段階では、最終出力には反映されません。

4. DSK [LEVEL] と [GAIN] つまみで、効果のかかり具合を調整する。



つまみ	説明
[LEVEL]	キーの抜け具合（透過度）を調節します。
[GAIN]	キーのエッジのぼかし具合（半透過領域）を調節します。

5. DSK [PGM] ボタンを押して、DSK 合成をオン（点灯）にする。



合成結果が最終出力されます。

6. DSK 合成をオフにするときは、もう一度 DSK [PGM] ボタンを押す。

メモ

DSK 映像ソースがフェード・イン／アウトする時間は、[MENU] ボタン → 「DSK」 → 「DSK Time」 で設定します。

映像切り替えに連動させて DSK 合成や PinP 合成をオン／オフする

映像切り替えに連動させて、DSK 合成や PinP 合成をオン／オフすることができます。

[MENU] ボタン → 「System」 → Panel Operation 「Effects Transition Sync」 を「ON」にします。

手順 4 のあとに、[AUTO] [CUT] ボタンで映像を切り替えます。
DSK 合成がオンになり、プレビューされていた合成結果が最終出力されます。

※ Input 1 ～ 8 に割り当てられていない映像を選ぶ場合は、[MENU] ボタン → 「DSK」 → 「DSK Source」 で設定します。

テロップや画像を加工する

上に重ねたテロップや画像を塗りつぶしたり、縁取りを付けたりすることができます。

[MENU] ボタン → 「DSK」 で、以下のメニュー項目を設定します。

パラメーター	説明
Fill Type	「Matte」 に設定すると、上に重ねたテロップや画像を「Matte Color」 で指定した色で塗りつぶします。
Matte Color	
Edge Type	縁取りの種類を設定します。
Edge Color	縁取りの色を設定します。
Edge Width	縁取りの幅を設定します。

※ クロマ・キー（P.44）と共通の設定です。

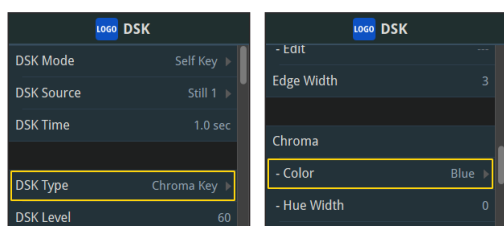
被写体と背景を合成する（クロマ・キー）

青または緑部分を透明にして映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。ブルー・バックやグリーン・バックで撮影した被写体を合成することができます。



DSK モードや DSK タイプを設定する

1. [MENU] ボタン → [DSK] → [Dsk Mode] [Dsk Type] [Color] を選び、[VALUE] つまみを押す。



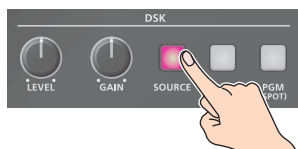
2. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
DSK Mode	Self Key
DSK Type	Chroma Key
Chroma	キー色を「Green」または「Blue」に設定します。
Color	任意の色をキー色に指定することもできます (P.45)。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

DSK 合成する

1. DSK [SOURCE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。



2. DSK SOURCE [1] ～ [8] ボタンを押して、DSK 映像ソースを選ぶ。



※ Input 1 ～ 8 に割り当てられていない映像を選ぶ場合は、[MENU] ボタン → [DSK] → [DSK Source] で設定します。

3. DSK [PVW] ボタンを押して、DSK プレビュー出力をオン（点灯）にする。



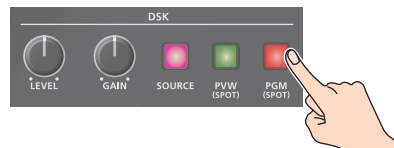
マルチビューの PVW セクションに合成結果が表示されます。
この段階では、最終出力には反映されません。

4. DSK [LEVEL] と [GAIN] つまみで、効果のかかり具合を調整する。



つまみ	説明
[LEVEL]	キーの抜け具合（透過度）を調節します。
[GAIN]	キーのエッジのぼかし具合（半透過領域）を調節します。

5. DSK [PGM] ボタンを押して、DSK 合成をオン（点灯）にする。



合成結果が最終出力されます。

6. DSK 合成をオフにするときは、もう一度 DSK 1 [PGM] ボタンを押す。

メモ

DSK 映像ソースがフェード・イン／アウトする時間は、[MENU] ボタン → [DSK] → [DSK Time] で設定します。

映像切り替えに連動させて DSK 合成や PinP 合成をオン／オフする

映像切り替えに連動させて、DSK 合成や PinP 合成をオン／オフすることができます。

[MENU] ボタン → [System] → Panel Operation [Effects Transition Sync] を「ON」にします。

手順 4 のあとに、[AUTO] [CUT] ボタンやビデオ・フェーダーで映像を切り替えます。DSK 合成がオンになり、プレビューされていた合成結果が最終出力されます。

キー色を微調整する

キー色を微調整することができます。

[MENU] ボタン → 「DSK」 で、以下のメニュー項目を設定します。

パラメーター	説明
Chroma	
Hue Width	色相の幅を調節します。
Hue Fine	色相の中心位置を調節します。
Saturation Width	彩度の幅を調節します。
Saturation Fine	彩度の中心位置を調節します。

※ パラメーターの詳細については、「7: DSK」(P.119) をご覧ください。

上に重ねた映像を加工する

上に重ねた映像を塗りつぶしたり、縁取りを付けたりすることができます。

[MENU] ボタン → 「DSK」 で、以下のメニュー項目を設定します。

パラメーター	説明
Fill Type	[Matte] に設定すると、上に重ねたテロップや画像を「Matte Color」で指定した色で塗りつぶします。
Matte Color	
Edge Type	縁取りの種類を設定します。
Edge Color	縁取りの色を設定します。
Edge Width	縁取りの幅を設定します。

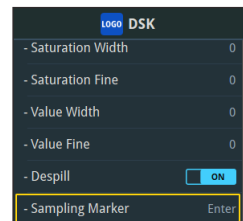
※ ルミナンス・キー (P.42) と共通の設定です。

任意の色をキー色に指定する (サンプリング・マーカー)

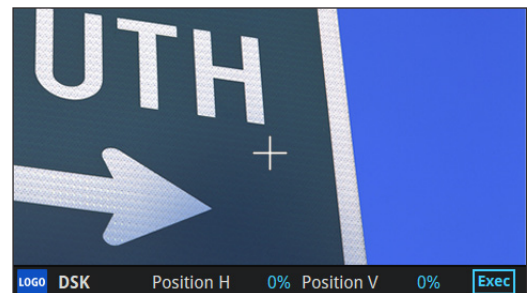
映像から透明にしたい色をサンプリング (検出) して、キー色を指定することができます (サンプリング・マーカー機能)。

緑や青以外の色をキー色に指定することもできます。

1. [MENU] ボタン → 「DSK」 → Chroma [Sampling Marker] を選び、[VALUE] つまみを押す。



キー色をサンプリング (検出) するためのサンプリング・マーカー (+) が、本体モニターに表示されます。

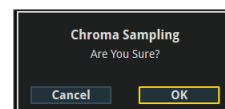


2. [VALUE] つまみで「Position H」または「Position V」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで、サンプリング・マーカーの位置を調整し、[VALUE] つまみを押す。

パラメーター	説明
Position H	水平方向の位置を調節します。
Position V	垂直方向の位置を調節します。

4. [VALUE] つまみで、「Exec」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
キー色のサンプリングが実行されます。
「Hue Width」、「Hue Fine」、「Saturation Width」、「Saturation Fine」の設定が自動的に調節されます。
6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

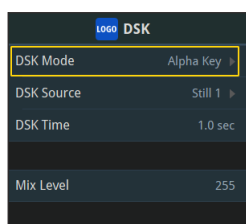
アルファ・チャンネル付き静止画を合成する

アルファ・チャンネル（透過度情報を持つ領域）を利用して静止画を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



DSK モードや合成する静止画を設定する

1. [MENU] ボタン → [DSK] → [Dsk Mode] [Dsk Source] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
DSK Mode	Alpha Key
DSK Source	アルファ・チャンネル付きの静止画を指定します。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

Input 1 ～ 8 に割り当てられている静止画は、DSK 映像ソースとしてボタン操作で選ぶこともできます。
DSK [SOURCE] ボタンを押してオン（点灯）してから、DSK SOURCE [1] ～ [8] ボタンで選びます。

DSK 合成する

1. DSK [SOURCE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。

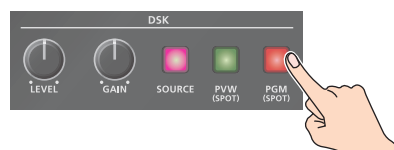


2. DSK [PVW] ボタンを押して、DSK プレビュー出力をオン（点灯）にする。



マルチビューの PVW セクションに合成結果が表示されます。
この段階では、最終出力には反映されません。

3. DSK [PGM] ボタンを押して、DSK 合成をオン（点灯）にする。



合成結果が最終出力されます。

4. DSK 合成をオフにするときは、もう一度 DSK [PGM] ボタンを押す。

メモ

静止画がフェード・イン／アウトする時間は、[MENU] ボタン → [DSK] → [DSK Time] で設定します。

映像切り替えに連動させて DSK 合成や PinP 合成をオン／オフする

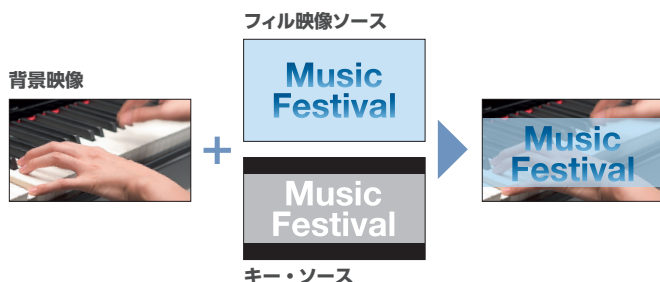
映像切り替えに連動させて、DSK 合成や PinP 合成をオン／オフすることができます。

[MENU] ボタン → [System] → Panel Operation [Effects Transition Sync] を「ON」にします。

手順 2 のあとに、[AUTO] [CUT] ボタンやビデオ・フェーダーで映像を切り替えます。DSK 合成がオンになり、プレビューされていた合成結果が最終出力されます。

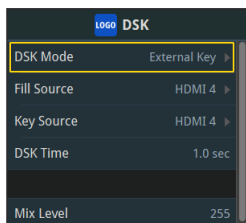
エクスターナル・キーを使う

キー信号（切り抜く形状）とフィル映像（合成される映像）を別々に設定します。キー信号でフィル映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。



DSK モードやキー／フィル映像を設定する

1. [MENU] ボタン → [DSK] → [DSK Mode] [Fill Source] [Key Source] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
DSK Mode	External Key
Fill Source	フィル映像のソースを指定します。
Key Source	キー信号として使用する映像を指定します。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

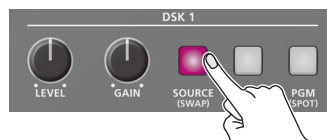
メモ

Input 1 ～ 8 に割り当てられている映像は、フィル映像のソースとしてボタン操作で選ぶこともできます。

DSK [SOURCE] ボタンを押してオン（点灯）してから、DSK SOURCE [1] ～ [8] ボタンで選びます。

DSK 合成する

1. DSK [SOURCE] ボタンを押して、オン（点灯）にする。

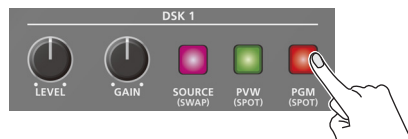


2. DSK [PVW] ボタンを押して、DSK プレビュー出力をオン（点灯）にする。



マルチビューの PVW セクションに合成結果が表示されます。
この段階では、最終出力には反映されません。

3. DSK [PGM] ボタンを押して、DSK 合成をオン（点灯）にする。



合成結果が最終出力されます。

4. DSK 合成をオフにするときは、もう一度 DSK [PGM] ボタンを押す。

メモ

DSK 映像ソースがフェード・イン／アウトする時間は、[MENU] ボタン → [DSK] → [DSK Time] で設定します。

映像切り替えに連動させて DSK 合成や PinP 合成をオン／オフする

映像切り替えに連動させて、DSK 合成や PinP 合成をオン／オフすることができます。

[MENU] ボタン → [System] → Panel Operation [Effects Transition Sync] を「ON」にします。

手順 2 のあとに、[AUTO] [CUT] ボタンやビデオ・フェーダーで映像を切り替えます。DSK 合成がオンになり、プレビューされていた合成結果が最終出力されます。

Graphics Presenter のコンテンツを合成する (Roland Fill+Key モード)

専用アプリ「Roland Graphics Presenter」を使うと、アプリ内のコンテンツ（タイトル、画像、動画）を、パソコンから HDMI ケーブル 1 本で V-80HD へ入力／合成することができます。本体側でキー合成のための調整は不要です。

「Roland Graphics Presenter」（以降、Graphics Presenter）は、ローランド・ホームページからダウンロードできます。

<https://proav.roland.com/jp/>

※ Graphics Presenter は、Windows 専用アプリです。

※ 詳しい操作方法については、「Graphics Presenter」（Web）の取扱説明書をご覧ください。

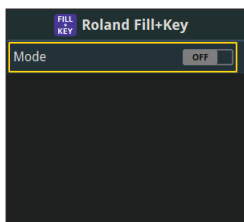
用意するもの

- V-80HD 本体
- 「Graphics Presenter」がインストールされた Windows パソコン
- HDMI ケーブル（1 本）



接続手順

1. [MENU] ボタン → 「Roland Fill+Key」を選び、[VALUE] つまみを押す。

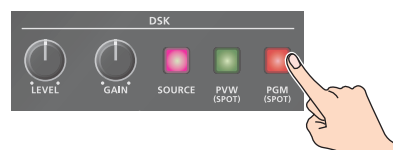


2. [VALUE] つまみで「Mode」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみを押して、ダイアログを閉じる。
Roland Fill+Key モードがオンになります。
4. パソコンと V-80HD の HDMI IN 1 端子を HDMI ケーブルで接続する。
5. パソコンで「Roland Graphics Presenter」を起動する。
6. 「Graphics Presenter」で [ON AIR] ボタンをクリックする。
[ON AIR] ボタンが赤く点灯し、V-80HD の HDMI In1 には真っ黒な映像が表示されます。

7. 「Graphics Presenter」の手順に従い、タイトル映像を出力する。

V-80HD の HDMI In 1 に、「Graphics Presenter」で出力した映像が表示されます。

8. DSK [PVW] または [PGM] ボタンを押して、オン（点灯）にする。



「Graphics Presenter」の映像が、V-80HD の出力映像に合成されます。

タイトル映像の操作方法については、「Graphics Presenter」の取扱説明書をご覧ください。

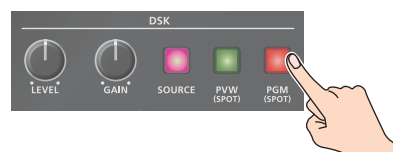
Roland Fill+Key モードをオフにする

Roland Fill+Key モードをオフにする場合は、必ず以下の手順でオフにしてください。

注意

手順とおりに操作しないと、意図しない映像が出力されることがあります。

1. DSK [PVW] または [PGM] ボタンを押して、オフ（消灯）にする。



2. [MENU] ボタン → 「Roland Fill+Key」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Mode」を選び、[VALUE] つまみを押す。
Roland Fill+Key モードがオフになります。

音声の操作

音声ソースを割り当てる

AUDIO MIXER の各つまみに、マイクの音声やライン入力、映像入力 (HDMI、SDI) などを割り当てることができます。

ここでは、AUDIO INPUT LEVEL [1] つまみに音源ソースを割り当てる手順を例にして説明します。

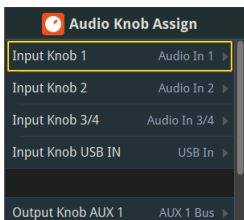
1. [SETUP] ボタンを押す。



セットアップ画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで「Input Knob 1」を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. [VALUE] つまみで、つまみに割り当てる音声ソースを選ぶ。



設定値	説明
Audio In 1、2	AUDIO IN 1、2 端子からの音声
Audio In 3/4	AUDIO IN 3/4 端子からの音声
USB In	USB STREAM 端子からの音声
Bluetooth In	Bluetooth In からの音声
Audio Player	オーディオ・プレーヤーからの音声
HDMI 1 ~ 4	HDMI IN 1 ~ 4 端子からの音声
SDI 1 ~ 4	SDI IN 1 ~ 4 端子からの音声
V.Player (*1)	ビデオ・プレーヤーからの音声
SRT In (*2)	SRT In からの音声

(*1) Type (P.137) が「Video Player」のとき

(*2) Type (P.137) が「SRT In」のとき

4. [SETUP] ボタンを押して、セットアップ画面を閉じる。

入力ゲイン（感度）を調節する

入力音声に適正なレベルになるように、AUDIO IN 1 または 2 の入力ゲインを調節します。

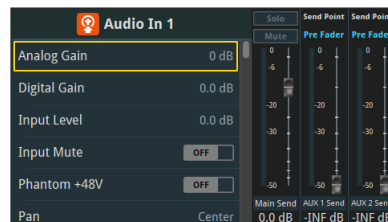
1. AUDIO INPUT LEVEL [1] または [2] つまみを「0dB」付近に合わせる。



2. [MAIN] つまみを「0dB」付近に合わせる。



3. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio In 1」 または 「Audio In 2」 → 「Analog Gain」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



4. [VALUE] つまみを反時計方向いっぱい回して、入力ゲインを最小（0dB）にする。

5. 実際に入力する音声を出しながら [VALUE] つまみを時計方向にゆっくり回して、入力ゲインを調節する。

最も大きな音量のときに、AUDIO INPUT LEVEL 1 または 2 の SIG/PEAK インジケータが赤点灯しない範囲で、入力ゲインをできるだけ上げます。



6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

ステレオ・リンク機能

AUDIO IN 1 と 2 をリンクさせて、ステレオ・チャンネルとして動作させることができます。

[MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] または [Audio In 2] → [Stereo Link] を [ON] にします。

※ ステレオ・リンクをオンにすると、AUDIO IN 1 の設定が、AUDIO IN 2 の設定に反映されます。

※ ステレオ・リンクがオンのときは、AUDIO INPUT LEVEL [2] つまみの操作が、AUDIO INPUT LEVEL [1] つまみの操作と同じ効果になります。

※ ファンタム電源がオンのときに、ステレオ・リンクのオン/オフを切り替えると、ファンタム電源は自動的にオフになります。

マイクの定位 (パン) 調整

音声の左右の位置を定位 (パン) といいます。2 本のマイクを使って演奏会の様子を配信するときなど、定位を左右に振ることで、音に広がりを持たせることができます。

[MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] または [Audio In 2] → [Pan] を調整します。

SIG/PEAK インジケータ表示

点灯色	状態
赤	音量が過大 (0dB 以上)
黄	適正な音量 (-20 ~ -1dB)
緑	音量が過小 (-50 ~ -21dB)

デジタル・ゲインの調節

すべての入力で「デジタル・ゲイン」を調節することができます。アナログ・ゲインはアナログ音声を調節し、デジタル・ゲインは、デジタル音声を調節します。

HDMI や SDI のデジタル音声入力では、大きなレベルの音声が入力された場合、エフェクト処理で歪みが発生することがあります。デジタル・ゲインを使うと、エフェクト処理に影響が出ないように、入力レベルを抑えることができます。

音量バランスを調節する

各入力の音量バランスと全体の音量を調節します。

1. [MAIN] つまみを [0dB] 付近に合わせる。



2. スピーカーやヘッドホンで音声を聴きながら各入力の音量バランスを調整する。

たとえば、司会者用のマイクなど、強調したい音声の音量は上げて、他の音声の音量は下げます。

音声の入力がないときや使わない音声は、音量を最小 (-INFdB) にします。

① [MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1, 2] [Audio In 3/4] [USB In] [Bluetooth In] [HDMI In 1 ~ 4] [SDI In 1 ~ 4] [Audio Player] [Video Player/SRT In] → [Input Level] を選び、[VALUE] つまみを押す。



② [VALUE] つまみで音量を調節し、[VALUE] つまみを押す。

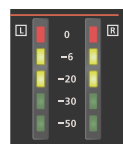
③ [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

AUDIO MIXER の各つまみに音声ソースを割り当てている場合は、AUDIO MIXER の各つまみで音量を調節することができます (P.97)。

3. [MAIN] つまみで、出力音量を調節する。

レベル・メーターが、黄点灯する程度が適正です。



点灯色	状態
赤	音量が過大 (0dB 以上)
黄	適正な音量 (-20 ~ -1dB)
緑	音量が過小 (-50 ~ -21dB)

※ AUX 1、AUX 2 の SIG/PEAK インジケータも同様に点灯します。

メモ

- 工場出荷時の設定では、[OUTPUT FADE] ボタンで、最終出力映像をフェード・イン／アウトすると、出力音声も同時にフェード・イン／アウトします (P.36)。
- USB 出力の音量調節**
USB 出力の音量は、個別に調節することができます。
[MENU] ボタン → 「Audio Output」 → 「USB Out」 で、USB 出力の音量を微調節します。
- 音量の調節に便利なテスト・トーンを出力することができます。
[MENU] ボタン → 「System」 → 「Test Tone」 で、出力するテスト・トーンを設定します。

表示内容	説明
All	すべての入出力
HDMI/SDI	HDMI IN 1～4 端子、SDI IN 1～4 端子からの音声
Audio In	AUDIO IN 1～3/4 端子、USB In、Bluetooth In、オーディオ・プレーヤー、ビデオ・プレーヤー、SRT Inからの音声
Audio Out	Main Bus、AUX 1～2 Bus、USB Out、Stream&Record の出力
Custom	カスタム設定。入出力を自由に割り当てできます。

レイアウト	説明
Default	標準的なレイアウト。
Long	フェーダーを長く表示したレイアウト。
Effect	エフェクトなどの他のパラメーターを表示したレイアウト。

ミキサー画面で音量バランスを調節する

本体ディスプレイのミキサー画面で、さまざまな音量の値を確認しながら調節することができます。

1. [AUDIO LEVEL] ボタンを押す。



オーディオ・レベル画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみで画面上部のタブを選び、[VALUE] つまみを押す。

画面上部のタブで、表示内容やレイアウトを切り替えることができます。



3. [VALUE] つまみで画面内のフェーダーを選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで音量を調整し、[VALUE] つまみを押す。

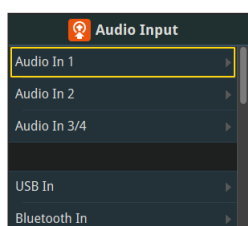
5. [AUDIO LEVEL] ボタンを押して、画面を閉じる。

入力音声にエフェクトをかける

入力音声にエフェクトをかけて、音質を調節します。使えるエフェクトは下表のとおりです。

入力音声	ハイパス・フィルター	エコー・キャンセラー	アンチ・フィードバック	ノイズ・ゲート	ディエッサー	コンプレッサー	イコライザー	ボイス・チェンジャー	ディレイ	リバーブ
Audio In 1、2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Audio In 3/4	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○
USB In	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○
Bluetooth In	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○
HDMI In、SDI In	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○
Audio Player、Video Player/SRT In	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○

1. [MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] ～ [Video Player/SRT In] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで使いたいエフェクトのメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ メニュー項目の詳細については、「9 : Audio Input」(P.121) をご覧ください。

3. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

● ハイパス・フィルター

不要な低域をカットします。

● エコー・キャンセラー (P.53)

Web 会議システムのスピーカーとマイクを利用した通話で、通話音声からエコー成分を除去します。

● アンチ・フィードバック (P.54)

ハウリングを抑制します。

● ノイズ・ゲート

設定した基準レベル以下の音声を除去します。残したい音声と取り除きたいノイズが分かれているときに有効で、無音時の「シャー」という音などを取り除くことができます。

● ディエッサー

歯擦音（サ行などの発声時に生じる耳障りな音）を軽減します。

● コンプレッサー

設定した基準レベルを超える音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声聞き取りやすくなります。

● イコライザー

4 バンド・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音量を調節します。

● ボイス・チェンジャー (P.54)

声の音程や音質を変えます。

● ディレイ (P.55)

音声を遅らせて出力します。

● リバーブ (P.55)

音声に残響を加えます。

エフェクト・プリセットを使う

V-80HDには、特定の環境に合わせて調節されたエフェクトが用意されています。これを「エフェクト・プリセット」と呼びます。

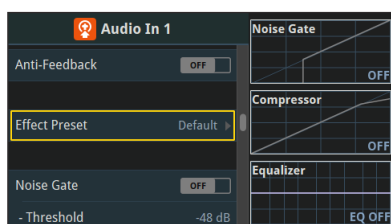
エフェクト・プリセットは、4種類のエフェクト（ハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー、ノイズ・ゲート）を組み合わせで作られています。

エフェクト・プリセットを選ぶだけで、目的に応じたエフェクトを簡単に適用することができます。

メモ

- プリセットを微調節したいときは、Audio Inputメニューでハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー、ノイズ・ゲートの設定を変更します。
- エフェクト・プリセットは、上書きできません。変更したプリセットの設定は、シーン・メモリーに保存してください（P.76）。
- エフェクト・プリセットを読み込むと、各エフェクトの設定は、プリセットの初期設定（工場出荷時の設定）に戻ります。

1. **[MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] ~ [Video Player/SRT In] → [Effect Preset] を選び、[VALUE] つまみを押す。**



2. **[VALUE] つまみでエフェクト・プリセットを選び、[VALUE] つまみを押す。**

設定値	説明
Default	ライン入力向け（初期値の設定）
Meeting	会議向け
Interview	インタビュー向け
Ambient Mic	環境音の集音向け
Windy Field	風が強いエリアでの環境音の集音向け

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

3. **[VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。**
エフェクト・プリセットが読み込まれます。
4. **必要に応じて各エフェクトの設定をする。**
※ パラメーターの詳細については、「9: Audio Input」（P.121）をご覧ください。
5. **[MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。**

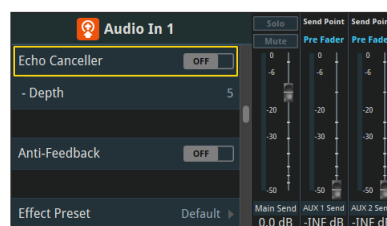
Web 会議システムのエコーを除去する（エコー・キャンセラー）

Web 会議システムのスピーカーとマイクを利用した通話では、スピーカーから聞こえる相手の声をマイクが拾ってしまうことで、再び相手の声が送り返されて、エコーが発生します。

エコー・キャンセラーを使うと、V-80HD に接続したマイクが拾った音声からエコー成分を除去して、自分の声だけを相手に送ることができます。

※ Audio In 1、2 からの入力音声にのみ対応しています。

1. **[MENU] ボタン → [Audio Input] → [Audio In 1] または [Audio In 2] → [Echo Canceller] を選び、[VALUE] つまみを押す。**



2. **[VALUE] つまみで [ON] を選び、[VALUE] つまみを押す。**
エコー・キャンセラーがオンになります。
3. **[VALUE] つまみで [Depth] を選び、[VALUE] つまみを押す。**
4. **[VALUE] つまみでエコー・キャンセラーの効き具合（1 ~ 10）を調節し、[VALUE] つまみを押す。**
最もエコーが軽減される値に設定します。
5. **[MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。**

メモ

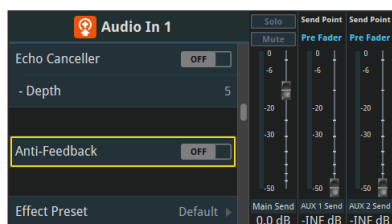
- エコー・キャンセラーは、約 20m² の部屋に対応しています。
- 自分の声が回り込んで聞こえてくるときは、相手側でエコー・キャンセラーの設定をしてもらう必要があります。
- エコー・キャンセラーは、USB In からの音声を基準にして動作します。

ハウリングを軽減する (アンチ・フィードバック)

マイクをスピーカーに近づけたときなどに生じるハウリングを軽減します。

※ Audio In 1、2 からの入力音声にのみ対応しています。

1. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio In 1」 または 「Audio In 2」 → 「Anti-Feedback」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。
アンチ・フィードバックがオンになります。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

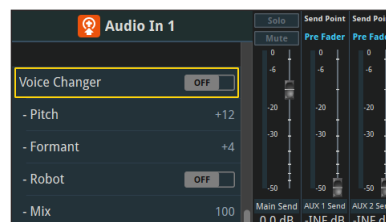
声のキャラクターを変える (ボイス・チェンジャー)

マイクから入力される声の高さや声質を変えます。

「女性から男性の声」や「男性から女性の声」、「ロボット声」などに交換することができます。

※ Audio In 1、2 からの入力音声にのみ対応しています。

1. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio In 1」 または 「Audio In 2」 → 「Voice Changer」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。
ボイス・チェンジャーがオンになります。
3. [VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

メニュー項目	説明
Pitch	声の高さ（ピッチ）を半音単位で調節します。「0」が元の声の高さです。
Formant	声の性質（フォルマント）を調節します。－（マイナス）にするほど男性的な声質に、＋（プラス）にするほど女性的な声質に変化します。「0」が元の声です。
Robot	「ON」にすると、声の高さを一定にして、無機質なロボットのような声にします。
Mix	普通の声（0）とエフェクトをかけた声（100）のバランスを調節します。

4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

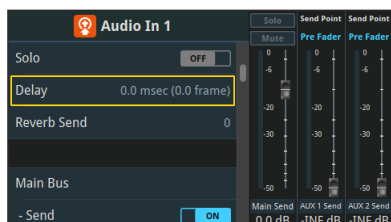
メモ

ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てて、ボイス・チェンジャーのオン／オフを切り替えることができます（P.97）。

映像と音声のズレを補正する（ディレイ）

映像と音声にズレが発生したときに、入力音声を遅らせることで、映像と音声の出力タイミングを調節します。

1. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio In 1」 ～ 「Video Player/SRT In」 → 「Delay」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



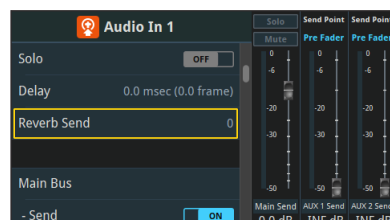
2. [VALUE] つまみで入力音声の遅延時間を調節し、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

リバーブをかける

音声に残響を加えます。

リバーブへの送り量の調節

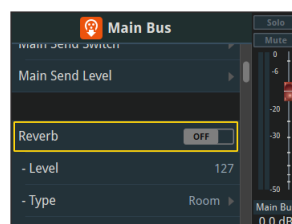
1. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio In 1」 ～ 「Video Player/SRT In」 → 「Reverb Send」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみでリバーブへの音声の送り量（リバーブのかかり具合）を調節する。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

リバーブからの戻り量の調節

1. [MENU] ボタン → 「Audio Output」 → 「Main Bus」 → 「Reverb」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。
リバーブがオンになります。
3. [VALUE] つまみでメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

メニュー項目	説明
Level	リバーブからの音声の戻り量（リターン・レベル）を設定します。全体にかかるリバーブの深さを調節します。
Type	リバーブ・タイプを選びます。 Room： 部屋の自然な残響が得られます。 Hall： コンサート・ホールなどで演奏しているような響きが得られます。
Size	空間の広さを設定します。数値が大きくなるほど、残響時間が長くなります。
Return Level	各バスへのリバーブの戻り量を調節します。

4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

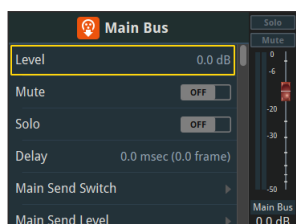
ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てて、リバーブのオン/オフを切り替えることができます (P.97)。

出力音声にエフェクトをかける

出力音声にエフェクトをかけて、音質を調節します。
使えるエフェクトは下表のとおりです。

音声バス	リバーブ	イコライザー	ディレイ	コンプレッサー／リミッター	グラフィック・イコライザー	アダプティブ NR	ラウドネス AGC
Main Bus	○	○	○	○	○	○	○
AUX Bus 1 AUX Bus 2	○	○	○	○	○	—	—

1. [MENU] ボタン → 「Audio Output」 → 「Main Bus」 「AUX 1 Bus」 「AUX 2 Bus」 を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで使いたいエフェクトのメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ メニュー項目の詳細については、「10: Audio Output」(P.129)をご覧ください。

3. [VALUE] つまみで設定値を調節し、[VALUE] つまみを押す。
4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

● イコライザー

4 バンド・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。

● ディレイ

音声を遅らせて出力します。出力を遅らせることで、出力先機器に入力される音声のタイミングのズレを補正します。

● コンプレッサー／リミッター

設定した基準レベルを超える音声を圧縮したり、設定した基準レベルを超えないように出力音量を制限したりします。

● グラフィック・イコライザー

15 の帯域に分割された周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。

● アダプティブ・ノイズ・リダクション (P.57)

入力音声を継続的にモニタリングしながら無音時のノイズを特定し、ノイズ成分のみを取り除きます

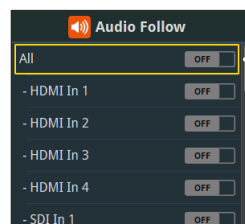
● ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール (P.58)

長期間の平均的なラウドネスを計測して、全体として適切な音量となるように調節します。

映像の切り替えに音声の出力を連動させる (オーディオ・フォロー)

映像の切り替えに連動させて、音声の出力を自動的に切り替えます (オーディオ・フォロー機能)。

1. [MENU] ボタン → 「Audio Follow」 を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで、オーディオ・フォローを使いたい入力映像を選ぶ。



「All」のオン／オフで、設定を一括変更できます。

3. [VALUE] つまみを押して、「ON」にする。

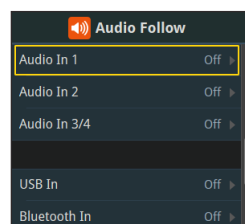
設定値	説明
ON	映像が選ばれたときのみ、音声を出力します。他の映像が選ばれたときは、自動的に消音します。
OFF	映像の選択に関係なく、常に音声を出力します。

4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

オーディオ・フォローの対象を追加する

Audio In や USB In、Bluetooth In の音声をオーディオ・フォローの対象にすることができます。

1. [MENU] ボタン → 「Audio Follow」 を選び、オーディオ・フォローの対象とする入力音声を選ぶ。



2. [VALUE] つまみで、オーディオ・フォローを使いたい入力映像を選ぶ。

設定値	説明
HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In、Input 1 ~ 16	各音声に対して、オーディオ・フォロー機能を使う入力映像を指定します。指定した入力映像が選ばれたときのみ、音声を出力します。
Off	映像の選択に関係なく、常に音声を出力します。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

PinP & Key や DSK のオン／オフ時に音声を連動させることができます (P.134)。

音声からノイズを除去する（アダプティブ・ノイズ・リダクション／ロー・フリケンシー・カット）

入力音声からノイズを取り除きます。「アダプティブ・ノイズ・リダクション」と「ロー・フリケンシー・カット」の2つのエフェクトが用意されています。

● アダプティブ・ノイズ・リダクション

入力音声を継続的にモニタリングしながら無音時のノイズを特定し、ノイズ成分のみを取り除きます。決まった周波数の音を取り除く従来のノイズ・リダクションと異なり、環境に応じてノイズの周波数を解析して除去するため、自然な音が得られます。

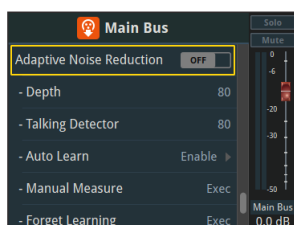
※「トーキング・ディテクター」の設定により、入力信号中の音声の有無を検出します。

● ロー・フリケンシー・カット

200Hz以下の帯域を4つに分割し、各帯域を継続的に解析しながら不要な低域をカットします。従来のロー・カットと異なり、低音域の音痩せが発生しません。

アダプティブ・ノイズ・リダクション

1. [MENU] ボタン → [Audio Output] → [Main Bus] → [Adaptive Noise Reduction] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. 「Auto Learn」を「Enable」にする。

自動的にノイズ成分を検出し、ノイズを除去します。

※ 手でノイズを検出したい場合は、Manual Measure を実行します。「OK」選ぶと自動で測定が始まります。測定が完了すると「Completed.」と表示されます。

4. 「Depth」を実行して、デプス（ノイズ除去のかかりの強さ）を設定します。

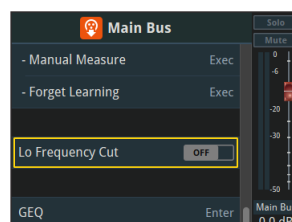
5. 周囲の環境のノイズ・レベルが高い場合は、「Talking Detector」で感度を調節する。

※ 値を大きくするとトーキング・ディテクターの感度が上がり、ノイズの大きな環境でも検出しやすくなります。

6. ノイズ除去された結果をリセットして元に戻したい場合は、「Forget Learning」を実行する。

ロー・フリケンシー・カット

1. [MENU] ボタン → [Audio Output] → [Main Bus] → [Lo Frequency Cut] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。

自動で聞き取りやすい音量に調節する (オート・マスタリング・エフェクト)

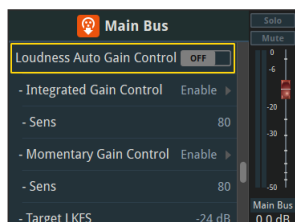
音の大きさを示す指標「ラウドネス」を元に、ブロードキャストなどに最適な音量を、自動的に調節します。ラウドネスの計測には、長期間と短期間があり、音量調節の対象となる期間が異なります。

● ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール (Loudness AGC)

長期間の平均的なラウドネスを計測して、全体として適切な音量となるように調節します。楽曲などのように、強弱を活かしたい音声に使用します。

ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール (Loudness Auto Gain Control)

1. [MENU] ボタン → [Audio Output] → [Main Bus] → [Loudness Auto Gain Control] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. 「Target LKFS」で、出力音声の目標レベルを設定する。
4. 「Sens」で、目標レベル (Target LKFS) に近づく速さを調節する。
5. 調節された値をリセットして元に戻したいときは、「Forget Learning」を実行する。

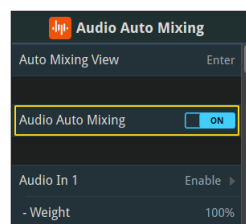
音量を自動的に制御する (オート・ミキシング)

通常はオペレーターが操作する音量調節を、自動的に制御します (オート・ミキシング機能)。

音量調節の操作を V-80HD に任せることができるため、専任のオペレーターがいない場面などで活用できます。特に会議やディスカッション、討論会など、複数のマイクが使われる場合に有効です。

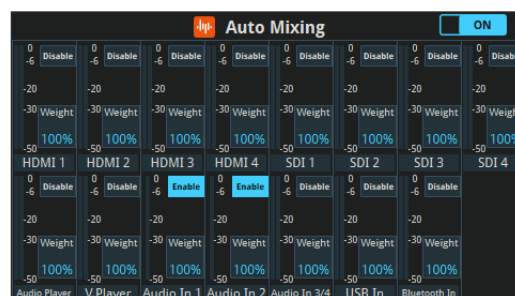
1. [MENU] ボタン → [Audio Auto Mixing] → [Audio Auto Mixing] を選び、[VALUE] つまみを押す。

Audio Auto Mixing メニューが表示されます。



2. [VALUE] つまみで「ON」を選び、[VALUE] つまみを押す。
オート・ミキシング機能がオンになります。
3. [VALUE] つまみで「Auto Mixing View」を選び、[VALUE] つまみを押す。

オート・ミキシングのセットアップ画面が表示されます。



4. オート・ミキシングの対象／非対象を設定する。

- ① [VALUE] つまみで、設定の対象とする音声を選び、[VALUE] つまみを押す。
- ② [VALUE] つまみでオート・ミキシングの対象 (Enable) / 非対象 (Disable) を設定し、[VALUE] つまみを押す。
BGM などオート・ミキシングが不要な音声では、「Disable」にします。

5. 音量配分の優先度を設定する。

司会者用のマイクだけ音量を大きくしたいなど、強調したい音声がある場合は、強調したい音声のウェイト・レベルは上げて、他の音声のウェイト・レベルは下げます。

- ① [VALUE] つまみで「Weight」を選び、[VALUE] つまみを押す。
- ② [VALUE] つまみで音量配分の優先度 (0 ~ 100%) を設定し、[VALUE] つまみを押す。
エアコンなどのノイズが気になる場合は、ウェイト・レベルを低めに設定します。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

特定の音声だけ消音する（ミュート）

一時的に特定の音声を消音します（ミュート機能）。

1. [AUDIO LEVEL] ボタンを押す。



オーディオ・レベル画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみで画面上部のタブを選び、[VALUE] つまみを押す。

画面上部のタブで、表示内容やレイアウトを切り替えることができます。

表示内容	説明
All	すべての入出力
HDMI/SDI	HDMI IN 1～4 端子、SDI IN 1～4 端子からの音声
Audio In	AUDIO IN 1～3/4 端子、USB In、Bluetooth In、オーディオ・プレーヤー、ビデオ・プレーヤー、SRT Inからの音声
Audio Out	Main Bus、AUX 1～2 Bus、USB Out、Stream&Record の出力
Custom	カスタム設定。入出力を自由に割り当てできます。

レイアウト	説明
Default	標準的なレイアウト。
Long	フェーダーを長く表示したレイアウト。
Effect	エフェクトなどの他のパラメーターを表示したレイアウト。

3. [VALUE] つまみで、ミュートしたいチャンネルのミュート・アイコン（) または「Mute」を選び、[VALUE] つまみを押す。

選んだチャンネルのミュート機能がオンになります。



メモ

各チャンネルのメニュー画面でも、ミュートすることができます。

特定の音声を確認する（ソロ）

一時的に特定の入力音声だけをヘッドホンでモニターします（ソロ機能）。

※ ソロ機能は、通常ヘッドホン出力に反映されます。ヘッドホン出力以外の出力端子でソロ機能を有効にしたい場合は、音声バスに「Monitor Bus」を選んでください。

1. [AUDIO LEVEL] ボタンを押す。



オーディオ・レベル画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみで画面上部のタブを選び、[VALUE] つまみを押す。

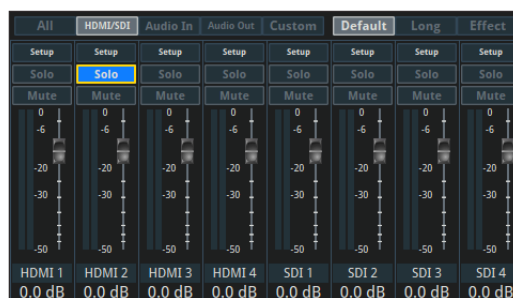
画面上部のタブで、表示内容やレイアウトを切り替えることができます。

表示内容	説明
All	すべての入出力
HDMI/SDI	HDMI IN 1 ～ 4 端子、SDI IN 1 ～ 4 端子からの音声
Audio In	AUDIO IN 1 ～ 3/4 端子、USB In、Bluetooth In、オーディオ・プレーヤー、ビデオ・プレーヤー、SRT Inからの音声
Audio Out	Main バス、AUX 1、2 バスの出力
Custom	カスタム設定。入出力を自由に割り当てできます。

レイアウト	説明
Default	標準的なレイアウト。
Long	フェーダーを長く表示したレイアウト。
Effect	エフェクトなどの他のパラメーターを表示したレイアウト。

3. [VALUE] つまみで、ソロにしたいチャンネルのソロ・アイコン（) または「Solo」を選び、[VALUE] つまみを押す。

選んだチャンネルのソロ機能がオンになります。



メモ

各チャンネルのメニュー画面でも、ソロにすることができます。

音楽ファイルを再生する（オーディオ・プレーヤー）

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを素材として本体に読み込み、ASSIGNABLE PADS の操作で再生することができます。
オーディオ・ファイルは、64 個まで本体に保存することができます。

ASSIGNABLE PADS の割り当て

オーディオ・プレーヤーを使うには、ASSIGNABLE PADS にオーディオ・プレーヤー機能を割り当てる必要があります。割り当てたボタンで再生／停止したり、セットアップ画面から操作をしたりできます。

工場出荷時は、BANK A のパッド [1] ～ [8] に、オーディオ・プレーヤー機能が割り当てられています。

1. 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」(P.97) に従って、任意のパッドの機能を「Audio Player」にする。

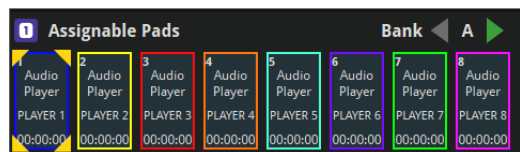
Category を「Audio Player」に設定しておきます。

オーディオ・ファイルを読み込む

あらかじめパソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードや USB メモリーのルート・ディレクトリに保存しておきます。

1. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押す。
2. [VALUE] つまみでオーディオ・プレーヤー機能を割り当てた ASSIGNABLE PADS を選び、[VALUE] つまみを押す。

オーディオ・プレーヤーのセットアップ画面が表示されます。



3. [VALUE] つまみで「Setup」を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [VALUE] つまみで「Import」を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージ内のオーディオ・ファイルが一覧表示されます。

Root	Rec	File List	SD	USB
BGM1.wav	2580KB	2018/11/26 20:45		
BGM2.wav	2939KB	2018/11/26 20:47		
Opening.wav	140KB	2018/11/27 15:46		
SE001.wav	743KB	2018/11/27 15:45		
SE002.wav	59KB	2018/11/26 20:49		

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

※ 画面左上の「Root」「Rec」を選ぶことで、読み込み元のフォルダーを切り替えることができます（SD のみ）。

5. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。
6. [VALUE] つまみで読み込みたいオーディオ・ファイル名を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 「Preview」を選んで [VALUE] つまみを押すと、オーディオ・ファイルの再生ができます。

7. ダイアログが表示されたら「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

インポートが実行され、ASSIGNABLE PADS にオーディオ・クリップとして配置されます。

対応ファイル

フォーマット	WAV (リニア PCM、48kHz、16 ビット、ステレオ／44.1kHz、16 ビット、ステレオ)
ファイル名	半角英数字、拡張子込み 64 文字以内。 ※ 拡張子 (.wav) は必ず付けてください。

本体に保存できるオーディオ・ファイルの長さの合計

44.1kHz/16bit	約 17 時間
48kHz/16bit	約 15 時間

※ ファイル容量で合計約 10GB

オーディオ・クリップを再生する

1. 「オーディオ・ファイルを読み込む」(P.61) の手順 1、2 に従って、オーディオ・プレーヤーのセットアップ画面を表示させる。
2. [VALUE] つまみで「Level」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Level」を「0dB」に設定する。
4. 再生したいオーディオ・クリップが配置された ASSIGNABLE PADS [1] ～ [8] を押す。



対応したオーディオ・クリップが再生されます。

5. オーディオ・クリップの音を出しながら [VALUE] つまみでオーディオ・クリップの音量を調節し、[VALUE] つまみを押す。

最も大きな音量のときに、SIG/PEAK インジケーターが赤点灯しない範囲で調節します。

※ 別のバンクで同じ番号のオーディオ・クリップは、同時に再生できません。
たとえば、BANK A のパッド [1] のオーディオ・クリップ再生中に BANK B のパッド [1] のオーディオ・クリップを再生すると、BANK A のパッド [1] のオーディオ・クリップは停止します。

メモ

- ASSIGNABLE PADS でセットアップ画面を表示させておけば、オーディオ・クリップの情報（クリップ名、再生時間、ループなど）を確認しながら再生することができます。
- AUDIO MIXER のつまみにオーディオ・プレーヤーの音声ソースを割り当てて、オーディオ・クリップの音量を調節することができます（P.49）。

オーディオ・クリップの設定をする

1. 「オーディオ・ファイルを読み込む」(P.61) の手順 1、2 に従って、オーディオ・プレーヤーのセットアップ画面を表示させる。
2. [VALUE] つまみで「Setup」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみでパラメーターを設定する。

パラメーター	説明
Import	オーディオ・ファイルをインポートします。
Name	オーディオ・クリップに名前を付けます。
Duration	オーディオ・クリップの長さを表示します。
Offset Time	オーディオ・クリップの再生開始位置を設定します。
Level	オーディオ・クリップの音量を設定します。
Fade In Time	フェード・イン時間を設定します。
Fade Out Time	フェード・アウト時間を設定します。
Repeat	「ON」に設定すると、オーディオ・クリップをループ再生します。
Pad Mode	オーディオ・クリップを再生するときの動作を設定します。
Pad Color	対応するパッドの、点灯色を設定します。
Playing Mode	オーディオ・クリップの再生方法を設定します。

※ パラメーターの詳細については、「19:Assignable Pads」(P.143)をご覧ください。

オーディオ・クリップ名を入力する

オーディオ・クリップに名前を付けることができます。

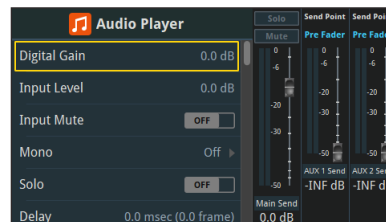
1. 「オーディオ・ファイルを読み込む」(P.61) の手順 1、2 に従って、オーディオ・プレーヤーのセットアップ画面を表示させる。
2. [VALUE] つまみで「Setup」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Name」を選び、[VALUE] つまみを押す。
入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。
4. クリップ名を入力する。
5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



オーディオ・プレーヤーのミキサー設定

1. [MENU] ボタン → 「Audio Input」 → 「Audio Player」を選び、[VALUE] つまみを押す。

オーディオ・プレーヤー画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみで音量などを調整し、[VALUE] つまみを押す。

AUX バスの音声を出力する

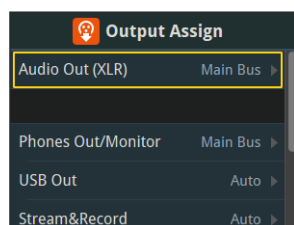
V-80HDには、「Main バス」と「AUX 1 バス」「AUX 2 バス」「Monitor バス」の4種類の音声バスがあります。出力端子ごとに任意のバスを割り当てることができます。

音声バス	説明
Main バス	すべての入力音声をミックスして出力します（メイン出力）。
AUX 1 バス AUX 2 バス	AUX バスに送られた入力音声だけをミックスして出力します。メイン出力とは異なる音声を出力することができます。 たとえば、ライブ会場では、すべての入力音声をミックスした音声を出力し、録音やストリーミング配信には、ある特定の入力音声だけ（AUX バス）を出力するといった使いかたができます。
Monitor バス	ヘッドホンと同じ音声を出力します。音量は「Monitor Level」で調節します。

AUX バスを割り当てる

1. [MENU] ボタン → 「Audio Output」 → 「Output Assign」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Output Assign 画面が表示されます。



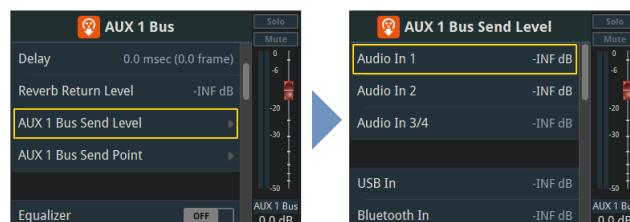
2. 各端子に割り当てるバスを設定する。

端子	選ぶことができるバス
Audio Out (XLR)	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus
Phones Out/Monitor	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus
USB Out Stream&Record Audio Record HDMI Out 1 ~ 3 SDI Out 1、2	Auto、Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus

AUX バスへ音声を送る

1. [MENU] ボタン → 「Audio Output」 → 「AUX 1 Bus」または「AUX 2 Bus」を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで「AUX 1、2 Bus Send Level」を選び、[VALUE] つまみを押す。

AUX 1、2 Bus Send Level メニューが表示されます。



3. [VALUE] つまみで入力音声を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ HDMI In と SDI In は、「Auto Send(Video)」を「Off」に設定すると、選ぶことができます。

「On」のときは、AUX 1、AUX 2 バスの映像選択に連動して、音声自動的に AUX 1、AUX 2 バスに送られます。

4. [VALUE] つまみで AUX 1、AUX 2 バスへの送り量を調節し、[VALUE] つまみを押す。

5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

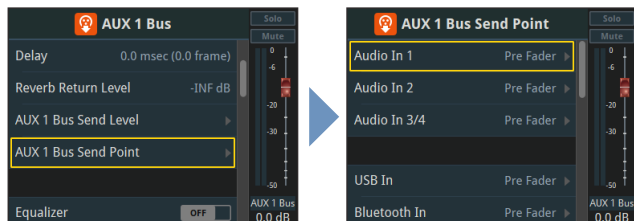
AUDIO MIXER のつまみに AUX バス出力の音量を割り当てて、AUX バス出力の音量を調節することができます。

AUX バスに送る音声を設定する

AUX バスに「元の音声」または「エフェクトがかかった音声」のどちらを送るかを選ぶことができます。

1. [MENU] ボタン → [Audio Output] → [AUX 1 Bus] または [AUX 2 Bus] を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで [AUX 1、2 Bus Send Point] を選び、[VALUE] つまみを押す。

AUX 1、2 Bus Send Point メニューが表示されます。



3. [VALUE] つまみで入力音声を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [VALUE] つまみで [Dry]、[Pre Fader]、または [Post Fader] を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。

5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

注意

Audio Knob Mode が「Catch」になっているときは、つまみの位置とレベルの値が一致していない場合は、レベルの値と一致するまで操作が無視されます。(P.157)

※ 操作が無視されている間は、[AUX 1] つまみ、[AUX 2] つまみの SIG/PEAK インジケータが点滅します。

入力音声を HDMI 映像や SDI 映像に乘せて出力する

HDMI OUT 端子と SDI OUT 端子は、8 チャンネルのエンベデッド・オーディオに対応しています。入力音声を HDMI 映像や SDI 映像に乘せて、出力することができます。

HDMI / SDI エンベデッド・オーディオと音声の割り当て

HDMI や SDI エンベデッド・オーディオのチャンネル 3 ～ 8 に、任意の入力音声を割り当てることができます。

※ HDMI OUT 1 ～ 3 端子または SDI OUT 1、2 端子で共通の設定です。

エンベデッド・オーディオ	音声
チャンネル 1	Output Assign で割り当てたパス (L) (P.63)
チャンネル 2	Output Assign で割り当てたパス (R) (P.63)
チャンネル 3/4	Audio In 1、2、Audio In 3/4
チャンネル 5/6	USB In、Bluetooth In、Audio Player
チャンネル 7/8	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Video Player/SRT In

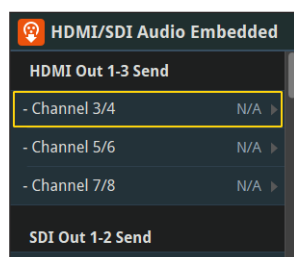
録画／録音時のバックアップとして ...

HDMI や SDI のエンベデッド・オーディオからは、デジタル音声を 1 チャンネルずつ取り出せるので、録画／録音後にチャンネル単位で音声を編集することができます。

多言語対応として ...

多言語のナレーションなどをエンベデッド・オーディオにして、HDMI 映像または SDI 映像に乘せておくと、あとから必要な言語のデジタル音声を取り出して使うことができます。

1. [MENU] ボタン → [Audio Output] → [HDMI/SDI Audio Embedded] を選び、[VALUE] つまみを押す。



音声を割り当てる

2. [VALUE] つまみで HDMI または SDI エンベデッド・オーディオ・チャンネルを選び、[VALUE] つまみを押す。

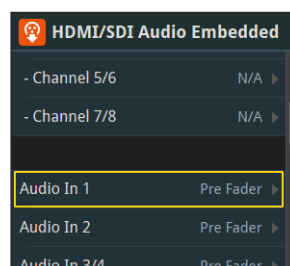


3. [VALUE] つまみでチャンネルに割り当てる入力音声をを選び、[VALUE] つまみを押す。

入力音声	説明
Audio In 1/2、3/4	AUDIO IN 1 ～ 3/4 端子からの音声
USB In	USB STREAM 端子からの音声
Bluetooth In	Bluetooth In の音声
Audio Player	オーディオ・プレーヤーからの音声
HDMI 1 ～ 4	HDMI IN 1 ～ 4 端子からの音声
SDI 1 ～ 4	SDI IN 1 ～ 4 端子からの音声
Video Player/SRT In	ビデオ・プレーヤー、SRT In からの音声

入力音声を設定する

4. [VALUE] つまみで入力音声をを選び、[VALUE] つまみを押す。



5. [VALUE] つまみで [Dry] [Pre Fader] または [Post Fader] を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
Off	音声を送りません。
Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

HDMI OUT 1 ～ 3 端子または SDI OUT 1、2 端子からは、エンベデッド・オーディオのチャンネル 3 ～ 8 を含む音声出力されません。

ストリーミング用の映像／音声をパソコンに出力する

パソコンと接続して、V-80HD でミックスした映像／音声を出力します。また、パソコンで再生した音声を入力することもできます。

インターネットに接続されたパソコンと配信用アプリをお使いいただくことで、インターネット・ライブ配信が可能になります。

V-80HD からの映像／音声をパソコンで正しく視聴するには、USB ビデオ・クラスと USB オーディオ・クラスに対応したアプリをパソコンにインストールする必要があります。

※ 最新の動作条件については、ローランド・ホームページ (<https://proav.roland.com/jp/>) をご覧ください。

パソコンに映像／音声を出力する

1. V-80HD の USB STREAM 端子とパソコンの USB 3.0 端子を USB 3.0 ケーブルで接続する。

2. V-80HD の電源を入れる。

3. パソコンを起動する。

パソコンとの通信が確立すると、V-80HD は、パソコンから USB ビデオ・デバイス／USB オーディオ・デバイスとして認識されます。V-80HD を初めてパソコンに接続したとき、自動的に OS 標準のドライバがインストールされます。

4. V-80HD を操作し、パソコンに出力する映像／音声を準備する。

5. パソコンで V-80HD からの入力を確認する。

USB ビデオ・クラス／オーディオ・クラスに対応したアプリを起動し、V-80HD からの映像／音声入力を確認します。

メモ

映像が乱れるなど動作が安定しないときは

[MENU] ボタン → [Video Output] → [USB Out] → [Connection Reset] を実行して、パソコンと V-80HD を再接続してみてください。

映像フォーマットについて

USB 出力の映像フォーマットや圧縮方式は、出力先のライブ配信用アプリなどで変更することができます。

以下の映像フォーマットに対応しています。

USB OUT の フレーム・レート	映像フォーマット		
59.94Hz	1080/59.94p	720/59.94p	640 × 480/59.94p
60Hz	1080/60p	720/60p	640 × 480/60p
29.97Hz	1080/29.97p	720/29.97p	640 × 480/29.97p
30Hz	1080/30p	720/30p	640 × 480/30p
50Hz	1080/50p	720/50p	640 × 480/50p
25Hz	1080/25p	720/25p	640 × 480/25p
23.98Hz	1080/23.98p	720/23.98p	640 × 480/23.98p
24Hz	1080/24p	720/24p	640 × 480/24p

※ 非圧縮 (YUY2) と圧縮 (Motion JPEG) に対応しています。

ループバック機能を使う

パソコンからの音声を USB 経由で V-80HD に入力し、他の音声とミックスして、再びパソコンに戻すことができます (ループバック機能)。

パソコンで再生した音楽にナレーションを付けてライブ配信したり、パソコンのアプリで録音したりすることができます。

パソコンで配信する

アプリ [Roland Live Streamer] を使って、V-80HD から USB 出力された映像／音声をパソコンで配信することができます。

詳しい操作方法については、「Roland Live Streamer」の取扱説明書をご覧ください。



「Roland Live Streamer」は、ローランド・ホームページからダウンロードすることができます。

<https://proav.roland.com/jp/>

※ 圧縮 (Motion JPEG) には対応していません。

パソコンで録画する

アプリ [Roland Live Recorder] を使って、V-80HD から USB 出力された映像／音声をパソコンで録画することができます。

詳しい操作方法については、「Roland Live Recorder」の取扱説明書をご覧ください。



「Roland Live Recorder」は、ローランド・ホームページからダウンロードすることができます。

<https://proav.roland.com/jp/>

※ 圧縮 (Motion JPEG) には対応していません。

直接配信／録画をする

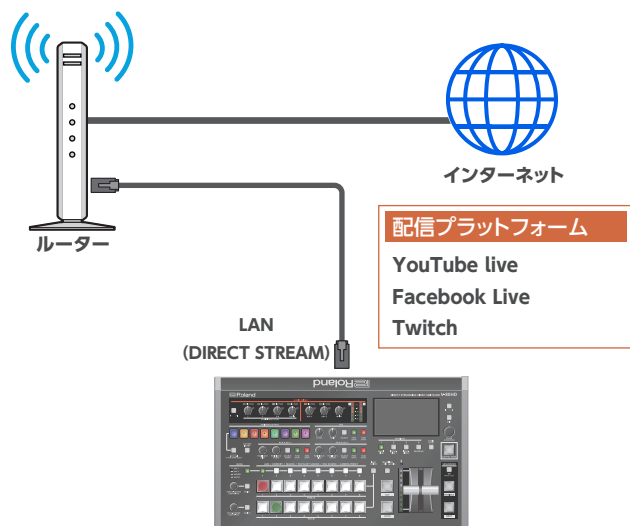
V-80HD では、DIRECT STREAM 端子からの RTMP、RTMPS、SRT の配信と、SD カードへの動画と音声の録画／録音機能をサポートしています。RTMP、RTMPS 配信では、YouTube Live、Facebook Live、Twitch 向けの配信設定が簡単にできる他、カスタム設定により、その他の配信プラットフォームにも配信することができます。

また、映像伝送規格の SRT にも対応しており、ネットワークで接続された遠隔の複数の SRT 機器に対し映像を送信することができます。

※ V-80HD では SRT の映像入力にも対応しています。詳しくは「[SRT 映像を入力する] (P.33) をご覧ください。

※ 配信サービスによっては、配信可能なアカウントに条件を設けている場合があります。詳しくは各配信サービスのホームページでご確認ください。

必要なネットワーク環境



DNS サーバーの設定を含むインターネット接続

- インターネットにアクセスするための、IP アドレス／サブネット・マスク／デフォルト・ゲートウェイの設定が必要です。
- 配信サービスのサーバーにアクセスするために、サーバーのドメイン名と IP アドレスを変換する DNS サーバー（Domain Name System Server）への接続が必要です。

※ 上記設定は、通常 DHCP サーバーから取得され、割り当てられます。

継続的な TCP 通信

ライブ配信は、TCP を利用して RTMP または RTMPS プロトコルで送信されるため、遮断と制限のない、継続的な端末間通信が必要になります。

インターネット上のサーバーへ HTTPS 接続

Web アプリで配信の設定をするときは、インターネット上のサーバーへ HTTPS 接続する必要があります。

ライブ配信時の注意

インターネット回線の速度に応じた Video Bitrate (P.138) を設定してください。

[MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Target Bitrate] → [Video]

Video Bitrate は、映像を圧縮（エンコード）するときのターゲット・ビットレートです。

複雑な映像などの場合は、設定値より 1.5 倍程度まで高いビットレートで配信されることがあります。

配信をスタートする前に、インターネット回線の上り方向のスピードを計測して、Video Bitrate の値の倍程度の帯域が確保できているかを確認しておくことをおすすめします。

配信・録音・録画のスタート／ストップ

V-80HD では、「配信」「録音」「録画」を同時にスタート／ストップします。個別にスタート／ストップさせることはできません。

※ 「配信」「録音」「録画」をするかどうかは、個別に設定することができます。

配信・録音・録画のオン／オフ

メモ

ASSIGNABLE PADS に配信／録画機能を割り当てているときは、セットアップ画面から設定することができます。

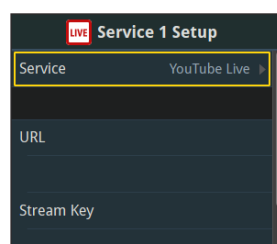
工場出荷時は、BANK B のパッド [5] に、配信／録画のセットアップ画面の機能が割り当てられています。

注意

- 配信・録画フォーマット、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力で扱うフォーマットのいずれかが 1080/30p を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能を同時に使用することはできません。
- 配信・録画ビットレート設定と、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力のビットレートの合計が 20,000kbps を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能を同時に使用することはできません。

配信のオン／オフ

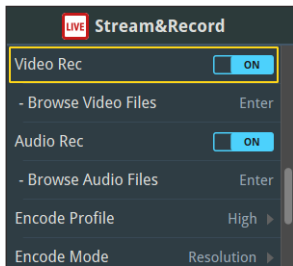
- [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。
- [RTMP] を選び、[VALUE] つまみを押す。
- [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
- [VALUE] つまみで [Stream&Record] → [Service 1 Setup] または [Service 2 Setup] を選び、[VALUE] つまみを押す。
- [VALUE] つまみで [Service] を選び、[VALUE] つまみを押す。
- [VALUE] つまみで配信するプラットフォームを選び、[VALUE] つまみを押す。



配信しないときは、「Off」を選びます。

録画／録音のオン／オフ

1. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Video Rec] または [Audio Rec] → オン／オフを選ぶ。



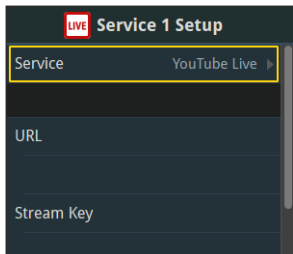
YouTube Live で配信する

準備

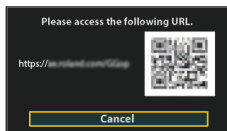
- 事前に Google アカウントを作成しておいてください。
- V-80HD をネットワーク機器に接続して、インターネットに接続できる状態にしてください。
- 録音／録画をするときは、「Audio Rec」と「Video Rec」をそれぞれ「ON」に設定してください (P.68)。

本体の操作

1. 配信するプラットフォームに「YouTube Live」を選ぶ (P.67)。



2. サービスのセットアップ画面 (P.67) で「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。
Web アプリの短縮 URL と QR コードが表示されます。



パソコン／スマートフォンの操作

3. パソコンやスマートフォンのウェブ・ブラウザで、表示された URL のページを開く。
4. Google アカウントを選ぶ。
5. 以下の項目を設定する。

項目	説明
Title	配信タイトルを入力します。
Description	YouTube Live に表示する説明文を入力します。
Select privacy scope	配信を公開する範囲を選びます。
	Public 誰でも検索と視聴が可能
	Unlisted リンクを知っている人が視聴可能
Select latency Preference	レイテンシー設定を選びます。
	Normal 通常の遅延
	Low 低遅延
	UltraLow 超低遅延

6. [CREATE BROADCAST AND GET STREAM KEY] をクリックする。

7. [SEND TO DEVICE] をクリックする。

送信が完了すると、「Success」とメッセージが表示されます。
V-80HD に「URL」と「Stream Key」が反映されます。

注意

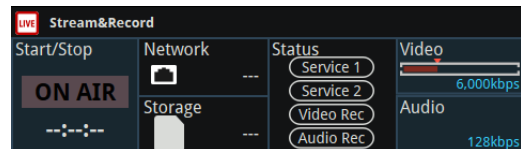
「URL」と「Stream Key」が反映されるまでは、QR コードの画面を閉じないでください。

8. [OK] をクリックする。
9. ページを閉じる。

本体の操作

10. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Stream&Record View] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に、「配信」「録音」「録画」のスタート／ストップに関連するパラメーターが表示されます。



11. [VALUE] つまみで「ON AIR」を選び、[VALUE] つまみを押す。
「Are you sure you want to start streaming?」と、メッセージが表示されます。
12. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
配信がスタートします。
録音／録画をオンにしているときは、配信のスタートと同時に録音／録画もスタートします。
13. 配信を終了するときは、もう一度「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
「Are you sure you want to stop streaming?」と、メッセージが表示されます。

14. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信が終了します。

注意

- 取得したストリーム・キーには有効期限があるため、配信する前にストリーム・キーの取得が必要になります。
- ストリーム・キー取得時には「SELECT YOUR BROADCAST」で、スケジュール設定済みのライブ配信を選ぶことができます。

メモ

ASSIGNABLE PADS に配信のスタート/ストップを割り当てることもできます (P.97)。

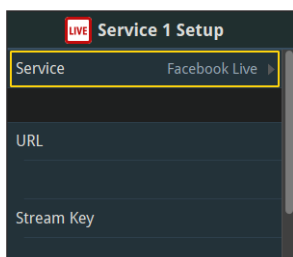
Facebook Live で配信する

準備

- 事前に Facebook アカウントを作成しておいてください。
- V-80HD をネットワーク機器に接続して、インターネットに接続できる状態にしてください。
- 録音/録画をするときは、「Audio Rec」と「Video Rec」をそれぞれ「ON」に設定してください (P.68)。

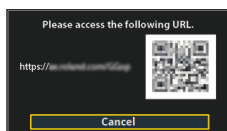
本体の操作

1. 配信するプラットフォームに「Facebook Live」を選ぶ (P.67)。



2. サービスのセットアップ画面 (P.67) で「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Web アプリの短縮 URL と QR コードが表示されます。



パソコン/スマートフォンの操作

3. パソコンやスマートフォンのウェブ・ブラウザで、表示された URL のページを開く。

4. Facebook にログインする。

5. 以下の項目を設定する。

項目	説明
Title	配信タイトルを入力します。
Description	Facebook Live に表示する説明文を入力します。

項目	説明
Select destination for live-streaming	配信先を選びます。
	Timeline 個人のタイムラインに配信します。
Select privacy scope	Page Facebook ページに配信します。
	配信を公開する範囲を選びます。
	SELF 本人のみ視聴可能
ALL FRIENDS	友達のみ視聴可能
	EVERYONE 誰でも視聴可能

6. [SUBMIT TO DEVICE!] をクリックする。

送信が完了すると、「Success」とメッセージが表示されます。

V-80HD に「URL」と「Stream Key」が反映されます。

注意

「URL」と「Stream Key」が反映されるまでは、QR コードの画面を閉じないでください。

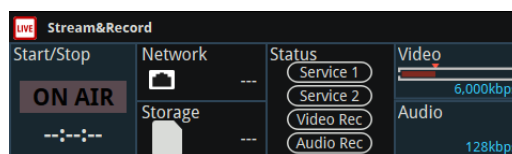
7. [OK] をクリックする。

8. ページを閉じる。

本体の操作

9. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Stream&Record View] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に、「配信」「録音」「録画」のスタート/ストップに関連するパラメーターが表示されます。



10. [VALUE] つまみで「ON AIR」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to start streaming?」と、メッセージが表示されます。

11. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信がスタートします。

録音/録画をオンにしているときは、配信のスタートと同時に録音/録画もスタートします。

12. 配信を終了するときは、もう一度「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to stop streaming?」と、メッセージが表示されます。

13. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信が終了します。

注意

Facebook Live のストリーム・キーには有効期限があるため、配信する前にストリーム・キーの取得が必要になります。

メモ

ASSIGNABLE PADS に配信のスタート/ストップを割り当てることもできます (P.97)。

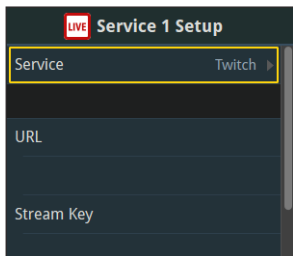
Twitch で配信する

準備

- 事前に Twitch アカウントを作成しておいてください。
- V-80HD をネットワーク機器に接続して、インターネットに接続できる状態にしてください。
- 録音／録画をするときは、「Audio Rec」と「Video Rec」をそれぞれ「ON」に設定してください (P.68)。

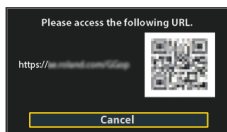
本体の操作

1. 配信するプラットフォームに「Twitch」を選ぶ (P.67)。



2. サービスのセットアップ画面 (P.67) で「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Web アプリの短縮 URL と QR コードが表示されます。



パソコン／スマートフォンの操作

3. パソコンやスマートフォンのウェブ・ブラウザで、表示された URL のページを開く。

4. Twitch にログインする。

5. 「Select ingest server location」で、接続サーバーを選ぶ。

より安定した通信環境で配信できるように、お住まいに近い地域のサーバーを選びます。

※ どのサーバーを選んでも、配信はできます。

6. [SUBMIT TO DEVICE!] をクリックする。

送信が完了すると、「Success」とメッセージが表示されます。

V-80HD に「URL」と「Stream Key」が反映されます。

注意

「URL」と「Stream Key」が反映されるまでは、QR コードの画面を閉じないでください。

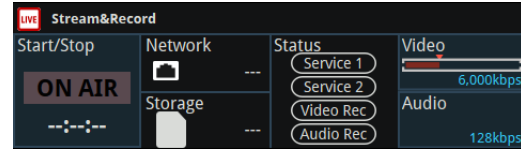
7. [OK] をクリックする。

8. ページを閉じる。

本体の操作

9. [MENU] ボタン→[Stream&Record]→[Stream&Record View] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に、「配信」「録音」「録画」のスタート／ストップに関連するパラメーターが表示されます。



10. [VALUE] つまみで「ON AIR」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to start streaming?」と、メッセージが表示されます。

11. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信がスタートします。

録音／録画をオンにしているときは、配信のスタートと同時に録音／録画もスタートします。

12. 配信を終了するときは、もう一度「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to stop streaming?」と、メッセージが表示されます。

13. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信が終了します。

メモ

ASSIGNABLE PADS に配信のスタート／ストップを割り当てることができます (P.97)。

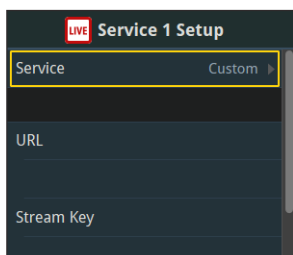
カスタム設定で配信する

準備

- V-80HD をネットワーク機器に接続して、インターネットに接続できる状態にしてください。
- 録音／録画をするときは、「Audio Rec」と「Video Rec」をそれぞれ「ON」に設定してください（P.68）。

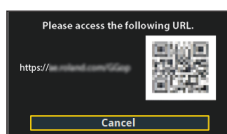
本体の操作

1. 配信するプラットフォームに「Custom」を選ぶ（P.67）。



2. サービスのセットアップ画面（P.67）で「Use Web Application」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Web アプリの短縮 URL と QR コードが表示されます。



パソコン／スマートフォンの操作

3. パソコンやスマートフォンのウェブ・ブラウザで、表示された URL のページを開く。

4. [RTMP URL] と [Stream Key] を入力する。

メモ

「RTMP URL」と「Stream Key」は、使用する配信プラットフォームの WEB ページなどで確認することができます。

5. [SUBMIT!] をクリックする。

送信が完了すると、「Success!」とメッセージが表示されます。

V-80HD に「URL」と「Stream Key」が反映されます。

注意

「URL」と「Stream Key」が反映されるまでは、QR コードの画面を閉じないでください。

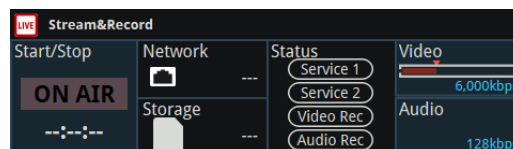
6. [OK] をクリックする。

7. ページを閉じる。

本体の操作

8. [MENU] ボタン→[Stream&Record]→[Stream&Record View] を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面に、「配信」「録音」「録画」のスタート／ストップに関連するパラメーターが表示されます。



9. [VALUE] つまみで「ON AIR」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to start streaming?」と、メッセージが表示されます。

10. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

配信がスタートします。

録音／録画をオンにしているときは、配信のスタートと同時に録音／録画もスタートします。

11. 配信を終了するときは、もう一度「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

「Are you sure you want to stop streaming?」と、メッセージが表示されます。

12. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

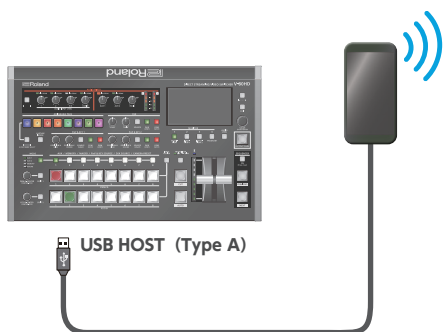
配信が終了します。

メモ

ASSIGNABLE PADS に配信のスタート／ストップを割り当てることもできます（P.97）。

テザリング

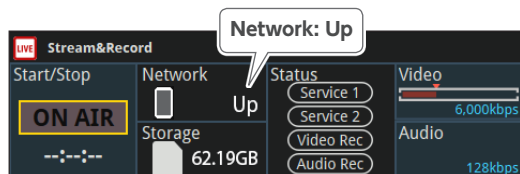
スマートフォンを接続して、テザリングをします。



iPhone の場合

1. 市販の USB 2.0 ケーブルで、iPhone を V-80HD の USB HOST 端子に接続する。
2. iPhone で「設定」→「インターネット共有」を選び、「ほかの人の接続を許可」をオンにする。
3. 「このコンピューターを信頼しますか?」とメッセージが表示されたら、「信頼」をタップする。
4. 「このコンピューターを信頼するにはデバイスのパスコードを入力」とメッセージが表示されたら、パスコードを入力する。
5. [MENU] ボタン → 「Network」 → 「Priority」を選び、[VALUE] つまみを押す。
6. [VALUE] つまみで「Tethering」を選び、[VALUE] つまみを押す。
7. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
8. [VALUE] つまみで「Start Tethering」を選び、[VALUE] つまみを押す。
9. [MENU] ボタン → 「Stream&Record」 → 「Stream&Record View」を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面の Network 表示が、「Network: ---」から「Network: Up」に変わったら、iPhone のモバイル回線を利用できます。



10. テザリングをストップさせるときは、手順 8 の「Start Tethering」をもう一度選び、[VALUE] つまみを押す。

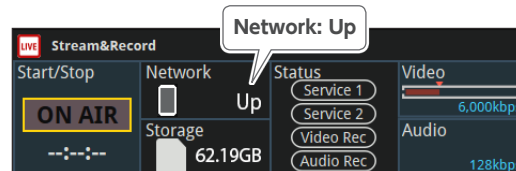
Android 機器の場合

注意

スマートフォンの機種によっては、操作方法が異なる場合があります。お使いになる機器の取扱説明書で確認してください。

1. USB ケーブルで、スマートフォンを V-80HD の USB HOST 端子に接続する。
スマートフォンの画面上部に通知が表示されます。
2. スマートフォンで、「設定」→「ネットワークとインターネット」→「アクセスポイントとテザリング」を選ぶ。
3. 「USB テザリング」をオンにする。
4. [MENU] ボタン → 「Network」 → 「Priority」を選び、[VALUE] つまみを押す。
5. [VALUE] つまみで「Tethering」を選び、[VALUE] つまみを押す。
6. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
7. [VALUE] つまみで「Start Tethering」を選び、[VALUE] つまみを押す。
8. [MENU] ボタン → 「Stream&Record」 → 「Stream&Record View」を選び、[VALUE] つまみを押す。

画面の Network 表示が、「Network: ---」から「Network: Up」に変わったら、iPhone のモバイル回線を利用できます。



9. テザリングをストップさせるときは、手順 7 の「Start Tethering」をもう一度選び、[VALUE] つまみを押す。

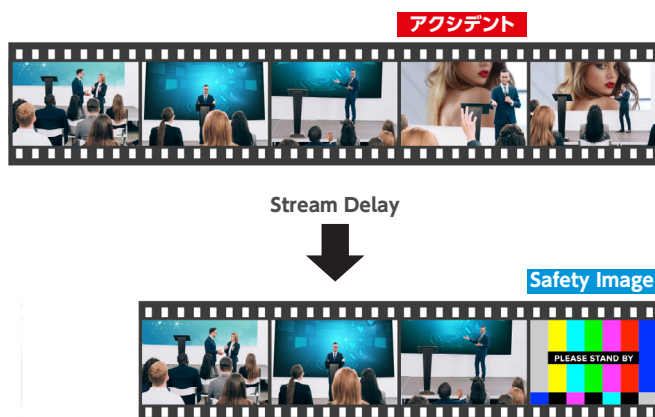
配信中の偶発的なトラブルを回避する (セーフティー・ディレイ)

V-80HD は、配信中の予期せぬトラブルに備えた回避機能「セーフティー・ディレイ」を搭載しています。

セーフティー・ディレイ機能では、映像と音声のバッファー（配信ディレイ・タイム：Stream Delay）を設定することができます。

配信ディレイ・タイム内でアクシデントが発生した場合、1つのボタン操作で「静止画への切り替え」と「音声のミュート」をコントロールして、不適切なコンテンツが配信されることを防ぎます。

セーフティー・ディレイ機能を使えば、進行の台本などがないライブ・イベントでも安心して配信することができます。



- 配信ディレイ・タイムは、5 秒間隔で最大 60 秒まで設定することができます。
- 「Safety Image」として読み込んだ静止画に切り替わります。
- Safety Image への切り替えは配信中のみです。また、配信されている映像でのみ Safety Image への切り替えを確認することができます。本体ディスプレイや HDMI OUT 端子の映像出力は、Safety Image に切り替わりません。
- ASSIGNABLE PADS ボタンに、静止画への切り替えと音声のミュートをコントロールする機能を割り当てて使います。

配信ディレイ・タイムを設定する

1. [MENU] ボタン → 「Stream&Record」 → 「Safety Delay」を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

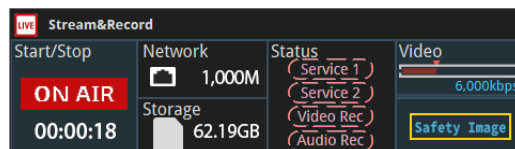
設定値

Off、5sec ～ 60sec（5 秒間隔）

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

セーフティー・ディレイ機能を使う

1. 配信を開始する。
2. [MENU] ボタン → 「Stream&Record」 → 「Stream&Record View」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Safety Image」を選び、[VALUE] つまみを押す。



配信映像が静止画に切り替わり、配信音声がミュートされます。

メモ

ASSIGNABLE PADS にセーフティー・ディレイ機能を割り当てて使うこともできます。（P.97）

SRT 映像を出力する

V-80HD は、SRT 映像の出力に対応しています。ネットワーク接続された SRT 対応機器へ SRT 映像を出力することができます。

ここでは、LAN 接続された SRT 映像入力機器を例に、接続方法と SRT 出力の手順を説明します。

※ SRT 映像を出力するときは、RTMP 配信（P.67）できません。

必要なネットワーク環境



※ ネットワーク経由で映像を出力するには、IP アドレス/サブネット・マスク/デフォルト・ゲートウェイの設定が必要です。これらの設定は、通常 DHCP サーバーから取得されて、割り当てられます。

SRT 対応機器を接続して SRT 映像を出力する

SRT は、映像信号の向きにかかわらず、送信機器と受信機器どちらからも接続することができます。

接続の待ち受け側を Listener モード、接続する側を Caller モードと呼び、機器によって片方または両方のモードに対応します。

V-80HD では、Listener モードと Caller モードの両方に対応しています。

Caller モードで接続する

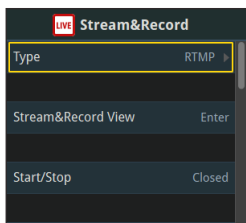
Caller モードでは、受信機器の設定に合わせた送信側（V-80HD）の設定をします。

V-80HD から受信機器へ SRT 接続し、V-80HD から映像を出力します。

1. 受信器の SRT モードを Listener モードに設定し、その他の設定項目を入力する。

※ 設定や操作方法については、受信機器の取扱説明書をご覧ください。

2. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。

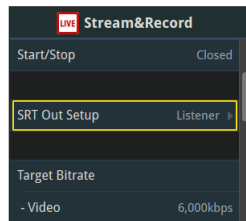


3. [SRT Out] を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

5. [VALUE] つまみで [SRT Out Setup] を選び、[VALUE] つまみを押す。

6. [VALUE] つまみで [Mode] を選び、[VALUE] つまみを押す。



7. [Caller] を選び、[VALUE] つまみを押す。

8. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

9. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
Remote IP Address	SRT 受信機器の IP アドレスを設定します。
Remote Port	SRT 受信機器のポート番号を設定します。
Latency	SRT の再送用バッファの長さ（遅延時間）を設定します。受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。必要に応じて設定してください。
Stream ID	受信側でストリーム ID が設定されている場合は、受信側と同じストリーム ID を設定します。 ※ 送信側と受信側でストリーム ID が一致しないと、映像の送受信はできません。
Encryption	映像を暗号化する場合、暗号方式を設定します。受信側にも同じ暗号方式を設定します。 ※ 送信側と受信側で暗号方式が一致しないと、映像の送受信はできません。
Passphrase	暗号方式を設定したときに、パスフレーズを設定します。受信側にも同じパスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズが一致しないと、映像の送受信はできません。

メモ

Web アプリを使って設定することもできます。Web アプリを使用する場合は、あらかじめ V-80HD をインターネットに接続しておきます。

1. [VALUE] つまみで [Use Web Application] を選び、[VALUE] つまみを押す。

本体ディスプレイに 2 次元バーコード (URL) が表示されます。

2. パソコンまたはスマートフォンで、表示された URL を開く。

3. パソコンまたはスマートフォンで項目を設定して、[SUBMIT] ボタンを押す。

V-80HD に設定が反映されます。

10. 受信機器を SRT 接続の待ち受け状態にする。

11. [VALUE] つまみで [Start/Stop] を選び、[VALUE] つまみを押す。

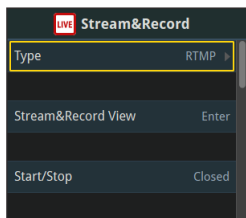
受信側で映像が表示されます。

GUI 画面で接続ステータスを確認することができます。

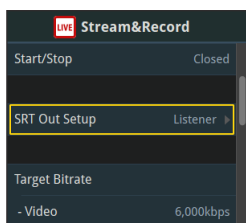
Listener モードで接続する

Listener モードでは、V-80HD で SRT 接続の待ち受け設定をします。受信機器から V-80HD へ SRT 接続し、V-80HD から映像を出力します。V-80HD の Listener モードでは、最大 3 台の受信機器に SRT 映像を送信することができます。

1. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [SRT Out] を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
4. [VALUE] つまみで [SRT Out Setup] を選び、[VALUE] つまみを押す。
5. [VALUE] つまみで [Mode] を選び、[VALUE] つまみを押す。
6. [Listener] を選び、[VALUE] つまみを押す。



7. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
8. [VALUE] つまみで、以下のように設定する。

パラメーター	説明
Local Port	SRT 接続の待ち受けに使用するポート番号を設定します。
Latency	SRT の再送用バッファの長さ（遅延時間）を設定します。受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。必要に応じて設定してください。
Encryption	映像を暗号化する場合、暗号方式を設定します。受信側にも同じ暗号方式を設定します。 ※ 送信側と受信側で暗号方式が一致しないと、映像の送受信はできません。
Passphrase	暗号方式を設定したときに、パスフレーズを設定します。受信側にも同じパスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズが一致しないと、映像の送受信はできません。

※ Listener モードの場合、ストリーム ID の設定は必要ありません。

メモ

Web アプリを使って設定することもできます。

Web アプリを使用する場合は、あらかじめ V-80HD をインターネットに接続しておきます。

1. [VALUE] つまみで [Use Web Application] を選び、[VALUE] つまみを押す。
本体ディスプレイに 2 次元バーコード（URL）が表示されます。
2. パソコンまたはスマートフォンで、表示された URL を開く。
3. パソコンまたはスマートフォンで項目を設定して、[SUBMIT] ボタンを押す。
V-80HD に設定が反映されます。

9. 受信機器の SRT モードを Caller モードに設定する。

※ 設定や操作方法については、受信機器の取扱説明書をご覧ください。

10. 手順 8 の設定をもとに、受信機器の Caller モードの設定をする。

※ 受信機器に設定する IP アドレスは、[MENU] ボタン → [Network] → [Network Information] で確認します。

11. [VALUE] つまみで [Start/Stop] を選び、[VALUE] つまみを押す。

SRT 接続の待ち受け状態になります。

12. 受信機器で接続操作をする。

受信側で映像が表示されます。

GUI 画面で接続ステータスと接続されている機器の台数が確認できます。

SRT 接続を停止する

SRT 接続は、送信側と受信側のどちらからも停止することができます。V-80HD から停止するときは、以下の操作をします。

1. [MENU] ボタン → [Stream&Record] → [Start/Stop] を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 受信機器から接続を停止する場合は、受信機器の取扱説明書をご覧ください。

その他の機能

設定を保存する／呼び出す（シーン・メモリー）

映像／音声の設定や操作パネルの状態など、現在の設定をシーン・メモリーに保存し、必要なときに呼び出して使うことができます。

V-80HD には、32 個のシーン・メモリーが用意されています。

※ 工場出荷時、デモ・データとしてあらかじめ用意されているシーン・メモリーがあります。

ラスト・メモリー機能について

V-80HD にはラスト・メモリー機能が搭載されています。ラスト・メモリーは、電源を切る直前の状態を保存しておいて、次に起動したときに自動的に元の状態に復帰させる機能です。工場出荷時、ラスト・メモリー機能が有効になっています。

シーン・メモリーを呼び出して起動したいときは、[MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Start Up」 で、シーン・メモリー番号を指定します。

シーン・メモリーに保存する

シーン・メモリー 1 ～ 8

1. [MODE] ボタンを何回か押して、「MEMORY」を選ぶ。



青点灯

2. 設定を保存したい番号の MEMORY ボタンを長押しする。



長押し

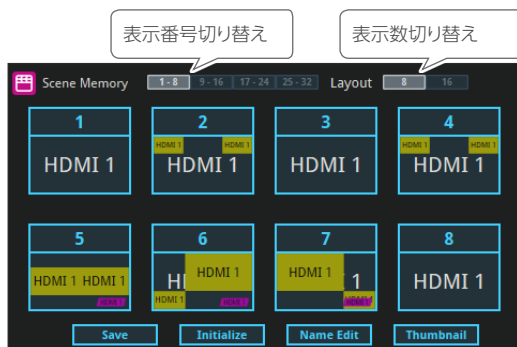
青： 設定が保存されているメモリー
水色： 現在選ばれているメモリー
消灯： 設定が何も保存されていないメモリー

MEMORY [1] ～ [8] ボタンがすべて一瞬水色に点灯し、選んだプリセット・メモリーに現在の設定が保存されます。

シーン・メモリー 1 ～ 32

1. [MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Save/Load」を選び、[VALUE] つまみを押す。

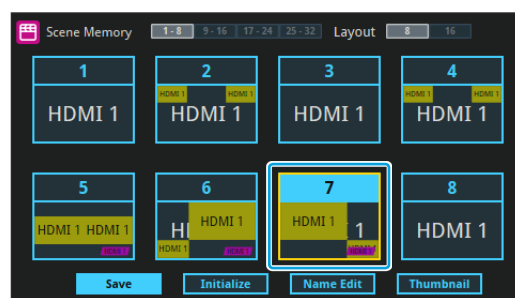
シーン・メモリーのセットアップ画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Save の文字が点滅します。

3. [VALUE] つまみで保存先のシーン・メモリー番号を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。

4. 「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

選んだシーン・メモリーに現在の設定が保存されます。

メモ

- クロスポイント・ボタンでシーン・メモリーを保存する／呼び出す

MEMORY ボタンに加え、クロスポイント・ボタンでも、シーン・メモリーの保存／呼び出しをすることができます。

PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタンがシーン・メモリー 9 ～ 16、PGM/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンがシーン・メモリー 17 ～ 24 に対応しています。

[MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Button Assign」 → 「Number of MEMORY Button」を選び、「[24]」に設定します。

- 各ボタンにシーン・メモリーを割り当てる

各ボタンで操作するシーン・メモリーを自由に割り当てることができます。

[MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Button Assign」 → 「MEMORY 1 Button」～「MEMORY 8 Button」または「MEMORY 24 Button」で、ボタンごとに呼び出すシーン・メモリーを設定します。

- 設定の保存や初期化（P.77）の操作を禁止して、シーン・メモリーの内容を保護することができます。

[MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Memory Protect」を選び、「ON」に設定します。

- システムやネットワークなどの設定は、共通設定（本体に1つ）のため、メモリーに保存されません。

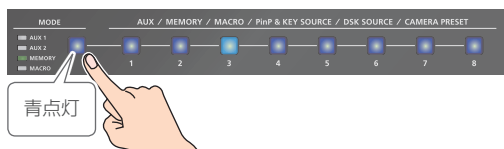
- デモ・データについて

変更または消去されたデモ・データは、ファクトリー・リセットを実行すると（P.111）、工場出荷時の設定に復元されます。

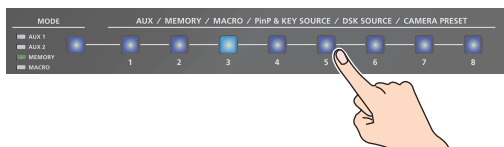
シーン・メモリーを呼び出す

シーン・メモリー 1 ～ 8

1. [MODE] ボタンを何回か押して、「MEMORY」を選ぶ。



2. 設定を呼び出したい番号の MEMORY ボタンを押す。



設定が呼び出されます。

シーン・メモリー 1 ～ 32

1. [MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Save/Load」を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーン・メモリーのセットアップ画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで設定を呼び出したいシーン・メモリー番号を選び、[VALUE] つまみを押す。



シーン・メモリーが呼び出されます。

メモ

- シーン・メモリーを呼び出したときに、特定の設定を呼び出さないようにすることができます。
[MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Load Parameters」を選び、Load Parameters の項目ごとに設定を呼び出すかどうかを設定します。
- シーン・メモリーを呼び出したときに、映像切り替え効果を付けたり、子画面をフェード・インさせたりすることができます。
[MENU] ボタン → 「Scene Memory」で、以下のメニュー項目を設定します。

メニュー項目	説明
Fade Time	シーン・メモリーを呼び出したときの映像切り替え時間を設定します。 ※ 設定した時間は、以下の項目で適用されます。
Mix/Wipe	「ON」にすると、シーン・メモリーを呼び出したときに、切り替え効果がかかります。
PinP & Key 1、2	「ON」にすると、PinP 合成を含むシーン・メモリーを呼び出したときに、子画面がフェード・インします。
DSK	「ON」にすると、DSK 合成を含むシーン・メモリーを呼び出したときに、上に重ねるテロップや映像がフェード・インします。

- ASSIGNABLE PADS にシーン・メモリーの呼び出しを割り当てることもできます。(P.97)。

シーン・メモリーを初期化する

シーン・メモリーの設定内容を初期化して、消去します。

1. [MENU] ボタン → 「Scene Memory」 → 「Save/Load」を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーン・メモリーのセットアップ画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで「Initialize」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Initialize の文字が点滅します。

3. [VALUE] つまみで初期化したいシーン・メモリー番号を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. 「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーン・メモリーが初期化されます。

シーン・メモリーの名前を変更する

シーン・メモリーの名前を変更します。

1. [MENU] ボタン → [Scene Memory] → [Save/Load] を選び、[VALUE] つまみを押す。
シーン・メモリーのセットアップ画面が表示されます。
2. [VALUE] つまみで [Name Edit] を選び、[VALUE] つまみを押す。
Name Edit の文字が点滅します。
3. [VALUE] つまみで名前を変えたいシーン・メモリー番号を選び、[VALUE] つまみを押す。
入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。
4. 名前を入力する。
※ 入力できる文字数は、8 文字までです。
5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。

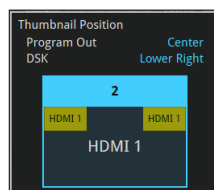


Name Edit の文字が点灯に戻ります。

サムネイルの位置を変更する

シーン・メモリーのセットアップ画面内で確認できるサムネイルの位置を変更できます。

1. [MENU] ボタン → [Scene Memory] → [Save/Load] を選び、[VALUE] つまみを押す。
シーン・メモリーのセットアップ画面が表示されます。
2. [VALUE] つまみで [Thumbnail] を選び、[VALUE] つまみを押す。
Thumbnail の文字が点滅します。
3. [VALUE] つまみで変更したいシーン・メモリー番号を選び、[VALUE] つまみを押す。



サムネイルのレイアウト画面が表示されます。

4. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
5. [EXIT] ボタンを押す。

SD カードや USB メモリーにシーン・メモリーを保存する

V-80HD に接続したストレージ (SD カードや USB メモリー) に、シーン・メモリー (1 ~ 32) を 1 つのファイル (.v80hdscene) にして保存することができます。保存したシーン・メモリー・ファイルは、必要なときにストレージから本体に呼び出して使うことができます。

※ シーン・メモリー・ファイルは「Roland/V-80HD/scene_memory」フォルダーに保存／呼び出されます。

注意

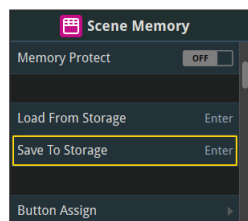
- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください (P.13、P.13)。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

新規保存する

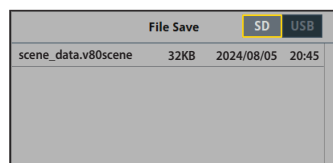
1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Scene Memory] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のシーン・メモリー・ファイルが一覧表示されます。



※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [File Name] を選び、[VALUE] つまみを押す。

入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

4. ファイル名を入力する。

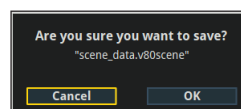
※ 入力できる文字数は、32 文字までです。

5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



6. ファイル名の入力が終わったら、[VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

7. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージにシーン・メモリー・ファイル (.v80scene) が保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

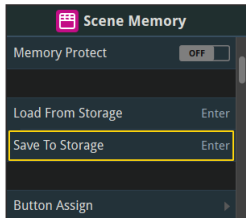
8. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

上書き保存する

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Scene Memory] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のシーン・メモリー・ファイルが一覧表示されます。

File Save			
	SD	USB	
scene_data.v80scene	32KB	2024/08/05 20:45	

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで上書きしたいシーン・メモリー・ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーン・メモリー・ファイルが上書き保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

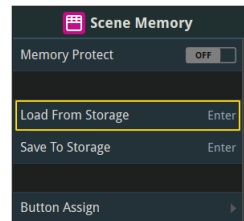
呼び出す

ストレージに保存されているシーン・メモリーの設定を呼び出します。設定を呼び出すと、シーン・メモリーの設定は上書きされます。

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Scene Memory] → [Load From Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のシーン・メモリー・ファイルが一覧表示されます。

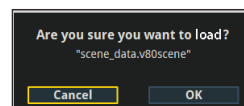
File List			
	SD	USB	
scene_data.v80scene	32KB	2024/08/05 20:45	

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで呼び出したいシーン・メモリー・ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーン・メモリーの設定が呼び出されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

複数の操作を記録して自動的に実行する（マクロ）

複数の操作手順を記録して、自動的に実行することができます（マクロ機能）。あらかじめマクロに操作手順を記録しておけば、マクロを選ばだけで記録した一連の操作が再現されます。オペレーターが変わっても同じ操作を実行できる便利な機能です。

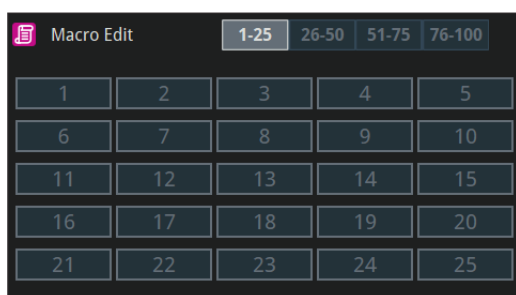
最大 100 個のマクロを作成することができます。

マクロに記録する

1 つのマクロに、最大 10 個の操作を記録することができます。マクロの中に別のマクロを組み込むことで、1 つのマクロでより複雑な操作を実行できます。

※ 工場出荷時、デモ・データとしてあらかじめ操作が記録されているマクロがあります。

1. [MENU] ボタン → [Macro] → [Edit] を選び、[VALUE] つまみを押す。

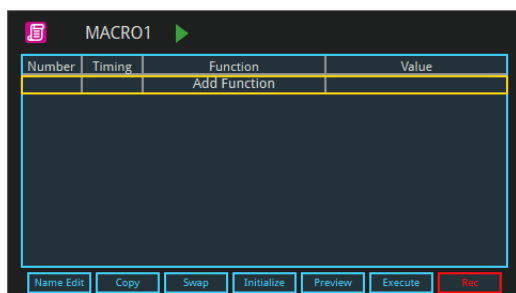


2. [VALUE] つまみで編集したいマクロを選び、[VALUE] つまみを押す。

マクロのエディット画面が表示されます。



3. [VALUE] つまみで操作のリストを選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [VALUE] つまみで [Add Function] を選び、[VALUE] つまみを押す。

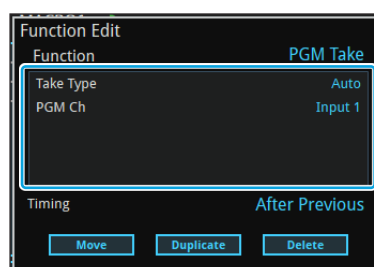


Function Edit メニューが表示されます。

5. [VALUE] つまみでマクロに記録する操作を選び、[VALUE] つまみを押す。

※ 記録できる操作について、詳しくは「マクロを編集する」(P.82)をご覧ください。

6. [VALUE] つまみで関連するパラメーターを設定する。

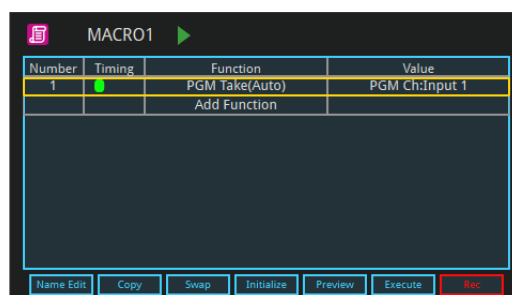


7. [VALUE] つまみで [Timing] を選び、[VALUE] つまみを押す。
8. [VALUE] つまみで操作を実行するタイミングを設定し、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
After Previous	直前の操作のあとに実行します。リスト番号が連番になります。
Same As Previous	直前の操作と同時に実行します。直前の操作と同じリスト番号になります。

※ マクロの先頭に記録する操作の場合は、タイミングを設定しても効果はありません。

9. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。



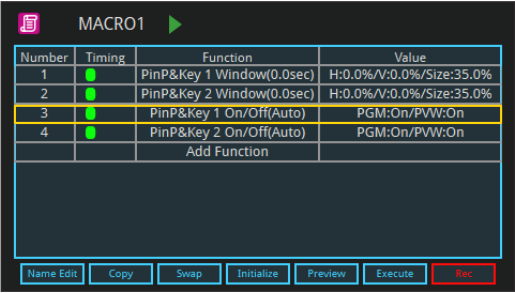
10. 手順 4 ～ 9 を繰り返し、マクロを完成させる。
11. [EXIT] ボタンを押して、画面を閉じる。

マクロを編集する

マクロの作成中や完成後に、操作の内容や並び順を変更したり、操作をコピー／削除したりすることができます。

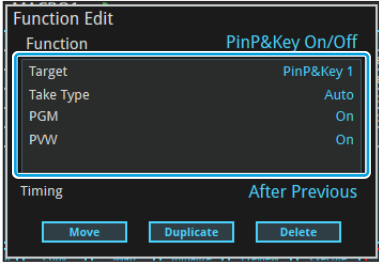
操作内容を変更する

1. 「マクロに記録する」(P.81) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。



メニュー	設定値	説明
Function	PGM Take	Split Position
	PGM/PST Select	Audio Input Level
	AUX Select	Audio Input Mute
	Input Assign	Audio Output Level
	Transition Time	Audio Output Mute
	Transition Type	Audio Player Control
	PinP&Key On/Off	Video Player Control
	PinP&Key Source	Scene Memory
	PinP&Key Window	Memory Fade Time
	PinP&Key Cropping	Memory Fade On/Off
	PinP&Key View	Macro
	DSK On/Off	Output Fade
	DSK Source	External Rec Control
	Split On/Off	GPO One Shot
	Split Type	GPO Alternate
		Camera Preset Recall
		Wait
		Wait :
		次の操作を実行するまでの待ち時間を設定します。

2. 「マクロに記録する」(P.81) の手順 4 ～ 9 に従って、操作内容を変更する。

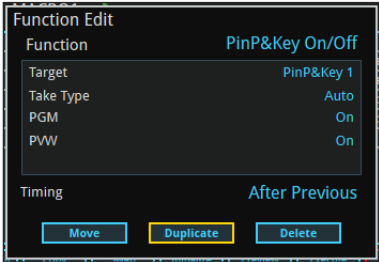


操作をコピーする

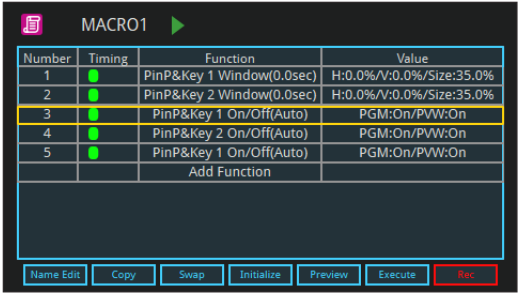
※ 記録した操作が上限（10 個）に達しているときは、コピーできません。

1. 「マクロに記録する」(P.81) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。

2. [VALUE] つまみで「Duplicate」を選び、[VALUE] つまみを押す。



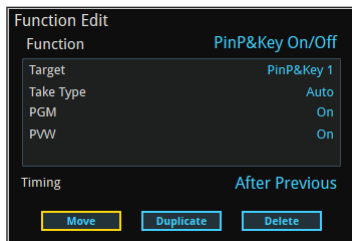
リストの最後尾にコピーした操作が 1 行追加されます。



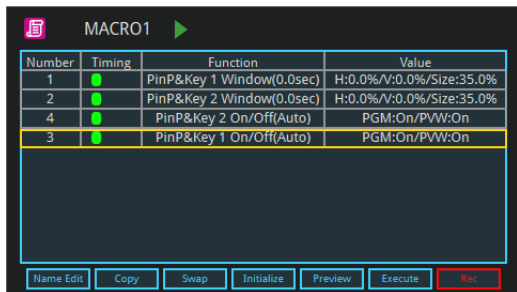
操作を移動する

1. 「マクロに記録する」(P.81) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。

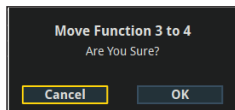
2. [VALUE] つまみで「Move」を選び、[VALUE] つまみを押す。



3. [VALUE] つまみで移動したい操作がある行を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。



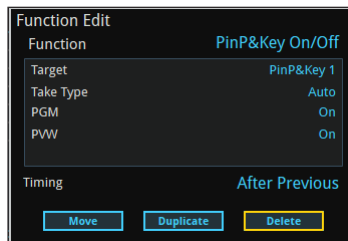
※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
行が移動します。

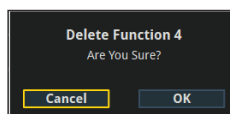
操作を削除する

1. 「マクロに記録する」(P.81) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。

2. [VALUE] つまみで「Delete」を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

3. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
行が削除されます。

メモ

「Preview」と「Execute」の違い

エディット画面の下部にある「Preview」や「Execute」を実行すると、マクロを実際に実行します。「Preview」は実行したあと、実行前の状態に戻りますが、「Execute」は結果が Program Out に反映されたまま残ります。

パネル操作を直接マクロに記録する

パネル操作した内容を、そのままマクロに記録することができます。

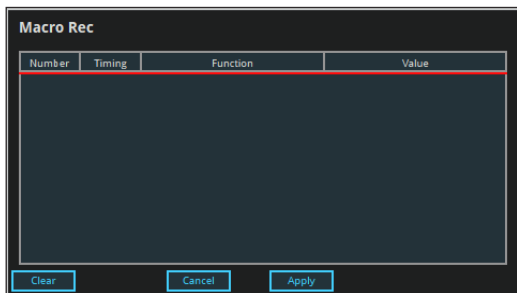
：パネル操作しても記録されない操作子



1. エディットするマクロを選び、マクロのエディット画面を表示させる (P.81)。
2. [VALUE] つまみで「Rec」を選び、[VALUE] つまみを押す。



マクロ記録画面が表示されます。



3. 記録したい操作をする。

操作をするたびに、リストに操作が追加されます。

「CLEAR」を実行すると、記録したマクロの内容が消去され、初期状態に戻ります。

4. [VALUE] つまみで「Apply」を選び、[VALUE] つまみを押す。

記録が確定します。

メモ

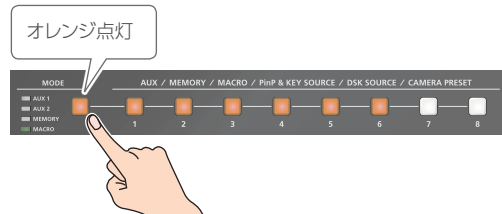
MACRO ボタンでマクロを記録する

記録したいマクロ番号の MACRO ボタンを長押しすることで、マクロの記録を開始することができます。

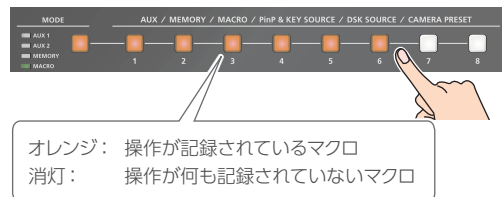
マクロを実行する

マクロ 1～8

1. [MODE] ボタンを何回か押して、「[MACRO]」を選ぶ。



2. 実行したいマクロ番号の MACRO ボタンを押す。



マクロが実行されます。

マクロ 1～100

1. [MENU] ボタン → [Macro] → [Execute] を選び、[VALUE] つまみを押す。

マクロの実行画面が表示されます。



マクロの実行画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで実行したいマクロ (1～100) を選び、[VALUE] つまみを押す。



マクロが実行されます。

メモ

- クロスポイント・ボタンでマクロを実行する

MACRO ボタンに加え、クロスポイント・ボタンでもマクロを実行することができます。

PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタンがマクロ 9 ～ 16、
PGM/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンがマクロ 17 ～ 24
に対応しています。

[MENU] ボタン → [Macro] → [Button Assign] → [Number of MACRO Button] を選び、[24] に設定します。

- 各ボタンに割り当てるマクロを変更する

各ボタンに割り当てるマクロを変更することができます。

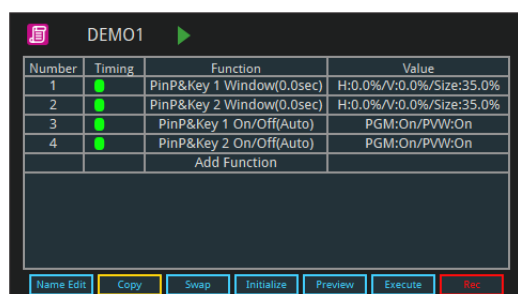
[MENU] ボタン → [Macro] → [Button Assign] → [MACRO 1 Button] ～ [MACRO 8 Button] または [MACRO 24 Button] でボタンごとに割り当てるマクロ (1 ～ 100) を設定します。

- ASSIGNABLE PADS にマクロの呼び出しを割り当てることもできます。(P.97)。

マクロの設定をコピーする

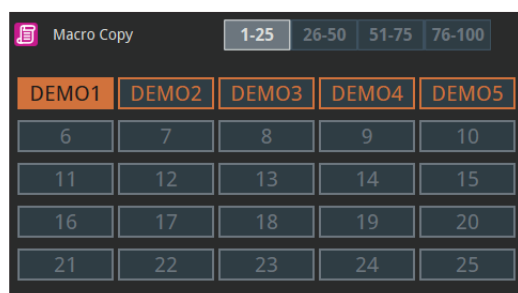
マクロの設定を別のマクロにコピーします。

1. エディットするマクロを選び、マクロのエディット画面を表示させる (P.81)。
2. [VALUE] つまみでコピー元のマクロの設定を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Copy」を選び、[VALUE] つまみを押す。



コピー元のマクロが点滅します。

4. [VALUE] つまみでコピー先のマクロを選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。

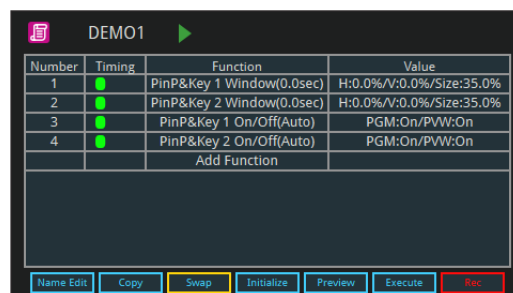
※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
マクロの設定がコピーされます。

マクロの設定を入れ替える

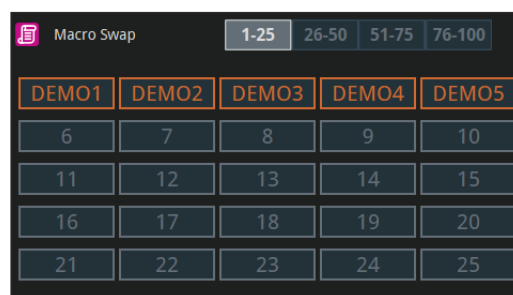
マクロの設定を別のマクロと入れ替えます。

1. エディットするマクロを選び、マクロのエディット画面を表示させる (P.81)。
2. [VALUE] つまみで「Swap」を選び、[VALUE] つまみを押す。



入れ替え元のマクロが点滅します。

3. [VALUE] つまみで入れ替え先のマクロを選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。

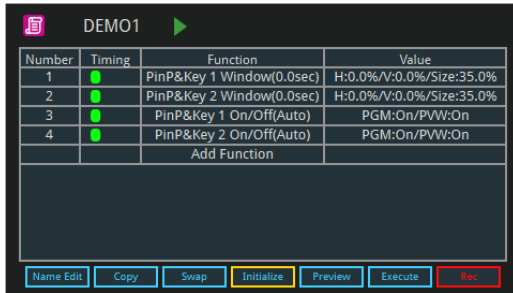
※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
マクロの設定が入れ替わります。

マクロを初期化する

マクロを初期化して、設定内容をすべて消去します。

1. エディットするマクロを選び、マクロのエディット画面を表示させる (P.81)。
2. [VALUE] つまみで「Initialize」を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

3. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
マクロが初期化されます。

メモ

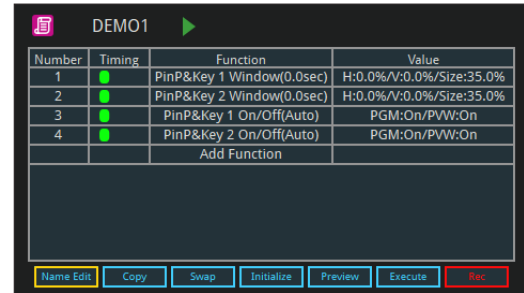
マクロのデモ・データについて

変更または消去されたデモ・データは、ファクトリー・リセットを実行すると (P.111)、工場出荷時の設定に復元されます。

マクロの名前を変更する

マクロの名前を変更します。

1. エディットするマクロを選び、マクロのエディット画面を表示させる (P.81)。
2. [VALUE] つまみで「Name Edit」を選び、[VALUE] つまみを押す。



入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

3. 名前を入力する。
※ 入力できる文字数は、8 文字までです。
4. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



マクロの名前が変更されます。

マクロの設定を保存する／呼び出す

V-80HD に接続したストレージ (SD カードや USB メモリー) に、マクロの設定 (1 ~ 100) を 1 つのファイル (.RMC) にして保存することができます。保存したマクロ設定ファイルは、必要ときにストレージから本体に呼び出して使うことができます。

※ マクロ設定ファイルは「Roland/V-80HD/macro」フォルダーに保存／呼び出されます。

注意

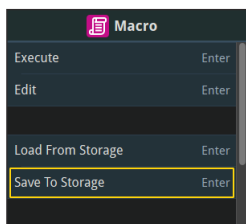
- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください (P.13、P.13)。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

新規保存する

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Macro] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のマクロ設定ファイルが一覧表示されます。

File Save		SD	USB
macro1.rmc	1KB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [File Name] を選び、[VALUE] つまみを押す。

入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

4. ファイル名を入力する。

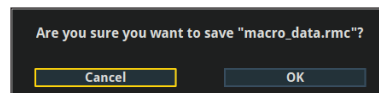
※ 入力できる文字数は、32 文字までです。

5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



6. ファイル名の入力が終わったら、[VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

7. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージにマクロ設定ファイル (.rmc) が保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

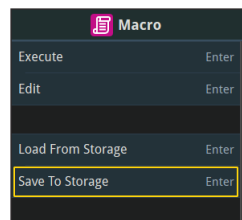
8. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

上書き保存する

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Macro] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のマクロ設定ファイルが一覧表示されます。

File Save		SD	USB
macro1.rmc	1KB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで上書きしたいマクロ設定ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

マクロ設定ファイルが上書き保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

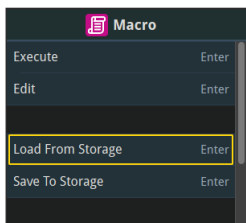
呼び出す

ストレージに保存されているマクロの設定を呼び出します。設定を呼び出すと、マクロ（1～100）の設定は上書きされます。

1. SDXCカード・スロットに、SDカードを差し込む。

※ USBメモリーの場合は、USB HOST 端子に USBメモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Macro] → [Load From Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のマクロ設定ファイルが一覧表示されます。

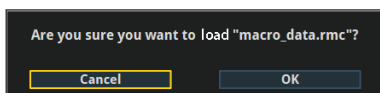
File List				SD	USB
macro1.rmc	1KB	2024/08/05	20:45		

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで呼び出したいマクロ設定ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

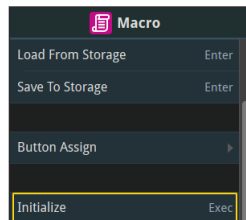
マクロの設定が呼び出されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

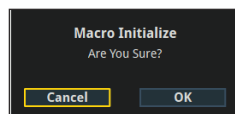
すべてのマクロを初期化する

すべてのマクロを初期化して、消去します。

1. [MENU] ボタン → [Macro] → [Initialize] を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

2. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

マクロが初期化されます。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

シーン・メモリーやマクロを組み合わせて操作する（シーケンサー）

シーン・メモリーの呼び出しやマクロなどの操作を記録し、指定した順番で実行します（シーケンサー機能）。

画面構成の変更やタイトルの挿入など、イベントの進行に合わせた操作を事前に準備しておけば、[AUTO] ボタンを押すだけで目的の操作を再現することができます。現場でのオペレーションをスムーズに進められる便利な機能です。

シーケンサーに記録する

シーケンサーに記録できる操作は、「シーン・メモリーの呼び出し」「マクロの実行」「最終出力映像の切り替え」の3種類です。実行したい操作を順番に並べて、リストを作成します。

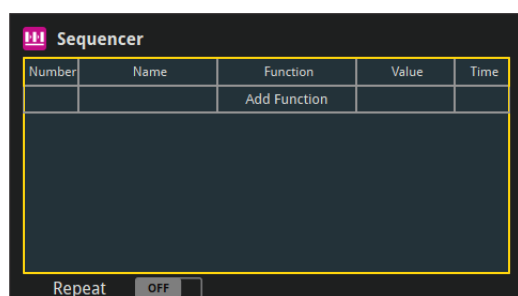
リストには、最大 1,000 個まで操作を並べることができます。

メモ

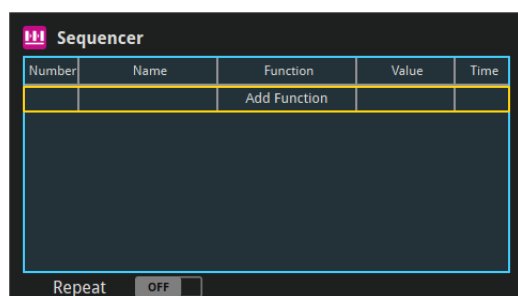
- 工場出荷時、デモ・データとして操作がリストに記録されています。リストを初期化すると、リストの内容をすべて消去することができます（P.94）。
- ASSIGNABLE PADS にシーケンサー機能を割り当てることもできます。（P.97）。

1. [MENU] ボタン → [Sequencer] → [List Edit] を選び、[VALUE] つまみを押す。

シーケンサーに記録した操作のリストが表示されます。



2. [VALUE] つまみで操作のリストを選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで [Add Function] を選び、[VALUE] つまみを押す。



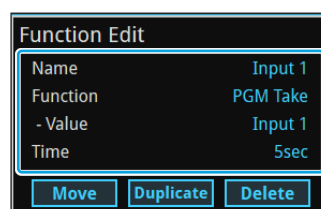
Function Edit メニューが表示されます。

4. [VALUE] つまみで [Function] を選び、[VALUE] つまみを押す。

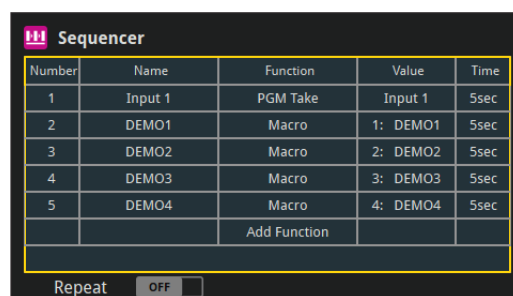
5. [VALUE] つまみでシーケンサーに記録する操作を設定し、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
PGM Take	最終出力映像を切り替えます。
Scene Memory	シーン・メモリーを呼び出します。
Macro	マクロを実行します。

6. [VALUE] つまみで関連するパラメーターを設定する。



7. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
8. 手順 3 ～ 7 を繰り返し、リストを完成させる。



9. [EXIT] ボタンを押して、画面を閉じる。

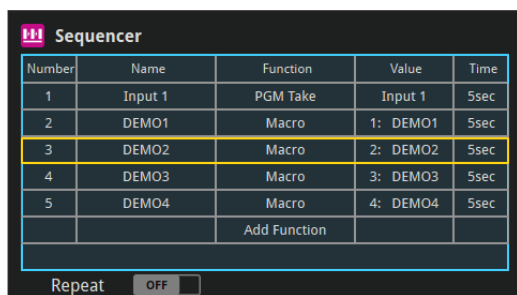
リストを編集する

リストの作成中や完成後に、操作の内容や並び順を変更したり、操作をコピー／削除したりすることができます。

操作内容を変更する

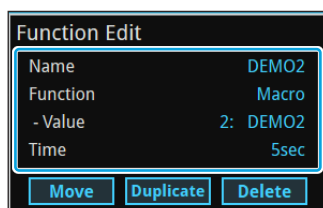
1. 「シーケンサーに記録する」(P.89) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。

Function Edit メニューが表示されます。



メニュー	設定値	説明
Name	—	操作の名前を表示します。
Function	シーケンサーに記録する操作を設定します。 ※ 設定した操作に応じて、関連するメニュー項目が表示されます。	
	PGM Take	最終出力映像を切り替えます。
	Scene Memory	シーン・メモリーを呼び出します。
	Macro	マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
Value	Function に応じた操作の詳細を設定します。	
Time	オート・シーケンスがオンのときの動作を設定します。	
	Pause	オート・シーケンスを一時停止します。
	Auto	続けて次の操作を実行します。
	1 ~ 120sec	指定した時間を空けて、次の操作を実行します。

2. 「シーケンサーに記録する」(P.89) の手順 3 ~ 8 に従って、操作内容を変更する。

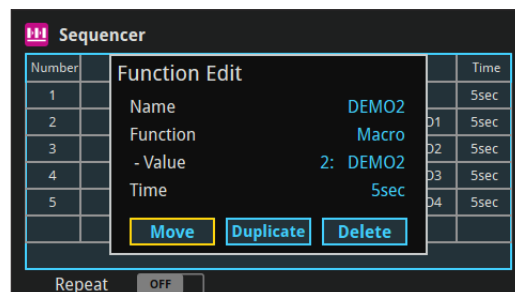


操作を移動する

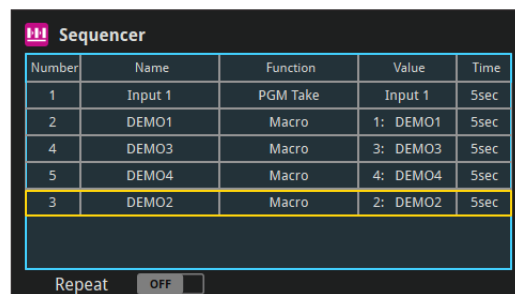
1. 「シーケンサーに記録する」(P.89) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。

Function Edit メニューが表示されます。

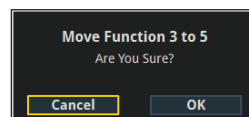
2. [VALUE] つまみで「Move」を選び、[VALUE] つまみを押す。



3. [VALUE] つまみで移動したい操作がある行を選び、[VALUE] つまみを押す



確認メッセージが表示されます。

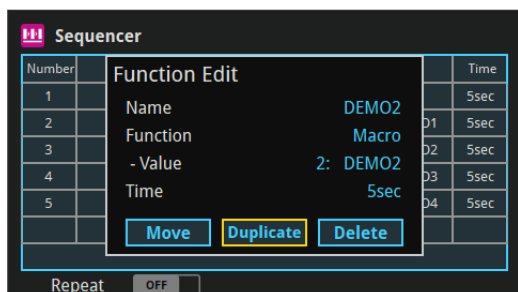


※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

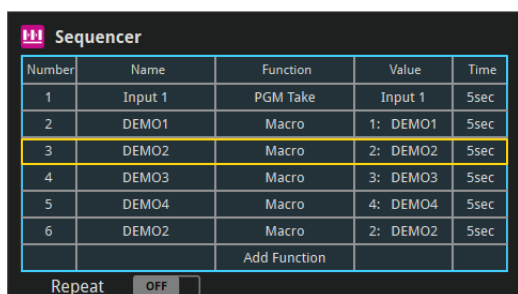
4. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
行が移動します。

操作をコピーする

1. 「シーケンサーに記録する」(P.89) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで「Duplicate」を選び、[VALUE] つまみを押す。

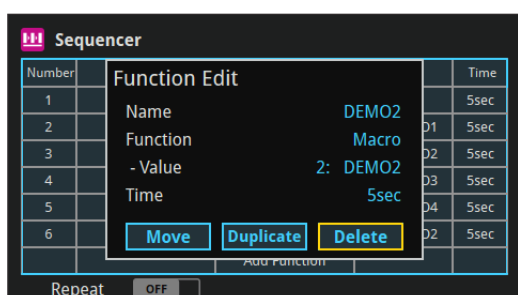


リストの最後尾にコピーした操作が 1 行追加されます。

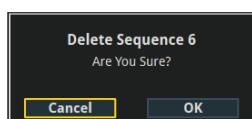


操作を削除する

1. 「シーケンサーに記録する」(P.89) の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。
2. [VALUE] つまみで「Delete」を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

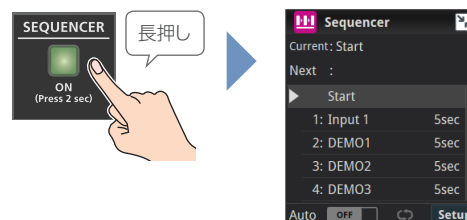
3. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
行が削除されます。

シーケンサーを実行する

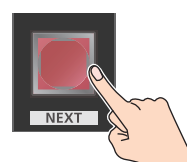
ボタンを押して、シーケンサーに記録した操作を 1 つずつ実行します。

1. SEQUENCER [ON] ボタンを長押しして、シーケンサー機能をオン（点灯）にする。

シーケンサーに記録した操作のリストが表示されます。



2. [NEXT] ボタンを押す。



リストの先頭の操作が実行されます。

操作の実行中は、ボタンが点滅します。操作が終わると、点灯に変わります。

3. 次の操作を実行するタイミングで、[NEXT] ボタンを押す。
操作が実行されます。

[PREVIOUS] ボタン

[PREVIOUS] ボタンを押すと、1 つ前の操作が完了した状態に戻すことができます。

4. 手順 3 を繰り返す。
5. シーケンサー機能をオフにするときは、もう一度 SEQUENCER [ON] ボタンを長押しする。

メモ

リストの操作を繰り返し実行する

リストの操作を繰り返し実行することができます。最後の操作が完了したときに [NEXT] ボタンを押すと、先頭の操作が実行されます。
[MENU] ボタン → 「Sequencer」 → 「Repeat Execute」を「ON」に設定します。

リストの途中から操作を実行する

[VALUE] つまみでリストから操作を選び、[VALUE] つまみを押すと、選んだ操作が完了した状態になります。[NEXT] ボタンを押すと、そこから次の操作を実行することができます。

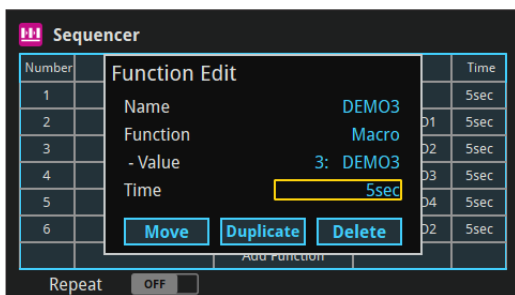
自動的にシーケンサーを実行する（オート・シーケンス）

シーケンサーに記録した操作を自動的に実行させることができます（オート・シーケンス機能）。

オート・シーケンスの設定をする

次の操作に移るときの動作を操作ごとに設定します。一定の時間を空けてから次の操作を実行させたり、操作の実行を一時停止させたりすることができます。

1. 「シーケンサーに記録する」（P.89）の手順 3 で、操作のリストから編集したい操作を選び、[VALUE] つまみを押す。
Function Edit メニューが表示されます。
2. [VALUE] つまみで「Time」を選び、[VALUE] つまみを押す。



3. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。

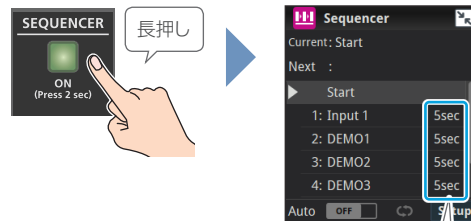
設定値	説明
Pause	オート・シーケンスを一時停止します。
Auto	続けて次の操作を実行します。
1 ~ 120sec	指定した時間を空けて、次の操作を実行します。

4. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
5. 手順 1 ~ 4 を繰り返す。

オート・シーケンスを実行する

1. SEQUENCER [ON] ボタンを長押しして、シーケンサー機能をオン（点灯）にする。

シーケンサーに記録した操作のリストが表示されます。



次の操作に移るときの動作を確認できます。
「PAUSE」に設定されているときは、「Pause」と表示されます。

2. [VALUE] つまみで「Auto」を選び、[VALUE] つまみを押す。

リストの先頭から自動的に操作が実行されます。操作の実行中は、[NEXT] ボタンが点滅します。

最後の操作が完了すると、自動的に停止します。

「Pause」に設定されている操作の場合

オート・シーケンスが一時停止します。[NEXT] ボタンを押すと、手動で次の操作を実行することができます。

※ 「Pause」以外に設定された操作を実行すると、オート・シーケンスが再開します。

3. オート・シーケンスをオフにするときは、[VALUE] つまみでもう一度「Auto」を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. シーケンサー機能をオフにするときは、もう一度 SEQUENCER [ON] ボタンを長押しする。

メモ

- リストの操作を繰り返し実行することができます。最後の操作が完了すると、先頭に戻ります。
[MENU] ボタン → [Sequencer] → [Repeat Execute] を「ON」に設定します。
- ASSIGNABLE PADS にオート・シーケンスのオン／オフを割り当てることもできます。（P.97）。

シーケンサーの設定を保存する／呼び出す

V-80HD に接続したストレージ（SD カードや USB メモリー）に、シーケンサーの設定を 1 つのファイル（.RSQ）にして保存することができます。保存したシーケンス・ファイルは、必要なときにストレージから本体に呼び出して使うことができます。

※ シーケンス・ファイルは「Roland/V-80HD/sequencer」フォルダーに保存／呼び出されます。

注意

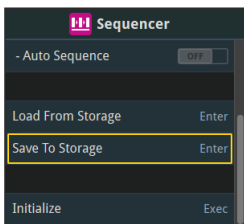
- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください（P.13、P.13）。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

新規保存する

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Sequencer] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のシーケンス・ファイルが一覧表示されます。

File Save			
	SD	USB	
seq1.rsq	1KB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [File Name] を選び、[VALUE] つまみを押す。

入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

4. ファイル名を入力する。

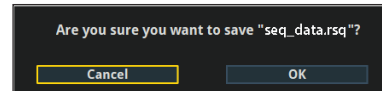
※ 入力できる文字数は、32 文字までです。

5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



6. ファイル名の入力が終わったら、[VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

7. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージにシーケンス・ファイル（.rsq）が保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

8. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

上書き保存する

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [Sequencer] → [Save To Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージ内のシーケンス・ファイルが一覧表示されます。

File Save			
	SD	USB	
seq1.rsq	1KB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで上書きしたいシーケンス・ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

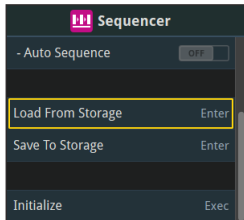
シーケンサー設定ファイルが上書き保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる

呼び出す

ストレージに保存されているシーケンサーの設定を呼び出します。設定を呼び出すと、現在のシーケンサーの設定は上書きされます。

1. [MENU] ボタン → [Sequencer] → [Load From Storage] を選び、[VALUE] つまみを押す。



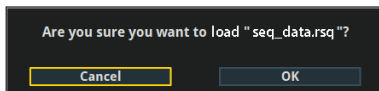
ストレージ内のシーケンサー設定ファイルが一覧表示されます。

File Save		SD	USB
seq1.rsq	1KB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

2. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで呼び出したいシーケンス・ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



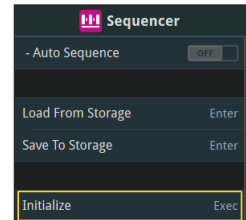
※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
シーケンサーの設定が呼び出されます。完了すると「Completed.」と表示されます。
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

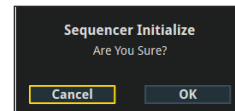
シーケンサーを初期化する

シーケンサーを初期化して、すべての設定内容を消去します。

1. [MENU] ボタン → [Sequencer] → [Initialize] を選び、[VALUE] つまみを押す。



確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

2. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

シーケンサーのデモ・データについて

変更または消去されたデモ・データは、ファクトリー・リセットを実行すると (P.111)、工場出荷時の設定に復元されます。

本体の設定をバックアップ／リストアする

V-80HD に接続したストレージ（SD カードや USB メモリー）に、本体の設定を 1 つのファイル（.v80）にしてバックアップすることができます。バックアップした設定ファイルは、必要なときにストレージから本体にリストア（復元）して使うことができます。

※ 設定ファイルは「Roland/V-80HD/backup」フォルダーに保存／呼び出されます。

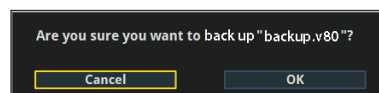
注意

- SD カードや USB メモリーを初めて使うときは、必ず V-80HD でフォーマットしてください（P.13、P.13）。
- 「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードや USB メモリーを抜いたりしないでください。
- SD カードや USB メモリーによっては、認識されるまでに時間がかかる場合があります。

5. [VALUE] つまみでソフトウェア・キーボードのエンター・キーを選び、[VALUE] つまみを押す。



6. [VALUE] つまみで「Save」を選び、[VALUE] つまみを押す。
確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

7. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。
ストレージにバックアップ・ファイル（.v80）がバックアップされます。完了すると「Completed.」と表示されます。

8. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

System メニューの「Test Pattern」や「Test Tone」など、一部の設定はファイルに保存されません。

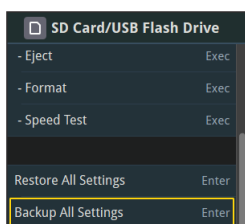
バックアップする

新規保存

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → 「SD Card/USB Flash Drive」 → 「Backup All Settings」を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のバックアップ・ファイルが一覧表示されます。

File Save			
	SD	USB	
backup1.v80	33MB	2024/08/05 20:45	

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. 「File Name」を選び、[VALUE] つまみを押す。

入力用のソフトウェア・キーボードが表示されます。

4. ファイル名を入力する。

※ 入力できる文字数は、32 文字までです。

上書き保存

1. SDXC カード・スロットに、SD カードを差し込む。

※ USB メモリーの場合は、USB HOST 端子に USB メモリーを接続します。

2. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [Backup All Settings] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ストレージ内のバックアップ・ファイルが一覧表示されます。

File Save		SD	USB
backup1.v80	33MB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみで上書きしたいバックアップ・ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

5. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定ファイルが上書き保存されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

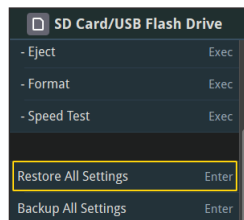
メモ

System メニューの「Test Pattern」や「Test Tone」など、一部の設定はファイルに保存されません。

リストア（復元）する

ストレージに保存されている本体の設定をリストア（復元）します。リストアすると、現在の設定は上書きされます。

1. [MENU] ボタン → [SD Card/USB Flash Drive] → [Restore All Settings] を選び、[VALUE] つまみを押す。



ストレージ内のバックアップ・ファイルが一覧表示されます。

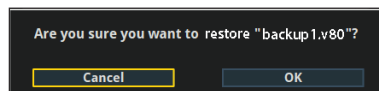
File Save		SD	USB
backup1.v80	33MB	2024/08/05	20:45

※ 画面右上の「SD」「USB」を選ぶことで、読み込み元のストレージを切り替えることができます。

2. [VALUE] つまみでファイル一覧全体を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. [VALUE] つまみでリストアしたい設定ファイルを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定がリストアされます。完了すると「Completed.」と表示されます。

ASSIGNABLE PADS を押して機能を実行する

ASSIGNABLE PADS では、8 つのパッド×8 バンク (Bank A ~ H) に機能を割り当てることができます。

ASSIGNABLE PADS を押すと、あらかじめ割り当てた機能が実行されます。

工場出荷時は、Bank A のパッド [1] ~ [8] にオーディオ・プレーヤーが割り当てられています。

ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる

ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てます。

1. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押す。

Assignable Pads 画面が表示されます。



2. [VALUE] つまみでバンクのカーソル「◀」「▶」を選び、[VALUE] つまみを押して Bank A ~ H を選ぶ。

[SETUP] ボタンを押しながらパッド [1] ~ [8] を押しても、Bank A ~ H を切り替えることができます。

3. [VALUE] つまみで機能を割り当てたいパッドを選び、[VALUE] つまみを押す。

4. [VALUE] つまみでパラメーターを設定する。

設定値	説明
Category	割り当てる機能のカテゴリーを選びます。
Function	選んだカテゴリーから機能を選びます。
Value	選んだ機能のパラメーターを設定します。
Setup	選んだ機能のセットアップ画面を表示します。

5. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。

6. 手順 3 ~ 5 を繰り返し、各パッドへ機能を割り当てる。

7. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押して、Assignable Pads 画面を閉じる。

※ パラメーターの詳細については、「19:Assignable Pads」(P.143)をご覧ください。

ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能を実行する

ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能を実行します。

1. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押しながらパッド [1] ~ [8] を押し、Bank A ~ H を切り替える。

2. パッド [1] ~ [8] を押す。

パッドに割り当てられた機能が実行されます。

メモ

ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押すと、各バンクの各ボタンに割り当てられた機能を画面上で確認することができます。

ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能を入れ替える／コピーする

ASSIGNABLE PADS に割り当てた機能をコピーしたり入れ替えたりすることができます。

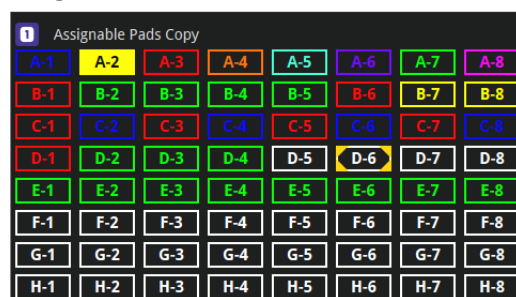
1. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押す。

Assignable Pads 画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみでコピー元（または入れ替え元）の ASSIGNABLE PADS を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. [VALUE] つまみで「Copy」または「Swap」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Assignable Pads 一覧画面が開きます。



4. [VALUE] つまみでコピー先（または入れ替え先）のパッドを選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

5. [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ASSIGNABLE PADS への割り当てを初期化する

ASSIGNABLE PADS の割り当てを初期化します。

1. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押す。

Assignable Pads 画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで初期化したい ASSIGNABLE PADS を選び、[VALUE] つまみを押す。

3. [VALUE] つまみで「Initialize」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。

4. [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。

ASSIGNABLE PADS の割り当てが初期化されます。

V-80HD から外部レコーダーの録画開始／停止をコントロールする

REC コントロール機能対応のレコーダーを HDMI 接続することで、V-80HD からレコーダーの録画開始／停止をコントロールすることができます（外部 REC コントロール機能）。

REC コントロール機能に対応したレコーダーについては、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://proav.roland.com/jp/>

設定

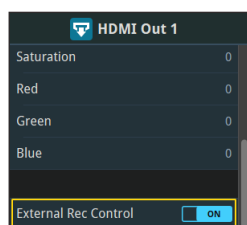
ASSIGNABLE PADS の割り当て

外部 REC コントロール機能を使うには、ASSIGNABLE PADS にレコーダーの録画開始／停止の機能を割り当てる必要があります。

1. 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」（P.97）に従って、任意の ASSIGNABLE PADS の機能を「External Rec Control」にする。

外部 REC コントロール機能のオン／オフ

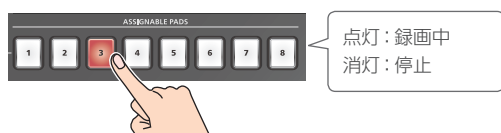
2. [MENU] ボタン → [Video Output] → [HDMI Out 1 ～ 3] → [External Rec Control] を「ON」に設定する。



操作

1. 録画開始／停止の機能を割り当てた ASSIGNABLE PADS を押す。

パッドを押すたびに、レコーダーの録画開始／停止が切り替わります。



※ ASSIGNABLE PADS のパッド [3] に割り当てた例です。

注意

ASSIGNABLE PADS の点灯／消灯は、V-80HD の状態を示すもので、レコーダーの状態とは連動していません。

たとえば、外部 REC コントロールを割り当てた ASSIGNABLE PADS が点灯中に、何らかの原因でレコーダーの録画が停止しても、ASSIGNABLE PADS が連動して消灯することはありません。

PTZ カメラをリモート・コントロールする

DIRECT STREAM 端子を介して最大 8 台までカメラを接続し、V-80HD からリモート・コントロールします。

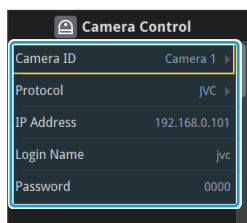
JVC、Panasonic、Canon、PTZOptics、Avonic 製のカメラや VISCA over IP 対応カメラ（Sony など）を操作できます。

※ お使いのカメラの取扱説明書も併せてご覧ください。

カメラのネットワーク設定をする

V-80HD からカメラを操作するために、カメラのネットワーク設定をします。最大 8 台までのカメラを登録することができます。

1. **[MENU] ボタン → [Camera Control] → 以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。**



メニュー項目	説明
Camera ID	操作対象のカメラを選びます。
Protocol	カメラのプロトコルを設定します。
IP Address	カメラの IP アドレスを入力します。
Login Name	[Protocol] が [JVC] のとき ソフトウェア・キーボードが表示されます。カメラと接続するために必要なログイン名を入力します。
Password	[Protocol] が [JVC] のとき ソフトウェア・キーボードが表示されます。カメラと接続するために必要なパスワードを入力します。

2. **[VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。**
3. **[MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。**

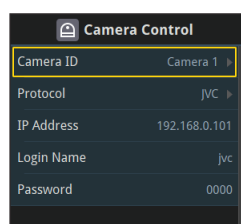
カメラの設定をプリセットに登録する

カメラの位置やフォーカス設定などを、プリセットとして最大 8 個まで登録することができます。

登録したプリセットは、必要なときに呼び出すことができます。

※ プリセットは、カメラ本体に保存されます。

1. **[MENU] ボタン → [Camera Control] → [Camera ID] を選び、[VALUE] つまみを押す。**



2. **[VALUE] つまみで操作対象のカメラを選び、[VALUE] つまみを押す。**
3. **[EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。**
4. **[VALUE] つまみで以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。**

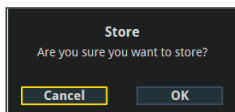
メニュー項目	説明
Pan	水平方向の位置を調節します。(*1)
Tilt	垂直方向の位置を調節します。(*1)
Pan/Tilt Speed	カメラの向きを変えるとき速度を調節します。
Zoom	ズーム位置を調節します。(*1)
Focus	焦点を調節します。(*1)
Auto Focus	[ON] に設定すると、焦点を自動的に合わせます。
Exposure	露出モードを設定します。
Tally Channel	カメラの映像が入力されている端子を指定します。 V-80HD からカメラの映像が最終出力されると、カメラのタリー・ランプが点灯します。

(*1) [VALUE] つまみを押している間、カメラを操作することができます。

5. **[VALUE] つまみでカメラの設定を操作する。**
6. **[VALUE] つまみで [Camera Preset] を選び、[VALUE] つまみを押す。**
7. **[VALUE] つまみで登録先のプリセット番号 (Preset 1 ~ 8) を選び、[VALUE] つまみを押す。**
8. **[EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。**

9. [VALUE] つまみで「Store」を選び、[VALUE] つまみを押す。

確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

10. [VALUE] つまみで「OK」を選び、[VALUE] つまみを押す。

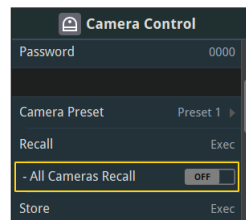
カメラの設定がプリセットに登録されます。

11. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

プリセットを呼び出す

カメラに登録したプリセットを呼び出します。複数のカメラから同時にプリセットを呼び出すこともできます。

1. [MENU] ボタン → [Camera Control] → 以下のメニュー項目を選び、[VALUE] つまみを押す。



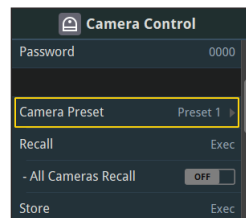
1 台のカメラから呼び出すとき

メニュー項目	説明
Camera ID	プリセットを呼び出したいカメラを選びます。
All Cameras Recall	「OFF」に設定します。

すべてのカメラから呼び出すとき

メニュー項目	説明
All Cameras Recall	「ON」に設定します。

2. [VALUE] つまみで設定値を変更し、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで「Camera Preset」を選び、[VALUE] つまみを押す。



4. [VALUE] つまみで呼び出したいプリセット番号 (Preset 1 ~ 8) を選び、[VALUE] つまみを押す。
5. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
6. [VALUE] つまみで「Recall」を選び、[VALUE] つまみを押す。
カメラから設定が呼び出されます。完了すると「Completed.」と表示されます。
7. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

ASSIGNABLE PADS にカメラ・コントロール機能を割り当てて、カメラを操作したり、プリセットを呼び出したりすることができます (P.97)。

ヤマハ DM3 シリーズと連携する（ヤマハ・ミキサー・コントロール）

V-80HD はヤマハデジタルミキサー DM3 シリーズと連携することで、以下のようなことができます。

- V-80HD のオーディオ・チャンネルと DM3 シリーズのフェーダーを連携させ、オーディオの操作を DM3 シリーズに集約することができます。
- V-80HD から DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出し、V-80HD からの操作で映像と音声のシーンを同時に切り替えることができます。
- イベントの状況やオペレーターの増減に応じて、V-80HD のアサインブル・パッドでヤマハ・ミキサー・コントロール機能のオン/オフを切り替えることができます。

映像と音声を同時に操作しなければならないライブ・イベントやウェビナーなどでも、連携した動作によって効率的な操作ができます。

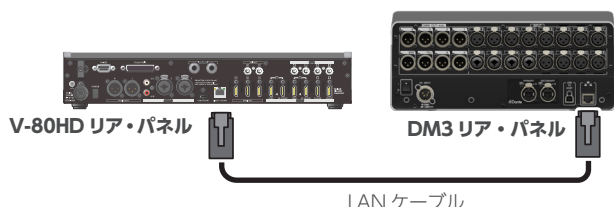
メモ

ヤマハデジタルミキサー DM3 シリーズの取扱説明書も合わせてご覧ください。

DM3 シリーズと接続する

V-80HD と DM3 シリーズを LAN ケーブルで接続し、相互で通信をするための設定をします。

1. V-80HD の DIRECT STREAM 端子と DM3 シリーズのネットワーク端子を LAN ケーブルで接続する。



2. V-80HD の電源、DM3 シリーズの電源を入れる。
3. V-80HD と DM3 シリーズのそれぞれで、通信ができるようにネットワークの設定をする。

以下は設定例です。以降、この設定例をもとに説明します。

V-80HD の設定	設定値
Configure	Manual
IP Address	192.168.0.1
Subnet Mask	255.255.255.0

DM3 シリーズの設定	設定値
IP アドレス取得方法ボタン	Static IP
IP Address	192.168.0.2
Subnet Mask	255.255.255.0

各パラメーターの設定方法については、V-80HD リファレンス・マニュアル（本書）と、ヤマハ DM3 シリーズ リファレンスマニュアルをご覧ください。

4. V-80HD の [MENU] ボタン → [Network] → [DM3 IP Address] に、DM3 シリーズの IP アドレスを設定する。
ここでは、「192.168.0.2」に設定します。

V-80HD のオーディオ・チャンネルと DM3 シリーズのフェーダーを連携して操作する

V-80HD のオーディオ・レベルとミュート・パラメーター、DM3 シリーズのフェーダーと [ON] キーを連携し、V-80HD のオーディオ・チャンネルを DM3 シリーズから操作することができます。

1. 「DM3 シリーズと接続する」(P.101) に従って、V-80HD と DM3 シリーズとの接続、ネットワークの設定を済ませる。
2. V-80HD の [MENU] ボタン → [Network] → [Yamaha Mixer Control] → [Audio Fader Assign] で連携して操作したい V-80HD のオーディオ・チャンネルを選び、[VALUE] つまみを押す。
3. オーディオ・チャンネルに割り当てる DM3 シリーズのチャンネルストリップ（CH 1 ～ 16、MIX 1 ～ 6）を選ぶ。

他にも連携して操作したい V-80HD のオーディオ・チャンネルがあるときは、手順 2 ～ 3 を繰り返します。



4. V-80HD の [MENU] ボタン → [Network] → [Yamaha Mixer Control] をオンにする。

ヤマハ・ミキサー・コントロール機能が有効になり、Status に「Connected」が表示されます。

このとき、V-80HD のオーディオ・チャンネルのレベル、ミュート・パラメーターの状態が、DM3 シリーズのチャンネルストリップに反映されます。

以降、DM3 シリーズのフェーダーの操作で V-80HD のオーディオ・レベルをコントロールしたり、DM3 シリーズの [ON] キーで V-80HD のミュート・パラメーターをコントロールしたりすることができます。

メモ

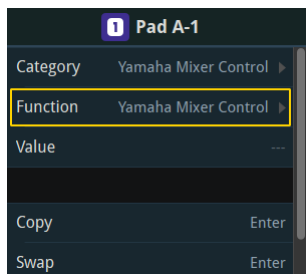
- 連携した DM3 のチャンネルストリップ (CH 1 ~ 16、MIX 1 ~ 6) から、V-80HD のオーディオ・レベルとミュート・パラメーター以外を連携して操作することはできません。
- アサインابل・パッドに Yamaha Mixer Control パラメーターを割り当てて、オン/オフを切り替えることもできます (P.102)。
- オーディオ・レベルやミュート・パラメーターの連携はせずに、DM3 のシーンメモリーの呼び出し機能 (P.102) のみを使いたい場合は、Audio Fader Assign の設定は Off にしてください。

V-80HD のアサインابل・パッドでヤマハ・ミキサー・コントロールをオン/オフする

V-80HD のアサインابل・パッドを使って、ヤマハ・ミキサー・コントロール機能 (Yamaha Mixer Control パラメーター) をオン/オフすることができます。

1. 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」 (P.97) に従って、ヤマハ・ミキサー・コントロール機能をオン/オフをするパッド (A-1 ~ H-8) を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみでパラメーターを設定する。

設定値	説明
Category	割り当てる機能のカテゴリーを選びます。 ここでは「Yamaha Mixer Control」に設定します。
Function	選んだカテゴリーから機能を選びます。 ここでは「Yamaha Mixer Control」に設定します。



3. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押して、Assignable Pads 画面を閉じる。

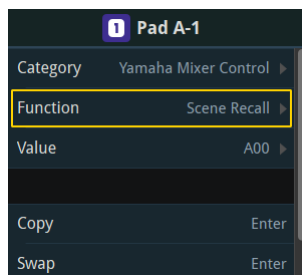
設定した V-80HD のアサインابل・パッドを押すと、ヤマハ・ミキサー・コントロール機能をオン/オフすることができます。

V-80HD から DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出す

V-80HD のアサインابل・パッドから、DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出すことができます。

1. 「V-80HD のオーディオ・チャンネルと DM3 シリーズのフェーダーを連携して操作する」 (P.101) の手順 4 に従って、ヤマハ・ミキサー・コントロール機能を有効にする。
2. 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」 (P.97) に従って、DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出しをするパッド (A-1 ~ H-8) を選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみでパラメーターを設定する。

設定値	説明
Category	割り当てる機能のカテゴリーを選びます。 ここでは「Yamaha Mixer Control」に設定します。
Function	選んだカテゴリーから機能を選びます。 ここでは「Scene Recall」に設定します。
Value	呼び出したい DM3 のシーンメモリーを選びます。



4. ASSIGNABLE PADS [SETUP] ボタンを押して、Assignable Pads 画面を閉じる。

設定した V-80HD のアサインابل・パッドを押すと、DM3 のシーンメモリーを呼び出すことができます。

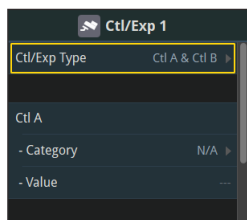
メモ

マクロ機能 (P.81) や、GPIO 端子 (P.105)、USB テンキー (P.108) を使って、DM3 のシーンメモリーを呼び出すこともできます。

フットスイッチを使う

CTL/EXP 1、2 端子に接続したフットスイッチを使って、V-80HD を足元でコントロールします。フットスイッチには、さまざまな機能を割り当てることができます。

1. [MENU] ボタン → [Ctl/Exp] → [Ctl/Exp 1] または [Ctl/Exp 2] → [Ctl/Exp Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで接続機器を「Ctl A & Ctl B」(フットスイッチ) に設定し、[VALUE] つまみを押す。
3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
4. [VALUE] つまみで Ctl A または Ctl B 「Category」 「Value」 を選び、[VALUE] つまみを押す。
5. [VALUE] つまみでフットスイッチの Ctl A または Ctl B に割り当てる機能を選び、[VALUE] つまみを押す。

● Category

設定値	説明
N/A	機能を割り当てません。
PGM Channel Select	PGM バスに送る映像を切り替えます。
PST Channel Select	PST バスに送る映像を切り替えます。
AUX 1、2 Channel Select	AUX バスに送る映像を切り替えます。
Input 1 ～ 16 Assign	Input 1 ～ 16 に割り当てる映像を変更します。
Still Output	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。もう一度フットスイッチを踏むと、通常の出力に戻ります。
Video Player Output	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
PinP&Key 1 ～ 2 Source	子画面の映像ソースを切り替えます。
DSK Source	DSK の映像ソースを切り替えます。
Button Control	[VALUE] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
Audio Input Mute	入力音声のミュート機能をオン／オフします。
Audio Output Mute	出力音声のミュート機能をオン／オフします。
Audio Input Solo	入力音声のソロ機能をオン／オフします。
Audio Output Solo	出力音声のソロ機能をオン／オフします。
Voice Changer	ボイス・チェンジャーをオン／オフします。
Auto Mixing	オート・ミキシング機能をオン／オフします。
Reverb (Momentary)	フットスイッチを踏んでいる間だけ、リバーブをオンにします。
Reverb (Alternate)	リバーブをオン／オフします。
Output Fade	最終出力映像をフェード・イン／アウトします。
Load Memory	シーン・メモリーを呼び出します。
Input Scan	フットスイッチを踏むたびに、Input 1 ～ 8 の映像を順番に切り替えます。
Scene Memory Scan	フットスイッチを踏むたびに、シーン・メモリー 1 ～ 32 を順番に呼び出します。
PinP&Key 1 ～ 2 Scan	フットスイッチを踏むたびに、PinP&Key 1 ～ 2 子画面の映像を順番に切り替えます。

設定値	説明
DSK Scan	フットスイッチを踏むたびに、DSK のテロップの映像を順番に切り替えます。
Macro Execute	マクロ (記録した一連の操作) を実行します。
Sequencer	シーケンサー機能がオンのとき、[VALUE] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
GPO (One Shot)	制御信号を 0.5 秒間出力します。
GPO (Alternate)	フットスイッチを踏むたびに、制御信号の出力をオン／オフします。
Camera Control	カメラをコントロールします。

● Value

「Category」に関連する詳細な設定をします。

6. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

- 接続については、P.10 をご覧ください。
- BOSS FS-5U などシングル・ペダル・タイプのフットスイッチを標準ケーブル (モノ) で接続した場合は、「Ctl B」で割り当てた機能が有効になります。

エクスプレッション・ペダルを使う

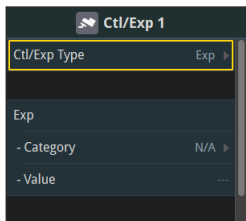
CTL/EXP 1、2 端子に接続したエクスプレッション・ペダルを使って、V-80HD を足元でコントロールします。

ペダルを調節する（ペダル・キャリブレーション）

エクスプレッション・ペダルを初めてお使いになるときは、ペダルを最適な状態にするために、必ずペダルのキャリブレーション（調節）を実行してください。

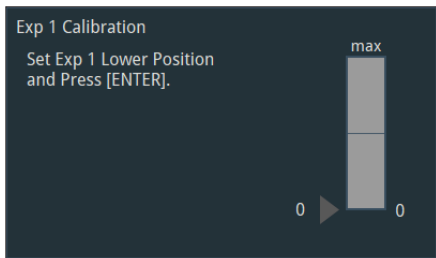
また、エクスプレッション・ペダルは、経年変化や使用環境によって、最適な動作をしなくなる場合があります。「ペダルを軽く踏んだだけで、音量が大きく変化する」、「ペダルを踏んでも映像が切り替わらない」などの症状が現れたときにも、キャリブレーションを実行してください。

1. [MENU] ボタン → [Ctl/Exp] → [Ctl/Exp 1] または [Ctl/Exp 2] → [Ctl/Exp Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、接続機器を「Exp」（エクスプレッション・ペダル）に設定し、[VALUE] つまみを押す。
3. [EXIT] ボタンを押して、1 つ前の画面に戻る。
4. [VALUE] つまみで「Exp Calibration」を選び、[VALUE] つまみを押す。

Exp Calibration 画面が表示されます。



5. 画面に表示される指示に従い、ペダルをかかと側いっぱい踏み込んで [VALUE] つまみを押す。
6. 画面に表示される指示に従い、ペダルをつま先側いっぱいに踏み込んで [VALUE] つまみを押す。
「Completed.」と表示されたら、キャリブレーションの完了です。
7. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

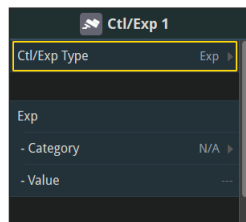
メモ

通常 EV-5 のミニマム・ボリュームつまみは、ゼロに合わせてお使いください。ミニマム・ボリュームつまみの位置を変更したときは、必ずキャリブレーションを実行してください。

ペダルに機能を割り当てる

エクスプレッション・ペダルには、さまざまな機能を割り当てることができます。

1. [MENU] ボタン → [Ctl/Exp] → [Ctl/Exp 1] または [Ctl/Exp 2] → [Ctl/Exp Type] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで、接続機器を「Exp」（エクスプレッション・ペダル）に設定し、[VALUE] つまみを押す。
3. [VALUE] つまみで、Exp 「Category」 「Value」 を選び、[VALUE] つまみを押す。
4. [VALUE] つまみでエクスプレッション・ペダルに割り当てる機能を選び、[VALUE] つまみを押す。

● Category

設定値	説明
N/A	機能を割り当てません。
Video Fader	Fade: ビデオ・フェーダーを操作します。 Cut: 最終出力映像とプレビュー映像をカットで切り替えます。
Still Output	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。
Video Player Output	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
Audio Input Level	入力音量を調節します。
Audio Output Level	出力音量を調節します。
Voice Changer	普通の声（0）とエフェクトをかけた声（100）のバランスを調節します。
Reverb Level	リバーブからの音声の戻り量（リターン・レベル）を調節します。

● Value

「Category」に関連する詳細な設定をします。

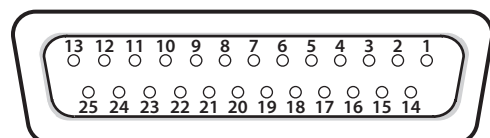
5. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

TALLY/GPIO 端子を使った制御

TALLY/GPIO 端子に GPI による制御信号を入力して、外部機器から V-80HD をリモート・コントロールすることができます。
また、TALLY/GPIO 端子からタリー信号や GPO による制御信号を出力することができます。

TALLY/GPIO 端子仕様

ピン配列図



25ピンD-subタイプ (メス)

タリー出力

起動方式	オープン・コレクター
最大入力	12V/120mA

制御入力

起動方式	無電圧メイク接点
接点容量	DC 24V 0.1A 以上
入力方式	フォトカプラー方式

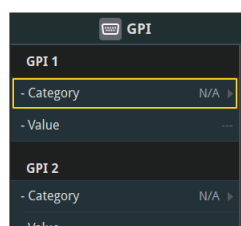
ピン・アサイン

ピン番号	ピン名称	機能 (初期値)
1	TALLY/GPO 1	PGM HDMI 1
2	TALLY/GPO 2	PST HDMI 1
3	TALLY/GPO 3	PGM HDMI 2
4	TALLY/GPO 4	PST HDMI 2
5	TALLY/GPO 5	PGM HDMI 3
6	TALLY/GPO 6	PST HDMI 3
7	TALLY/GPO 7	PGM HDMI 4
8	TALLY/GPO 8	PST HDMI 4
9	TALLY/GPO 9	PGM SDI 1
10	TALLY/GPO 10	PST SDI 1
11	TALLY/GPO 11	PGM SDI 2
12	TALLY/GPO 12	PST SDI 2
13	TALLY/GPO 13	PGM SDI 3
14	TALLY/GPO 14	PST SDI 3
15	TALLY/GPO 15	PGM SDI 4
16	TALLY/GPO 16	PST SDI 4
17	GND	
18	GPI 1	割り当てなし
19	GPI 2	割り当てなし
20	GPI 3	割り当てなし
21	GPI 4	割り当てなし
22	GPI 5	割り当てなし
23	GPI 6	割り当てなし
24	GPI 7	割り当てなし
25	GPI 8	割り当てなし

制御信号を入力する

外部から制御信号が入力されると、GPI 1 ～ 8 に割り当てられた機能を実行します。

1. [MENU] ボタン → [RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad] → [GPI] → GPI 1 ～ 8 [Category] [Value] を選び、[VALUE] つまみを押す。
2. [VALUE] つまみで GPI 1 ～ 8 に割り当てる機能を選び、[VALUE] を押す。



● Category

設定値	説明
N/A	機能を割り当てません。
PGM Channel Select	PGM バスに送る映像を切り替えます。
PST Channel Select	PST バスに送る映像を切り替えます。
AUX 1、2 Channel Select	AUX バスに送る映像を切り替えます。
Input 1 ～ 16 Assign	Input 1 ～ 16 に割り当てる映像を変更します。
Still Output	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。もう一度フットスイッチを踏むと、通常の出力に戻ります。
Video Player Output	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
PinP&Key 1 ～ 2 Source	子画面の映像ソースを切り替えます。
DSK Source	DSK の映像ソースを切り替えます。
Button Control	[VALUE] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
Audio Input Mute	入力音声のミュート機能をオン／オフします。
Audio Output Mute	出力音声のミュート機能をオン／オフします。
Audio Input Solo	入力音声のソロ機能をオン／オフします。
Audio Output Solo	出力音声のソロ機能をオン／オフします。
Voice Changer	ボイス・チェンジャーをオン／オフします。
Auto Mixing	オート・ミキシング機能をオン／オフします。
Reverb (Momentary)	フットスイッチを踏んでいる間だけ、リバーブをオンにします。
Reverb (Alternate)	リバーブをオン／オフします。
Output Fade	最終出力映像をフェード・イン／アウトします。
Load Memory	シーン・メモリーを呼び出します。
Input Scan	制御信号を入力するたびに、Input 1 ～ 8 の映像を順番に切り替えます。
Scene Memory Scan	制御信号を入力するたびに、シーン・メモリー 1 ～ 32 を順番に呼び出します。
PinP&Key 1 ～ 2 Scan	制御信号を入力するたびに、PinP&Key 1 ～ 2 子画面の映像を順番に切り替えます。

設定値	説明
DSK Scan	制御信号を入力するたびに、DSK のテロップの映像を順番に切り替えます。
Macro Execute	マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
Sequencer	シーケンサー機能がオンのとき、「Value」で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
GPO（One Shot）	制御信号を 0.5 秒間出力します。
GPO（Alternate）	制御信号を入力するたびに、制御信号の出力をオン／オフします。
Camera Control	カメラをコントロールします。

● Value

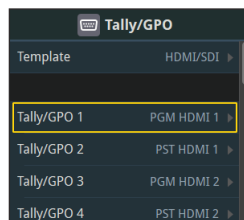
「Category」に関連する詳細な設定をします。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

タリー信号を出力する

TALLY/GPIO 端子のコネクター・ピン 1 ～ 16 をタリー出力として使うことができます。クロスポイント・ボタンの選択に連動して、タリー信号がコネクター・ピンから出力されます。

1. [MENU] ボタン → [RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad] → [Tally/GPO] → [Tally/GPO 1] ～ [Tally/GPO 16] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみでコネクター・ピンに割り当てるタリー信号を選び、[VALUE] つまみを押す。

設定値	説明
PGM HDMI 1 ～ 4	最終出力が HDMI IN 1 ～ 4 の映像
PGM SDI 1 ～ 4	最終出力が SDI IN 1 ～ 4 の映像
PGM Still 1 ～ 32	最終出力が静止画 1 ～ 32
PGM Video Player/SRT In	最終出力がビデオ・プレーヤー／SRT In の映像
PGM Input 1 ～ 16	クロスポイント・ボタンで最終出力映像を選ぶ
PST HDMI 1 ～ 4	プレビュー出力が HDMI IN 1 ～ 4 の映像
PST SDI 1 ～ 4	プレビュー出力が SDI IN 1 ～ 4 の映像
PST Still 1 ～ 32	プレビュー出力が静止画 1 ～ 32
PST Video Player/SRT In	プレビュー出力がビデオ・プレーヤー／SRT In の映像
PST Input 1 ～ 16	クロスポイント・ボタンでプレビュー出力映像を選ぶ

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

- 設定用テンプレートを使うと、コネクター・ピンの割り当てを一括で変更することができます。
Tally/GPO メニューの「Template」でテンプレートを選んで [VALUE] つまみを押すと、設定が反映されます。
- PinP&Key や DSK、AUX バスへの映像の出力状況をタリー情報に反映することができます。
Tally/GPO メニューの「Tally Settings」の各項目を「Enable」にすると、該当するバスへの映像出力状況がタリー情報に反映されます (P.151)。

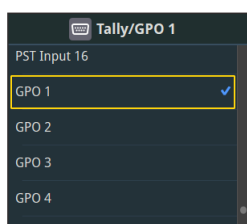
制御信号を出力する

TALLY/GPIO 端子のコネクタ・ピン 1 ～ 16 を GPO として使用して、制御信号を出力することができます。

GPO を割り当てる

TALLY/GPIO 端子の 1 ～ 16 番ピンに GPO (1 ～ 16) を割り当てると、制御信号を出力できるようになります。

1. [MENU] ボタン → [RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad] → [Tally/GPO] → [Tally/GPO 1] ～ [Tally/GPO 16] を選び、[VALUE] つまみを押す。



2. [VALUE] つまみで「GPO 1」～「GPO 16」のいずれかを選び、[VALUE] つまみを押す。
3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

設定用テンプレートを使うと、コネクタ・ピンの割り当てを一括で変更することができます。

Tally/GPO メニューの「Template」でテンプレートを選んで [VALUE] つまみを押すと、設定が反映されます。

制御信号を出力する

GPO 出力機能を割り当てた ASSIGNABLE PADS やフットスイッチなどを操作することで、制御信号を出力することができます。

ASSIGNABLE PADS を操作する

制御信号の出力中は、ASSIGNABLE PADS が点灯します。

➡ 「ASSIGNABLE PADS に機能を割り当てる」 (P.97)

フットスイッチを操作する

➡ 「フットスイッチを使う」 (P.103)

外部から制御信号を入力する (GPI)

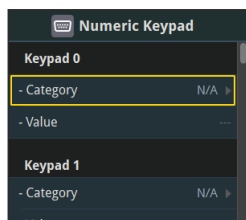
➡ 「制御信号を入力する」 (P.105)

USB テンキーを使った制御

USB HOST 端子に USB テンキーを接続して、映像切り替えなどの操作をコントロールすることができます。

USB テンキーを押すと、Keypad 0 ～ Enter に割り当てられた機能を実行します。

1. [MENU] ボタン → [RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad] → [Numeric Keypad] → Keypad 0 ～ Enter [Category] [Value] を選び、[VALUE] つまみを押す。



設定値	説明
GPO (One Shot)	制御信号を 0.5 秒間出力します。
GPO (Alternate)	制御信号を入力するたびに、制御信号の出力をオン/オフします。
Camera Control	カメラをコントロールします。

● Value

「Category」に関連する詳細な設定をします。

3. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

2. [VALUE] つまみで Keypad 0 ～ Enter に割り当てる機能を選び、[VALUE] を押す。

● Category

設定値	説明
N/A	機能を割り当てません。
PGM Channel Select	PGM バスに送る映像を切り替えます。
PST Channel Select	PST バスに送る映像を切り替えます。
AUX 1、2 Channel Select	AUX バスに送る映像を切り替えます。
Input 1 ～ 16 Assign	Input 1 ～ 16 に割り当てる映像を変更します。
Still Output	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー/最終出力します。もう一度フットスイッチを踏むと、通常の出力に戻ります。
Video Player Output	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレイヤーの映像をカットでプレビュー/最終出力します。
PinP&Key 1 ～ 2 Source	子画面の映像ソースを切り替えます。
DSK Source	DSK の映像ソースを切り替えます。
Button Control	[VALUE] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
Audio Input Mute	入力音声のミュート機能をオン/オフします。
Audio Output Mute	出力音声のミュート機能をオン/オフします。
Audio Input Solo	入力音声のソロ機能をオン/オフします。
Audio Output Solo	出力音声のソロ機能をオン/オフします。
Voice Changer	ボイス・チェンジャーをオン/オフします。
Auto Mixing	オート・ミキシング機能をオン/オフします。
Reverb (Momentary)	フットスイッチを踏んでいる間だけ、リバーブをオンにします。
Reverb (Alternate)	リバーブをオン/オフします。
Output Fade	最終出力映像をフェード・イン/アウトします。
Load Memory	シーン・メモリーを呼び出します。
Input Scan	制御信号を入力するたびに、Input 1 ～ 8 の映像を順番に切り替えます。
Scene Memory Scan	制御信号を入力するたびに、シーン・メモリー 1 ～ 32 を順番に呼び出します。
PinP&Key 1 ～ 2 Scan	制御信号を入力するたびに、PinP&Key 1 ～ 2 子画面の映像を順番に切り替えます。
DSK Scan	制御信号を入力するたびに、DSK のテロップの映像を順番に切り替えます。
Macro Execute	マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
Sequencer	シーケンサー機能がオンのとき、[Value] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。

スマート・タリーを使う

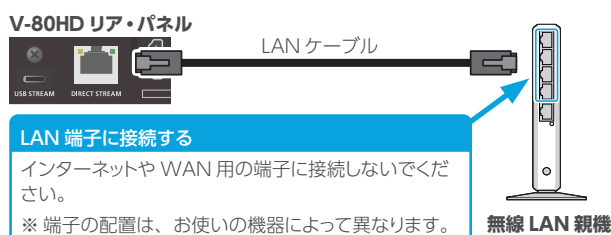
ローランド独自のスマート・タリー・システムは、V-80HD に接続されたスマート・デバイスやパソコンをタリー・ボックスに変身させる機能です。無線 LAN アクセス・ポイントを使えば、スマート・デバイスやパソコンにタリーを表示することができます。

無線 LAN 親機を介して接続する

無線 LAN 親機を介して、Wi-Fi 対応のスマート・デバイスやパソコンを無線 LAN (Wi-Fi) で接続します。

※ 複数のスマート・デバイスやパソコンを接続すると、動作が遅くなる場合があります。

1. V-80HD の DIRECT STREAM 端子と無線 LAN 親機の LAN 端子を LAN ケーブルで接続する。



2. 無線 LAN 親機の電源を入れ、スマート・デバイスやパソコンを無線 LAN (Wi-Fi) で接続する。

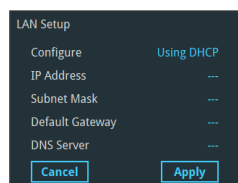
無線 LAN 親機の DHCP 機能を有効にしてください。

※ 無線 LAN (Wi-Fi) の接続方法については、お使いの機器の取扱説明書をお読みください。

3. V-80HD の電源を入れる。

4. [MENU] ボタン → [Network] → [LAN Setup] → [Configure] を [Using DHCP] に設定し、[VALUE] つまみを押す。

IP アドレス、サブネット・マスク、デフォルト・ゲートウェイが自動取得されます。



5. [VALUE] つまみで [Apply] を選び、[VALUE] つまみを押す。

6. [VALUE] つまみで [Network Information] を選び、[VALUE] つまみを押す。

Network Information 画面が表示されます。

Network Information	
Link Status	Connected
IP Address	192.168.11.2
Subnet Mask	255.255.255.0
Default Gateway	192.168.11.1
DNS Server	192.168.11.1

「Link Status」が「Connected」(接続)になっていたら、接続の設定は完了です。

メモ

IP アドレスを固定すると、常に同じ IP アドレスでスマート・タリーを起動することができます。

固定 IP アドレスの設定方法については、お使いの無線 LAN 親機の取扱説明書をお読みください。

スマート・タリーを起動する

1. V-80HD の [MENU] ボタン → [Network] → [Network Information] を選び、[VALUE] つまみを押す。

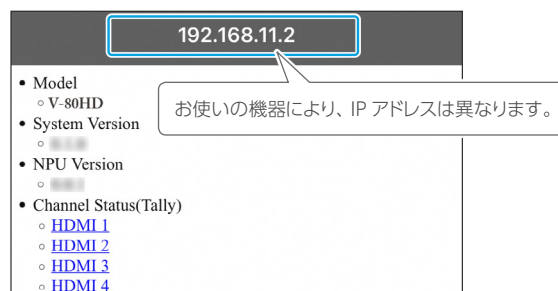
Network Information 画面が表示されます。

Network Information	
Link Status	Connected
IP Address	192.168.11.2
Subnet Mask	255.255.255.0
Default Gateway	192.168.11.1
DNS Server	192.168.11.1

2. スマート・デバイスやパソコンでブラウザを起動する。

3. ブラウザーの URL 入力欄に、Network Information 画面に表示されている IP アドレスを入力して、Web サイトへアクセスする。

スマート・タリーの設定画面が表示されます。



※ QR コードから Web サイトにアクセスすることもできます。手順 1 の画面で「2D Code for Smart Tally」を押すと、QR コードが表示されます。

4. 「Channel Status (Tally)」で、スマート・デバイスやパソコンに割り当てる映像ソースを選ぶ。

タリー情報を表示する画面に切り替わります。

V-80HD から出力される映像ソースに応じて、タリー情報が表示されます。



赤：PGM



緑：PST



グレー：未選択

注意

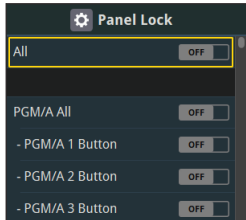
- ネットワーク環境によっては、無線 LAN (Wi-Fi) の通信速度や接続が不安定になり、タリー情報が正しく表示されない場合があります。その場合は、ページを再読み込みしてください。
- お使いのブラウザのバージョンによっては、タリー情報が正しく表示されない場合があります。できる限りブラウザを最新のバージョンにして、お使いください。

誤操作を防止する（パネル・ロック）

操作パネルのボタンやつまみの操作を禁止して、誤操作を防ぐことができます（パネル・ロック機能）。

1. [MENU] ボタン → [System] → [Panel Lock] を選び、[VALUE] つまみを押す。

Panel Lock メニューが表示されます。



2. [VALUE] つまみでパネル・ロックの対象を選び、[VALUE] つまみを押す。

メニュー項目	説明
All	すべての操作子
PGM/A All	PGM/A セクションにあるボタン
PGM/A 1 ～ 8 Button	PGM/A [1] ～ [8] ボタン
PST/B All	PST/B セクションにあるボタン
PST/B 1 ～ 8 Button	PST/B [1] ～ [8] ボタン
TRANSITION Button	[TRANSITION] ボタン
CUT Button	[CUT] ボタン
AUTO Button	[AUTO] ボタン
Video Fader	フェーダー
INPUT ASSIGN Button	[INPUT ASSIGN] ボタン
MODE All	[MODE] ボタンと、各 MODE で有効になるボタン
MODE Button	[MODE] ボタン
AUX 1 Button	MODE が AUX 1 のときの [AUX 1] ボタン
AUX 2 Button	MODE が AUX 2 のときの [AUX 2] ボタン
MEMORY Button	MEMORY [1] ～ [24] ボタン
MACRO Button	MACRO [1] ～ [24] ボタン
SPLIT All	SPLIT セクションにあるボタン、つまみ
SPLIT 1 Button	[SPLIT 1] ボタン
SPLIT 2 Button	[SPLIT 2] ボタン
PGM/A-CENTER	[PGM/A-CENTER] つまみ
PST/B-CENTER	[PST/B-CENTER] つまみ
PinP&Key 1 All	PinP&Key 1 セクションにあるボタン、つまみ
POSITION H Knob	[POSITION H] つまみ
POSITION V Knob	[POSITION V] つまみ
SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
PVW Button	[PVW] ボタン
PGM Button	[PGM] ボタン
PinP&Key 2 All	PinP&Key 2 セクションにあるボタン、つまみ
POSITION H Knob	[POSITION H] つまみ
POSITION V Knob	[POSITION V] つまみ
SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
PVW Button	[PVW] ボタン
PGM Button	[PGM] ボタン

メニュー項目	説明
DSK All	DSK セクションにあるボタン、つまみ
LEVEL Knob	[LEVEL] つまみ
GAIN Knob	[GAIN] つまみ
SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
PVW Button	[PVW] ボタン
PGM Button	[PGM] ボタン
ASSIGNABLE PADS All	ASSIGNABLE PADS セクションにあるボタン
SETUP Button	[SETUP] ボタン
ASSIGNABLE PAD 1 ～ 8	ASSIGNABLE PAD 1 ～ 8
AUDIO MIXER All	AUDIO MIXER セクションにあるボタン、つまみ
SETUP Button	[SETUP] ボタン
Input Knob 1 ～ 3/4	AUDIO INPUT LEVEL [1] ～ [3/4] つまみ
Input Knob USB IN	AUDIO INPUT LEVEL [USB IN] つまみ
Output Knob AUX 1 ～ 2	[AUX 1] ～ [AUX 2] つまみ
Output Knob MAIN	[MAIN] つまみ
MONITOR All	MONITOR セクションにあるボタン
MONITOR 1 ～ 4 Button	MONITOR [1] ～ [4] ボタン
CAPTURE IMAGE Button	[CAPTURE IMAGE] ボタン
AUDIO LEVEL Button	[AUDIO LEVEL] ボタン
OUTPUT FADE Button	[OUTPUT FADE] ボタン
SEQUENCER All	SEQUENCER セクションにあるボタン
ON Button	[ON] ボタン
PREVIOUS Button	[PREVIOUS] ボタン
NEXT Button	[NEXT] ボタン

3. [VALUE] つまみでパネル・ロックの有効（ON）／無効（OFF）を設定し、[VALUE] つまみを押す。
4. [MENU] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メモ

ロックされたボタンやつまみなどを操作すると、[MENU] ボタンが点滅します。

設定を工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)

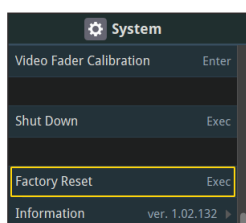
V-80HD で設定した内容を工場出荷時の状態に戻します。

手順どおりに操作をしても、取扱説明書に記載されている内容と違う動作をするときは、ファクトリー・リセットを実行してみてください。

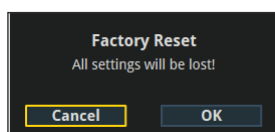
注意

- ファクトリー・リセットを実行すると、それまでに設定した内容や V-80HD に保存されているデータ(シーン・メモリー、マクロ、シーケンサー、静止画)は、すべて失われます。
- 「Processing...」というメッセージが表示されている間は、電源を切らないでください。

1. **[MENU] ボタン → [System] → [Factory Reset] を選び、[VALUE] つまみを押す。**



確認メッセージが表示されます。



※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

2. **[VALUE] つまみで [OK] を選び、[VALUE] つまみを押す。**

ファクトリー・リセットが実行されます。完了すると「Completed.」と表示されます。

V-80HD のリモート・コントロール

V-80HD のリモート・コントロールには、外部機器から制御信号を入力する方法 (P.105) の他に、専用アプリを使う方法と LAN/RS-232 コマンドを使う方法があります。

専用アプリ 「V-80HD RCS」 「V-80HD Remote」

専用アプリは、パソコン用に「V-80HD RCS」、iPad 用に「V-80HD Remote」が用意されています。

それぞれローランド・ホームページからダウンロードできます。

<https://proav.roland.com/jp/>

※ 詳しい接続方法については、「V-80HD RCS」(パソコン用) または「V-80HD Remote」(iPad 用) の接続ガイドをご覧ください。

V-80HD RCS (Windows/Mac)

パソコンから専用アプリ「V-80HD RCS」を使って、V-80HD を操作することができます。

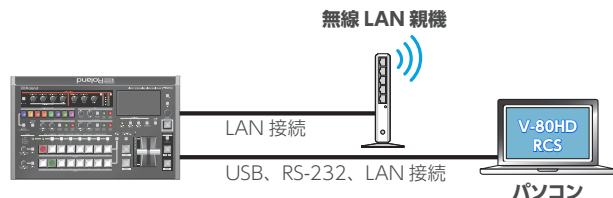
接続は有線、無線の両方に対応しています。

無線接続

- 無線 LAN 親機を介した接続 (Wi-Fi)

有線接続

- USB 接続 (USB Type-C ケーブル)
- LAN 接続 (LAN ケーブル)
- RS-232 接続 (RS-232 ケーブル)



V-80HD Remote

iPad から専用アプリ「V-80HD Remote」を使って、V-80HD を操作することができます。

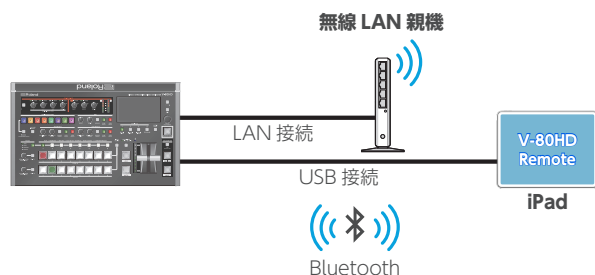
接続は有線、無線の両方に対応しています。

無線接続

- Bluetooth 無線技術で接続
- 無線 LAN 親機を介した接続 (Wi-Fi)

有線接続

USB 接続 (USB Type-C ケーブル、Lightning-USB カメラアダプタ)



LAN/RS-232 コマンド

V-80HD は、LAN と RS-232 の 2 つのリモート・インターフェース通信に対応しています。

DIRECT STREAM 端子や RS-232 端子を利用して、制御機器から V-80HD に特定のコマンドを送信することで、V-80HD を操作することができます。

各インターフェースの詳細や LAN/RS-232 コマンド一覧は、『リモート・コントロール・ガイド』(Web) をご覧ください。

https://roland.cm/v-80hd_om

メモ

MIDI インプリメンテーション

V-80HD は、MIDI リモート・コントロールに対応しています。

詳しくは、『リモート・コントロール・ガイド』(Web) の「MIDI インプリメンテーション」をご覧ください。

1: Video Assign

メニュー項目	設定値	説明
Panel Operation = A/B、PGM/PST のとき		
Input 1 ～ 8	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、 Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、 Stream&Record Status 1、2、 Date&Time(Analog/Digital) (*2)、 N/A 初期値は、以下のとおりです。 Input 1: HDMI 1 Input 2: HDMI 2 Input 3: HDMI 3 Input 4: HDMI 4 Input 5: SDI 1 Input 6: SDI 2 Input 7: SDI 3 Input 8: SDI 4	クロスポイント [1] ～ [8] ボタンに割り当てる映像ソース（入力映像、静止画）を設定します。
Panel Operation = Dissolve、PGM/PST(16) のとき		
Input 1 ～ 16	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、 Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、 Stream&Record Status 1、2、 Date&Time(Analog/Digital) (*2)、 N/A 初期値は、以下のとおりです。 Input 1: HDMI 1 INPUT 9: STILL 1 Input 2: HDMI 2 INPUT 10: STILL 2 Input 3: HDMI 3 INPUT 11: STILL 3 Input 4: HDMI 4 INPUT 12: STILL 4 Input 5: SDI 1 INPUT 13: STILL 5 Input 6: SDI 2 INPUT 14: STILL 6 Input 7: SDI 3 INPUT 15: STILL 7 Input 8: SDI 4 INPUT 16: STILL 8	PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタン、PST/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンに割り当てる映像ソース（入力映像、静止画）を設定します。
HDMI Out 1 ～ 3	HDMI OUT 1 ～ 3 端子に割り当てる映像バスを設定します。	
	Program	最終出力映像。「HDMI Out 1」の初期値です。
	Sub Program	Sub Program バスの映像
	Preview	プレビュー出力映像。「HDMI Out 2」の初期値です。
	AUX 1、AUX 2	AUX 1、AUX 2 バスの映像
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像
	Multi-View	マルチビュー。「HDMI Out 3」の初期値です。
	Input-View 1、Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面）
	Quad-View	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（4 分割画面）
SDI Out 1 ～ 2	SDI OUT 1 ～ 3 端子に割り当てる映像バスを設定します。	
	Program	最終出力映像。「SDI Out 1」の初期値です。
	Sub Program	Sub Program バスの映像
	Preview	プレビュー出力映像。「SDI Out 2」の初期値です。
	AUX 1、AUX 2	AUX バスの映像
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像
	Multi-View	マルチビュー
	Input-View 1、Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面）
	Quad-View	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（4 分割画面）
USB Out	USB STREAM 端子に割り当てる映像バスを設定します。	
	Program	最終出力映像
	Sub Program	Sub Program バスの映像
	Preview	プレビュー出力映像
	AUX 1、AUX 2	AUX バスの映像
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像
	Multi-View	マルチビュー
	Input-View 1、Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面）
	Quad-View	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（4 分割画面）

メニュー項目	設定値	説明
Stream& Record	DIRECT STREAM 端子に割り当てる映像バスを設定します。	
	Program	最終出力映像
	Sub Program	Sub Program バスの映像
	Preview	プレビュー出力映像
	AUX 1、AUX 2	AUX バスの映像
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像
	Multi-View	マルチビュー
	Input-View 1、Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面）
LCD Monitor	本体ディスプレイに割り当てる映像バスを設定します。	
	Program	最終出力映像
	Sub Program	Sub Program バスの映像
	Preview	プレビュー出力映像
	AUX 1、AUX 2	AUX バスの映像
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像
	Multi-View	マルチビュー
	Input-View 1、Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像（16 分割画面）
Program Layer	Enter	
	Program Layer メニューを表示します。	
	メニュー項目	設定値
	PinP & Key 1 ~ 2	Disable、Enable
DSK	Disable、Enable	
	最終出力映像において、各レイヤーの表示 (Enable) / 非表示 (Disable) を設定します。	
Sub Program Layer	Enter	
	Sub Program Layer メニューを表示します。	
	メニュー項目	設定値
	PinP & Key 1 ~ 2	Disable、Enable
DSK	Disable、Enable	
	Sub Program バスの映像において、各レイヤーの表示 (Enable) / 非表示 (Disable) を設定します。	
AUX 1 Source	HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ~ 16	AUX 1 バスに送る映像を選びます。 モードが「AUX 1」のときは、クロスポイント [1] ~ [8] ボタンで AUX 1 バスに送る映像を選ぶこともできます。 「Input1 ~ 16」に設定すると、Input Assign に連動したソースが選ばれます。
AUX 1 Layer	Enter	
	AUX 1 Layer メニューを表示します。	
	メニュー項目	設定値
	PinP & Key 1 ~ 2	Disable、Enable、Always On
DSK	Disable、Enable、Always On	
	AUX 1 バスの映像において、各レイヤーの常時表示 (Always On) / 表示 (Enable) / 非表示 (Disable) を設定します。	
AUX 2 Source	HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ~ 16	AUX 2 バスに送る映像を選びます。 モードが「AUX 2」のときは、クロスポイント [1] ~ [8] ボタンで AUX 2 バスに送る映像を選ぶこともできます。 「Input1 ~ 16」に設定すると、Input Assign に連動したソースが選ばれます。
AUX 2 Layer	Enter	
	AUX 2 Layer メニューを表示します。	
	メニュー項目	設定値
	PinP & Key 1 ~ 2	Disable、Enable、Always On
DSK	Disable、Enable、Always On	
	AUX 2 バスの映像において、各レイヤーの常時表示 (Always On) / 表示 (Enable) / 非表示 (Disable) を設定します。	

(*1) 「[MENU] ボタン→Video Player/SRT In→Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

(*2) 「System→Date&Time→Clock Display Type」の設定により、Analog または Digital のどちらかが表示されます。

2: Video Input

メニュー項目	設定値	説明
HDMI In 1 ~ 2(Scaler)、HDMI In 3、4(4K Scaler) HDMI IN 1 ~ 4 端子から入力される映像を調節します		
Input Status	Enter	入力映像の情報（フォーマットやサイズなど）を表示します。
Test Pattern (*1、*2)	Off、Color Bars 75%、Color Bars100%、Ramp、Step、Hatch、Diamond、Circle、Color Bars 75%-SP、Color Bars100%-SP、Ramp-SP、Step-SP、Hatch-SP	表示するテスト・パターンを選びます。
Color Space (*1、*2)	Auto、RGB (0-255)、RGB (16-235)、YPbPr (SD)、YPbPr (HD)	カラー・スペースを設定します。
Flicker Filter (*1、*2)	OFF、ON	「ON」にすると、ちらつきを軽減します。
Flip H (*1、*2)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を左右反転させて入力します。
Flip V (*1、*2)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を上下反転させて入力します。
EDID (*1、*2、*3)	Internal Internal-4K (*4) Internal-4K (4:2:0) (*4) Internal-2K (*4) SVGA (800 x 600) XGA (1024 x 768) WXGA (1280 x 800) FWXGA (1366 x 768) SXGA (1280 x 1024) SXGA+ (1400 x 1050) UXGA (1600 x 1200) WUXGA (1920 x 1200) 720p、1080i、1080p	入力フォーマット (EDID) を設定します。 「Internal」に設定すると、V-80HD に入力できるすべてのフォーマットの EDID 情報を送信します。 EDID とは？ EDID とは、V-80HD をソース機器に接続したときに、V-80HD からソース機器に送信されるデータです。EDID には、V-80HD に入力できるフォーマット（解像度、カラー・スペース、色深度）や音声情報などのデータが記録されています。 ソース機器は、受信した EDID 情報を元に V-80HD に最適な映像を出力します。
Zoom (*1、*2)	10.0 ~ 1000% (*3)	拡大／縮小率を設定します。
Scaling Type (*1、*2)	スケーリング・タイプを設定します。	
	Full	入力映像のアスペクト比に関係なく、常に全画面に拡大して表示します。
	Letterbox	アスペクト比を保持したまま、全画面が表示されるように、入力映像を拡大／縮小します。
	Crop	アスペクト比を保持したまま、出力映像に余白がないように、入力映像を拡大／縮小します。はみ出した映像は、カットされます。
	Dot By Dot	スケーリングをしません。
	Manual	以下の「Manual Size H」と「Manual Size V」の設定に従って、スケーリングします。
Manual Size H (*5)	-2000 ~ 2000 (*3)	水平方向のサイズを調節します。
Manual Size V (*5)	-2000 ~ 2000 (*3)	垂直方向のサイズを調節します。
Position H (*1、*2)	-1920 ~ 1920	水平方向の位置を調節します。
Position V (*1、*2)	-1200 ~ 1200	垂直方向の位置を調節します。
Brightness (*1、*2)	-32 ~ 31	明るさを調節します。
Contrast (*1、*2)	-32 ~ 31	コントラストを調節します。
Saturation (*1、*2)	-32 ~ 31	彩度を調節します。
Red (*1、*2)	-64 ~ 63	赤レベルを調節します。
Green (*1、*2)	-64 ~ 63	緑レベルを調節します。
Blue (*1、*2)	-64 ~ 63	青レベルを調節します。
SDI In 1 ~ 4 SDI IN 1 ~ 4 端子から入力される映像を調節します。		
Input Status	Enter	入力映像の情報（フォーマットやサイズなど）を表示します。
Flip H (*1)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を左右反転させて入力します。
Flip V (*1)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を上下反転させて入力します。
Brightness (*1)	-32 ~ 31	明るさを調節します。
Contrast (*1)	-32 ~ 31	コントラストを調節します。
Saturation (*1)	-32 ~ 31	彩度を調節します。
Video Player/SRT In ビデオ・プレーヤーまたは SRT プロトコルで入力される映像を調節します。		
Flip H (*1)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を左右反転させて入力します。
Flip V (*1)	OFF、ON	「ON」にすると、映像を上下反転させて入力します。

(*1) 「Roland Fill+Key」の「Mode」が「ON」のときは、設定が無効になります (HDMI In 1 のみ)。

(*2) 「Test Pattern」を「Off」以外に設定したときは、「Color Space」～「Blue」の設定は無効になります。

(*3) 設定の変更は、[VALUE] つまみを押して確定するまで反映されません

(*4) HDMI In 3、4(4K Scaler) で設定できます。

(*5) 「Scaling Type」が「Manual」のときに設定できます。

3 : Video Output

メニュー項目	設定値	説明
HDMI Out 1 ～ 3 HDMI OUT 1 ～ 3 端子から出力される映像を調節します。		
Output Status	---	接続状態や HDCP 信号の有無を表示します。接続がない場合は、「Not Connected」と表示されます。
Color Space	YPbPr (4:4:4)、YPbPr (4:2:2)、RGB (0-255)、RGB (16-235)	カラー・スペースを設定します。
DVI-D/HDMI Signal	HDMI、DVI-D	出力信号の種類を設定します。
Brightness	-64 ～ 63	明るさを調節します。
Contrast	-64 ～ 63	コントラストを調節します。
Saturation	-64 ～ 63	彩度を調節します。
Red	-64 ～ 63	赤レベルを調節します。
Green	-64 ～ 63	緑レベルを調節します。
Blue	-64 ～ 63	青レベルを調節します。
External Rec Control	OFF、ON	外部 REC コントロール機能のオン／オフを設定します。 「ON」にすると、REC コントロール機能対応のレコーダーに、録画開始／停止のコマンドを送ることができます。 外部 REC コントロール機能を使うには、ASSIGNABLE PADS に録画開始／停止の機能を割り当てる必要があります。Assignable Pads メニューの「Pad A-1」～「Pad H-8」→「Category」を「Control」、 「Function」を「External Rec Control」に設定します。
SDI Out 1 ～ 2 SDI OUT 1 ～ 2 端子から出力される映像を調節します。		
Output Status	---	フォーマットを表示します。 ※ System メニューの「HDCP」が「On」のときは、「HDCP Masked」と表示され、SDI OUT 端子から映像／音声は出力されません。
3G-SDI Mapping	Level-A、Level-B	3G-SDI 出力のマッピング・ストラクチャーを設定します。
Brightness	-64 ～ 63	明るさを調節します。
Contrast	-64 ～ 63	コントラストを調節します。
Saturation	-64 ～ 63	彩度を調節します。
USB Out USB STREAM 端子から出力される映像を調節します。 ※ USB 出力の映像フォーマットや圧縮方式は、出力先のライブ配信用アプリなどで変更することができます。		
Output Status	---	USB 2.0 (High Speed) と USB 3.0 (Super Speed) のどちらで接続しているかを表示します。 パソコンと未接続のときは、「Not Connected」と表示されます。 ※ System メニューの「HDCP」が「On」のときは、「HDCP Masked」と表示され、USB STREAM 端子から映像／音声は出力されません。
Output Format	出力先のライブ配信アプリで選ぶことができるフォーマットを設定します。	
	YUY2 & MJPEG	YUY2 と Motion JPEG を選ぶことができます。
	YUY2	YUY2 のみ選ぶことができます。
Connection Reset	Exec	映像が乱れるなど動作が安定しないときに、パソコンと V-80HD を再接続します。

4 : Mix/Wipe

メニュー項目	設定値	説明					
Mix	ミックスの詳細を設定します。						
Mix Type	ミックスの切り替えパターンを設定します。						
	Mix	2 つの映像が混ざり合いながら切り替わります。					
	FAM	2 つの映像の輝度レベルを一定に保ちながら映像が切り替わります。 フル・アディティブ・ミックスの略です。					
	NAM	2 つの映像を比較し、輝度レベルの高い部分を表示しながら映像が切り替わります。 ノン・アディティブ・ミックスの略です。					
Mix Time	0.0 ～ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。					
Wipe	ワイプの詳細を設定します。						
Wipe Type	ワイプの切り替えパターンを設定します。						
	Horizontal 	Vertical 	Upper Left 	Upper Right 	Lower Left 	Lower Right 	H-Center 
Wipe Time	0.0 ～ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。					
Direction	Normal、Reverse、Round Trip	ワイプの方向を設定します。					
Border Color	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black、Custom、Soft Edge	ワイプの周囲に付ける縁取りの色を設定します。 [Soft Edge] にすると、ワイプの境界をぼかします。					
Edit	Enter	カスタム・カラーを設定します。					
Border Width	0 ～ 14	ワイプの周囲に付ける縁取りの幅を設定します。					

5 : Split

メニュー項目	設定値	説明
Split 1、2	スプリット合成の詳細を設定します。	
Split Type	スプリットの画面レイアウトを設定します。	
	Split V	映像の中央部を縦に切り出して合成します（左右分割）。Split 1 の初期値です。 
PGM/A Source	Split H	映像の中央部を横に切り出して合成します（上下分割）。Split 2 の初期値です。 
	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	左または上側に表示させたい映像ソースを選びます。 PGM/A クロスポイント [1] ～ [8] ボタンの選択に連動します。
PST/B Source	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1、Input 2 ～ 16	右または下側に表示させたい映像ソースを選びます。 PST/B クロスポイント [1] ～ [8] ボタンの選択に連動します。
PGM/A Center	-50.0 ～ 50.0%	Split V のとき 左側に配置された映像の水平方向の位置を調節します。 Split H のとき 上側に配置された映像の垂直方向の位置を調節します。 ※ 左または上側には、PGM/A バスの映像が配置されます。
PST/B Center	-50.0 ～ 50.0%	Split V のとき 右側に配置された映像の水平方向の位置を調節します。 Split H のとき 下側に配置された映像の垂直方向の位置を調節します。 ※ 右または下側には、PST/B バスの映像が配置されます。
Center Position	-50.0 ～ 50.0%	境界線の位置を調節します。
Border Color	White、Yellow、Cyan、Green、Magenta、Red、Blue、Black、Custom	境界線の色を設定します。
Edit	Enter	カスタム・カラーを設定します。
Border Width	0 ～ 14	境界線の幅を設定します。

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

6 : PinP & Key

メニュー項目	設定値	説明
PinP & Key 1 ~ 2		
Type	PinP 合成のタイプを設定します。	
	PinP	背景映像の上に子画面の映像を合成します。
	Luminance-White Key	PinP とルミナンス・キー（白）の組み合わせです。 子画面映像の白い部分を透明にして、背景映像と合成します。
	Luminance-Black Key	PinP とルミナンス・キー（黒）の組み合わせです。 子画面映像の黒い部分を透明にして、背景映像と合成します。
	Chroma Key	PinP とクロマ・キーの組み合わせです。 子画面映像の指定したキー色部分を透明にして、背景映像と合成します。
Source	HDMI 1 ~ 4, SDI 1 ~ 4, Still 1 ~ 32, V.Player/SRT In (*1), Input 1 ~ 16	子画面の映像ソースを設定します。
Time	0.0 ~ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。
Copy From PinP&Key 2/1	---	PinP & KEY 1 または 2 の設定をコピーします。 [VALUE] つまみを押すと、設定をコピーすることができます。
Swap With PinP&Key 2/1	---	PinP & KEY 1 と 2 の設定を入れ替えます。 [VALUE] つまみを押すと、設定を入れ替えることができます。
Type = PinP のとき		
Window	子画面を調節します。	
Position H	-100.0 ~ -40.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向の位置を調節します。
Position V	-100.0 ~ -40.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向の位置を調節します。
Size	0.0 ~ 100.0%	子画面のサイズを調節します。
Cropping H	0.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向のサイズを調節します。
Cropping V	0.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向のサイズを調節します。
Shape	Rectangle, Circle, Diamond	子画面の形（長方形、丸、ひし形）を設定します。
Border Color	White, Yellow, Cyan, Green, Magenta, Red, Blue, Black, Custom, Soft Edge	子画面に付ける縁取りの色を設定します。 [Soft Edge] にすると、子画面の縁をぼかします。
Edit	Enter	カスタム・カラーを設定します。
Border Width	0 ~ 14	子画面に付ける縁取りの幅を調節します。
View	子画面に表示される映像を調節します。	
Position H	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の水平方向の位置を調節します。
Position V	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の垂直方向の位置を調節します。
Zoom	100 ~ 400%	子画面映像の拡大率を調節します。
Type = Luminance-White Key, Luminance-Black Key のとき		
Window	子画面を調節します。	
Position H	-100.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向の位置を調節します。
Position V	-100.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向の位置を調節します。
Size	0.0 ~ 100.0%	子画面のサイズを調節します。
Cropping H	0.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向のサイズを調節します。
Cropping V	0.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向のサイズを調節します。
View	子画面に表示される映像を調節します。	
Position H	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の水平方向の位置を調節します。
Position V	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の垂直方向の位置を調節します。
Zoom	100 ~ 400%	子画面映像の拡大率を調節します。
Key	キーの設定をします。	
Key Level	0 ~ 255	キーの抜け具合（透過度）を調節します。
Key Gain	0 ~ 255	キーのエッジのぼかし具合（半透過領域）を調節します。
Mix Level	0 ~ 255	キー全体の濃度（出力レベル）を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
Type = Chroma Key のとき		
Window	子画面を調節します。	
Position H	-100.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向の位置を調節します。
Position V	-100.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向の位置を調節します。
Size	0.0 ~ 100.0%	子画面のサイズを調節します。
Cropping H	0.0 ~ 100.0%	子画面の水平方向のサイズを調節します。
Cropping V	0.0 ~ 100.0%	子画面の垂直方向のサイズを調節します。
View	子画面に表示される映像を調節します。	
Position H	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の水平方向の位置を調節します。
Position V	-50.0 ~ 50.0%	子画面映像の垂直方向の位置を調節します。
Zoom	100 ~ 400%	子画面映像の拡大率を調節します。
Key	キーの設定をします。	
Key Level	0 ~ 255	キーの抜け具合（透過度）を調節します。
Key Gain	0 ~ 255	キーのエッジのぼかし具合（半透過領域）を調節します。
Mix Level	0 ~ 255	キー全体の濃度（出力レベル）を調節します。
Chroma	クロマ・キーの詳細を設定します。	
Color	Green, Blue	キー色（抜き色）を緑または青に設定します。緑や青以外の色を透明にしたい場合は、「Chroma Sampling Marker」でキー色を設定します。
Hue Width	-30 ~ 30	キー色の色相の幅を調節します。
Hue Fine	0 ~ 360	キー色の色相の中心位置を調節します。
Saturation Width	-128 ~ 127	キー色の彩度の幅を調節します。
Saturation Fine	0 ~ 255	キー色の彩度の中心位置を調節します。
Value Width	-128 ~ 127	キー色の明度の幅を調節します。
Value Fine	0 ~ 255	キー色の明度の中心位置を調節します。
Despill	OFF, ON	「ON」にすると、透過部分との境界付近で背景色がにじんでしまうのを除去することができます。
Chroma Sampling Marker	Enter	映像から透明にしたい色をサンプリング（検出）して、キー色を指定することができます（P.45）。

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

7 : DSK

メニュー項目	設定値	説明
DSK	DSK レイヤーごとに、DSK 合成の詳細を設定します。	
DSK Mode (*1)	DSK モードを設定します。	
	Self Key	ルミナンス・キー（明るさ）やクロマ・キー（色）を使って映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。
	Alpha Key	アルファ・チャンネル（透過度情報を持つ領域）を利用して静止画を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。
	External Key	キー信号（切り抜き形状）とフィル映像（合成される映像）を別々に設定します（エクスターナル・キー）。キー信号でフィル映像を切り抜き、背景映像に重ねて合成します。
DSK Source (*2)	HDMI 1 ~ 4, SDI 1 ~ 4, Still 1 ~ 32, V.Player/SRT In (*7), Input 1 ~ 16	上に重ねるテロップや映像のソースを設定します。
	※ DSK Mode = Self Key のとき	
	Still 1 ~ 32	
Key Source (*3)	Still 1 ~ 32	※ DSK Mode = Alpha Key のとき
	※ DSK Mode = Alpha Key のとき	
	Still 1 ~ 32	
Key Source (*3)	HDMI 1 ~ 4, SDI 1 ~ 4, Still 1 ~ 32, V.Player/SRT In (*7), Input 1 ~ 16	キー信号（切り抜き形状）として使用する映像を設定します。 ※ DSK Mode = External Key のとき、[VALUE] つまみを長押しして初期化すると初期値は「HDMI 3 ~ 4」になります。
Fill Source (*3)	HDMI 1 ~ 4, SDI 1 ~ 4, Still 1 ~ 32, V.Player/SRT In (*7), Input 1 ~ 16	フィル映像（合成される映像）のソースを設定します。 ※ DSK Mode = External Key のとき、[VALUE] つまみを長押しして初期化すると初期値は「HDMI 3 ~ 4」になります。
DSK Time	0.0 ~ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。
DSK Type (*4)	DSK 合成のキー・タイプを設定します。	
	Luminance-White Key	ルミナンス・キーで合成します。 明るさを基準にして、白い部分を透明にします。
	Luminance-Black Key	ルミナンス・キーで合成します。 明るさを基準にして、黒い部分を透明にします。
	Chroma Key	クロマ・キーで合成します。 色を基準にして、指定したキー色を透明にします。

メニュー項目	設定値	説明
DSK Level (*4)	0 ～ 255	キーの抜け具合（透過度）を調節します。
DSK Gain (*4)	0 ～ 255	キーのエッジのぼかし具合（半透過領域）を調節します。
Mix Level	0 ～ 255	キー全体の濃度（出力レベル）を調節します。
Fill Type (*4)	フィル素材（キー合成する映像）の種類を設定します。	
	Bus	「DSK Source」で指定した映像を使います。
	Matte	内蔵のカラー・マット（単色画像）を使います。上に重ねたテロップや映像が、マットの色で塗りつぶされます。マットの色は、以下の「Matte Color」で設定します。
Matte Color (*5)	White, Yellow, Cyan, Green, Magenta, Red, Blue, Black, Custom	マットの色を設定します。
Edit	Enter	カスタム・カラーを設定します。
Edge Type (*4)	Off, Border, Drop, Shadow, Outline	上に重ねたテロップや映像に付ける縁取りの種類を設定します。
Edge Color (*4)	White, Yellow, Cyan, Green, Magenta, Red, Blue, Black, Custom	上に重ねたテロップや映像に付ける縁取りの色を設定します。
Edit	Enter	カスタム・カラーを設定します。
Edge Width (*4)	0 ～ 14	上に重ねたテロップや映像に付ける縁取りの幅を設定します。
Chroma (*4, *6)	クロマ・キーの詳細を設定します。	
Color	Green, Blue	キー色を緑または青に設定します。緑や青以外の色を透明にしたい場合は、「Chroma Sampling Marker」でキー色を設定します。
Hue Width	-30 ～ 30	キー色の色相の幅を調節します。
Hue Fine	0 ～ 360	キー色の色相の中心位置を調節します。
Saturation Width	-128 ～ 127	キー色の彩度の幅を調節します。
Saturation Fine	0 ～ 255	キー色の彩度の中心位置を調節します。
Value Width	-128 ～ 127	キー色の明度の幅を調節します。
Value Fine	0 ～ 255	キー色の明度の中心位置を調節します。
Despill	OFF, ON	「ON」にすると、透過部分との境界付近で背景色がにじんでしまうのを除去することができます。
Chroma Sampling Marker	Enter	映像から透明にしたい色をサンプリング（検出）して、キー色を指定することができます（P.45）。

(*1) 「Roland Fill+Key」の「Mode」が「ON」のときは、DSK Modeは「Roland Fill+Key」になります。

(*2) 「DSK Mode」が「Self Key」または「Alpha Key」のときに設定できます。

(*3) 「DSK Mode」が「External Key」のときに設定できます。

(*4) 「DSK Mode」が「Self Key」のときに設定できます。

(*5) 「Fill Type」が「Matte」のときに設定できます。

(*6) 「DSK Type」が「Chroma Key」のときに設定できます。

(*7) 「[MENU] ボタン→Video Player/SRT In→Type」の設定により、V.PlayerまたはSRT Inのどちらかが表示されます。

8 : Audio Knob Assign

メニュー項目	設定値	説明
Input Knob 1 ～ 3/4、 Input Knob USB IN	Audio In 1 ～ 3/4、USB In、 Bluetooth In、Audio Player、 HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、 V.Player/SRT In (*1) 初期値は、以下のとおりです。 Input Knob 1 : Audio In 1 Input Knob 2 : Audio In 2 Input Knob 3/4 : Audio In 3/4 Input Knob USB IN : USB In	各つまみに割り当てる、音声入力を選びます。
Output Knob AUX 1 ～ 2、 Output Knob MAIN	Main Bus、AUX 1 Bus、 AUX 2 Bus、USB Out、 Stream&Record 初期値は、以下のとおりです。 Output Knob 1 : AUX 1 Bus Output Knob 2 : AUX 2 Bus Output Knob MAIN : Main Bus	各つまみに割り当てる、音声出力を選びます。

(*1) 「[MENU] ボタン→Video Player/SRT In→Type」の設定により、V.PlayerまたはSRT Inのどちらかが表示されます。

9 : Audio Input

メニュー項目	設定値	説明
Audio In 1、2	AUDIO IN 1、2 端子から入力される音声を調節します。	
Audio In 1/2 (Linked)	「Stereo Link」が「ON」のときは、「Audio In 1/2 (Linked)」と表示されます。	
Analog Gain	0 ~ 68dB	アナログ領域の入力ゲイン（感度）を調節します。
Digital Gain	-42.0 ~ 42.0dB	デジタル領域（アナログからデジタルに変換後）の入力ゲイン（感度）を調節します。
Input Level	-INF ~ 10.0dB	入力音量を調節します。 AUDIO INPUT LEVEL [1] [2] つまみで調節することもできます。(*1)
Input Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン/オフを設定します。「ON」にすると、一時的に入力音声を消音します。
Phantom +48V	OFF、ON	ファンタム電源のオン/オフを設定します。「ON」にすると、AUDIO IN 端子 (XLR) からファンタム電源が供給されます。 ※「Stereo Link」の設定を変更すると、「Phantom +48V」の設定は自動的に「OFF」になります
Pan (*2)	Left ~ Center ~ Right	定位（パン）を調節します。
Stereo Link	OFF、ON	ステレオ・リンク機能のオン/オフを設定します。「ON」にすると、Audio In 1 と 2 がリンクして、ステレオ・チャンネルとして動作します。 ※ステレオ・リンクをオンに切り替えると、Audio In 1 の設定が Audio In 2 の設定に反映されます。
Solo	OFF、ON	ソロ機能のオン/オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。
Delay	0.0 ~ 500.0msec (0.0 ~ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Reverb Send	0 ~ 127	リバーブへの音声の送り量を調節します。
Main Bus	Main バスの設定をします。	
Send	OFF、ON	「ON」にすると、Main バスへ音声を送ります。
AUX 1 Bus	AUX 1 バスの設定をします。	
Send Level	-INF ~ 10.0dB	AUX 1 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）を調節することで、送り量を変更することができます。
AUX 2 Bus	AUX 2 バスの設定をします。	
Send Level	-INF ~ 10.0dB	AUX 2 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）を調節することで、送り量を変更することができます。
Echo Canceller	OFF、ON	エコー・キャンセラーのオン/オフを設定します。 効果 Web 会議システムのスピーカーとマイクを利用した通話で、通話音声からエコー成分を除去します。
Depth	1 ~ 10	エコー・キャンセラーの効き具合を調節します。
Anti Feedback	OFF、ON	アンチ・フィードバックのオン/オフを設定します。 効果ハウリングを抑制します。
Effect Preset	エフェクト（ハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー）のプリセットを設定します。 エフェクト・プリセットを変更すると、各エフェクトの設定が上書きされます。	
	Default	ライン入力向け（初期値の設定）
	Meeting	会議向け
	Interview	インタビュー向け
	Ambient Mic	環境音の集音向け
	Windy Field	風が強いエリアでの環境音の集音向け
Noise Gate	OFF、ON	ノイズ・ゲートのオン/オフを設定します。 効果 設定したレベル以下の音声を除去します。残したい音声と取り除きたいノイズが分かれているときに有効で、無音時の「シャー」という音などを取り除くことができます。
Threshold	-80 ~ 0dB	音声を除去するときの基準レベルを設定します。スレッシュホールド以下の音声を除去します。
Release	30 ~ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、音声が減衰しきるまでの時間を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
De-Esser	OFF、ON	ディエッサーのオン／オフを設定します。 効果 歯擦音（サ行などの発声時に生じる耳障りな音）を軽減します。
Sens	0 ～ 100	歯擦音を検出する感度を調節します。
Depth	0 ～ 100	効果のかかり具合を調節します。
Compressor	OFF、ON	コンプレッサーのオン／オフを設定します。 効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声聞き取りやすくなります。
Threshold	-50 ～ 0dB	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、16.0:1、INF:1	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
Attack	0.0 ～ 100msec	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
Release	30 ～ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
Makeup Gain	-40 ～ 40dB	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。
High Pass Filter	OFF、ON	ハイパス・フィルターのオン／オフを設定します。 効果 不要な低域をカットします。
Frequency	20.0Hz ～ 1.00kHz	ハイパス・フィルターのカットオフ周波数を調節します。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Voice Changer	OFF、ON	ボイス・チェンジャーをオン／オフします。 効果 声の音程や音質を変えます。
Pitch	-12 ～ +12	声の高さ（ピッチ）を半音単位で調節します。「0」が元の声の高さです。
Formant	-10 ～ +10	声の性質（フォルマント）を調節します。－（マイナス）にするほど男性的な声質に、＋（プラス）にするほど女性的な声質に変化します。「0」が元の声です。
Robot	OFF、ON	「ON」にすると、声の高さを一定にして、無機質なロボットのような声にします。
Mix	0 ～ 100	普通の声（0）とエフェクトをかけた声（100）のバランスを調節します。

(*1) 「Stereo Link」が「ON」のときは、AUDIO INPUT LEVEL [2] つまみの操作が、AUDIO INPUT LEVEL [1] つまみの操作と同じ効果になります。

(*2) 「Stereo Link」が「OFF」のときに設定できます。

メニュー項目	設定値	説明
Audio In 3/4	AUDIO IN 3、4 端子から入力される音声を調節します。	
USB In	USB STREAM 端子から入力される音声を調節します。	
Bluetooth In	Bluetooth 接続で入力される音声を調節します。	
Audio Player	オーディオ・プレーヤーから入力される音声を調節します。	
Digital Gain	-42.0 ~ 42.0dB	デジタル領域（アナログからデジタルに変換後）の入力ゲイン（感度）を調節します。
Input Level	-INF ~ 10.0dB	入力音量を調節します。 [3/4] つまみで調節することもできます。（*12）
Input Mute	OFF, ON	ミュート機能のオン/オフを設定します。「ON」にすると、一時的に入力音声を消音します。
Mono	入力音声をステレオからモノに変換します。	
	Off	ステレオ入力された音声をそのまま送ります。
	L Only	L チャンネルの音声を L と R に送ります。
	R Only	R チャンネルの音声を L と R に送ります。
	LR Mix	L チャンネルと R チャンネルの音声をミックスして、L と R に送ります。
Solo	OFF, ON	ソロ機能のオン/オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。
Delay	0.0 ~ 500.0msec (0.0 ~ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Reverb Send	0 ~ 127	リバーブへの音声の送り量を調節します。
Main Bus	Main バスの設定をします。	
Send	OFF, ON	「ON」にすると、Main バスへ音声を送ります。
AUX 1 Bus	AUX 1 バスの設定をします。	
Send Level	-INF ~ 10.0dB	AUX 1 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）を調節することで、送り量を変更することができます。
AUX 2 Bus	AUX 2 バスの設定をします。	
Send Level	-INF ~ 10.0dB	AUX 2 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量（Input Level）を調節することで、送り量を変更することができます。
Effect Preset	エフェクト（ハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー）のプリセットを設定します。 エフェクト・プリセットを変更すると、各エフェクトの設定が上書きされます。	
	Default	ライン入力向け（初期値の設定）
	Meeting	会議向け
	Interview	インタビュー向け
	Ambient Mic	環境音の集音向け
	Windy Field	風が強いエリアでの環境音の集音向け
Noise Gate	OFF, ON	ノイズ・ゲートのオン/オフを設定します。 効果 設定したレベル以下の音声を除去します。残したい音声と取り除きたいノイズが分かれていますときに有効で、無音時の「シャー」という音などを取り除くことができます。
Threshold	-80 ~ 0dB	音声を除去するときの基準レベルを設定します。スレッシュホールド以下の音声を除去します。
Release	30 ~ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、音声が減衰しきるまでの時間を調節します。
Compressor	OFF, ON	コンプレッサーのオン/オフを設定します。 効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声聞き取りやすくなります。
Threshold	-50 ~ 0dB	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、 1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、 3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、 16.0:1、INF:1	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
Attack	0.0 ~ 100msec	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
Release	30 ~ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
Makeup Gain	-40 ~ 40dB	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
High Pass Filter	OFF、ON	ハイパス・フィルターのオン／オフを設定します。 効果 不要な低域をカットします。
Frequency	20.0Hz ～ 1.00kHz	ハイパス・フィルターのカットオフ周波数を調節します。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
HDMI In 1 ~ 4 SDI In 1 ~ 4	HDMI IN 1 ~ 4 端子から入力される音声を調節します。 SDI IN 1 ~ 4 端子から入力される音声を調節します。	
Embedded Audio Channel	1/2、3/4、5/6、7/8	エンベデッド・オーディオのチャンネルを選びます。
Digital Gain	-42.0 ~ 42.0dB	デジタル・ゲインを調節します。
Input Level	-INF ~ 10.0dB	入力音量を調節します。
Input Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン/オフを設定します。「ON」にすると、一時的に入力音声を消音します。
Mono	入力音声をステレオからモノに変換します。	
	Off	ステレオ入力された音声をそのまま送ります。
	L Only	L チャンネルの音声を L と R に送ります。
	R Only	R チャンネルの音声を L と R に送ります。
	LR Mix	L チャンネルと R チャンネルの音声をミックスして、L と R に送ります。
Solo	OFF、ON	ソロ機能のオン/オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。
Delay	0.0 ~ 500.0msec (0.0 ~ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Reverb Send	0 ~ 127	リバーブへの音声の送り量を調節します。
Main Bus	Main バスの設定をします。	
Send	OFF、ON	「ON」にすると、Main バスへ音声を送ります。
AUX 1 Bus	AUX 1 バスの設定をします。	
Send Level (*1)	-INF ~ 10.0dB	AUX 1 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
AUX 2 Bus	AUX 2 バスの設定をします。	
Send Level (*2)	-INF ~ 10.0dB	AUX 2 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
	エフェクト (ハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー) のプリセットを設定します。 エフェクト・プリセットを変更すると、各エフェクトの設定が上書きされます。	
	Default	ライン入力向け (初期値の設定)
Effect Preset	Meeting	会議向け
	Interview	インタビュー向け
	Ambient Mic	環境音の集音向け
	Windy Field	風が強いエリアでの環境音の集音向け
Noise Gate	OFF、ON	ノイズ・ゲートのオン/オフを設定します。 効果 設定したレベル以下の音声を除去します。残したい音声と取り除きたいノイズが分かれているときに有効で、無音時の「シャー」という音などを取り除くことができます。
Threshold	-80 ~ 0dB	音声を除去するときの基準レベルを設定します。スレッシュホールド以下の音声を除去します。
Release	30 ~ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、音声が減衰しきるまでの時間を調節します。
Compressor	OFF、ON	コンプレッサーのオン/オフを設定します。 効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声が聞き取りやすくなります。
Threshold	-50 ~ 0dB	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、 1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、 3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、 16.0:1、INF:1	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
Attack	0.0 ~ 100ms	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
Release	30 ~ 5000ms	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
Makeup Gain	-40 ~ 40dB	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
High Pass Filter	OFF、ON	ハイパス・フィルターのオン／オフを設定します。 効果 不要な低域をカットします。
Frequency	20.0Hz ～ 1.00kHz	ハイパス・フィルターのカットオフ周波数を調節します。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。

(*1) 「Audio Output」 → 「AUX 1 Bus」 → 「AUX 1 Bus Send Level」 → 「Auto Send (Video)」 が 「Off」 のときに設定できます。

(*2) 「Audio Output」 → 「AUX 2 Bus」 → 「AUX 2 Bus Send Level」 → 「Auto Send (Video)」 が 「Off」 のときに設定できます。

メニュー項目	設定値	説明
Video Player/SRT In	ビデオ・プレーヤーまたは SRT プロトコルから入力される音声を調節します。	
Digital Gain	-42.0 ~ 42.0dB	デジタル・ゲインを調節します。
Input Level	-INF ~ 10.0dB	入力音量を調節します。
Input Mute	OFF, ON	ミュート機能のオン/オフを設定します。「ON」にすると、一時的に入力音声を消音します。
Mono	入力音声をステレオからモノに変換します。	
	Off	ステレオ入力された音声をそのまま送ります。
	L Only	L チャンネルの音声を L と R に送ります。
	R Only	R チャンネルの音声を L と R に送ります。
	LR Mix	L チャンネルと R チャンネルの音声をミックスして、L と R に送ります。
Solo	OFF, ON	ソロ機能のオン/オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。
Delay	0.0 ~ 500.0msec (0.0 ~ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Reverb Send	0 ~ 127	リバーブへの音声の送り量を調節します。
Main Bus	Main バスの設定をします。	
Send	OFF, ON	「ON」にすると、Main バスへ音声を送ります。
AUX 1 Bus	AUX 1 バスの設定をします。	
Send Level (*1)	-INF ~ 10.0dB	AUX 1 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
AUX 2 Bus	AUX 2 バスの設定をします。	
Send Level (*2)	-INF ~ 10.0dB	AUX 2 バスへの送り量を調節します。
Send Point	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
	エフェクト (ハイパス・フィルター、コンプレッサー、イコライザー) のプリセットを設定します。 エフェクト・プリセットを変更すると、各エフェクトの設定が上書きされます。	
	Default	ライン入力向け (初期値の設定)
	Meeting	会議向け
Effect Preset	Interview	インタビュー向け
	Ambient Mic	環境音の集音向け
	Windy Field	風が強いエリアでの環境音の集音向け
	ノイズ・ゲートのオン/オフを設定します。	
Noise Gate	OFF, ON	効果 設定したレベル以下の音声を除去します。残したい音声と取り除きたいノイズが分かれているときに有効で、無音時の「シャー」という音などを取り除くことができます。
Threshold	-80 ~ 0dB	音声を除去するときの基準レベルを設定します。スレッシュホールド以下の音声を除去します。
Release	30 ~ 5000msec	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、音声が減衰しきるまでの時間を調節します。
Compressor	OFF, ON	コンプレッサーのオン/オフを設定します。
Compressor	効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声が聞き取りやすくなります。	
	Threshold	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
	Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、16.0:1、INF:1 音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
	Attack	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
	Release	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
	Makeup Gain	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。
	ハイパス・フィルターのオン/オフを設定します。	
High Pass Filter	OFF, ON	効果 不要な低域をカットします。
Frequency	20.0Hz ~ 1.00kHz	ハイパス・フィルターのカットオフ周波数を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。

(*1) [Audio Output] → [AUX 1 Bus] → [AUX 1 Bus Send Level] → [Auto Send (Video)] が [Off] のときに設定できます。

(*2) [Audio Output] → [AUX 2 Bus] → [AUX 2 Bus Send Level] → [Auto Send (Video)] が [Off] のときに設定できます。

10 : Audio Output

メニュー項目	設定値	説明								
Output Assign	各端子に割り当てる音声バスを設定します。									
Audio Out (XLR)	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus	Main Bus： すべての入力音声をミックスして出力します（マスター出力）。								
Phones Out/Monitor	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus	AUX 1 Bus、AUX 2 Bus： AUX バスに送られた入力音声だけをミックスして出力します。マスター出力とは異なる音声を出力することができます。								
USB Out	Auto、Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus	Monitor Bus： ヘッドホンと同じ音声を出力します。 Auto： 映像バスの割り当てに応じて、音声バスが自動的に切り替わります。								
Stream&Record	Auto、Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus									
Audio Record	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus									
HDMI Out 1 ～ 3	Auto、Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus									
SDI Out 1、2	Auto、Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、Monitor Bus	<table><tr><th>映像バス</th><th>音声バス</th></tr><tr><td>AUX、DSK Source 以外</td><td>Main Bus</td></tr><tr><td>AUX 1、2</td><td>AUX 1、2 Bus</td></tr><tr><td>DSK Source</td><td>DSK 映像ソース</td></tr></table>	映像バス	音声バス	AUX、DSK Source 以外	Main Bus	AUX 1、2	AUX 1、2 Bus	DSK Source	DSK 映像ソース
映像バス	音声バス									
AUX、DSK Source 以外	Main Bus									
AUX 1、2	AUX 1、2 Bus									
DSK Source	DSK 映像ソース									
Main Bus	Main Bus の音声を調節します。									
Level	-INF ～ 10.0dB	出力音量を調節します。 AUDIO MIXER のつまみに Main Bus を割り当てて、出力音量を調節することもできます。								
Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると、一時的に出力音声を消音します。								
Solo	OFF、ON	ソロ機能のオン／オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。								
Delay	0.0 ～ 500.0msec (0.0 ～ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。								
Main Send Switch	Main バスの設定をします。									
Audio In 1 ～ 2、3/4、 USB In、Bluetooth In、 Audio Player、 HDMI In 1 ～ 4、 SDI In 1 ～ 4、 Video Player/SRT In	OFF、ON	「ON」にすると、Main バスへ音声を送ります。								
Main Send Level	Main バスへの送り量を調節します。									
Audio In 1 ～ 2、3/4、 USB In、Bluetooth In、 Audio Player、 HDMI In 1 ～ 4、 SDI In 1 ～ 4、 Video Player/SRT In	-INF ～ 10.0dB	Main バスへの送り量を調節します。								
Reverb	OFF、ON	リバーブのオン／オフを設定します。 効果 音声に残響を加えます。								
Level	0 ～ 127	全体にかかるリバーブの深さを調節します。								
Type	リバーブ・タイプを設定します。									
	Room	部屋の自然な残響が得られます。								
	Hall	コンサート・ホールなどで演奏しているような響きが得られます。								
Size	1 ～ 20	空間の広さを設定します。数値が大きくなるほど、残響時間が長くなります。								
Return Level	-INF ～ 10.0dB	Main Bus へのリバーブの戻り量を調節します。								

メニュー項目	設定値	説明
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン/オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅/減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ~ 12.0dB	高域を増幅/減衰します。
Hi Freq	1.00 ~ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ~ 12.0dB	中高域を増幅/減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ~ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ~ 16.0	中高域を増幅/減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ~ 12.0dB	中低域を増幅/減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ~ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ~ 16.0	中低域を増幅/減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ~ 12.0dB	低域を増幅/減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ~ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Compressor/Limiter	OFF、ON	コンプレッサー/リミッターのオン/オフを設定します。
Type	コンプレッサー/リミッターのタイプを設定します。	
	Compressor	効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声聞き取りやすくなります。
	Limiter	効果 設定した基準レベルを超えないように出力音量を制限します。 ※ リミッターの許容範囲を超える音声が入力された場合は、音割れが発生します。
Compressor		
Threshold	-50 ~ 0dB	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、16.0:1、INF:1	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
Attack	0.0 ~ 100ms	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
Release	30 ~ 5000ms	音声スレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
Makeup Gain	-40 ~ 40dB	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。
Limiter		
Threshold	-40 ~ 0dB	リミッターがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。出力される音声の音量は、スレッシュホールド以下に制限されます。
Loudness Auto Gain Control	OFF、ON	ラウドネス・オート・ゲインコントロールのオン/オフを設定します。 効果 長期間の平均的なラウドネスを計測して、全体として適切な音量となるように調節します。
Integrated Gain Control	Disable、Enable	長期スパン・オート・コントロールの有効 (Enable) / 無効 (Disable) を設定します。
Sens	0 ~ 127	目標レベル (Target LKFS) に近づく速さを調節します。
Momentary Gain Control	Disable、Enable	短期スパン・オート・コントロールの有効 (Enable) / 無効 (Disable) を設定します。
Sens	0 ~ 127	目標レベル (Target LKFS) に近づく速さを調節します。
Target LKFS	-34 ~ -10dB	目標ラウドネス値を設定します。
Forget Learning	Exec	学習した設定値をリセットします。 ラウドネス・オート・ゲイン・コントロールの設定値がリセット対象となります。
Adaptive Noise Reduction	OFF、ON	アダプティブ・ノイズ・リダクションのオン/オフを設定します。 効果 入力音声を継続的にモニタリングしながら無音時のノイズを特定し、ノイズ成分のみを取り除きます。
Depth	0 ~ 127	ノイズ除去のかかりの強さを設定します。
Talking Detector	0 ~ 127	トーキング・ディテクターの感度を設定します。 値を大きくすると感度が上がり、よりノイズの大きな環境でも音声の有無を検出しやすくなります。
Auto Learn	Disable、Enable	ノイズの自動検出を有効にします。
Manual Measure	Exec	手動でノイズ検出をします。
Forget Learning	Exec	学習した設定値をリセットします。 アダプティブ・ノイズ・リダクションの設定値がリセット対象となります。
Lo Frequency Cut	OFF、ON	ロー・フリクエンシー・カットのオン/オフを設定します。

メニュー項目	設定値	説明
GEQ	Enter	グラフィック・イコライザー画面を表示します。
GEQ	OFF、ON	グラフィック・イコライザーの設定をします 効果 15 の帯域に分割された周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
All Flat	Exec	イコライザーの設定をフラット (0.0dB) にします。
25Hz	-15.0 ～ +15.0dB	周波数帯域を増幅／減衰します。
40Hz		
63Hz		
100Hz		
160Hz		
250Hz		
400Hz		
630Hz		
1kHz		
1.6kHz		
2.5kHz		
4kHz		
6.3kHz		
10kHz		
16kHz		

メニュー項目	設定値	説明
AUX 1 Bus	AUX 1 バスの音声を調節します。	
AUX 2 Bus	AUX 2 バスの音声を調節します。	
Level	-INF ~ 10.0dB	出力音量を調節します。 AUDIO MIXER のつまみに AUX 1、2 Bus を割り当てて、出力音量を調節することもできます。
Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると、一時的に出力音声を消音します。
Solo	OFF、ON	ソロ機能のオン／オフを設定します。「ON」にした音声だけをヘッドホンで聴くことができます。 ※ ソロ機能は、ヘッドホン出力に対して有効です。ヘッドホン以外の出力には影響しません。
Delay	0.0 ~ 500.0msec (0.0 ~ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Reverb Return Level	-INF ~ 10.0dB	AUX 1、2 バスへのリバースの戻り量を調節します。
AUX 1 Bus Send Level	Enter	※ AUX 2 Bus では、AUX 2 Bus Send Level になります。
Audio In 1 ~ 2、 Audio In 3/4、 USB In、 Bluetooth In、 Audio Player、	-INF ~ 10.0dB	AUX 1、2 バスへの送り量を調節します。
Auto Send (Video)	AUX バスへ音声を送るときの設定方法を選びます。	
	ON	AUX バスの映像選択に連動して、音声自動的に AUX バスに送られます。
	OFF	送り量を手動で調節します。
HDMI In 1 ~ 4、 SDI In 1 ~ 4、 Video Player/SRT In	-INF ~ 10.0dB	AUX 1、2 バスへの送り量を調節します。 ※「Auto Send (Video)」が「OFF」のとき設定できます。
AUX 1 Bus Send Point	Enter	※ AUX 2 Bus では、AUX 2 Bus Send Point になります。
Audio In 1 ~ 2、 Audio In 3/4、 USB In、 Bluetooth In、 Audio Player、 HDMI In 1 ~ 4、 SDI In 1 ~ 4、 Video Player/SRT In	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ~ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ~ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ~ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ~ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ~ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ~ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ~ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ~ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ~ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ~ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
Compressor/Limiter	OFF、ON	コンプレッサー／リミッターのオン／オフを設定します。
Type	コンプレッサー／リミッターのタイプを設定します。	
	Compressor	効果 設定したレベルを超えた音声を圧縮します。最大音量と最小音量の差が小さくなるため、音声聞き取りやすくなります。
	Limiter	効果 設定した基準レベルを超えないように出力音量を制限します。 ※ リミッターの許容範囲を超える音声が入力された場合は、音割れが発生します。
Compressor		
Threshold	-50 ～ -8 ～ 0dB	コンプレッサーがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。
Ratio	1.00:1、1.12:1、1.25:1、1.40:1、1.60:1、1.80:1、2.00:1、2.50:1、3.20:1、4.00:1、5.60:1、8.00:1、16.0:1、INF:1	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるかを設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
Attack	0.0 ～ 100ms	スレッシュホールドを超える音声が入力されたときの圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
Release	30 ～ 5000ms	音声のスレッシュホールドを下回ったあとに、圧縮をやめるまでの時間を調節します。
Makeup Gain	-40 ～ 40dB	コンプレッサーをかけたあとの最終的な出力音量を調節します。
Limiter		
Threshold	-40 ～ 0dB	リミッターがかかる基準レベルを設定します。スレッシュホールドを超えた音声に圧縮がかかります。出力される音声の音量は、スレッシュホールド以下に制限されます。
GEQ	Enter	グラフィック・イコライザー画面を表示します。
GEQ	OFF、ON	グラフィック・イコライザーの設定をします。 効果 15 の帯域に分割された周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
All Flat	Exec	イコライザーの設定をフラット (0.0dB) にします。
25Hz	-15.0 ～ +15.0dB	周波数帯域を増幅／減衰します。
40Hz		
60Hz		
100Hz		
160Hz		
250Hz		
400Hz		
630Hz		
1kHz		
1.6kHz		
2.5kHz		
4kHz		
6.3kHz		
10kHz		
16kHz		
Monitor Bus		
Monitor バスの音声を調節します。		
Monitor Level	-INF ～ 10.0dB	モニター音量を調節します。
USB Out		
USB STREAM 端子から出力される音声を調節します。		
Level	-INF ～ 10.0dB	出力音量を調節します。 [USB OUT] つまみで調節することもできます。
Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると、一時的に出力音声を消音します。
Delay	0.0 ～ 500.0msec (0.0 ～ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
	Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB 高域を増幅／減衰します。
	Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz 高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
	Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB 中高域を増幅／減衰します。
	Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz 中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
	Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0 中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
	Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB 中低域を増幅／減衰します。
	Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz 中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
	Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0 中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
	Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB 低域を増幅／減衰します。
	Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz 低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。

メニュー項目	設定値	説明
Stream&Record	DIRECT STREAM 端子から出力される音声を調節します。	
Level	-INF ～ 10.0dB	出力音量を調節します。
Mute	OFF、ON	ミュート機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると、一時的に出力音声を消音します。
Delay	0.0 ～ 500.0msec (0.0 ～ 11.9/12.0/12.5/14.9/15.0/ 25.0/29.9/30.0frame)	音声の遅延時間を調節します。 効果 音声を遅らせて出力します。
Equalizer	OFF、ON	イコライザーのオン／オフを設定します。 効果 4 バンド・パラメトリック・イコライザーです。4 つの周波数帯域を増幅／減衰させて、音質を調節します。
Hi Gain	-12.0 ～ 12.0dB	高域を増幅／減衰します。
Hi Freq	1.00 ～ 20.0kHz	高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中高域を増幅／減衰します。
Hi-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中高域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Hi-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中高域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo-Mid Gain	-12.0 ～ 12.0dB	中低域を増幅／減衰します。
Lo-Mid Freq	20.0Hz ～ 20.0kHz	中低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
Lo-Mid Q	0.5 ～ 16.0	中低域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調節します。
Lo Gain	-12.0 ～ 12.0dB	低域を増幅／減衰します。
Lo Freq	20.0Hz ～ 2.00kHz	低域の音量を変化させるときの中心となる周波数を調節します。
HDMI/SDI Audio Embedded HDMI / SDI 出力のエンベデッド・オーディオに関する設定をします。		
HDMI Out 1-3 Send	HDMI エンベデッド・オーディオ・チャンネル 3 ～ 8 に送る入力音声を設定します。	
Channel 3/4	N/A、Audio In 1/2 ～ Audio In 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Video Player/SRT In	[N/A] にすると、音声を送りません。 ※ チャンネル 1 と 2 には、Output Assign (P.129) の HDMI Out 1 ～ 3 で割り当てた音声が出 力されます。
Channel 5/6		
Channel 7/8		
SDI Out 1-3 Send	SDI エンベデッド・オーディオ・チャンネル 3 ～ 8 に送る入力音声を設定します。	
Channel 3/4	N/A、Audio In 1/2 ～ Audio In 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Video Player/SRT In	[N/A] にすると、音声を送りません。 ※ チャンネル 1 と 2 には、Output Assign (P.129) の SDI Out 1 ～ 2 で割り当てた音声が出 力されます。
Channel 5/6		
Channel 7/8		
Audio In 1/2 ～ 3/4	各入力から HDMI / SDI エンベデッド・オーディオ・チャンネル (3 ～ 8) に、エフェクトがかかった音声を送るかどうかを設定します。	
USB In	Off	音声を送りません。
Bluetooth In	Dry	エフェクトがかかっていない元の音声を送ります。
Audio Player	Pre Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) に関係なく、送り量は一定です。
HDMI In 1 ～ 4	Post Fader	エフェクトがかかった音声を送ります。 音量 (Input Level) を調節することで、送り量を変更することができます。
SDI In 1 ～ 4		
Video Player/SRT In		

11 : Audio Follow

メニュー項目	設定値	説明
All	OFF、ON	HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Video Player/SRT In のオーディオ・フォロー機能のオン／オフを一括で設定します。
HDMI In 1 ~ 4	オーディオ・フォロー機能のオン／オフを設定します。 オーディオ・フォローは、映像の切り替えに連動させて、音声の出力を自動的に切り替える機能です。	
SDI In 1 ~ 4	OFF	映像の選択に関係なく、常に音声を出力します。
Video Player/SRT In	ON	映像が選ばれたときのみ、音声を出力します。他の映像が選ばれたときは、自動的に消音します。
Audio In 1 ~ 3/4	Off、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ~ 16	各音声に対して、オーディオ・フォロー機能を使う映像 (Input 1 ~ 8) を指定します。指定した映像が選ばれたときのみ、音声を出力します。 [Off] にすると、映像の選択に関係なく、常に音声を出力します。
USB In		
Bluetooth In		
Audio Player		
PinP&Key 1 Follow	OFF、ON	PinP&Key 1 が「ON」のときに、ソース映像とひも付いた音声を連動させるかどうかを設定します。
PinP&Key 2 Follow	OFF、ON	PinP&Key 2 が「ON」のときに、ソース映像とひも付いた音声を連動させるかどうかを設定します。
DSK Follow	OFF、ON	DSK が「ON」のときに、ソース映像とひも付いた音声を連動させるかどうかを設定します。

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

12 : Audio Auto Mixing

メニュー項目	設定値	説明
Auto Mixing View	Enter	ビュー画面にジャンプします。
Audio Auto Mixing	OFF、ON	オート・ミキシング機能のオン／オフを設定します。 オート・ミキシングは、音量調節を自動的に制御する機能です。
Audio In 1 ～ 2	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
Audio In 3/4	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
USB In	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
Bluetooth In	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
Audio Player	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
HDMI In 1 ～ 4	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
SDI In 1 ～ 4	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。
Video Player/SRT In	Disable、Enable	オート・ミキシングの対象（Enable）／非対象（Disable）を設定します。
Weight	0 ～ 100%	ウェイト・レベル（音量配分の優先度）を設定します。 ※ ウェイト・レベルを「0」に設定すると、音声は出力されません。

13 : Still Image

メニュー項目	設定値	説明
Load From Storage	ストレージから静止画を読み込みます。	
Still Image	Still 1 ~ 32	ストレージから静止画を読み込むときに、保存先の本体メモリーを指定します。 ※ 静止画が保存されている本体メモリーには、「*」マークが表示されます。
Load	Enter	ストレージ内の静止画ファイルを一覧表示します。 一覧から静止画を選べると、ストレージから静止画を読み込むことができます。 読み込み対応フォーマット
		フォーマット Bitmap ファイル (.bmp)、24 ビットカラー、非圧縮 PNG ファイル (.png)、24 ビットカラー ※ アルファ・チャンネル対応 JPEG ファイル (.jpg、.jpeg)、24 ビットカラー
		解像度 システム・フォーマットに準拠
		ファイル名 半角英数 64 文字以内 ※ 必ず拡張子「.bmp」、「.png」、「.jpg」、または「.jpeg」を付けてください。
Save To Storage	ストレージに静止画を書き出します。	
Still Image	Still 1 ~ 32	ストレージに書き出す静止画を選びます。 [VALUE] つまみを押すと、ストレージ内（Still サブ・ディレクトリー）の静止画が一覧表示されます。 ※ 静止画が保存されている本体メモリーには、「*」マークが表示されます。 ※ 書き出しできる静止画のファイル形式は、上記の「読み込み対応フォーマット」と同じです。 ※ System メニューの「HDCP」が「ON」のときにキャプチャーされた静止画は、書き出しできません。 ※ System メニューの「HDCP」が「ON」のときにキャプチャーされた静止画には、「(HDCP)」が表示されます。
Save	Enter	ストレージ内の静止画ファイルを一覧表示します。 ファイル名を設定すると、新規静止画ファイルとして保存されます。 静止画ファイルを選べると、既存のファイル名で上書き保存されます。
Save To Internal Storage	Enable、Disable	静止画の保存方法を「一時保存」にすることができます。「Disable」の状態では電源を切ると、キャプチャーした静止画は削除されます。 ※ 「Enable」に設定しても、正しくシャットダウンできなかった場合は静止画が保存されないことがあります。
Delete Still Image	Enter	静止画を削除します。
	All、Still 1 ~ 32	削除する静止画を選びます。 ※ 静止画が保存されている本体メモリーには、「*」マークが表示されます。

14 : Video Player/SRT In

メニュー項目	設定値	説明
Type	映像ソースとしてビデオ・プレーヤーと SRT 入力のどちらを使うかを選びます。	
	Video Player	ストレージに保存された動画を読み込んで再生します。
	SRT In	SRT 映像を入力します。
Type = Video Player のとき		
Video Player View	Enter	ビュー画面にジャンプします。
Import	Enter	ストレージから動画を読み込みます。
Name	---	読み込んだ動画のファイル名を表示します。
Duration	表示のみ	読み込んだ動画の長さを表示します。
Skip Forward Time	1、10、30、60sec	早送り操作で進める時間を設定します。
Skip Backward Time	1、10、30、60sec	巻き戻し操作で戻す時間を設定します。
Level	-INF ~ 10.0dB	出力音量を調節します。
Repeat	OFF、ON	「ON」に設定すると、繰り返し動画を再生します。
Type = SRT In のとき		
SRT In View	Enter	ビュー画面にジャンプします。
Start/Stop	Stopped、Started	SRT 入力を開始/停止します。
Mode	SRT 接続するときの動作モードを設定します。	
	Caller	SRT 送信機器 (Listener) の IP アドレス/ポート番号を指定して、本機から SRT 接続をするモードです。
	Listener	本機の設定に合わせて SRT 送信機器 (Caller) の設定を変更して、SRT 送信機器 (Caller) からの接続を待ち受けするモードです。
Mode = Caller のとき		
Capacity	受信可能な最大ビットレートを設定します。	
	Standard	最大ビットレート 10Mbps まで受信できます。
	High	最大ビットレート 20Mbps まで受信できます。 ※ 配信/録画や SRT 出力との同時使用はできません。
Remote IP Address	0.0.0.0	SRT 送信機器 (Listener) の IP アドレスを設定します。
Remote Port	0 ~ 65535	SRT 送信機器 (Listener) のポート番号を設定します。
Latency	80 ~ 8000msec	SRT の再送用バッファの長さ (遅延時間) を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。
Stream ID	---	SRT 送信機器 (Listener) と同じストリーム ID を設定します。
Passphrase	---	SRT 送信機器 (Listener) と同じパスフレーズを設定します。
Use Web Application	Enter	Web アプリを使用して、SRT の上記内容を設定することができます。
Mode = Listener のとき		
Capacity	受信可能な最大ビットレートを設定します。	
	Standard	最大ビットレート 10Mbps まで受信できます。
	High	最大ビットレート 20Mbps まで受信できます。 ※ 配信/録画や SRT 出力との同時使用はできません。
Local Port	0 ~ 65535	SRT 接続の待ち受けに使用するポート番号を設定します。
Latency	80 ~ 8000msec	SRT の再送用バッファの長さ (遅延時間) を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。
Passphrase	---	SRT 送信機器 (Caller) と同じパスフレーズを設定します。
Use Web Application	Enter	Web アプリを使用して、SRT の上記内容を設定することができます。

15 : Stream&Record

メニュー項目	設定値	説明	
Type	映像の送信方法を設定します。		
	RTMP	RTMP で配信します。	
	SRT Out	SRT 映像を出力します。	
Start/Stop	Type = RTMP のとき Stop、On Air	配信／録画を開始（On Air）、停止（Stop）します。	
	Type = SRT Out のとき Stop、Streaming	SRT 送信を開始（Streaming）、停止（Stop）します。	
Type = RTMP のとき			
Stream&Record View	Enter	ビュー画面にジャンプします。	
Service 1、2 Setup	ライブ配信に使うプラットフォームを設定します。		
	Off	配信しません。	
	Custom	カスタム設定で配信します。	
	YouTube Live	YouTube Live で配信します。	
	Facebook Live	Facebook Live で配信します。	
	Twitch	Twitch で配信します。	
	メニュー項目	設定値	説明
	URL	---	配信サーバーの URL を設定します。
	Stream Key		ストリーム・キーを設定します。
Use Web Application	Enter	Web アプリを使用して、配信サーバーの URL ／ストリーム・キーを設定します。	
Target Bitrate	ターゲット・ビットレートを設定します		
Video	1,000 ～ 20,000kbps	映像をエンコードするときの、ターゲット・ビットレートを設定します。	
Audio	32、48、64、96、128、160、192、224、256	音声をエンコードするときの、ターゲット・ビットレートを設定します。	
Video Rec	OFF、ON	「ON」に設定すると、配信を録画します。	
Browse Video Files	Enter	本体で録画したファイルを確認します。	
Audio Rec	OFF、ON	「ON」に設定すると、配信を録音します。	
Browse Audio Files	Enter	本体で録音したファイルを確認します。	
Encode Profile	High、Main、Baseline	映像をエンコードするときの、プロファイルを設定します。	
Encode Mode	映像に応じて最適なエンコード方法を設定します。		
	Resolution	プレゼンテーションなど、動きの少ない映像に適しています。	
	Motion	スポーツ番組やゲーム映像など、動きの多い映像に適しています。	
Safety Delay	Off、5 ～ 60sec	セーフティー・ディレイ機能を使ったときの、配信ディレイ・タイムを設定します。	
Import Still Image	Exec	セーフティー・ディレイ用の静止画を読み込みます。	
File Name	表示のみ	セーフティー・ディレイ用の静止画のファイル名を表示します。	

メニュー項目	設定値	説明
Type = SRT Out のとき		
SRT Out View	Enter	ビュー画面にジャンプします。
SRT Out Setup	SRT 出力の設定をします。	
	メニュー項目	設定値 説明
	Mode	SRT 接続するときの動作モードを設定します。
		Caller SRT 受信機器 (Listener) の IP アドレス/ポート番号を指定して、本機から SRT 接続をするモードです。
		Listener 本機の設定に合わせて SRT 受信機器 (Caller) の設定を変更して、SRT 受信機器 (Caller) からの接続を待ち受けするモードです。
	Mode = Caller のとき	
	Remote IP Address	0.0.0.0 SRT 受信機器 (Listener) の IP アドレスを設定します。
	Remote Port	0 ~ 65535 SRT 受信機器 (Listener) のポート番号を設定します。
	Latency	SRT の再送用バッファの長さ (遅延時間) を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。
	Stream ID	--- SRT 受信機器 (Listener) と同じストリーム ID を設定します。
	Encryption	None、AES-128、AES-192、AES-256 映像を暗号化するときの暗号方式を設定します。 ※ 送信側と受信側で暗号方式を一致させる必要があります。
	Passphrase (*1)	--- 「Encryption」を「None」以外に設定したときに、パスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズを一致させる必要があります。
	Use Web Application	Enter Web アプリを使用して、SRT の上記内容を設定することができます。
	Mode = Listener のとき	
	Local Port	0 ~ 65535 SRT 接続の待ち受けに使用するポート番号を設定します。
	Latency	SRT の再送用バッファの長さ (遅延時間) を設定します。 受信側と送信側で設定されたレイテンシーのうち、値の大きいほうが優先されます。
	Encryption	None、AES-128、AES-192、AES-256 映像を暗号化するときの暗号方式を設定します。 ※ 送信側と受信側で暗号方式を一致させる必要があります。
	Passphrase (*1)	--- 「Encryption」を「None」以外に設定したときに、パスフレーズを設定します。 ※ 送信側と受信側でパスフレーズを一致させる必要があります。
	Use Web Application	Enter Web アプリを使用して、SRT の上記内容を設定することができます。
Target Bitrate	ターゲット・ビットレートを設定します	
Video	1,000 ~ 20,000kbps	映像をエンコードするときの、ターゲット・ビットレートを設定します。
Audio	32、48、64、96、128、160、192、224、256	音声をエンコードするときの、ターゲット・ビットレートを設定します。
Video Rec	OFF、ON	「ON」に設定すると、配信を録画します。
Browse Video Files	Enter	本体で録画したファイルを確認します。
Audio Rec	OFF、ON	「ON」に設定すると、配信を録音します。
Browse Audio Files	Enter	本体で録音したファイルを確認します。
Encode Profile	High、Main、Baseline	映像をエンコードするときの、プロファイルを設定します。
Encode Mode	映像に応じて最適なエンコード方法を設定します。	
	Resolution	プレゼンテーションなど、動きの少ない映像に適しています。
	Motion	スポーツ番組やゲーム映像など、動きの多い映像に適しています。
Safety Delay	Off、5 ~ 60sec	セーフティー・ディレイ機能を使ったときの、配信ディレイ・タイムを設定します。
Import Still Image	Exec	セーフティー・ディレイ用の静止画を読み込みます。
File Name	表示のみ	セーフティー・ディレイ用の静止画のファイル名を表示します。

(*1) 「Encryption」が「AES-128」、「AES-192」、または「AES-256」のときに設定できます。

16 : Scene Memory

メニュー項目	設定値	説明
Save/Load	Enter	セットアップ画面にジャンプします。
Start Up	起動時に呼び出す設定を指定します。	
	Last Memory	電源を切る直前の状態に復帰します（ラスト・メモリー機能）。 現在の設定（ラスト・メモリー）は、4 秒ごと、またはメニューを閉じるタイミングで保存されます。
	1 : MEMORY 1 ~ 32 : MEMORY 32 (*1)	選んだシーン・メモリーを呼び出します。
Priority	Memory、Panel	シーン・メモリーとパネルの状態のどちらを優先するか設定します。
Memory Protect	OFF、ON	「ON」にすると、設定の保存や初期化の操作を禁止して、シーン・メモリーの内容を保護します。 ※ ファクトリー・リセット時は、保護されたシーン・メモリーの内容も消去されます。
Load From Storage	Enter	ストレージ内のシーン・メモリー設定ファイル（v80scene）を一覧表示します。 シーン・メモリー設定ファイルを選ぶと、本体にシーン・メモリー（1 ~ 32）を呼び出すことができます。
Save To Storage	Enter	ストレージ内のシーン・メモリー設定ファイル（v80scene）を一覧表示します。 ファイル名を設定すると、新規シーン・メモリー設定ファイルとして保存されます。 シーン・メモリー設定ファイルを選ぶと、既存のファイル名で上書き保存されます。
Button Assign	Enter	Button Assign メニューを表示します。
Number of MEMORY Button	8、24	[MODE] ボタンで「MEMORY」を選んでいるとき、メモリー選択ボタンとして機能するボタンの数を設定します。
MEMORY 1 ~ 8 Button (*2)	1 : MEMORY1 ~ 32 : MEMORY32 (*1) 初期値は、以下のとおりです。 1 : MEMORY1 ~ 8 : MEMORY8	MEMORY ボタンに割り当てるシーン・メモリーを選びます。
MEMORY 1 ~ 24 Button (*3)	1 : MEMORY1 ~ 32 : MEMORY32 (*1) 初期値は、以下のとおりです。 1 : MEMORY1 ~ 24 : MEMORY24	MEMORY ボタンに割り当てるシーン・メモリーを選びます。
Fade Time	0.0 ~ 4.0sec	シーン・メモリーを呼び出したときの映像切り替え時間を設定します。 ※ 設定した時間は、以下の項目で適用されます。
Mix/Wipe	OFF、ON	「ON」にすると、シーン・メモリーを呼び出したときに、切り替え効果がかかります。
PinP & Key 1、2	OFF、ON	「ON」にすると、PinP 合成を含むシーン・メモリーを呼び出したときに、子画面がフェード・インします。
DSK	OFF、ON	「ON」にすると、DSK 合成を含むシーン・メモリーを呼び出したときに、上に重なるテロップや映像がフェード・インします。
Load Parameters	シーン・メモリーを呼び出したときに、以下の項目を呼び出すかどうかを設定します。 「OFF」にした項目は、シーン・メモリーの呼び出しから除外されます。	
Video Assign	OFF、ON	Video Assign メニュー
Video Input	OFF、ON	Video Input メニュー
Video Output	OFF、ON	Video Output メニュー Transition の設定
Transition	OFF、ON	Transition の設定
Transition Type	OFF、ON	Transition メニュー
Mix	OFF、ON	Mix メニュー
Wipe	OFF、ON	Wipe メニュー
Split	OFF、ON	Split の設定
Split 1	OFF、ON	Split 1 メニュー
Split 2	OFF、ON	Split 2 メニュー
PinP & Key 1	OFF、ON	PinP & Key 1 メニュー
PinP & Key 2	OFF、ON	PinP & Key 2 メニュー
DSK	OFF、ON	DSK メニュー
PGM/A、PST/B	OFF、ON	PGM/A バス、PST/B バス、映像切り替えの状態
Video Fader	OFF、ON	映像切り替えの状態
AUX 1 Source	OFF、ON	AUX 1 バスの映像ソースを選ぶ
AUX 2 Source	OFF、ON	AUX 2 バスの映像ソースを選ぶ
Audio Knob Assign	OFF、ON	Audio Knob Assign メニュー
Audio Input	OFF、ON	Audio Input メニュー
Audio Output	OFF、ON	Audio Output メニュー
Audio Follow	OFF、ON	Audio Follow メニュー
Audio Auto Mixing	OFF、ON	Audio Auto Mixing メニュー

(*1) セットアップ画面から「Name Edit」でシーン・メモリーの名前を編集した場合は、変更後の名前が表示されます。

(*2) 「Number of MEMORY Button」が「8」のときに設定できます。

(*3) 「Number of MEMORY Button」が「24」のときに設定できます。

17: Macro

メニュー項目	設定値	説明
Execute	Enter	実行画面にジャンプします。
Edit	Enter	エディット画面にジャンプします。
Load From Storage	Enter	ストレージ内のマクロ設定ファイル (.RMC) を一覧表示します。 マクロ設定ファイルを選ぶと、本体にマクロ (1 ~ 100) を呼び出すことができます。
Save To Storage	Enter	ストレージ内のマクロ設定ファイル (.RMC) を一覧表示します。 ファイル名を設定すると、新規マクロ設定ファイルとして保存されます。 マクロ設定ファイルを選ぶと、既存のファイル名で上書き保存されます。
Button Assign	Enter	Button Assign メニューを表示します。
Number of MACRO Button	8、24	[MODE] ボタンで「MEMORY」を選んでいるとき、マクロ選択ボタンとして機能するボタンの数を設定します。
MACRO 1 ~ 8 Button (*2)	1 : MACRO1 ~ 100 : MACRO100 (*1) 初期値は、以下のとおりです。 1 : MACRO1 ~ 8 : MACRO8	MACRO ボタンに割り当てるマクロを選びます。
MACRO 1 ~ 24 Button (*3)	1 : MACRO1 ~ 100 : MACRO100 (*1) 初期値は、以下のとおりです。 1 : MACRO1 ~ 24 : MACRO24	MACRO ボタンに割り当てるマクロを選びます。
Initialize	Enter	マクロを初期化します。

(*1) セットアップ画面から「Name Edit」でマクロの名前を編集した場合は、変更後の名前が表示されます。

(*2) 「Number of MACRO Button」が「8」のときに設定できます。

(*3) 「Number of MACRO Button」が「24」のときに設定できます。

18 : Sequencer

メニュー項目	設定値	説明
List Edit	Enter	エディット画面にジャンプします。
	Name	---
	Function	シーケンサーに記録する操作を設定します。
		PGM Take 最終出力映像を切り替えます。
		Scene Memory プリセット・メモリーを呼び出します。
		Macro マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
	Value	Function に応じた操作の詳細を設定します。
	Time	オート・シーケンスがオンのときの動作を設定します。
		Pause オート・シーケンスを一時停止します。
		Auto 続けて次の操作を実行します。
		1 ～ 120sec 指定した時間を空けて、次の操作を実行します。
	Move	Enter 編集中の操作を移動して、リストを並べ替えます。
	Duplicate	Enter 編集中の操作をリストの任意の位置にコピーします。
	Delete	Enter 編集中の操作を削除します。
Sequencer	OFF、ON	シーケンサー機能をオン／オフします。
Repeat Execute	OFF、ON	「ON」にすると、設定した一連の操作を末尾まで実行したあと、続けて先頭の操作を実行できます。
Auto Sequence	OFF、ON	「ON」にすると、設定した間隔で自動的に操作を実行します。
Load From Storage	Enter	ストレージ内のシーケンサー設定ファイル（.RSQ）を一覧表示します。 シーケンサー設定ファイルを選べると、本体にシーケンサーの設定を呼び出すことができます。現在のシーケンサーの設定は、上書きされます。
Save To Storage	Enter	ストレージ内のシーケンサー設定ファイル（.RSQ）を一覧表示します。 ファイル名を設定すると、新規シーケンサー設定ファイルとして保存されます。 シーケンサー設定ファイルを選べると、既存のファイル名で上書き保存されます。
Initialize	Exec	シーケンサーを初期化します。

19: Assignable Pads

メニュー項目	設定値	説明
Bank	A ~ H	バンクを選びます。
Pad A-1 ~ H-8	Enter	セットアップ画面にジャンプします。

Category	Function	Value	説明
N/A	N/A	---	機能を割り当てません。
Video	Freeze	---	フリーズ機能をオン/オフします。
	Input Assign	Input 1 ~ 16	パッドを押すたびに、指定したクロスポイント・ボタンに割り当てる映像ソースを切り替えます。
	Still Output	Still 1 ~ 32	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー/最終出力します。
	Video Player Output	---	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー/最終出力します。
	PinP&Key 1 ~ 2 Source	HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ~ 16	子画面の映像ソースを切り替えます。
	DSK Source	HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、Still 1 ~ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ~ 16	DSK の映像ソースを切り替えます。
Audio	Input Mute	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のミュート機能をオン/オフします。
	Output Mute	Main Bus AUX 1 ~ 2 Bus USB Out Stream&Record	出力音声のミュート機能をオン/オフします。
	Input Solo	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のソロ機能をオン/オフします。
	Output Solo	Main Bus AUX 1 ~ 2 Bus	出力音声のソロ機能をオン/オフします。
	HPF On/Off	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	ハイパス・フィルター機能をオン/オフします。
	Echo Canceller	Audio In 1 ~ 2	エコー・キャンセラー機能をオン/オフします。
	Anti-Feedback	Audio In 1 ~ 2	アンチ・フィードバック機能をオン/オフします。
	Noise Gate	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	ノイズ・ゲート機能をオン/オフします。
	De-Esser	Audio In 1 ~ 2	ディエッサー機能をオン/オフします。
	Input Compressor	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のコンプレッサー機能をオン/オフします。
	Input Equalizer	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のイコライザー機能をオン/オフします。

Category	Function	Value	説明
Audio	Output Equalizer	Main Bus AUX 1 ~ 2 Bus USB Out Stream&Record	出力音声のイコライザー機能をオン/オフします。
	Output GEQ	Main Bus AUX 1 ~ 2 Bus	グラフィック・イコライザー機能をオン/オフします。
	Voice Changer	Audio In 1 ~ 2	ボイス・チェンジャーをオン/オフします。
	Auto Mixing	Setup Switch	オート・ミキシング画面にジャンプします。 オート・ミキシング機能をオン/オフします。
	Reverb (Momentary)	---	パッドを押している間だけ、リバーブをオンにします。
	Reverb (Alternate)	---	リバーブをオン/オフします。
	Output Comp/Limit	Main Bus AUX 1 ~ 2 Bus	出力音声のコンプレッサー/リミッター機能をオン/オフします。
	Loudness AGC	---	ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール機能をオン/オフします。
	Adaptive NR	---	アダプティブ・ノイズ・リダクション機能をオン/オフします。
Scene Memory	---	MEMORY 1 ~ 32	シーン・メモリーを呼び出します。 長押しで現在の設定をシーン・メモリーに保存することができます。
Macro	---	MACRO 1 ~ 100	マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
Sequencer	Sequencer	On/Off	シーケンサー機能をオン/オフします。
		Auto Sequence	オート・シーケンス機能をオン/オフします。
Auto Switching	Auto Switching	---	オート・スイッチング機能をオン/オフします。
	Beat Sync Tap	---	ビート・シンク機能のタップ入力を行います。 自動検出したビートを微調節したり手動でテンポを入力したりできます。
	Input Scan	Normal	パッドを押すたびに、最終出力を Input 1→8 の順に切り替えます。
		Reverse	パッドを押すたびに、最終出力を Input 8→1 の順に切り替えます。
	Scene Memory Scan	Normal	パッドを押すたびに、シーン・メモリーを 1→32 の順に呼び出します。
		Reverse	パッドを押すたびに、シーン・メモリーを 32→1 の順に呼び出します。
	PinP&Key 1 ~ 2 Scan	Normal	パッドを押すたびに、PinP&Key 1 ~ 2 子画面の映像を HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、Video Player/SRT In の順に切り替えます。
		Reverse	パッドを押すたびに、PinP&Key 1 ~ 2 子画面の映像を Video Player/SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替えます。
	DSK Scan	Normal	パッドを押すたびに、DSK のテロップの映像を HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、Video Player/SRT In の順に切り替えます。
		Reverse	パッドを押すたびに、DSK のテロップの映像を Video Player/SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替えます。
Control	External Rec Control	---	REC コントロール機能対応のレコーダーを接続しているとき、レコーダーの録画開始/停止をコントロールします。
	GPO (One Shot)	GPO 1 ~ 16	制御信号を 0.5 秒間出力します。
	GPO (Alternate)	GPO 1 ~ 16	パッドを押すたびに、制御信号の出力をオン/オフします。
	Camera Control	Mode	カメラ・コントロール・モードをオン/オフします。
		Pan Left	カメラを左に Pan します。
		Pan Right	カメラを右に Pan します。
		Tilt Down	カメラを下に Tilt します。
		Tilt Up	カメラを上を Tilt します。
		Zoom Wide (Slow)	カメラを Zoom Wide (Slow) します。
		Zoom Wide (Fast)	カメラを Zoom Wide (Fast) します。
		Zoom Tele (Slow)	カメラを Zoom Tele (Slow) します。
		Zoom Tele (Fast)	カメラを Zoom Tele (Fast) します。
		Focus Near	カメラを Focus Near します。
		Focus Far	カメラを Focus Far します。
		Auto Focus	カメラの Auto Focus をオン/オフします。
		Auto Exposure	カメラの Auto Exposure をオン/オフします。
		Preset 1 ~ 8 Recall	Preset 1 ~ 8 をリコールします。
		Camera 1 ~ 8 Select	操作対象のカメラを切り替えます。
Stream&Record	---	Setup	配信/録画のセットアップ画面を表示します。
		Start/Stop	配信/録画を開始/停止します。
		Safety Image	Safety Image の表示をオン/オフします。 配信映像を Safety Image へ切り替え、音声をミュートすることができます。
Video Player/SRT In	---	Setup	ビデオ・プレーヤーのセットアップ画面を表示します。
		Start/Pause/Stop	動画の再生を開始/一時停止します。 パッドを長押しすると、再生を停止します。

Category	Function	Value	説明
System	Effects Transition Sync	---	パッドを押すたびに、Effects Transition Sync 機能をオン／オフします。
	Bluetooth Control	---	パッドを押すたびに、Bluetooth 機能をオン／オフします。 パッドを長押しすると、Bluetooth 機器とのペアリングを開始します。
	Panel Operation	A/B、PGM/PST、Dissolve、PGM/PST(16)	パッドを押すと、設定した Panel Operation に切り替わります。
Audio Player	Import	Enter	オーディオをインポートします。
	Name	Enter	オーディオ・クリップに名前を付けます。
	Duration	---	オーディオ・クリップの長さを表示します。
	Offset Time	0.0 ～ (オーディオ・クリップの長さ)	オーディオ・クリップの再生開始位置を設定します。
	Level	-INF ～ 10.0dB	オーディオ・クリップの音量を設定します。
	Fade In Time	0.0 ～ 10.0sec	フェード・イン時間を設定します。
	Fade Out Time	0.0 ～ 10.0sec	フェード・アウト時間を設定します。
	Repeat	OFF、ON	「ON」に設定すると、オーディオ・クリップをループ再生します。
	Pad Mode	Latch	パッドを押すたびに、再生／停止します。再生時は頭から再生します。
		Pause	パッドを押すたびに、再生／停止します。再生時は最後に停止した位置から再生します。
		Replay	パッドを押すたびに、頭から再生します。
		Momentary	パッドを押している間、再生します。
	Pad Color	White、Red、Green、Blue、Yellow、Magenta、Cyan、Dark Orange、Turquoise Green、Purple	対応するパッドの、点灯色を設定します。
	Playing Mode	BGM	BGM のオーディオ・クリップを停止して、BGM のオーディオ・クリップを再生します (1つの BGM のみ再生します)。
		SE	他のオーディオ・クリップを停止せずに再生します。
		Solo	他のオーディオ・クリップをすべて停止して、Solo のオーディオ・クリップのみ再生します。
Graphics Presenter	Graphics Presenter	Select Next Content、Select Content 1 ～ 124、Hide Front Contents、Hide Background Contents、ON AIR Switch	Windows パソコン専用アプリ「Graphics Presenter」用のコマンドを送信します。
Yamaha Mixer Control	Yamaha Mixer Control		ヤマハ・ミキサー・コントロール機能をオン／オフします。
	Scene Recall	A00 ～ A99、B00 ～ B99	ヤマハ DM3 シリーズのシーンメモリーを呼び出します。

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

20 : Roland Fill + Key

メニュー項目	設定値	説明
Roland Fill + Key Mode	OFF、ON	Roland Fill + Key Mode をオン／オフします。

21 : Freeze

メニュー項目	設定値	説明
Freeze	OFF、ON	フリーズ機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると、入力映像を一時的に静止します。
Type	フリーズの動作モードを設定します。	
	All	すべての入力映像が静止します。
	Select	指定した入力映像だけが静止します。
HDMI 1 ～ 4 (*1)	Disable、Enable	各入力で、フリーズ機能の有効 (Enable) ／無効 (Disable) を設定します。
SDI 1 ～ 4 (*1)	Disable、Enable	

(*1) 「Type」が「Select」のときに設定できます。

22 : Auto Switching

メニュー項目	設定値	説明
Auto Switching	OFF、ON	オート・スイッチング機能のオン／オフを設定します。「ON」にすると映像やシーン・メモリーが自動的に切り替わります。
Type	オート・スイッチングの動作モードを設定します。	
	Input Scan	指定した間隔で、Input 1 ～ 8 の映像が自動的に切り替わります。
	Scene Memory Scan	指定した間隔で、シーン・メモリー 1 ～ 32 を自動的に呼び出します。各シーン・メモリーに保存されている設定に従って、映像／音声切り替わります。
	Beat Sync	入力音声から検出したビート（拍）に合わせて映像が切り替わります。
	Video Follows Audio	マイクからの音声に合わせて映像が切り替わります。
	PinP&Key 1 ～ 2 Scan	指定した間隔で、PinP&KEY の映像が自動的に切り替わります。
	DSK Scan	指定した間隔で、DSK の映像が自動的に切り替わります。
Type = Input Scan のとき		
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。 ※ 映像入力がない場合は、スキップされます。	
	Normal	Input 1 → 8 の順に切り替わります。
	Reverse	Input 8 → 1 の順に切り替わります。
	Random	ランダムに切り替わります。
Scan Transition Time	0.0 ～ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。
Scan Target	オート・スイッチングの対象とする映像を設定します。	
	Video Input	最終出力映像とプレビュー映像
	PinP & Key 1 ～ 2	PinP & Key レイヤー（子画面）の映像
	DSK	DSK レイヤーの映像
Input 1 ～ 8 Time	Off、1 ～ 120sec	映像の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。
Type = Scene Memory Scan のとき		
Scan Sequence	シーン・メモリーを切り替える順番を設定します。 ※ 設定が保存されていないシーン・メモリーは、スキップされます。	
	Normal	シーン・メモリー 1 → 32 の順に切り替わります。
	Reverse	シーン・メモリー 32 → 1 の順に切り替わります。
	Random	ランダムに切り替わります。
Memory 1 ～ 32 Time	Off、1 ～ 120sec	次のシーン・メモリーに切り替わるまでの時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。

メニュー項目	設定値	説明
Type = Beat Sync のとき		
Sync Source	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In(*1)	映像を同期させる入力音声を設定します。
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。 ※ 映像入力がない場合は、スキップされます。	
	Normal	Input 1→8 の順に切り替わります。
	Reverse	Input 8→1 の順に切り替わります。
	Random	ランダムに切り替わります。
Scan Transition Time	0.0 ~ 4.0sec	映像の切り替え時間を設定します。
Scan Cycle	1 ~ 10	何拍で次の映像に切り替えるかを設定します。
Scan Target	Video Input、PinP & Key 1 ~ 2、DSK	オート・スイッチングの対象とする映像を設定します。
Input 1 ~ 8	OFF、ON	映像の切り替え対象を設定します。「Off」にすると、スキップされます。
Type = Video Follows Audio のとき		
Audio In 1 ~ 3/4 Target、 USB In Target、 Bluetooth In Target、 Audio Player Target、 HDMI 1 ~ 4 Target、 SDI 1 ~ 4 Target、 Video Player/SRT In Target	Off、Input 1 ~ 16、 Memory 1 ~ 32、 Macro 1 ~ 100	音声を検出したときの動作を設定します。
		Input 1 ~ 16 出力映像を切り替えます。
		Memory 1 ~ 32 シーン・メモリーを呼び出します。
		Macro 1 ~ 100 マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
Threshold	-50 ~ 0dB	ビデオ・フォロー・オーディオ機能が動作する基準レベルを設定します。スレッショルドを超える音声が検出されると、映像が切り替わります。
Audio Mix Target	Off、Input 1 ~ 16	複数のマイクで音声を検出したときに出力する映像を設定します。「Off」にすると、音声を検出した順番に映像が切り替わります。
Audio Silent Target	Off、Input 1 ~ 16	すべてのマイクから音声入力がないときに出力する映像を設定します。「Off」にすると、最後に切り替わった映像を出力し続けます。
Audio Redetection Time	0.0 ~ 30.0sec	映像切り替えが完了したあと、再び音声の検出を始めるまでの時間を設定します。
Scan Transition Time	0.0 ~ 4.0sec	映像切り替え時間を設定します。
Type = PinP&Key 1 ~ 2 Scan、DSK Scan のとき		
Scan Sequence	映像を表示する順番を設定します。	
	Normal	HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、V.Player または SRT In の順に切り替わります。
	Reverse	V.Player または SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替わります。
	Random	ランダムに切り替わります。
HDMI 1 ~ 4 Time	Off、1 ~ 120sec	映像の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。
SDI 1 ~ 4 Time	Off、1 ~ 120sec	映像の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。
Still 1 ~ 32 Time	Off、1 ~ 120sec	静止画の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。
V.Player/SRT In Time (*1)	Off、1 ~ 120sec	動画の表示時間を設定します。「Off」にすると、スキップされます。

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

23 : Ctl/Exp

メニュー項目	設定値	説明	
Ctl/Exp 1、2	CTL/EXP 1、2 端子に接続したフットスイッチやエクスプレッション・ペダルに関する設定をします。		
Ctl/Exp Type	CTL/EXP 1 または 2 端子に接続する機器（フットスイッチ、エクスプレッション・ペダル）を設定します。		
	Off	CTL/EXP 端子を無効にします。	
	Ctl A & Ctl B	フットスイッチを接続するときに選びます。	
	Exp	エクスプレッション・ペダルを接続するときに選びます。	
Ctl/Exp Type = Ctl A & Ctl B のとき			
Ctl A Ctl B	フットスイッチの CTL A / CTL B に割り当てる機能を設定します。		
	Category	Value	説明
	N/A	---	機能を割り当てません。
	PGM Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	PGM バスに送る映像を切り替えます。
	PST Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	PST バスに送る映像を切り替えます。
	AUX 1、2 Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	AUX バスに送る映像を切り替えます。
	Input 1 ～ 16 Assign	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Stream&Record Status 1 ～ 2、Date&Time(Analog/Digital) (*2)、N/A	Input 1 ～ 16 に割り当てる映像を変更します。
	Still Output	Still 1 ～ 32	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。もう一度フットスイッチを踏むと、通常の出力に戻ります。
	Video Player Output	---	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
	PinP&Key 1 ～ 2 Source	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In、Input 1 ～ 16	子画面の映像ソースを切り替えます。
	DSK Source	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In、Input 1 ～ 16	DSK の映像ソースを切り替えます。
	Button Control	CUT Button、AUTO Button TRANSITION Button SPLIT 1 Button SPLIT 2 Button PinP&KEY 1 ～ 2 PVW Button PinP&KEY 1 ～ 2 PGM Button DSK PVW Button DSK PGM Button Assignable Pad 1 ～ 8	「VALUE」で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
	Audio Input Mute	Audio In 1 ～ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のミュート機能をオン／オフします。
	Audio Output Mute	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、USB Out、Stream&Record	出力音声のミュート機能をオン／オフします。
	Audio Input Solo	Audio In 1 ～ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音声のソロ機能をオン／オフします。
	Audio Output Solo	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus	出力音声のソロ機能をオン／オフします。
	Voice Changer	Audio In 1、2	ボイス・チェンジャーをオン／オフします。
	Auto Mixing	---	オート・ミキシング機能をオン／オフします。
	Reverb (Momentary)	---	フットスイッチを踏んでいる間だけ、リバースをオンにします。

メニュー項目	設定値	説明	
Ctl A Ctl B	Reverb (Alternate)	---	リバーブをオン／オフします。
	Output Fade	---	最終出力映像をフェード・イン／アウトします。
	Load Memory	Memory 1 ～ 32	シーン・メモリーを呼び出します。
	Input Scan	Normal	フットスイッチを踏むたびに、最終出力を Input 1→8 の順に切り替えます。
		Reverse	フットスイッチを踏むたびに、最終出力を Input 8→1 の順に切り替えます。
	Scene Memory Scan	Normal	フットスイッチを踏むたびに、シーン・メモリーを 1→32 の順に呼び出します。
		Reverse	フットスイッチを踏むたびに、シーン・メモリーを 32→1 の順に呼び出します。
	PinP&Key 1 ～ 2 Scan	Normal	フットスイッチを踏むたびに、PinP&Key 1 ～ 2 子画面の映像を HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、Video Player/SRT In の順に切り替えます。
		Reverse	フットスイッチを踏むたびに、PinP&Key 1 ～ 2 子画面の映像を Video Player/SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替えます。
	DSK Scan	Normal	フットスイッチを踏むたびに、DSK のテロップの映像を HDMI 1→4、SDI 1→4、Still 1→32、Video Player/SRT In の順に切り替えます。
		Reverse	フットスイッチを踏むたびに、DSK のテロップの映像を Video Player/SRT In、Still 32→1、SDI 4→1、HDMI 4→1 の順に切り替えます。
	Macro Execute	Macro 1 ～ 100	マクロ（記録した一連の操作）を実行します。
	Sequencer	シーケンサー機能がオンのとき、「VALUE」で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。	
		Mode On/Off	フットスイッチを踏むたびに、シーケンサー機能をオン／オフします。
		Next	シーケンサー機能がオンのとき、次の操作に進みます。
		Previous	シーケンサー機能がオンのとき、1 つ前の操作が完了した状態に戻します。
		Auto Sequence	シーケンサー機能がオンのとき、フットスイッチを踏むたびにオート・シーケンス機能をオン／オフします。
	GPO (One Shot)	GPO 1 ～ 16	制御信号を 0.5 秒間出力します。
	GPO (Alternate)	GPO 1 ～ 16	フットスイッチを踏むたびに、制御信号の出力をオン／オフします。
	Camera Control	Mode	カメラ・コントロール・モードをオン／オフします。
		Pan Left	カメラを左に Pan します。
		Pan Right	カメラを右に Pan します。
		Tilt Down	カメラを下に Tilt します。
		Tilt Up	カメラを上を Tilt します。
		Zoom Wide (Slow)	カメラを Zoom Wide (Slow) します。
		Zoom Wide (Fast)	カメラを Zoom Wide (Fast) します。
		Zoom Tele (Slow)	カメラを Zoom Tele (Slow) します。
		Zoom Tele (Fast)	カメラを Zoom Tele (Fast) します。
		Focus Near	カメラを Focus Near します。
		Focus Far	カメラを Focus Far します。
		Auto Focus	カメラの Auto Focus をオン／オフします。
		Auto Exposure	カメラの Auto Exposure をオン／オフします。
		Preset 1 ～ 8 Recall	Preset 1 ～ 8 をリコールします。

メニュー項目	設定値	説明	
Ctl/Exp Type = Exp のとき			
Exp	エクスプレッション・ペダルに割り当てる機能を設定します。		
	Category	Value	説明
	N/A	---	機能を割り当てません。
	Video Fader	Fade、Cut	Fade： ビデオ・フェーダーを操作します。 Cut： 最終出力映像とプレビュー映像をカットで切り替えます。
	Still Output	Still 1 ～ 32	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。
	Video Player Output	---	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
	Audio Input Level	Audio In 1 ～ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、V.Player/SRT In (*1)	入力音量を調節します。
	Audio Output Level	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、USB Out、Stream&Record	出力音量を調節します。
	Voice Changer	ボイス・チェンジャーを調節します。	
		Audio In 1 ～ 2 Pitch	声の高さ（ピッチ）を半音単位で調節します。
		Audio In 1 ～ 2 Formant	声の性質（フォルマント）を調節します。
		Audio In 1 ～ 2 Mix	普通の声（0）とエフェクトをかけた声（100）のバランスを調節します。
	Reverb Level	---	リバーブからの音声の戻り量（リターン・レベル）を調節します。
Exp Calibration	Enter	Exp Calibration 画面を表示します。 画面の指示に従って、エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション（調節）をします。 エクスプレッション・ペダルを初めてお使いになるときは、ペダルを最適な状態にするために、必ずキャリブレーションを実行してください。 また、経年変化や使用環境によって、エクスプレッション・ペダルが最適な動作をしなくなる場合があります。このようにときにも、エクスプレッション・ペダルのキャリブレーションを実行します。	

(*1) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

(*2) 「System → Date&Time → Clock Display Type」の設定により、Analog または Digital のどちらかが表示されます。

24 : RS-232/Tally/GPO/GPI/Keypad

メニュー項目	設定値	説明	
RS-232	RS-232 コマンドの送受信に関する設定をします。		
RS-232	OFF、ON	「ON」にすると、RS-232 コマンドの送受信ができます。	
Baudrate	9600、38400、115200	RS-232 端子の通信速度 (bps) を設定します。	
Tally/GPO	TALLY/GPIO 端子から出力するタリー信号や制御信号を設定します。		
Template	HDMI/SDI、HDMI/GPO、SDI/GPO、GPO	Tally/GPO 1 ～ 16 の設定用テンプレートを選びます。 [VALUE] つまみを押すと、「Tally/GPO 1 ～ 16」にテンプレートの設定が反映されます。	
TALLY/GPO 1 ～ 16	TALLY/GPIO 端子のコネクター・ピン 1 ～ 16 に、タリー信号を割り当てます。		
	PGM HDMI 1 ～ 4 PGM SDI 1 ～ 4	該当する端子の映像が最終出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PGM Still 1 ～ 32	該当する静止画が最終出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PGM Video Player/SRT In	該当するビデオ・プレーヤー／SRT In の映像が最終出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PGM Input 1 ～ 16	該当するクロスポイント・ボタンで最終出力映像を選んだときに（赤点灯）、タリー信号が出力されます。	
	PST HDMI 1 ～ 4 PST SDI 1 ～ 4	該当する端子の映像がプレビュー出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PST Still 1 ～ 32	該当する静止画がプレビュー出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PST Video Player/SRT In	該当するビデオ・プレーヤーの映像がプレビュー出力されたときに、タリー信号が出力されます。	
	PST Input 1 ～ 16	該当するクロスポイント・ボタンでプレビュー出力映像を選んだときに（緑点灯）、タリー信号が出力されます。	
	TALLY/GPIO 端子のコネクター・ピン 1 ～ 16 に、GPO を割り当てます。		
	GPO 1 ～ 16	ASSIGNABLE PADS やフットスイッチ、GPI に GPO 出力機能を割り当て、それぞれを操作することで、制御信号が出力されます。	
Tally Settings			
AUX 1 ～ 2(PGM)	Disable、Enable	「Enable」にすると、該当する映像パスの出力状態がタリー情報に反映されます。	
PinP&Key 1 ～ 2 (PGM/PST)			
DSK(PGM/PST)			
GPI、Numeric Keypad	GPI、テンキーに割り当てる機能を設定します。		
GPI 1 ～ 8 Keypad 0 ～ 9、+、-、*、/、., Enter	外部から制御信号が入力される／キーを押すと、割り当てられた機能を実行します。		
	Category	Value	説明
	N/A	---	機能を割り当てません。
	PGM Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	PGM バスに送る映像を切り替えます。
	PST Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	PST バスに送る映像を切り替えます。
	AUX 1、2 Channel Select	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Input 1 ～ 16	AUX バスに送る映像を切り替えます。
	Input 1 ～ 16 Assign	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In (*1)、Stream&Record Status 1 ～ 2、Date&Time(Analog/Digital(*2))、N/A	Input 1 ～ 16 に割り当てる映像を変更します。
	Still Output	Still 1 ～ 32	通常の出力を一時的に止めて、静止画をカットでプレビュー／最終出力します。もう一度フットスイッチを踏むと、通常の出力に戻ります。
	Video Player Output	---	通常の出力を一時的に止めて、ビデオ・プレーヤーの映像をカットでプレビュー／最終出力します。
	PinP&Key 1 ～ 2 Source	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In、Input 1 ～ 16	子画面の映像ソースを切り替えます。
	DSK Source	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、Still 1 ～ 32、V.Player/SRT In、Input 1 ～ 16	DSK の映像ソースを切り替えます。
	Button Control	CUT Button、AUTO Button TRANSITION Button SPLIT 1 Button SPLIT 2 Button PinP&KEY 1 ～ 2 PVW Button PinP&KEY 1 ～ 2 PGM Button DSK PVW Button DSK PGM Button Assignable Pad 1 ～ 8	「VALUE」で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。

メニュー項目	設定値	説明
GPI 1 ~ 8 Keypad 0 ~ 9、+、-、*、/、.. Enter	Audio Input Mute	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)
	Audio Output Mute	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus、USB Out、Stream&Record
	Audio Input Solo	Audio In 1 ~ 3/4、USB In、Bluetooth In、Audio Player、HDMI 1 ~ 4、SDI 1 ~ 4、V.Player/SRT In (*1)
	Audio Output Solo	Main Bus、AUX 1 Bus、AUX 2 Bus
	Voice Changer	Audio In 1、2
	Auto Mixing	---
	Reverb (Momentary)	---
	Reverb (Alternate)	---
	Output Fade	---
	Load Memory	Memory 1 ~ 32
	Input Scan	Normal
		Reverse
	Scene Memory Scan	Normal
		Reverse
	PinP&Key 1 ~ 2 Scan	Normal
		Reverse
	DSK Scan	Normal
		Reverse
	Macro Execute	Macro 1 ~ 100
	Sequencer	シーケンサー機能がオンのとき、[VALUE] で選んだボタンを押したときと同じ動作をします。
		Mode On/Off
		Next
		Previous
		Auto Sequence
	GPO (One Shot)	GPO 1 ~ 16
	GPO (Alternate)	GPO 1 ~ 16
	Camera Control	Mode
		Pan Left
		Pan Right
		Tilt Down
		Tilt Up
		Zoom Wide (Slow)
		Zoom Wide (Fast)
		Zoom Tele (Slow)
		Zoom Tele (Fast)
		Focus Near
		Focus Far
		Auto Focus
		Auto Exposure
		Preset 1 ~ 8 Recall
	Yamaha Mixer Control	Yamaha Mixer Control
		Scene Recall A00 ~ A99、B00 ~ B99

(*1) 「[MENU] ボタン→Video Player/SRT In→Type」の設定により、V.PlayerまたはSRT Inのどちらかが表示されます。

(*2) 「System→Date&Time→Clock Display Type」の設定により、AnalogまたはDigitalのどちらかが表示されます。

25 : Network

メニュー項目	設定値	説明				
Priority	LAN、Tethering	LAN とスマートフォンのテザリングのどちらを優先して配信に使用するか設定します。				
LAN Setup	Enter	LAN の設定をします。				
Configure	IP アドレス、サブネット・マスク、デフォルト・ゲートウェイの設定方法を選びます。					
	Manual	手動で設定します。				
	Using DHCP	LAN 内の DHCP サーバーから IP アドレスなど、ネットワーク接続に必要な情報を自動取得します。				
	IP Address (*1)	接続するネットワークに従って、IP アドレスを設定します。				
	Subnet Mask (*1)	接続するネットワークに従って、サブネット・マスクを設定します。				
	Default Gateway (*1)	接続するネットワークに従って、デフォルト・ゲートウェイを設定します。				
	DNS Server (*1)	DNS サーバーを設定します。				
Start Tethering Stop Tethering	Exec	スマートフォンのテザリングを、スタート／ストップします。				
Network Information	Enter	Network Information 画面を表示します。				
	以下の情報を表示します。					
	項目	説明				
	Link Status	接続状態				
	IP Address	IP アドレス				
	Subnet Mask	サブネット・マスク				
	Default Gateway	デフォルト・ゲートウェイ				
	DNS Server	DNS サーバー				
2D Code for Smart Tally	Enter	スマート・タリーの設定画面（Web）にアクセスする QR コード ※ V-80HD がネットワークに接続されていないと、QR コードは表示されません。				
User Name	表示のみ	※ ネットワーク接続に必要なユーザー名を表示します。				
Network Password	Enter	Network Password 画面を表示します。 ネットワーク接続に必要なパスワードを 8 桁で設定します。 パスワードの表示				
		<table><tr><td>パスワード未設定</td><td></td></tr><tr><td>パスワード設定済み</td><td>*****</td></tr></table>	パスワード未設定		パスワード設定済み	*****
		パスワード未設定				
		パスワード設定済み	*****			
※ 同じネットワークに接続したパソコンなどから V-80HD にアクセスするときに、ここで設定したパスワードの入力が必要です。						

メニュー一覧

メニュー項目	設定値	説明	
Yamaha Mixer Control	Enter	ヤマハ・ミキサー・コントロール・メニューを表示します。	
	メニュー項目	設定値	説明
	Control	Off、On	ヤマハ・ミキサー・コントロール機能をオン／オフします。
	Status	Off	ヤマハ・ミキサー・コントロールがオフ
		Not Connected	LAN ケーブルが接続されていない
		Not Found	接続した機器（ミキサー）からの応答なし
		Connecting	接続の処理中
		Connected	接続が確立
	Mixer IP Address	---.---.---.---	接続するミキサーの IP アドレスを入力します。
	Audio Fader Assign	ミキサーのフェーダーを割り当てます。	
	Audio In 1	Off、CH 1 ～ CH 16、MIX 1 ～ MIX 6	各オーディオ・チャンネルに割り当てるミキサーのフェーダーを設定します。
	Audio In 2		
	Audio In 3/4		
	USB In		
	Bluetooth In		
	Audio Player		
	HDMI In 1		
	HDMI In 2		
	HDMI In 3		
	HDMI In 4		
	SDI In 1		
	SDI In 2		
	SDI In 3		
	SDI In 4		
	Video Player/SRT In		
	Main Bus		
	AUX 1 Bus		
	AUX 2 Bus		
	USB Out		
	Stream&Record		
MAC Address	--:--:--:--:--:--	V-80HD の MAC アドレスを表示します。	

(*1) 「Configure」 が 「Manual」 のときに設定できます。

26 : Camera Control

メニュー項目	設定値	説明
Camera ID	Camera 1 ～ 8	操作対象のカメラを選びます。
Protocol	N/A、JVC、Panasonic、Canon PTZ、VISCA over IP、PTZOptics、Avonic	カメラのプロトコルを設定します。
IP Address	192.168.0.101	カメラの IP アドレスを入力します。
Login Name	Enter	Login Name 画面を表示します。 「Protocol」が「JVC」のとき、カメラと接続するために必要なログイン名を入力します。
Password	Enter	Password 画面を表示します。 「Protocol」が「JVC」のとき、カメラと接続するために必要なパスワードを入力します。
Camera Preset	Preset 1 ～ 8	設定を呼び出す／登録するプリセットを選びます。
Recall	Exec	[VALUE] つまみを押すと、カメラからプリセットを呼び出すことができます。 ASSIGNABLE PADS にカメラ・コントロール機能を割り当てると、ボタン操作でプリセットを呼び出すことができます (P.97)。
All Cameras Recall	OFF	操作対象のカメラからプリセットを呼び出します。
	ON	すべてのカメラ (Camera 1 ～ 8) からプリセットを同時に呼び出します。
Store	Exec	[VALUE] つまみを押すと、カメラの設定をプリセットに登録することができます。 ※ プリセットは、カメラ本体に保存されます。
Pan	カメラの水平方向の位置を調整します。設定値にカーソルがあるとき、カメラを操作することができます。	
	Left	[VALUE] つまみを押している間、カメラが左を向きます。
	Right	[VALUE] つまみを押している間、カメラが右を向きます。
Tilt	カメラの垂直方向の位置を調整します。設定値にカーソルがあるとき、カメラを操作することができます。	
	Down	[VALUE] つまみを押している間、カメラが下を向きます。
	Up	[VALUE] つまみを押している間、カメラが上を向きます。
Pan/Tilt Speed	1 ～ 24	カメラの向きを変えるとき、速度を調整します。
Zoom	カメラのズーム位置を調整します。設定値にカーソルがあるとき、カメラを操作することができます。	
	Wide (Fast)	[VALUE] つまみを押している間、高速でズームアウトします。
	Wide (Slow)	[VALUE] つまみを押している間、低速でズームアウトします。
	Tele (Slow)	[VALUE] つまみを押している間、低速でズームインします。
	Tele (Fast)	[VALUE] つまみを押している間、高速でズームインします。
Focus (*1)	カメラの焦点を調整します。設定値にカーソルがあるとき、カメラを操作することができます。	
	Near	[VALUE] つまみを押している間、焦点を近くに合わせます。
	Far	[VALUE] つまみを押している間、焦点を遠くに合わせます。
Auto Focus	OFF、ON	「ON」にすると、焦点を自動的に合わせます。
Auto Exposure	OFF、ON	露出モードを設定します。
Tally Channel	HDMI 1 ～ 4、SDI 1 ～ 4、SRT In	カメラの映像が入力されている端子を指定します。V-80HD からカメラの映像が最終出力されると、カメラのタリー・ランプが点灯します。

(*1) 「Auto Focus」が「Off」のときに設定できます。

27 : SD Card/USB Flash Drive

メニュー項目	設定値	説明
SD Card		
Eject	Exec	SD カードを取り出すときに実行します。
Format	Exec	SD カードをフォーマットします。
Speed Test	Exec	SD カードの処理速度を計測します。
USB Flash Drive		
Eject	Exec	USB メモリーを取り出すときに実行します。
Format	Exec	USB メモリーをフォーマットします。
Speed Test	Exec	USB メモリーの処理速度を計測します。
Restore All Settings	Enter	ストレージ内の設定ファイル (.V80HD) を一覧表示します。 設定ファイルを選ぶと、本体に設定をリストア (復元) することができます。現在の設定は、上書きされます。
Backup All Settings	Enter	ストレージ内の設定ファイル (.V80HD) を一覧表示します。 ストレージに現在の設定をバックアップすることができます。 ※ System メニューの「Test Pattern」や「Test Tone」など、一部の設定はファイルに保存されません。

28 : System

メニュー項目	設定値	説明	
Language/ 言語 / 语言	English、日本語、简体中文	メニュー画面やセットアップ画面の表示言語を変更します。	
Date&Time	メニュー項目	設定値	説明
	Configure	時刻の合わせかたを選びます。	
		Manual	手動で時刻を合わせます。
		Using NTP	NTP サーバーに問い合わせ、時刻を合わせます。
	Time Zone	---	タイム・ゾーンを設定します。
	Date Format	Month/Day/Year Day/Month/Year Year/Month/Day	日付の表示形式を設定します。
	Clock Display Type	Analog、Digital	時計表示のタイプを設定します。
	NTP Server (*1)	---	NTP サーバーを設定します。
	Manual (*2)	Enter	手動で時刻を設定します。
Bluetooth	メニュー項目	設定値	説明
	Bluetooth	OFF、ON	Bluetooth 機能をオン／オフします。
	Pairing	Exec	Bluetooth 機器とのペアリングを実行します。
	Status	Bluetooth 接続の状態を表示します。	
		Off	Bluetooth 機能オフ
		Pairing Mode	ペアリング中
		Not Connected	接続待ち
		Connected	接続済み
HDCP	HDCP の有効 (ON) ／無効 (OFF) を設定します。		
	OFF	著作権保護 (HDCP) された映像は入力できません。	
	ON	著作権保護 (HDCP) された映像を入力できます。また、出力される映像に HDCP を付加します。 ※ SDI OUT 端子と USB STREAM 端子から映像／音声は出力されません。	
System Format	Enter	設定画面にジャンプします。	
System Format (*3)	1080p、720p	システム・フォーマットを設定します。	
Frame Rate (*3)	60、59.94、50、30、 29.97、25、24、23.98Hz	フレーム・レートを設定します。	
HDMI Out 1 ～ 3	1080p、1080i、720p	HDMI OUT 1 ～ 3 端子の出力フォーマットを設定します。 ※ [System Format]、[Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
SDI Out 1 ～ 2	1080p、1080i、720p	SDI OUT 1 ～ 2 端子の出力フォーマットを設定します。 ※ [System Format]、[Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
USB Out	1080p、720p	USB STREAM 端子の出力フォーマットを設定します。 ※ [System Format]、[USB Out Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
USB Out Frame Rate (*3)	30、60Hz	USB STREAM 端子のフレーム・レートを設定します。 ※ [Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
	29.97、59.94Hz		
	25、50Hz		
Stream&Record	1080p、720p	DIRECT STREAM 端子の出力フォーマットを設定します。 ※ [System Format]、[Stream&Record Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
Stream&Record Frame Rate (*3)	30、60Hz	DIRECT STREAM 端子のフレーム・レートを設定します。 ※ [Frame Rate] の設定によって、設定値が異なります。	
	29.97、59.94Hz		
	25、50Hz		
Panel Operation	映像切り替えの操作モードを設定します。		
	A/B	ビデオ・フェーダーが倒れているバス側の映像を最終出力します。	
	PGM/PST	常に PGM/A バス側の映像を最終出力します。PST/B バス側では、プレビュー出力映像（次に出力される映像）を選びます。	
	Dissolve	出力したい映像を選び、PGM バスへ即座に出力するモードです。	
	PGM/PST(16)	PGM/A [1] ～ [8] ボタンと PST/B [1] ～ [8] ボタン、合計 16 個のボタンすべてを PST/B のクロスポイント・ボタンとして使用するモードです。	

メニュー項目	設定値	説明
CUT Button Assign (*4)	[CUT] ボタンの機能を設定します。	
	▲Auto Take	PST/B バスの映像が選ばれているときに、PGM/A バスの映像に切り替えます。映像切り替え時間は、Mix/Wipe メニューの「Wipe/Mix Time」で設定します。
	▲Auto Take▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像を切り替えます。映像切り替え時間は、Mix/Wipe メニューの「Wipe/Mix Time」で設定します。
	▲Cut	PST/B バスの映像が選ばれているときに、PGM/A バスの映像にカットで切り替えます。
	▲Cut▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像をカットで切り替えます。
	▲Transform	PST/B バスの映像が選ばれているときに、ボタンを押している間だけ、PGM/A バスの映像にカットで切り替えます。
AUTO Button Assign (*4)	[AUTO] ボタンの機能を設定します。	
	Auto Take▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、PST/B バスの映像に切り替えます。映像切り替え時間は、Mix/Wipe メニューの「Wipe/Mix Time」で設定します。
	▲Auto Take▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像を切り替えます。映像切り替え時間は、Mix/Wipe メニューの「Wipe/Mix Time」で設定します。
	Cut▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、PST/B バスの映像にカットで切り替えます。
	▲Cut▼	PGM/A バスと PST/B バスの映像をカットで切り替えます。
	Transform▼	PGM/A バスの映像が選ばれているときに、ボタンを押している間だけ、PST/B バスの映像にカットで切り替えます。
Effects Transition Sync(*5)	OFF、ON	PinP 合成や DSK 合成のオン／オフを映像切り替えに連動させるかどうかを設定します。 [ON] にすると、映像切り替えに連動して、PinP/DSK 合成がオン／オフします。映像を切り替えると、プレビュー出力されていた合成結果が最終出力されます。
Effects Spot	OFF、ON	[PVW] [PGM] ボタンのスポット機能の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。 スポットとは、各レイヤーの [PVW] または [PGM] ボタンを長押しすると、ボタンを押している間、操作対象のレイヤーだけを表示する機能です。
Audio Knob Mode	Catch	つまみを操作したとき、フェーダーやつまみの位置とパラメーターの値が一致していない場合は、パラメーターの値と一致するまで操作が無視されます。 ※ 操作が無視されている間は、[SETUP] ボタンまたは SIG/PEAK インジケーターが点滅します。つまみの位置がパラメーターの値に近づくほど点滅の周期が速くなります。
	Direct	つまみを操作したとき、該当するパラメーターの値を即座につまみの位置に合わせます。

(*1) 「Configure」が「Using NTP」のときに設定できます。

(*2) 「Configure」が「Manual」のときに設定できます。

(*3) 設定の変更は、[VALUE] つまみを押して確定するまで反映されません。

(*4) Panel Operation が「A/B」のときに有効です。

(*5) Panel Operation が「Dissolve」以外のときに有効です。

メニュー項目	設定値	説明
Panel Lock	パネル・ロックの有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。	
	メニュー項目	説明
	All	すべての操作子
	PGM/A All	PGM/A セクションにあるボタン
	PGM/A 1 ～ 8 Button	PGM/A [1] ～ [8] ボタン
	PST/B All	PST/B セクションにあるボタン
	PST/B 1 ～ 8 Button	PST/B [1] ～ [8] ボタン
	TRANSITION Button	[TRANSITION] ボタン
	CUT Button	[CUT] ボタン
	AUTO Button	[AUTO] ボタン
	Video Fader	フェーダー
	INPUT ASSIGN Button	[INPUT ASSIGN] ボタン
	MODE All	[MODE] ボタンと、各 MODE で有効になるボタン
	MODE Button	[MODE] ボタン
	AUX 1 Button	MODE が AUX 1 のときの [AUX 1] ボタン
	AUX 2 Button	MODE が AUX 2 のときの [AUX 2] ボタン
	MEMORY Button	MEMORY [1] ～ [24] ボタン
	MACRO Button	MACRO [1] ～ [24] ボタン
	SPLIT All	SPLIT セクションにあるボタン、つまみ
	SPLIT 1 Button	[SPLIT 1] ボタン
	SPLIT 2 Button	[SPLIT 2] ボタン
	PGM/A-CENTER	[PGM/A-CENTER] つまみ
	PST/B-CENTER	[PST/B-CENTER] つまみ
	PinP&Key 1 All	PinP&Key 1 セクションにあるボタン、つまみ
	POSITION H Knob	[POSITION H] つまみ
	POSITION V Knob	[POSITION V] つまみ
	SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
	PVW Button	[PVW] ボタン
	PGM Button	[PGM] ボタン
	PinP&Key 2 All	PinP&Key 2 セクションにあるボタン、つまみ
	POSITION H Knob	[POSITION H] つまみ
	POSITION V Knob	[POSITION V] つまみ
	SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
	PVW Button	[PVW] ボタン
	PGM Button	[PGM] ボタン
	DSK All	DSK セクションにあるボタン、つまみ
	LEVEL Knob	[LEVEL] つまみ
	GAIN Knob	[GAIN] つまみ
	SOURCE Button	[SOURCE] ボタン
	PVW Button	[PVW] ボタン
	PGM Button	[PGM] ボタン
	ASSIGNABLE PADS All	ASSIGNABLE PADS セクションにあるボタン
	SETUP Button	[SETUP] ボタン
	ASSIGNABLE PAD 1 ～ 8	ASSIGNABLE PAD 1 ～ 8
	AUDIO MIXER All	AUDIO MIXER セクションにあるボタン、つまみ
	SETUP Button	[SETUP] ボタン
	Input Knob 1 ～ 3/4	AUDIO INPUT LEVEL [1] ～ [3/4] つまみ
	Input Knob USB IN	AUDIO INPUT LEVEL [USB IN] つまみ
	Output Knob AUX 1 ～ 2	[AUX 1] ～ [AUX 2] つまみ
	Output Knob MAIN	[MAIN] つまみ
	MONITOR All	MONITOR セクションにあるボタン
	MONITOR 1 ～ 4 Button	MONITOR [1] ～ [4] ボタン
	CAPTURE IMAGE Button	[CAPTURE IMAGE] ボタン
	AUDIO LEVEL Button	[AUDIO LEVEL] ボタン
	OUTPUT FADE Button	[OUTPUT FADE] ボタン
	SEQUENCER All	SEQUENCER セクションにあるボタン
	ON Button	[ON] ボタン
	PREVIOUS Button	[PREVIOUS] ボタン
	NEXT Button	[NEXT] ボタン
AUX Linked PGM	AUX バスに最終出力と同じ映像を送るかどうかを設定します (AUX リンク)。	
	Off	AUX [1] ～ [8] ボタンで、AUX バスの映像を選びます。 Input 1 ～ 8 に割り当てられていない映像を選ぶ場合は、Video Assign メニューの「AUX 1 Source」または「AUX 2 Source」で設定します。
	Auto Link Manual Link	AUX リンクが有効になり、AUX バスには最終出力と同じ映像が送られます。 AUX リンクを一時的に無効にする AUX [1] ～ [8] ボタンを押すと、AUX [1] ～ [8] ボタンの選択が有効 (緑点灯) になります。 AUX バスに送る映像を任意で選ぶことができます。
		再び AUX リンクを有効にする
		Auto Link [AUTO] ボタンなどを操作して最終出力映像を切り替えると、AUX リンクが自動的に有効になります。
		Manual Link 選択中 (緑点灯) の AUX [1] ～ [8] ボタンを押して消灯させると、AUX リンクが有効になります。
	AUX 1	OFF、ON [ON] にすると、AUX 1 の AUX リンクが有効になります。
	AUX 2	OFF、ON [ON] にすると、AUX 2 の AUX リンクが有効になります。
Output Fade Time	0.0 ～ 4.0sec	フェード・イン/アウトの時間を設定します。

メニュー項目	設定値	説明
Output Fade Assign	[OUTPUT FADE] ボタンの機能を設定します。	
Video Fade	N/A, Black, White, AUX 1 ~ 2 (*6)	最終出力映像を、指定した映像でフェード・イン/アウトします。
Audio Fade	OFF, ON	[ON] にすると、出力音声映像と同時にフェード・イン/アウトします。
Monitor Assign	MONITOR [1] ~ [4] ボタンに割り当てる機能を設定します。	
Monitor 1 ~ 4	設定値	説明
	N/A	映像を割り当てません。
	Multi-View	最終出力映像、プレビュー出力映像、クロスポイント [1] ~ [8] ボタンに割り当てられている映像を分割表示します (マルチビュー)。
	Input-View 1	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像を 16 分割画面で表示します。
	Input-View 2	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像を 16 分割画面で表示します。
	Quad View	HDMI IN 端子と SDI IN 端子などからの入力映像を 4 分割画面で表示します。
	Program	最終出力映像を表示します。
	Sub Program	Sub Program バスの映像を表示します。
	Preview	プレビュー出力映像を表示します。
	AUX 1	AUX 1 バスの映像を表示します。
	AUX 2	AUX 2 バスの映像を表示します。
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像を表示します。
LED Dimmer	1 ~ 8	ボタンやインジケータが点灯したときの明るさを調節します。
LCD Dimmer	1 ~ 8	本体モニターの明るさを調節します。
LCD Menu	Left, Right	メニューが表示される位置を設定します。
Tally Frame	モニターにタリー枠を表示するかどうかを設定します。	
Multi-View	OFF, ON	Multi-View でのタリー枠表示をオン/オフします。
Input-View 1	OFF, ON	Input-View 1 でのタリー枠表示をオン/オフします。
Input-View 2	OFF, ON	Input-View 2 でのタリー枠表示をオン/オフします。
Quad-View	OFF, ON	Quad-View でのタリー枠表示をオン/オフします。
AUX/Source Indicator	モニターに AUX/Source インジケータを表示するかどうかを設定します。	
		色
		説明
		黄
		マゼンタ
		緑
	PinP & Key の子画面映像に選ばれていることを示します。 DSK の映像ソースに選ばれていることを示します。 AUX バスの映像ソースに選ばれていることを示します。	
Multi-View	OFF, ON	Multi-View でのインジケータ表示をオン/オフします。
Input-View 1	OFF, ON	Input-View 1 でのインジケータ表示をオン/オフします。
Input-View 2	OFF, ON	Input-View 2 でのインジケータ表示をオン/オフします。
Quad-View	OFF, ON	Quad-View でのインジケータ表示をオン/オフします。
External Rec Indicator	モニターに External Rec インジケータを表示するかどうかを設定します。	
	[ON] にすると、REC ステータス機能対応カメラの接続時に、カメラの REC ボタンが押されたことを示す REC インジケータを表示します。	
	Multi-View	Multi-View でのインジケータ表示をオン/オフします。
	Input-View 1	Input-View 1 でのインジケータ表示をオン/オフします。
	Input-View 2	Input-View 2 でのインジケータ表示をオン/オフします。
	Quad-View	Quad-View でのインジケータ表示をオン/オフします。

(*6) 「AUX 1 Source」または「AUX 2 Source」の設定が表示されます。

メニュー項目	設定値	説明	
Audio Level Meter	モニターにオーディオ・レベル・メーターを表示するかどうかを設定します。		
Multi-View	OFF、ON	Multi-View でのレベル・メーター表示をオン／オフします。	
Input-View 1	OFF、ON	Input-View 1 でのレベル・メーター表示をオン／オフします。	
Input-View 2	OFF、ON	Input-View 2 でのレベル・メーター表示をオン／オフします。	
Quad-View	OFF、ON	Quad-View でのレベル・メーター表示をオン／オフします。	
Level Meter Position			
HDMI In 1 ～ 4	Pre Fader(PFL) Post Fader(AFL)	各オーディオ・レベル・メーターの表示位置を設定します。	
SDI In 1 ～ 4			
Video Player/SRT In			
Audio In 1 ～ 3/4			
USB In			
Bluetooth In			
Audio Player			
Main Bus			
AUX 1 ～ 2 Bus			
USB Out			
Stream&Record			
Preview Label	モニターにラベルを表示するかどうかを設定します。		
Multi-View	OFF、ON	Multi-View でのラベル表示をオン／オフします。	
Input-View 1	OFF、ON	Input-View 1 でのラベル表示をオン／オフします。	
Input-View 2	OFF、ON	Input-View 2 でのラベル表示をオン／オフします。	
Quad-View	OFF、ON	Quad-View でのラベル表示をオン／オフします。	
Label Edit	メニュー項目	設定値	説明
	HDMI In 1 ～ HDMI In 4	HDMI 1 ～ HDMI 4	モニターに表示するラベル名を変更します。 [VALUE] つまみを押すと、Label Edit 画面が表示されます。
	SDI In 1 ～ SDI In 4	SDI 1 ～ SDI 4	
	Still 1 ～ Still 32	Still 1 ～ Still 32	
	Video Player	V.Player	
	SRT In	SRT In	
	Program	PGM	
	Sub Program	SUB PGM	
	Preview	PVW	
	AUX 1	AUX 1	
	AUX 2	AUX 2	
	DSK Source	DSK	
	Label Size	Small、Normal	モニターに表示するラベルの文字サイズを設定します。
Multi-View Layout	マルチビューの PVW セクション (Left) と PGM セクション (Right) に表示する映像を設定します。		
Left Right	Program	最終出力映像。「Right」の初期値です。	
	Sub Program	Sub Program バスの映像	
	Preview	プレビュー出力映像 (次に出力される映像)。「Left」の初期値です。	
	AUX 1	AUX 1 バスの映像	
	AUX 2	AUX 2 バスの映像	
	DSK Source	DSK 映像ソースに選ばれた映像	
	Black	黒映像	
Input-View 1 ～ 2 Layout	Input-View 1 ～ 2 のレイアウトを設定します。		
Input 1 ～ 16	N/A	Input 1 ～ 16 に表示する映像を設定します。	
	HDMI 1 ～ 4		
	SDI 1 ～ 4		
	Still 1 ～ 32		
	V.Player/SRT In (*7)		
	Input 1 ～ 16		
	Stream&Record Status 1 ～ 2		
	Date&Time(Analog/ Digital) (*8)		

メニュー項目	設定値	説明
Quad-View Layout	Quad-View のレイアウトを設定します。	
Input 1 ～ 4	N/A HDMI 1 ～ 4 SDI 1 ～ 4 Still 1 ～ 32 V.Player/SRT In (*7) Input 1 ～ 16	Input 1 ～ 4 に表示する映像を設定します。
Auto Input Detect	OFF、ON	オート・インプット・ディテクト機能のオン／オフを設定します。 「ON」にすると、最終出力している映像の入力が途切れたとき、自動的に入力を検知して映像を切り替えます。
Auto Fan Control	OFF、ON	オート・ファン制御機能のオン／オフを設定します。 「ON」にすると、内部温度の状態に応じてファンを制御します。
Test Pattern	テスト・パターンの設定をします。	
Pattern	Off、Color Bars 75%、 Color Bars100%、Ramp、 Step、Hatch、Diamond、 Circle、Color Bars 75%- SP、Color Bars100%-SP、 Ramp-SP、Step-SP、 Hatch-SP	表示するテスト・パターンを選びます。
Motion	Off、Slow、Fast	テスト・パターンのスクロール速度を設定します。
Test Tone	テスト・トーンの設定をします。	
Level	Off、-20、-10、0dB	テスト・トーンの音量を調節します。
Frequency L	500Hz、1kHz、2kHz	L チャンネルのテスト・トーンの周波数を設定します。
Frequency R	500Hz、1kHz、2kHz	R チャンネルのテスト・トーンの周波数を設定します。
Video Fader Calibration	Enter	ビデオフェーダーのキャリブレーションをします。
Shut Down	Exec	本体をシャットダウンします。
Factory Reset	Exec	工場出荷時の状態に戻します。
System Information	---	システム・プログラムのバージョンを表示します。

(*7) 「[MENU] ボタン → Video Player/SRT In → Type」の設定により、V.Player または SRT In のどちらかが表示されます。

(*8) 「System → Date&Time → Clock Display Type」の設定により、Analog または Digital のどちらかが表示されます。

主な仕様

■ 映像																																																	
映像処理	4：2：2（Y/Pb/Pr）、8ビット																																																
映像チャンネル数	8 チャンネル																																																
入力端子	HDMI IN 1 ～ 4	HDMI タイプ A × 4 ※ HDCP、マルチフォーマット対応																																															
	SDI IN 1 ～ 4	BNC タイプ× 4 ※ SMPTE 424M（SMPTE 425M-AB）、292M 準拠																																															
出力端子	HDMI OUT 1 ～ 3	HDMI タイプ A × 3 ※ HDCP 対応																																															
	HDMI IN 3 ～ 4 THRU	HDMI タイプ A × 2 ※ HDCP 対応																																															
	SDI OUT 1 ～ 2	BNC タイプ× 2 ※ SMPTE 424M（SMPTE 425M-AB）、292M 準拠																																															
	USB STREAM	USB Type-C®																																															
入力映像フォーマット	HDMI IN 1 ～ 4	<table><tr><td>480/59.94i（*1）</td><td>480/59.94p（*1）</td><td>720/59.94p（*1）</td><td>1080/59.94i（*1）</td></tr><tr><td>1080/59.94p（*1）</td><td>1080/60p（*1）</td><td>1080/29.97p（*1）</td><td>1080/30p（*1）</td></tr><tr><td>576/50i（*2）</td><td>576/50p（*2）</td><td>720/50p（*2）</td><td>1080/50i（*2）</td></tr><tr><td>1080/50p（*2）</td><td>1080/25p（*2）</td><td>1080/23.98p</td><td>1080/24p</td></tr><tr><td>2160/59.94p（*3）</td><td>2160/60p（*3）</td><td>2160/29.97p（*3）</td><td>2160/30p（*3）</td></tr><tr><td>2160/50p（*3）</td><td>2160/25p（*3）</td><td>2160/23.98p（*3）</td><td>2160/24p（*3）</td></tr><tr><td colspan="2">VGA（640×480/60Hz）</td><td colspan="2">SVGA（800×600/60Hz）</td></tr><tr><td colspan="2">XGA（1024×768/60Hz）</td><td colspan="2">WXGA（1280×800/60Hz）</td></tr><tr><td colspan="2">SXGA（1280×1024/60Hz）</td><td colspan="2">FWXGA（1366×768/60Hz）</td></tr><tr><td colspan="2">SXGA+（1400×1050/60Hz）</td><td colspan="2">UXGA（1600×1200/60Hz）</td></tr><tr><td colspan="2">WUXGA（1920×1200/60Hz）</td><td colspan="2"></td></tr></table> ※ リフレッシュ・レートは、各解像度の最大値です。 ※ CEA-861-E、VESA DMT Version 1.0 Revision 11 準拠 ※ 1920×1200/60Hz：Reduced blanking ※ インターレースで入力された映像は、本体内の処理でプログレッシブに変換されます。 ※ フレーム・レートの設定が 50Hz のとき、SVGA（800×600）～SXGA+（1400×1050）の入力リフレッシュ・レートは、75Hz になります。 ※ HDMI IN 1 は Roland FILL+KEY 信号に対応 （*1） フレーム・レート 59.94Hz、60Hz 設定時 （*2） フレーム・レート 50Hz 設定時 （*3） HDMI IN 3、4 のみ対応				480/59.94i（*1）	480/59.94p（*1）	720/59.94p（*1）	1080/59.94i（*1）	1080/59.94p（*1）	1080/60p（*1）	1080/29.97p（*1）	1080/30p（*1）	576/50i（*2）	576/50p（*2）	720/50p（*2）	1080/50i（*2）	1080/50p（*2）	1080/25p（*2）	1080/23.98p	1080/24p	2160/59.94p（*3）	2160/60p（*3）	2160/29.97p（*3）	2160/30p（*3）	2160/50p（*3）	2160/25p（*3）	2160/23.98p（*3）	2160/24p（*3）	VGA（640×480/60Hz）		SVGA（800×600/60Hz）		XGA（1024×768/60Hz）		WXGA（1280×800/60Hz）		SXGA（1280×1024/60Hz）		FWXGA（1366×768/60Hz）		SXGA+（1400×1050/60Hz）		UXGA（1600×1200/60Hz）		WUXGA（1920×1200/60Hz）			
	480/59.94i（*1）	480/59.94p（*1）	720/59.94p（*1）	1080/59.94i（*1）																																													
1080/59.94p（*1）	1080/60p（*1）	1080/29.97p（*1）	1080/30p（*1）																																														
576/50i（*2）	576/50p（*2）	720/50p（*2）	1080/50i（*2）																																														
1080/50p（*2）	1080/25p（*2）	1080/23.98p	1080/24p																																														
2160/59.94p（*3）	2160/60p（*3）	2160/29.97p（*3）	2160/30p（*3）																																														
2160/50p（*3）	2160/25p（*3）	2160/23.98p（*3）	2160/24p（*3）																																														
VGA（640×480/60Hz）		SVGA（800×600/60Hz）																																															
XGA（1024×768/60Hz）		WXGA（1280×800/60Hz）																																															
SXGA（1280×1024/60Hz）		FWXGA（1366×768/60Hz）																																															
SXGA+（1400×1050/60Hz）		UXGA（1600×1200/60Hz）																																															
WUXGA（1920×1200/60Hz）																																																	
SDI IN 1 ～ 4	<table><tr><th colspan="2">システム・フォーマット設定：720p</th><th colspan="2">システム・フォーマット設定：1080p</th></tr><tr><th colspan="2">フレーム・レート設定</th><th colspan="2">フレーム・レート設定</th></tr><tr><td>29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz</td><td>25Hz、50Hz</td><td>29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz</td><td>25Hz、50Hz</td></tr><tr><td>720/59.94p</td><td>720/50p</td><td>1080/59.94i</td><td>1080/50i</td></tr><tr><td></td><td></td><td>1080/60p</td><td>1080/50p</td></tr><tr><td></td><td></td><td>1080/29.97p</td><td>1080/30p</td></tr><tr><td></td><td></td><td>1080/23.98p</td><td>1080/24p</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>1080/23.98p</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>1080/24p</td></tr></table> ※ インターレースで入力された映像は、本体内の処理でプログレッシブに変換されます。				システム・フォーマット設定：720p		システム・フォーマット設定：1080p		フレーム・レート設定		フレーム・レート設定		29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz	25Hz、50Hz	29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz	25Hz、50Hz	720/59.94p	720/50p	1080/59.94i	1080/50i			1080/60p	1080/50p			1080/29.97p	1080/30p			1080/23.98p	1080/24p				1080/23.98p				1080/24p									
システム・フォーマット設定：720p		システム・フォーマット設定：1080p																																															
フレーム・レート設定		フレーム・レート設定																																															
29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz	25Hz、50Hz	29.97Hz、30Hz、59.94Hz、60Hz	25Hz、50Hz																																														
720/59.94p	720/50p	1080/59.94i	1080/50i																																														
		1080/60p	1080/50p																																														
		1080/29.97p	1080/30p																																														
		1080/23.98p	1080/24p																																														
			1080/23.98p																																														
			1080/24p																																														

出力映像フォーマット	HDMI OUT 1 ～ 3 SDI OUT 1 ～ 2	<table><tr><th rowspan="2">システム・フォーマット設定</th><th colspan="4">フレーム・レート設定</th></tr><tr><th>59.94Hz</th><th>60Hz</th><th>29.97Hz</th><th>30Hz</th></tr><tr><td>720p</td><td>720/59.94p</td><td>720/60p</td><td>–</td><td>–</td></tr><tr><td rowspan="2">1080p</td><td>1080/59.94i</td><td>1080/60i</td><td>–</td><td>–</td></tr><tr><td>1080/59.94p</td><td>1080/60p</td><td>1080/29.97p</td><td>1080/30p</td></tr></table>	システム・フォーマット設定	フレーム・レート設定				59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz	720p	720/59.94p	720/60p	–	–	1080p	1080/59.94i	1080/60i	–	–	1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p
		システム・フォーマット設定		フレーム・レート設定																					
			59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz																			
		720p	720/59.94p	720/60p	–	–																			
		1080p	1080/59.94i	1080/60i	–	–																			
			1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p																			
		<table><tr><th rowspan="2">システム・フォーマット設定</th><th colspan="4">フレーム・レート設定</th></tr><tr><th>50Hz</th><th>25Hz</th><th>23.98Hz</th><th>24Hz</th></tr><tr><td>720p</td><td>720/50p</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td></tr><tr><td rowspan="2">1080p</td><td>1080/50i</td><td>–</td><td>–</td><td>–</td></tr><tr><td>1080/50p</td><td>1080/25p</td><td>1080/23.98p</td><td>1080/24p</td></tr></table>	システム・フォーマット設定	フレーム・レート設定				50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz	720p	720/50p	–	–	–	1080p	1080/50i	–	–	–	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p
		システム・フォーマット設定		フレーム・レート設定																					
			50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz																			
		720p	720/50p	–	–	–																			
1080p	1080/50i	–	–	–																					
	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p																					
USB STREAM	<table><tr><th colspan="4">フレーム・レート (USB OUT) 設定</th></tr><tr><th>59.94Hz</th><th>60Hz</th><th>29.97Hz</th><th>30Hz</th></tr><tr><td>1080/59.94p</td><td>1080/60p</td><td>1080/29.97p</td><td>1080/30p</td></tr><tr><td>720/59.94p</td><td>720/60p</td><td>720/29.97p</td><td>720/30p</td></tr><tr><td>640 × 480/59.94p</td><td>640 × 480/60p</td><td>640 × 480/29.97p</td><td>640 × 480/30p</td></tr></table>	フレーム・レート (USB OUT) 設定				59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz	1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p	720/59.94p	720/60p	720/29.97p	720/30p	640 × 480/59.94p	640 × 480/60p	640 × 480/29.97p	640 × 480/30p				
	フレーム・レート (USB OUT) 設定																								
	59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz																					
	1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p																					
	720/59.94p	720/60p	720/29.97p	720/30p																					
	640 × 480/59.94p	640 × 480/60p	640 × 480/29.97p	640 × 480/30p																					
	<table><tr><th colspan="4">フレーム・レート (USB OUT) 設定</th></tr><tr><th>50Hz</th><th>25Hz</th><th>23.98Hz</th><th>24Hz</th></tr><tr><td>1080/50p</td><td>1080/25p</td><td>1080/23.98p</td><td>1080/24p</td></tr><tr><td>720/50p</td><td>720/25p</td><td>720/23.98p</td><td>720/24p</td></tr><tr><td>640 × 480/50p</td><td>640 × 480/25p</td><td>640 × 480/23.98p</td><td>640 × 480/24p</td></tr></table>	フレーム・レート (USB OUT) 設定				50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p	720/50p	720/25p	720/23.98p	720/24p	640 × 480/50p	640 × 480/25p	640 × 480/23.98p	640 × 480/24p				
	フレーム・レート (USB OUT) 設定																								
	50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz																					
	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p																					
720/50p	720/25p	720/23.98p	720/24p																						
640 × 480/50p	640 × 480/25p	640 × 480/23.98p	640 × 480/24p																						
※ 非圧縮 (YUY2) と圧縮 (Motion JPEG) に対応																									
DIRECT STREAM	<table><tr><th rowspan="2">システム・フォーマット設定</th><th colspan="4">フレーム・レート (Stream&Record) 設定</th></tr><tr><th>59.94Hz</th><th>60Hz</th><th>29.97Hz</th><th>30Hz</th></tr><tr><td>720p</td><td>720/59.94p</td><td>720/60p</td><td>720/29.97p</td><td>720/30p</td></tr><tr><td>1080p</td><td>1080/59.94p</td><td>1080/60p</td><td>1080/29.97p</td><td>1080/30p</td></tr></table>	システム・フォーマット設定	フレーム・レート (Stream&Record) 設定				59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz	720p	720/59.94p	720/60p	720/29.97p	720/30p	1080p	1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p					
	システム・フォーマット設定		フレーム・レート (Stream&Record) 設定																						
		59.94Hz	60Hz	29.97Hz	30Hz																				
	720p	720/59.94p	720/60p	720/29.97p	720/30p																				
	1080p	1080/59.94p	1080/60p	1080/29.97p	1080/30p																				
	<table><tr><th rowspan="2">システム・フォーマット設定</th><th colspan="4">フレーム・レート (Stream&Record) 設定</th></tr><tr><th>50Hz</th><th>25Hz</th><th>23.98Hz</th><th>24Hz</th></tr><tr><td>720p</td><td>720/50p</td><td>720/25p</td><td>–</td><td>–</td></tr><tr><td>1080p</td><td>1080/50p</td><td>1080/25p</td><td>1080/23.98p</td><td>1080/24p</td></tr></table>	システム・フォーマット設定	フレーム・レート (Stream&Record) 設定				50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz	720p	720/50p	720/25p	–	–	1080p	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p					
	システム・フォーマット設定		フレーム・レート (Stream&Record) 設定																						
		50Hz	25Hz	23.98Hz	24Hz																				
	720p	720/50p	720/25p	–	–																				
	1080p	1080/50p	1080/25p	1080/23.98p	1080/24p																				
配信、録画フォーマット	オーディオ・ビデオ	プロトコル: RTMP、RTMPS、SRT (Caller、Listener)																							
		コンテナ: FLV (RTMP、RTMPS)、MPEG2-TS (SRT)																							
		録画ファイル・フォーマット: MP4																							
		コーデック: H.264、ターゲット・ビットレート最大 20,000kbps																							
		AAC-LC、16bit、48kHz、ステレオ、ターゲット・ビットレート最大 256kbps																							
		※ 配信・録画フォーマット、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力で扱うフォーマットのいずれかが 1080/30p を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能は同時に使用できません。 ※ 配信・録画ビットレート設定と、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力のビットレートの合計が 20,000kbps を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能は同時に使用できません。																							
	オーディオ	録画ファイル・フォーマット: WAV																							
	コーデック: リニア PCM、16bit、48kHz、ステレオ																								
ビデオ・プレーヤー／SRT 入力	ビデオ・プレーヤー	ファイル・フォーマット: MP4																							
		コーデック: H.264、平均ビットレート 20,000kbps 以下、最大 1080/60p、プログレッシブ																							
		AAC-LC、16bit、48kHz、ステレオ																							
	SRT 入力	プロトコル: SRT (Caller、Listener)																							
		コンテナ: MPEG2-TS																							
		コーデック: H.264、平均ビットレート 20,000kbps 以下、最大 1080/60p、プログレッシブ																							
		AAC-LC、16bit、48kHz、ステレオ																							
		※ 配信・録画フォーマット、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力で扱うフォーマットのいずれかが 1080/30p を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能は同時に使用できません。 ※ 配信・録画ビットレート設定と、ビデオ・プレーヤー／SRT 入力のビットレートの合計が 20,000kbps を超える場合、配信・録画機能とビデオ・プレーヤー／SRT 入力機能は同時に使用できません。																							

静止画 (Still Image)	ファイル・フォーマット	Bitmap File (.bmp) : 最大 1920 × 1080、24 ビットカラー、非圧縮 PNG File (.png) : 最大 1920 × 1080、24 ビットカラー JPG File (.jpg .jpeg) : 最大 1920 × 1080、24 ビットカラー ※ 最大 32 枚まで内蔵不揮発メモリーに記憶可能 ※ SD カード、USB メモリーに書き出し可能 ※ PNG アルファ・チャンネル対応
映像エフェクト	切り替え	カット、ミックス (ディゾルブ / FAM / NAM)、ワイプ (8 種類)、スプリット (2 種類)
	合成	ピクチャーインピクチャー×2 (四角型、丸型、ひし型)、キー×2 (ルミナンス・キー、クロマ・キー) DSK (ルミナンス・キー、クロマ・キー、アルファ・キー、エクスターナル・キー)、 Roland FILL+KEY モード
	その他	マルチビュー (4 種類)、左右反転、上下反転、静止画キャプチャー、静止画再生、アウトプット・フェード (音声、映像 : 白または黒)、テスト・パターン出力、配信ディレイ

■ 音声			
音声処理	サンプル・レート	24 ビット、48kHz	
音声チャンネル数	28 チャンネル		
オーディオ・フォーマット	USB STREAM (入力／出力)	リニア PCM、24 ビット、48kHz、2ch	
	Bluetooth In (入力)	リニア PCM、24 ビット、48kHz、2ch	
	HDMI IN	リニア PCM、24 ビット、48kHz、2ch	
	HDMI OUT	リニア PCM、24 ビット、48kHz、8ch	
	SDI IN	リニア PCM、24 ビット、48kHz、2ch (SMPTE 299M 準拠)	
	SDI OUT	リニア PCM、24 ビット、48kHz、8ch (SMPTE 299M 準拠)	
オーディオ・プレーヤー	ファイル・フォーマット	WAV (リニア PCM、16 ビット、48kHz / 44.1kHz、ステレオ) ※ 最大 64 曲まで内蔵不揮発メモリーに記憶可能	
オーディオ・エフェクト	チャンネル・エフェクト	ハイ・パス・フィルター、エコー・キャンセラー、アンチ・フィードバック、ノイズ・ゲート、ディエッサー、コンプレッサー、4 バンド・イコライザー、ボイス・チェンジャー、ディレイ、オート・ミキシング	
	マスター・エフェクト	リバーブ、4 バンド・イコライザー、コンプレッサー／リミッター、ラウドネス・オート・ゲイン・コントロール、アダプティブ・ノイズ・リダクション、ロー・フリケンシー・カット、15 バンド GEQ、ディレイ	
	その他	アウトプット・フェード、テスト・トーン出力	
入力端子	アナログ	AUDIO IN 1、2	コンボ・タイプ (XLR、TRS 標準)、ファンタム電源 (DC 48V、10mA Max)
		AUDIO IN 3/L、4/R	RCA ピン・タイプ
	デジタル	USB STREAM	USB Type-C®
		Bluetooth In	
		HDMI IN 1 ～ 4	HDMI タイプ A × 4
出力端子	アナログ	SDI IN 1 ～ 4	BNC タイプ× 4
		AUDIO OUT 1、2	XLR タイプ
	PHONES	ステレオ標準タイプ	
	デジタル	USB STREAM	USB Type-C®
		HDMI OUT 1 ～ 3	HDMI タイプ A × 3
		HDMI IN 3 ～ 4 THRU	HDMI タイプ A × 2
		SDI OUT 1 ～ 2	BNC タイプ× 2
規定入力レベル	AUDIO IN 1、2	-64 ～ +4dBu (最大入力レベル：+24dBu)	
	AUDIO IN 3/L、4/R	-10dBu (最大入力レベル：+10dBu)	
入力インピーダンス	AUDIO IN 1、2	8.4k Ω	
	AUDIO IN 3/L、4/R	10k Ω	
規定出力レベル	AUDIO OUT 1、2	+4dBu (最大出力レベル：+24dBu)	
	PHONES	92mW + 92mW (32 Ω負荷時)	
出力インピーダンス	AUDIO OUT 1、2	600 Ω	
	PHONES	33 Ω	

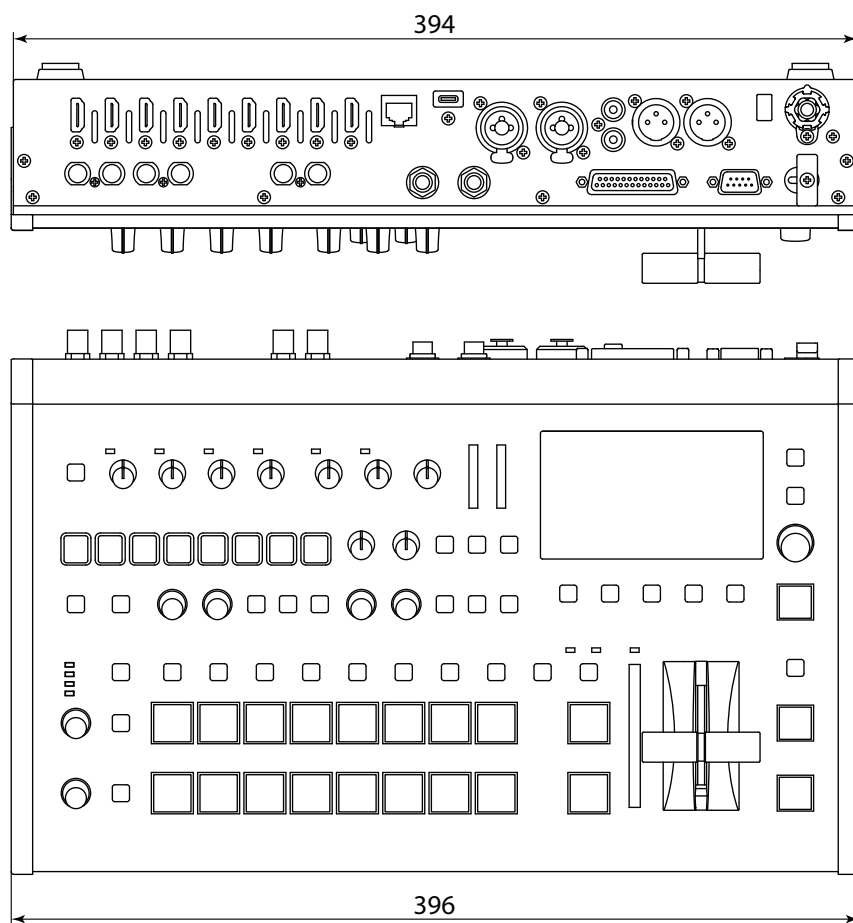
■ その他		
外部記録メディア	SDHC/SDXC カード（市販品）	※ ビデオ録画には SDXC カードが必要です。
	USB メモリー（市販品）	
その他の端子	USB HOST	USB A（USB メモリー用、USB テンキーを接続してのリモート用）
	USB STREAM	USB Type-C®（パソコンや iPad を接続してのリモート用。Roland Graphics Presenter 対応）
	Bluetooth 接続	iPad を接続してのリモート用
	CTL/EXP 1、2	TRS 標準タイプ（フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルを接続してのリモート用）
	TALLY/GPIO	25 ピン D-sub タイプ（メス）（TALLY/GPO：16、GPI：8）
	RS-232	9 ピン D-sub タイプ（オス）（外部制御用）
	DIRECT STREAM	RJ-45、1000BASE-T（配信、SRT 入出力、外部制御用）
その他の機能	シーン・メモリー（32 個）、マクロ・コントロール（100 個）、シーケンサー・コントロール（1,000 ステップ）、パネル・ロック機能、EDID エミュレーター、オート・スイッチング、オート・インプット・ディテクト、スマート・タリー、リモート・カメラ制御（最大 8 台）、外部 REC コントロール、メニュー言語（英語、日本語、簡体中国語）	
Bluetooth 機能	標準規格 Ver 5.0	
	対応プロファイル	A2DP（オーディオ）、GATT（MIDI over Bluetooth Low Energy）
	対応コーデック	SBC（SCMS-T 方式によるコンテンツ保護に対応）
ディスプレイ	4.3 インチ TFT カラー LCD：480 × 272 ドット	
電源	AC アダプター	
消費電流	2.1A	
消費電力	51W	
動作温度	0 ～ +40℃	
外形寸法	396（幅）× 254（奥行）× 103（高さ）mm	
質量	3.5kg（AC アダプターを除く）	
付属品	スタートアップ・ガイド、「安全上のご注意」チラシ、AC アダプター、保証書	
別売品	フットスイッチ：BOSS FS-5U、FS-6、FS-7 エクスプレッション・ペダル：EV-5、EV-30、BOSS FV-500L、FV-500H	

※ 0dBu = 0.775Vrms

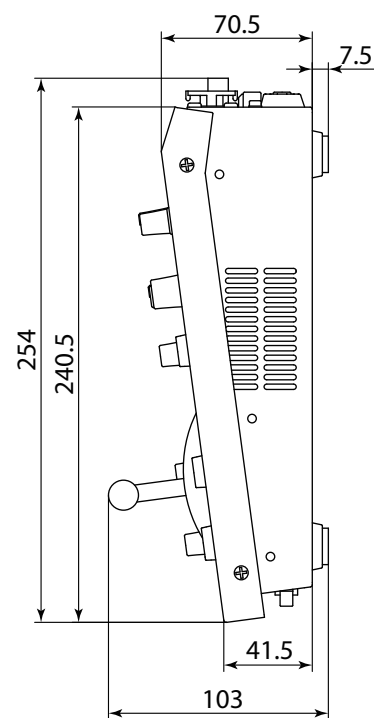
※ 本製品の電磁適合性規格は、FCC Part 15 Class A です。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

外形寸法図



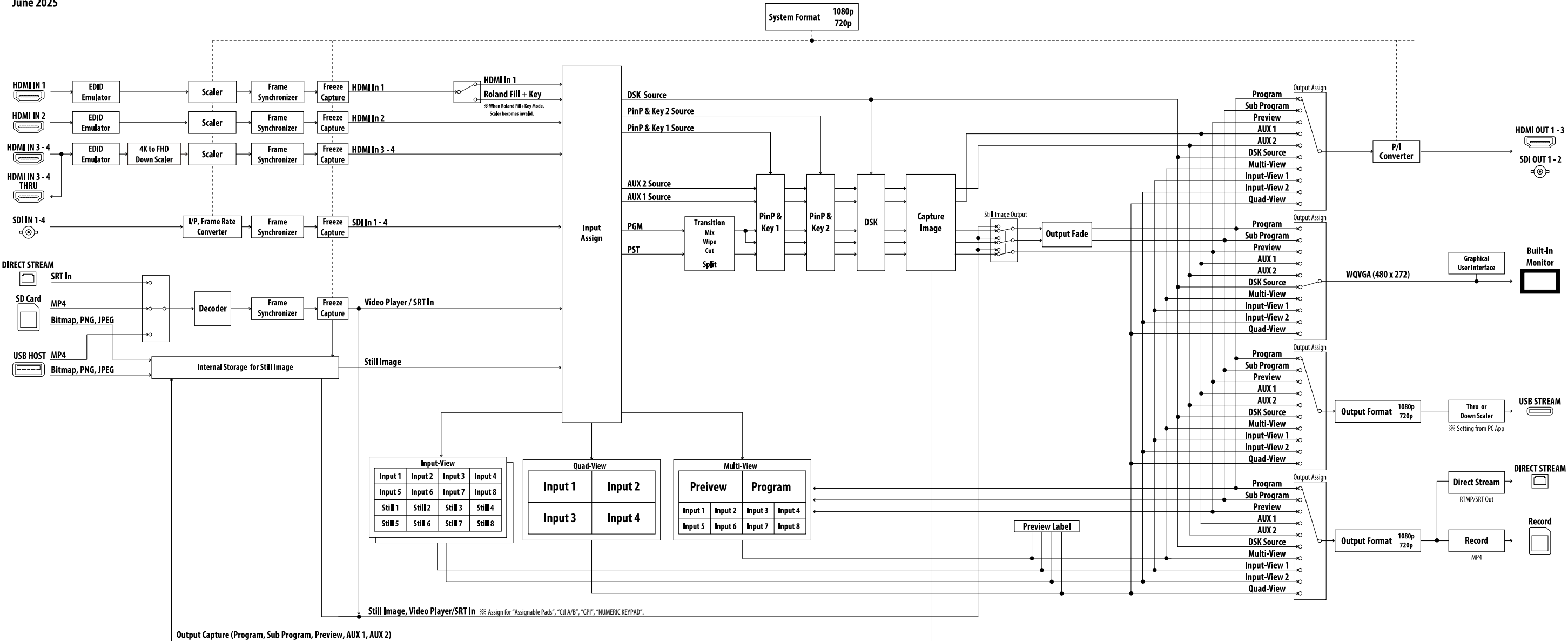
単位 : mm



ビデオ・ブロック・ダイアグラム

V-80HD Video Block Diagram

June 2025



オーディオ・ブロック・ダイアグラム

